

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第233集

北 足 立 郡 伊 奈 町

向 原 / 相 野 谷

上尾都市計画事業伊奈特定土地地区画整理事業関係埋蔵文化財調査報告

— V —

2 0 0 0

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

序

首都圏に隣接する埼玉県は、ベッドタウンとして近年人口が増加している地域であります。21世紀を迎えて、さらなる高次の都市機能を集積した中核都市圏の形成に寄与するため、伊奈町北部地域に良質な住宅や緑とハイテクの就業地区を備えたモデルタウンを建設することになりました。現在この計画を促進するため、上尾都市計画事業伊奈特定土地区画整理事業が進められております。

事業計画地内には旧石器時代から連続と人々が生活していた集落などの遺跡がたくさんあります。このため計画地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについては、関係機関が慎重に協議してまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置を講じることになりました。

発掘調査は、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整により、当事業団が埼玉県伊奈新都市建設事務所へ委託を受け、実施しました。

本報告書はこれらの遺跡のうち、向原遺跡と相野谷遺跡の発掘調査の報告であります。向原遺跡は範囲が広く、今までに8回の調査が行われました。今回は、第1次調査から第8次調査までをまとめたものでありますが、旧石器時代から縄文時代及び古墳時代から近世にいたるまでの多くの住居跡や土壌のほか、土器や石器、陶磁器などの貴重な遺物が発見されております。

特に、旧石器時代は、第3次調査で石器集中箇所が多く見つかりました。あたかも、縄文時代の集落跡の

ような配置をしていて、遺物の分布から当時の様子を窺う上で貴重なものです。

また、第3次調査と第5次調査で古墳時代初期に属する多くの竪穴住居跡と1基の方形周溝墓が発見され、当地域の集落変遷を考える上で重要な資料を加えることができました。さらに、平安時代の住居跡から出土した須恵器坏は茨城県内の窯で作られたものと考えられ、地域相互の編年を研究する上で貴重な資料となりました。

相野谷遺跡は、第1次調査をまとめています。縄文時代と近世の遺構が見つかりました。

本報告書はこれらの成果をまとめたものでありますが、埋蔵文化財の保護や学術研究の基礎資料として、また、埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広く活用していただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力をいただいた埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、埼玉県伊奈新都市建設事務所、伊奈町教育委員会、並びに地元関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成12年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 荒井 桂

例言

1. 本書は埼玉県北足立郡伊奈町に所在する向原遺跡、相野谷遺跡に関する発掘報告書である。
2. 向原遺跡は第1次調査から第8次調査まで行われ、相野谷遺跡は第1次調査が行われた。遺跡の略号と代表番地及び発掘調査に対する指示通知と発掘調査担当者は、以下の通りである。

向原遺跡

第1次調査	遺跡の所在地	伊奈町大字小針内宿字向原1029地
	面積	2800㎡
	調査期間	平成3年12月9日～平成4年3月31日
	調査員	秋山孝治・田中英司
	指示通知	委保第5-208号
第2次調査	遺跡の所在地	伊奈町大字小針内宿字柳1765番地他
	面積	8000㎡
	調査期間	平成4年10月1日～平成5年3月31日
	調査員	笠間孝志・齋時和夫・木戸春夫・中山浩彦
	指示通知	委保第5-1822号
第3次調査	遺跡の所在地	伊奈町大字小針内宿字向原1255番地他
	面積	3700㎡
	調査員	金子直行・佐藤謙二
	調査期間	平成6年4月1日～平成6年7月29日
	指示通知	教文第2-019号
第4次調査	遺跡の所在地	伊奈町大字小針内宿字柳師堂根942-1
	面積	400㎡
	調査期間	平成6年10月11日～平成7年1月10日
	調査員	金子直行・水口由紀子
	指示通知	教文第2-157号
第5次調査	遺跡の所在地	伊奈町大字小針内宿字向原1253-1番地他
	面積	1000㎡
	調査期間	平成7年2月1日～平成7年12月8日
	調査員	金子直行・水口由紀子
	指示通知	教文第2-61号
第6次調査	遺跡の所在地	伊奈町大字小針内宿字向原1255番地他
	面積	900㎡
	調査期間	平成7年10月1日～平成7年12月8日
	調査員	大谷 徹・水口由紀子
	指示通知	教文第2-110号
第7次調査	遺跡の所在地	伊奈町大字小針内宿字向原1255番地他
	面積	4800㎡
	調査期間	平成8年9月11日～平成8年12月31日
	調査員	橋本 勉・水口由紀子

指示通知 教文第2-113号

第8次調査	遺跡の所在地	伊奈町大字小針内宿字向原1245番地他	
	面積	1025㎡	
	調査期間	平成10年6月1日～平成10年7月31日	
	調査員	笠間孝志・中山浩彦	
	指示通知	教文第2-20号	
相野谷遺跡	第1次調査	遺跡の所在地	埼玉県北足立郡伊奈町大字小針内宿字辻ヶ後2199地
		面積	500㎡
		調査期間	平成6年11月1日～平成6年11月22日
		調査員	金子直行・水口由紀子
		指示通知	教文第2-154号

3. 発掘調査は、上尾市都市計画事業伊奈特定土地区画整理事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、埼玉県伊奈新都市建設事務所の委託を受けて、財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 本事業は第1章の組織により実施した。報告書作成事業は橋本が担当し、平成11年4月8日～平成12年3月24日まで実施した。
5. 遺跡の基準点測量及び航空写真は株式会社中央航業に、土壌分析、寄生虫卵分析は株式会社古環境研究所に委託した。
6. 発掘調査時の写真は、各調査次の調査員が撮影し、遺物の写真は橋本が撮影した。
7. 出土品の整理及び図版の作成は橋本が行った。Ⅳ-3-(1)第63、64、68、68図は西井幸雄が、Ⅳ-7-(2)第153図は富田和夫が作成した。
8. 本書の執筆はⅠ-1を埼玉県生涯学習部文化財保護課が、Ⅴ-3は富田和夫それ以外は橋本が行った。
9. 本書の編集は、橋本があたった。
10. 本書にかかる資料は平成11年度以降、埼玉県埋蔵文化財センターが管理・保存する。
11. 本書を作成するにあたり、生涯学習部文化財保護課及び、下記の方の御指導、御協力を賜った。記して謝意を表します。

笹森紀己子、内山敏行、赤井博之、石塚和則

凡例

- 本書の遺跡全体におけるX・Yの座標数値は、国土標準平面直角座標第Ⅱ系に基づく座標値を示し、方位はすべて座標北を表す。
- 本遺跡では各次の調査時点で個別のグリッド呼称を行っていたが、報告の時点で統一し、10mのグリッドを遺跡全体に設定し直した。その呼称については北西杭を基準とし、西から東へ向かって0～50、南北方向はA A…A Z…B A…B Z…C A…と振り直した。巻末に新旧対照表を掲載した。
- グリッドは10mを大グリッドとして設定した。先土器時代のグリッド、遺構の位置等の表記は、大グリッドを基準としている。
- 遺構図及び実測図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

遺構図

住居跡…	1/60	土塼…	1/60
埋甕…	1/60	井戸…	1/30
溝…	1/400		

遺物

縄文時代土器実測図…	1/4、1/5
縄文時代の土器展開図…	1/8
土製品・拓本・石器…	1/3
小形土製品・小形石器…	1/2
古墳時代～中・近世の遺物…	1/4

その他に関しては、スケール及び縮尺率等をその都度表記して示した。
- 土器実測図のスクリーンは、赤彩の範囲を示す。縄文時代の繊維混入土器については断面に荒い点描をした。奈良・平安時代の須恵器は、断面を黒く塗りつぶしてある。
- 本報告書に掲載した挿図に使用されている遺構の略号は次の通りである。

S J…住居跡	S B…掘立柱建物跡	F P…炉穴
S K…土塼	S E…井戸	S D…溝
- SR…方形集溝墓 SF…炭焼き窯
- 胎土の表記について

古墳時代前期土器の胎土表記及び調整方法は下記のようにした。

胎土の表記方法

A	細砂粒を含む。混入物は少ない
B	細粒を含む。混入物が多い

 - 小石を多く含む
 - 褐色粒子を多く含む
 - 石英の小石を含む

調整方法

 - ナデ(工具不明)
 - 小口ナデ
 - 刷毛目状に明瞭に痕跡が残る
 - 擦痕が残る
 - 小口の幅だけが残る

奈良時代以降の須恵器の胎土表記は下記のようにした。

A	一片岩、長石粒子
B	白色微粒子
C	黒色微粒子
D	赤色微粒子
E	酸化鉄粒子
F	黒色ガラス質粒子
H	針状白色粒子
- 本報告書を刊行するに当たり、各次調査段階で個別に付けていた遺構番号を、遺跡全体の通し番号に振り替えた。なお、遺構番号の新旧対照表を巻末に掲載した。
- 遺構断面図における水平値は、海拔高度を示しており、単位はmである。
- 本書に掲載した地形図は、建設省国土地理院発行の1/5000の地形図を使用した。
- 本書に使用した参考・引用文献は(著者、発行年)で表記し、巻末にその一覧表を掲載した。

目次

序
例言
凡例
目次

I 発掘調査の概要

1. 調査に至る経過 1
2. 発掘調査・報告書作成の経過 2
3. 発掘調査・整理報告書刊行の組織 3

II 遺跡の立地と環境 5

III 向原遺跡

1. 第1次調査

調査の概要 12

- (1) 住居跡 14
- (2) 小竪穴 20
- (3) 埋篋 20
- (4) 土壌 20
- (5) 炉穴 20
- (6) 溝 24
- (7) 石器製作跡 27
- (8) グリッド出土遺物 28

2. 第2次調査

調査の概要 34

- (1) 土壌 36
- (2) 掘立柱建物跡 52
- (3) 溝 54
- (4) 井戸 74
- (5) 不明遺構 74
- (6) グリッド出土遺物 75

3. 第3次調査

調査の概要 76

- (1) 旧石器時代の石器集中・雑群 78
- (2) 住居跡 96
- (3) 土壌 106
- (4) 炉穴 109
- (5) 方形礎溝墓 110
- (6) 溝 114
- (7) グリッド出土遺物 115

4. 第4次調査

調査の概要 124

- (1) 土壌 125
- (2) 井戸 125
- (3) グリッド出土遺物 126

5. 第5次調査

調査の概要 128

- (1) 住居跡 130
- (2) 土壌 144

- (3) 炉穴 155
- (4) 溝 166
- (5) 井戸 159
- (6) 炭焼窯 159
- (7) 不明遺構 159
- (8) グリッド出土遺物 159

6. 第6次調査

調査の概要 164

- (1) 住居跡 166
- (2) 土壌 167
- (3) 溝 168

7. 第7次調査

調査の概要 170

- (1) 旧石器時代の石器集中・雑群 172
- (2) 住居跡 172
- (3) 土壌 187
- (4) 炉穴 192
- (5) 溝 197
- (6) 掘立柱建物跡 200
- (7) 井戸 200
- (8) グリッド出土遺物 201

8. 第8次調査

調査の概要 204

- (1) 土壌 206
- (2) 井戸 206
- (3) 溝 206
- (4) グリッド出土遺物 208

第四章 相野谷遺跡

1. 第1次調査

調査の概要 214

- (1) 土壌 215
- (2) 炉穴 216
- (3) 井戸 217
- (4) グリッド出土遺物・確認調査遺物 218

第五章 結語

1. 旧石器時代について 219
2. 古墳時代前期について 220
3. 向原遺跡第38号住居跡をめぐる 222

付編 自然科学的分析

- I. 向原遺跡第3次調査の火山灰分析 213
- II. 向原遺跡第5次調査における火山灰分析 236
- III. 向原遺跡第5次調査における寄生虫分析 238

挿 図 目 次

第1図	埼玉県の地形図	5	第36図	土壌(第78-88号)	47
第2図	周辺の遺跡分布図	6	第37図	土壌(第89-94号)	48
第3図	遺跡周辺の地形図	10	第38図	土壌(第95-101号)	49
第4図	向原遺跡グリッド配置図(第1-8次)	11	第39図	土壌(第102-110号)	50
第5図	向原遺跡グリッド配置図(1次)	12	第40図	土壌(第111-115号)	51
第6図	第1次調査区全体図	13	第41図	第1号掘立柱建物跡	52
第7図	第1号住居跡	14	第42図	第2号掘立柱建物跡	53
第8図	第2号住居跡	15	第43図	第3号掘立柱建物跡	54
第9図	第3号住居跡	16	第44図	第4・5号掘立柱建物跡	55
第10図	第4号住居跡(1)	18	第45図	溝(第9-21号)(1)	58
第11図	第4号住居跡(2)	19	第46図	溝(第9-21号)(2)	59
第12図	第1号小竪穴	21	第47図	溝(第22-35号)(1)	60
第13図	第1号埋甕	21	第48図	溝(第22-35号)(2)	61
第14図	土壌(第1-4号)・炉穴(第1号)(1)	22	第49図	溝(第36-46号)(1)	62
第15図	土壌(第1-4号)・炉穴(第1号)(2)	23	第50図	溝(第36-46号)(2)	63
第16図	溝(第1-8号)(1)	24	第51図	溝(第47-59号)(1)	66
第17図	溝(第1-8号)(2)	25	第52図	溝(第47-59号)(2)	67
第18図	溝(第1-8号)(3)	26	第53図	溝(第60-69号)	68
第19図	石器製作跡出土石器	27	第54図	溝(第70-73号)	69
第20図	住居跡新旧概念図	27	第55図	溝(第74-80号)(1)	70
第21図	グリッド出土遺物(1)	30	第56図	溝(第74-80号)(2)	71
第22図	グリッド出土遺物(2)	31	第57図	溝(第81-83号)	72
第23図	グリッド出土遺物(3)	32	第58図	溝出土遺物	73
第24図	グリッド出土遺物(4)	33	第59図	第1・2号井戸・第1号不明遺構	74
第25図	向原遺跡グリッド配置図(2次)	34	第60図	グリッド出土遺物	75
第26図	第2次調査区全体図	35	第61図	向原遺跡グリッド配置図(3次)	76
第27図	土壌(第5-11号)	36	第62図	第3次調査区全体図	77
第28図	土壌(第12-17号)	37	第63図	第1号石器集中	78
第29図	土壌(第18-25号)	38	第64図	第2号石器集中	79
第30図	土壌(第26-30号)	39	第65図	第3号石器集中	80
第31図	土壌(第31-44号)	40	第66図	第4号石器集中	81
第32図	土壌(第45-56号)	41	第67図	第5号石器集中	82
第33図	土壌(第57-63号)	44	第68図	第6号石器集中	83
第34図	土壌(第64-68号)	45	第69図	第7号石器集中	84
第35図	土壌(第69-77号)	46	第70図	第8号石器集中	85

第71区	第9号石器集中	86	第108区	第16号住居跡	131
第72区	第10号石器集中	87	第109区	第17号住居跡	132
第73区	石器集中全体区	88	第110区	第18号住居跡	133
第74区	群・群接合	89	第111区	第19号住居跡	134
第75区	石器実測区	90	第112区	第20号住居跡	135
第76区	第5号住居跡	96	第113区	第21号住居跡	136
第77区	第6号住居跡	97	第114区	第22号住居跡	137
第78区	第7号住居跡	98	第115区	第23号住居跡	138
第79区	第8号住居跡	100	第116区	第24号住居跡	139
第80区	第9号住居跡	101	第117区	第25号住居跡	140
第81区	第10号住居跡	102	第118区	第26号住居跡	141
第82区	第11号住居跡	103	第119区	第27号住居跡	142
第83区	第12号住居跡	104	第120区	第28号住居跡	143
第84区	第13号住居跡	105	第121区	第29号住居跡	144
第85区	第14号住居跡	105	第122区	第30号住居跡	145
第86区	土壌(第116~121号)	106	第123区	第31号住居跡	146
第87区	土壌(第122~127号)	107	第124区	第32号住居跡	147
第88区	土壌(第128・129号)・炉穴(第2~5号)	108	第125区	土壌(第134~138号)	148
第89区	第1号方形須眉溝墓(1)	110	第126区	土壌(第139~143号)	149
第90区	第1号方形須眉溝墓(2)	111	第127区	土壌(第144~149号)	150
第91区	第1号方形須眉溝墓(3)	112	第128区	土壌(第150~155号)	151
第92区	第1号方形須眉溝墓(4)	113	第129区	土壌(第156~162号)	152
第93区	溝(第84~87号)	114	第130区	土壌(第163~169号)	153
第94区	グリッド出土遺物(1)	116	第131区	土壌(第170~176号)・第6号炉穴	154
第95区	グリッド出土遺物(2)	117	第132区	溝(第89~104号)(1)	156
第96区	グリッド出土遺物(3)	118	第133区	溝(第89~104号)(2)	157
第97区	グリッド出土遺物(4)	119	第134区	第4号井戸・第2号不明遺構	158
第98区	グリッド出土遺物(5)	120	第135区	第1号炭焼窯	159
第99区	グリッド出土遺物(6)	121	第136区	グリッド出土遺物(1)	160
第100区	グリッド出土遺物(7)	122	第137区	グリッド出土遺物(2)	161
第101区	向原遺跡グリッド配置区(4次)	124	第138区	グリッド出土遺物(3)	162
第102区	第4次調査区全体区	125	第139区	向原遺跡グリッド配置区(6次)	164
第103区	土壌(第130~133号)	126	第140区	第6次調査区全体区	165
第104区	第3号井戸・グリッド出土遺物	127	第141区	第33号住居跡	166
第105区	向原遺跡グリッド配置区(5次)	128	第142区	第34号住居跡	167
第106区	第5次調査区全体区	129	第143区	土壌(第177~182号)	168
第107区	第15号住居跡	130	第144区	溝(第105・106号)	169

第145図	向原遺跡グリッド配置図(7次) ……	170	第169図	溝(第107~121号)(1) ……	198
第146図	第7次調査区全体図 ……	171	第170図	溝(第107~121号)(2) ……	199
第147図	第11号石器集中 ……	173	第171図	第7号掘立柱建物跡 ……	200
第148図	第35号住居跡 ……	174	第172図	第5号井戸 ……	200
第149図	第36号住居跡 ……	175	第173図	古銭 ……	201
第150図	第37号住居跡(1) ……	176	第174図	グリッド出土遺物(1) ……	202
第151図	第37号住居跡(2) ……	177	第175図	グリッド出土遺物(2) ……	203
第152図	第38・39号住居跡(1) ……	178	第176図	向原遺跡グリッド配置図(8次) ……	204
第153図	第38・39号住居跡(2) ……	179	第177図	第8次調査区全体図 ……	205
第154図	第40号住居跡 ……	180	第178図	土壌(第227~230号)・第6号井戸 ……	206
第155図	第41号住居跡 ……	181	第179図	溝(第122~128号) ……	207
第156図	第42号住居跡 ……	182	第180図	グリッド出土遺物(1) ……	208
第157図	土壌(第183~187号) ……	184	第181図	グリッド出土遺物(2) ……	209
第158図	土壌(第188~192号) ……	185	第182図	相野谷遺跡調査区全体図 ……	214
第159図	土壌(第193~199号) ……	186	第183図	土壌(第1~12号) ……	216
第160図	土壌(第200~204号) ……	188	第184図	土壌(第13~16号)・炉穴(第1・3~6号)・ 第1号井戸・グリッド出土土器 ……	217
第161図	土壌(第205~207号) ……	189	第185図	向原遺跡グリッド出土土器 ……	219
第162図	土壌(第208~213号) ……	190	第186図	旧石器石材一覧 ……	219
第163図	土壌(第214~218号) ……	191	第187図	第121号土壌出土赤彩土器模式図 ……	220
第164図	土壌(第219~222号) ……	192	第188図	火山灰を含む土壌出土土器 ……	223
第165図	土壌(第223~226号) ……	193	第189図	堀ノ内竈跡C地点出土土器 ……	224
第166図	炉穴(第7~12号) ……	194	第190図	埼玉県出土の常陸産土器 ……	225
第167図	炉穴(第13~16号) ……	195	第191図	埼玉県出土の常陸産土器分布図 ……	226
第168図	か穴(第17~20号) ……	196			

表 目 次

第1表	縄文時代・以降石器観察表(1) ……	29	第8表	遺物観察表(5) ……	163
第2表	旧石器時代石器観察表 ……	89	第9表	縄文時代・以降石器観察表(2) ……	163
第3表	旧石器時代礫観察表 ……	94	第10表	遺物観察表(6) ……	183
第4表	遺物観察表(1) ……	99	第11表	第11号石器集中 ……	210
第5表	遺物観察表(2) ……	103	第12表	縄文時代・以降石器観察表(3) ……	211
第6表	遺物観察表(3) ……	135	第13表	新旧対照表(1) ……	211
第7表	遺物観察表(4) ……	136	第14表	新旧対照表(2) ……	212

写真図版目次

- 図版1 第3次調査航空写真(1)、第3次調査航空写真(2)
- 図版2 第5次調査航空写真(1)、第5次調査航空写真(2)
- 図版3 第7次調査航空写真(1)、第7次調査航空写真(2)
- 図版4 第4次調査全景、第8次調査全景(1)
- 図版5 第8次調査全景(2)、相野谷遺跡全景
- 図版6 第1号住居跡、第2号住居跡、第2号住居跡出土状況、第4号住居跡、第1号埋甕、第1号炉穴
- 図版7 第8号清馬遺出土状況、第2次調査全景(1)、第2次調査全景(2)、第2次調査全景(3)、第2次調査全景(4)、第2次調査全景(5)
- 図版8 第2次調査全景(6)、第2次調査全景(7)、第1号掘立柱建物跡、第2号掘立柱建物跡、第1号井戸、第6号住居跡
- 図版9 第8号住居跡、第9号住居跡、第11号住居跡、第12号住居跡遺物出土状況、第1号方形周溝墓、第1号方形周溝墓遺物出土状況(1)
- 図版10 第1号方形周溝墓遺物出土状況(2)、第1号方形周溝墓遺物出土状況(3)、第1号方形周溝墓遺物出土状況(4)、第120号土壌、第121号土壌、第123号土壌
- 図版11 第16号住居跡、第17号住居跡、第18号住居跡、第18号住居跡・遺物、第18号住居跡・遺物(銅鏡)、第21号住居跡
- 図版12 第22号住居跡、第22号住居跡・炉体土器、第23号住居跡、第151号土壌、第153号土壌、第2号不明遺構
- 図版13 第25号住居跡、第32号住居跡
- 図版14 第33号住居跡、第34号住居跡、第35号住居跡、第37号住居跡、第41号住居跡、第42号住居跡
- 図版15 第38号住居跡、第39号住居跡、第38号住居跡、第39号住居跡・遺物
- 図版16 第40号住居跡、第7号掘立柱建物跡
- 図版17 第184号土壌、第6号井戸、相野谷遺跡・第1号炉穴、第2号住居跡・遺物(1)、第2号住居跡・遺物(2)、第1号埋甕
- 図版18 第3号住居跡・遺物、第1号住居跡・遺物
- 図版19 第4号住居跡・遺物、第1号炉穴・遺物
- 図版20 第1次調査グリッド・遺物 第4号石器集中(1)
- 図版21 第4号石器集中(2)、第4号石器集中(3)
- 図版22 第5号石器集中、第6号石器集中
- 図版23 第7号石器集中、第8号石器集中
- 図版24 第10号石器集中、方形周溝墓溝中石器
- 図版25 第5号住居跡・遺物(1)、第5号住居跡・遺物(2)、第5号住居跡・遺物(3)、第8号住居跡・遺物(1)、第8号住居跡・遺物(2)、第9号住居跡・遺物(1)
- 図版26 第9号住居跡・遺物(2)、第12号住居跡・遺物(1)、第12号住居跡・遺物(2)、第12号住居跡・遺物(3)、第120号土壌・遺物(1)、第120号土壌・遺物(2)
- 図版27 第121号土壌・遺物(1)、第121号土壌・遺物(2)、第123号土壌・遺物、第1号方形周溝墓・遺物(1)、第1号方形周溝墓・遺物(2)、第1号方形周溝墓・遺物(3)
- 図版28 第1号方形周溝墓・遺物(4)、第1号方形周溝墓・遺物(5)
- 図版29 第1号方形周溝墓・遺物(6)、第1号方形周溝墓・遺物(7)、第1号方形周溝墓・遺物(8)、第3次調査グリッド出土遺物(1)、第3次調査グリッド出土遺物(2)、第3次調査グリッド出土遺物(3)
- 図版30 第3次調査グリッド出土遺物(4)、第3次調査グリッド出土遺物(5)
- 図版31 第17号住居跡・遺物(1)、第17号住居跡・遺物(2)、第22号住居跡・遺物、第18号住

居跡・遺物（銅鏡）、第23号住居跡・遺物、
第25号住居跡・遺物（1）

図版32 第25号住居跡・遺物（2）、第25号住居跡・
遺物（3）、第30号住居跡・遺物、第32号住
居跡・遺物、第147号土壌・遺物、第151号土
壌・遺物

図版33 第25号住居跡・遺物（4）、第5次調査グリ
ッド出土遺物

図版34 第152号土壌・遺物（1）、第152号土壌・遺

物（2）、第153号土壌・遺物（1）、第153号
土壌・遺物（2）、第157号土壌・遺物、第2
号不明遺構・遺物（1）

図版35 第35号住居跡・遺物、第37号住居跡・遺物

図版36 第36号住居跡・遺物、第38号住居跡・遺物
（1）、第38号住居跡・遺物（2 a）、第38号
住居跡・遺物（3）、第38号住居跡・遺物
（2 b）、第5次調査グリッド出土遺物（鉄器）

I 発掘調査の概要

1. 調査に至る経過

埼玉県では、伊奈町北部地域において、職・住・遊・学などが集積した中核都市圏の形成に寄与するため、21世紀に向けたモデルタウンの建設をすすめている。その一環として、乱開発を防止した田園と融和した地域社会の形成を図るための基礎づくりを目的として、上尾都市計画事業伊奈特定土地区画整理事業が計画された。

埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課では、こうした各種開発事業に対応するため、開発部局と事前協議を行い、文化財保護と開発事業の調整をすすめているところである。

当事業にかかる埋蔵文化財包蔵地の取扱については、伊奈新都市建設事務所長より文化財保護課長あて、昭和63年1月6日付け伊都建第587号で、埋蔵文化財の所在について照会があった。これに対し、文化財保護課では詳細分布調査を行い、平成元年6月26日付け教文第444号で、9ヶ所の埋蔵文化財包蔵地の所在を回答した。取扱いについては、対象地が広範囲であるため、事業計画と調整を図りながら別途試掘調査を実施することとした。

平成3、4年度及び平成6～8年度、平成10年度に実施された向原遺跡、相野谷遺跡の発掘調査については、調査実施機関である財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と伊奈新都市建設事務所、文化財保護課の三者により、調査方法、期間、経費等を中心に協議が行われた。

その結果、向原遺跡は第1次調査を平成3年12月9日から平成4年3月31日まで、第2次調査を平成4年10月1日から平成5年3月31日まで、第3次調査を平

成6年7月11日から12月6日まで、第4次調査を平成6年10月11日から平成7年1月10日まで、第5次調査を平成7年4月1日から12月8日及び平成7年2月1日から3月31日まで、第6次調査を平成7年10月1日から12月8日まで、第7次調査を平成8年9月11日から12月31日まで、第8次調査を平成11年1月5日から3月26日まで、相野谷遺跡については平成6年10月17日から平成7年3月24日まで実施することで協議が整った。

平成3年度に、埼玉県知事から文化財保護法57条3第1項の規定に基づく発掘通知が提出され、また各年度の発掘調査に先立って、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から同法57条第1項の規定に基づく発掘調査届が提出された。

発掘調査届に対する指示通知番号は次の通りである。
向原遺跡

- | | | |
|-----|---------------|------------|
| 第1次 | 平成4年1月13日付け | 委保第5-2088号 |
| 第2次 | 平成5年3月31日付け | 委保第5-1822号 |
| 第3次 | 平成6年4月25日付け | 教文第2-19号 |
| 第4次 | 平成6年12月22日付け | 教文第2-157号 |
| 第5次 | 平成7年4月24日付け | 教文第2-6号 |
| | 平成7年7月10日付け | 教文第2-61号 |
| 第6次 | 平成7年9月19日付け | 教文第2-110号 |
| 第7次 | 平成8年9月18日付け | 教文第2-144号 |
| 第8次 | 平成10年12月22日付け | 教文第2-144号 |

相野谷遺跡

- | | | |
|-----|--------------|-----------|
| 第1次 | 平成6年12月22日付け | 教文第2-154号 |
|-----|--------------|-----------|

(文化財保護課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

向原遺跡

第1次調査 平成3年12月9日～平成4年3月31日まで実施した。調査面積は2800㎡であった。縄文時代の住居跡・土壌、近世期の溝などが確認された。終了した遺構から図面・写真などの記録をとって終了した。

第2次調査 平成4年10月1日～平成5年3月31日、平成5年4月1日～平成5年6月30日まで実施した。調査面積は8000㎡であった。近世の掘立柱建物跡、時期不明の井戸、中世～近世の溝、土壌などであった。調査の終了した遺構から図面・写真の記録をとって終了した。

第3次調査 平成6年7月11日～平成6年12月6日まで実施した。旧石器時代の石器集中箇所、縄文時代早期の竈穴、古墳時代前期の住居跡、方形雨溝墓、土壌、平安時代の住居跡、近世の溝などであった。調査の終了したもから図面・写真の記録をとった。

最後に旧石器時代の調査に入った。ナイフ形石器などが出土した。写真・土層断面図・遺物分布図などを作成して調査を終了した。

第4次調査 平成6年10月11日～平成7年1月10日まで実施した。調査面積は400㎡であった。近世の井戸と土壌などが検出された。調査の終了した遺構から図面作成・写真撮影をして、調査を終了した。

第5次調査 平成7年2月1日から平成7年12月8日まで実施した。調査面積4100㎡であった。縄文時代早期の竈穴、縄文時代・古墳時代前期の住居跡、平安時代の土器埋納遺構、縄文時代から近世までの土壌、中世から近世の溝、井戸跡などが確認された。精査が終了した遺構から図面作成・写真撮影を行って終了した。

第6次調査 平成7年10月1日～平成7年12月8日まで実施した。調査面積は900㎡であった。作業の工程上第5次調査と一部並行して行った。10月中に表土掘削を行い、順次遺構確認を行った。確認された遺構は古墳時代前期の住居跡、土壌などであった。遺構の精査を行い、図面作成・写真撮影を行って終了した。

第7次調査

平成8年9月11日～平成8年12月31日まで実施した。調査面積は4800㎡であった。検出された遺構は、旧石器時代の石器集中箇所、縄文時代早期の竈穴住居跡・炉穴、中期の竈穴住居跡、土壌と平安時代の集落跡、中世の溝跡などであった。精査の終了した遺構から図面作成、写真撮影を行って終了した。

第8次調査 平成10年6月1日～平成10年7月31日まで実施した。調査面積は1025㎡であった。検出された遺構は古墳時代前期の井戸跡、中・近世の溝、土壌、ビットなどであった。遺構の精査を行い、終了したもから図面作成・写真撮影を行ない調査を終了した。

相野谷遺跡

平成6年11月1日～平成6年11月22日まで実施した。調査面積は500㎡であった。確認された遺構は、縄文時代のファイヤービット、中・近世の井戸、土壌であった。精査の終了した遺構の図面作成と写真撮影を行って終了した。

整理・報告書作成

平成11年4月8日～平成12年3月24日まで行った。調査回数が多い発掘の整理作業であったが、順調に進んだ。

図面整理は向原遺跡1次～8次調査と相野谷遺跡について4月から9月まで行った。図面修正をした後、第二原図を作成し、トレースを行った。終了したもから、インレタ・スクリントーンなどを貼り付けた。

遺物は4月～8月にかけて、遺構ごとに分類し、接合・復元を行った。8月から復元の終わった遺物の実測作業に入った。並行して、縄文土器破片の拓本をとった。遺物実測の終わったもから、トレースに入った。

10月から版組みを行い、遺物写真撮影をした。12月には割り付け、原稿執筆を終了した。1月～3月にかけて校正を行い、3月末に本書の印刷を終了した。

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査

[平成4年度]

理事 長 荒井 修 二
副理事 長 早川 智 明
常務理事兼管理部長 倉持 悦 夫
理事兼調査部長 栗原 文 蔵

<管理部>

庶務課 長 萩原 和 夫
主 査 費田 清
主 事 菊池 久
経理課 長 関野 栄 一
主 任 江田 和 美
主 事 長滝 美智子
主 事 福田 昭 美
主 事 腰塚 雄 二

<調査部>

調査副部長 梅沢 太久夫
調査第四課長 石岡 憲 雄
主任調査員 秋山 幸 治
主任調査員 田中 英 司

[平成5年度]

理事 長 荒井 桂
副理事 長 富田 真 也
専務理事 横川 好 富
理事兼調査部長 中島 利 治
常務理事兼管理部長 柴崎 光 生

<管理部>

庶務課 長 萩原 和 夫
主 査 費田 清
主 事 菊池 久
経理課 長 関野 栄 一
主 任 江田 和 美
主 事 長滝 美智子
主 事 福田 昭 美
主 事 腰塚 雄 二

<調査部>

調査部副部長 高橋 一 夫
調査第四課長 今井 宏
主任調査員 昼間 孝 志
主任調査員 剣持 和 夫
主任調査員 木戸 春 夫
調 査 員 中山 浩 彦

[平成6年度]

理事 長 荒井 桂
副理事 長 富田 真 也
専務理事 栃原 嗣 雄
常務理事兼管理部長 加藤 敏 昭
理事兼調査部長 小川 良 祐

<管理部>

庶務課 長 及川 孝 之
主 査 市川 有 三
主 事 長滝 美智子
主 事 菊池 久
経理課 長 関野 栄 一
主 事 福田 昭 美
主 事 腰塚 雄 二

<調査部>

調査部副部長 高橋 一 夫
調査第四課長 酒井 清 治
主任調査員 金子 直 行
調 査 員 村田 彰 人
調 査 員 水口 由 紀子
調 査 員 佐藤 康 二
調 査 員 宮沢 京 子

[平成7年度]

理事 長 荒井 桂
副理事 長 富田 真 也
専務理事 吉川 國 男
常務理事兼管理部長 新井 秀 直
理事兼調査部長 小川 良 祐

<管理部>

庶務課長	及川孝之
主査	市川有三
主任	長滝美智子
主事	菊池久
専門調査員兼経理課長	関野栄一
主任	江田和美
主任	福田昭美
主任	腰塚雄二

<調査部>

調査部副部長	高橋一夫
調査第一課長	酒井清治
主任調査員	橋本勉
調査員	大谷徹
調査員	水口由紀子

[平成8年度]

理事長	荒井桂
副理事長	富田真也
専務理事	吉川國男
常務理事兼管理部長	稲葉文夫
理事兼調査部長	小川良祐

<管理部>

庶務課長	依田透
主査	西沢信行
主任	長滝美智子
主事	菊池久
専門調査員兼経理課長	関野栄一
主任	江田和美
主任	福田昭美
主任	腰塚雄二

<調査部>

調査部副部長	高橋一夫
調査第三課長	村田健二
主任調査員	橋本勉
主任調査員	水口由紀子

[平成10年度]

理事長	荒井桂
-----	-----

副理事長	飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長	鈴木進

<管理部>

庶務課長	金子隆
主査	田中裕二
主任	長滝美智子
主任	腰塚雄二
専門調査員兼経理課長	関野栄一
主任	江田和美
主任	福田昭美
主任	菊池久

<調査部>

調査部長	谷井彪
調査部副部長	水村孝行
調査第四課長	鈴木秀雄
統括調査員	昼間孝志
調査員	中山浩彦

[平成11年度]

理事長	荒井桂
副理事長	飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長	広木卓

<管理部>

管理部副部長兼経理課長	関野栄一
庶務課長	金子隆
主査	田中裕二
主任	江田和美
主任	長滝美智子
主任	福田昭美
主任	腰塚雄二
主任	菊池久

<資料部>

資料部長	高橋一夫
専門調査員兼資料部副部長	石岡憲雄
統括調査員	橋本勉

II 遺跡の立地と環境

向原遺跡と相野谷遺跡は、埼玉県北足立郡伊奈町大字小針内宿字向原1245番地他、伊奈町大字小針新宿字辻ヶ後2199番地他に所在し、高崎線桶川駅から東北東へ約5kmの地点にある。上越新幹線沿いに走る新交通システム・ニューシャトルの終点内宿駅から100m前後内に位置する。

遺跡は鴻巣市付近に端を発するいわゆる大宮台地のおよそ中央部に位置している。綾瀬川によって開析された沖積地に面する台地上に立地する。綾瀬川は鴻巣市付近から分岐する元荒川の旧河道の一部と思われる部分を流れており、元荒川は蓮田市付近にかけて複数の流路を形成し、縄文時代の遺跡が多く存在している。

綾瀬川右岸の伊奈町付近は、綾瀬川方面に張り出す舌状台地と樹枝状谷が発達している。大半の谷筋は沖積化が進み、比高差の少ないフラットな景観を持つ。沖積化の影響で台地の裾部分は埋もれており、標高約9m以下の遺跡は埋没して遺跡として確認されて

いない可能性が高い。

戸崎前遺跡・薬師堂根遺跡の周辺には、多くの遺跡が存在する。

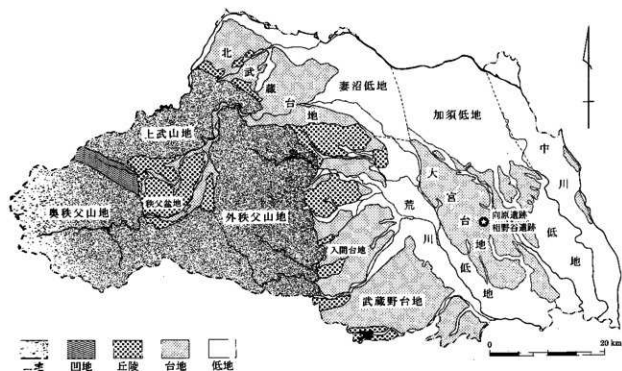
旧石器時代は、戸崎前遺跡、向原遺跡、久保山遺跡、大山遺跡、提灯木山遺跡などで検出している。

縄文時代草創期は、十二番耕地遺跡で隆起線文土器・多縄文系土器・爪形文系土器などが出土している。

縄文時代早期は、条痕文系の住居跡が薬師堂根遺跡、向原遺跡、戸崎前遺跡で発見されている。他に、多くのファイヤーピットや土壌が検出されている。

縄文時代前期では、タイプサイトになっている遺跡もあり多数の遺跡が存在する。蓮田市には関山式の標識遺跡である関山貝塚群、黒浜式の標識遺跡である黒浜貝塚群が存在する。この他に栗崎貝塚(18)、坂堂貝塚(22)など前期の貝塚が多い。本区画整理事業に伴う調査で、関山式期の住居跡が戸崎前遺跡と谷畑遺跡で発見されたが貝塚の形成は行われていなかった。

第1図 埼玉の地形



第2図 周辺の遺跡分布図



- | | | | | | |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 薬師守根遺跡 | 2. 戸崎前遺跡 | 3. 向原遺跡 | 4. 相野谷遺跡 | 5. 八幡谷遺跡 | 6. 原遺跡・谷畑遺跡 |
| 7. 北遺跡 | 8. 大針以塚 | 9. 丸山遺跡 | 10. 赤羽遺跡 | 11. 伊奈氏屋敷遺跡 | 12. 久保山遺跡 |
| 13. 大山遺跡 | 14. 小室天神前遺跡 | 15. 志久遺跡 | 16. 水川神社裏遺跡 | 17. 小貝戸貝塚 | 18. 栗崎貝塚 |
| 19. 井沼遺跡 | 20. 綾瀬以塚 | 21. 関山貝塚 | 22. 坂堂貝塚 | 23. 榊山遺跡 | 24. 秋父山遺跡 |
| 25. 尾山台遺跡 | 26. 今羽丸山遺跡 | 27. 十二番耕地遺跡 | 28. 東町二丁目遺跡 | 29. 平塚水川遺跡 | 30. 谷津下I遺跡 |
| 31. 八番耕地遺跡 | 32. 愛宕山遺跡 | 33. 三番耕地遺跡 | 34. 高台山遺跡 | 35. 奈良瀬戸遺跡 | 36. 在家遺跡 |
| 37. 高井遺跡 | 38. 提灯木山遺跡 | 39. 西道I遺跡 | | | |

中期になると遺跡数が増加する。北遺跡は上越新幹線建設に伴い調査され、中期の住居跡が7軒検出された(金子1987)。原遺跡(6)は上越新幹線建設と伊奈特定土地区画整理事業に伴い調査され、中期の住居跡が85軒検出された(村田1997)。この二つの遺跡は本遺跡の周辺地域での拠点的な集落である。この他に戸崎前遺跡(2・金子1997)、大山遺跡(13・谷井他1979、金子1982)、小室天神前遺跡(14・田中1981)、志久遺跡(15・笹森他1976)、秩父山遺跡(24・赤石1978)など数多くの遺跡がある。

後期から晩期の遺跡は数量的に減少傾向にあるが、先にも述べたように綾瀬川の沖積土に埋没して発見されていない遺跡の存在に注意しなければならない。今回報告文も斜面部である。戸崎前遺跡の他に氷川神社裏遺跡、井沼遺跡(19・安岡1960)、今羽丸山遺跡(26・新屋1996)などがある。下って、元荒川沿いには、ささら(II)遺跡、雅楽谷遺跡などの大集落がある。

弥生時代の遺跡はほとんど確認されていない。桶川市砂ヶ谷戸遺跡などで発掘例があるが数は少ない。

古墳時代前期の遺跡は多く発見されている。薬師堂根遺跡(1)、戸崎前遺跡(2)、向原遺跡(3)、大山遺跡(13)、小室天神前遺跡、尾山台遺跡(25)などである。昨年報告された戸崎前遺跡は本区画整理事業に伴い調査され、約45軒の住居跡が発見された。また、方形周溝墓も発見された。尾山台遺跡も近年報告され様相が明らかになった。

古墳時代後期の遺跡は少なく、この区画整理事業地内ではほとんど無い。大山遺跡で住居跡が9軒発見されているのみである(谷井他1979)。

奈良・平安時代になると、遺跡は増加する。ただし、この区画整理事業地内では大規模な集落は無く、戸崎前遺跡で6軒、薬師堂根遺跡で1軒、今回報告の向原遺跡で2件発見されているのみである。

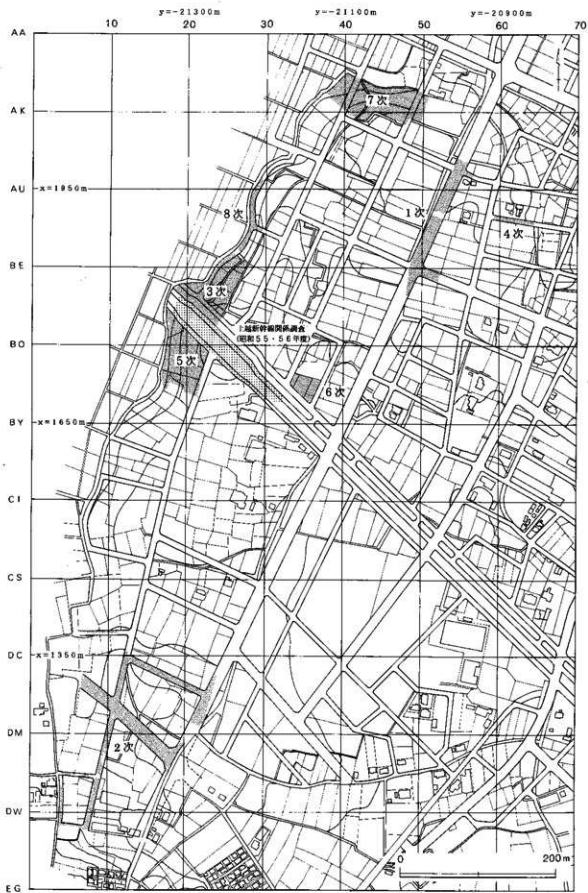
中世期に入って遺跡としては薬師堂根遺跡(1・木口1998)、戸崎前遺跡(2)、相野谷遺跡(4)、伊奈氏屋敷跡(11)、東町二丁目遺跡(28)、在家遺跡(36)、西通I遺跡(39)などがある。薬師堂根遺跡では方形の溝で囲まれた墓塚、建物跡、土壌が多く検出された。戸崎前遺跡では土橋を伴う一辺約70mの堀跡が発見され、堀跡覆土の最下層から在地産土器の皿が発見された。堀の時期は薬師堂根遺跡よりも古い13世紀末から14世紀中頃と推定される。相野谷遺跡では多数の柱穴群とともに中世瓦が発見されている(金子他1987)。

新幹線建設等による調査で小規模な障子堀が発見されており、陣屋以前に城跡であったことが判明した。障子堀は県内では騎西町騎西城跡、加須市花崎城跡(占塚他1982)で検出されている。東町二丁目遺跡では地下式抗、在家遺跡では土墳墓が検出されている。西通I遺跡では薬師堂根遺跡と同じような段切り遺構の中から多数の柱穴と土墳が検出されており、極めて似ている。また、遺跡の年代も15世紀～16世紀で薬師堂根遺跡と同じである。

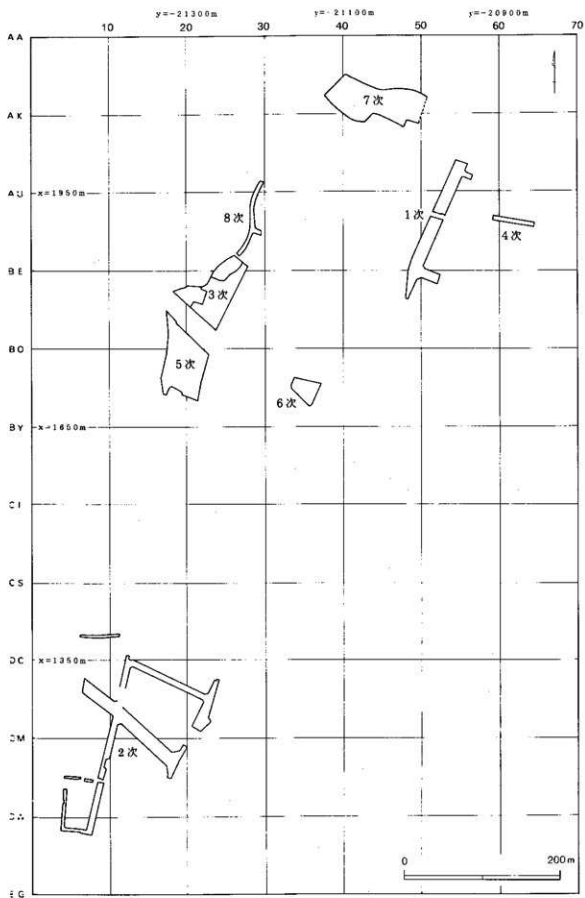
近世期は、当地方ではいまだあまり様相がわからなかった。国道122号線関係のささら遺跡、久台遺跡、関戸足利遺跡などで陶磁器、屋敷跡などが出土している。昨年報告の戸崎前遺跡では良好な一括資料が地下式抗から出土している。

III 向原遺跡

第3図 遺跡周辺の地形図



第4図 向原遺跡グリッド配置図(第1~8次)



1. 第1次調査

調査の概要

発掘調査は、平成3年12月9日～平成4年3月31日まで行われた。調査面積は2800㎡であった。縄文時代、中・近世の遺構と遺物が見つかった。

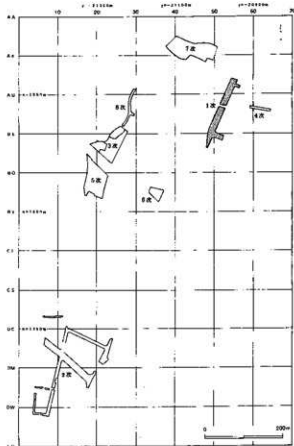
縄文時代

竪穴住居跡（中期・後期）が4軒、小竪穴（中期）が1軒、土壇4基、炉穴（ファイヤーピット・早期）2基、埋壺1基、石鏃製作跡1基が検出調査された。竪穴住居跡はいずれも中期後半から後期初頭にかけての時期であった。加曾利EⅢ式・小竪穴と後期・柄鏡形住居跡のプランは推定である。見つかった遺物は縄文土器、石器などであった。

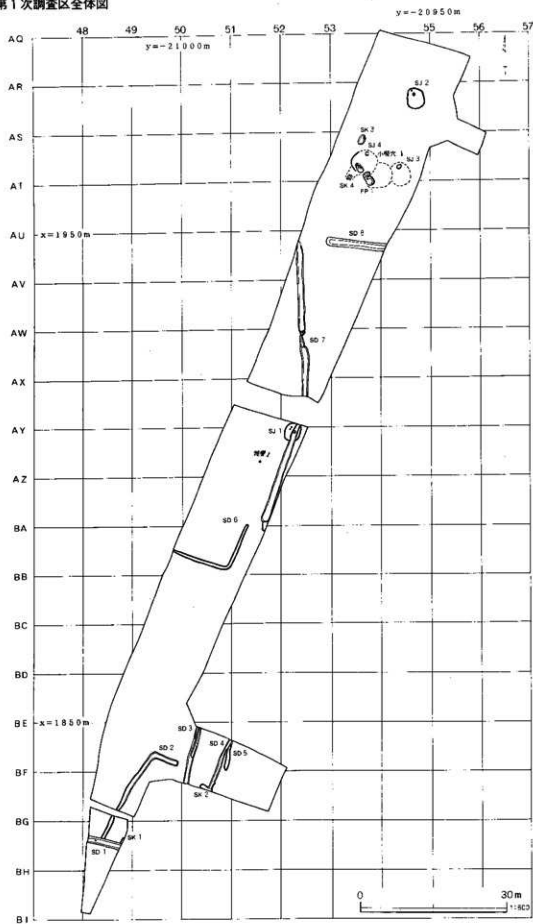
中・近世

溝が8条検出された。第8号溝からは馬の図が底面から浮いた状態で出土した。溝からの遺物は少なかった。

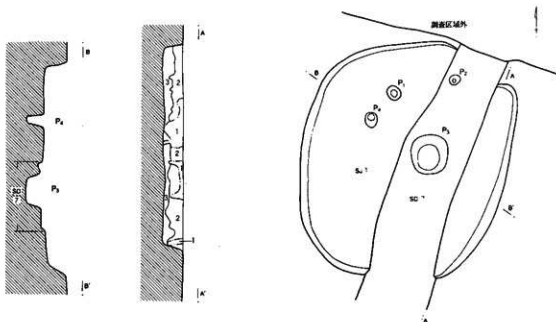
第5図 向原遺跡グリッド配置図（1次）



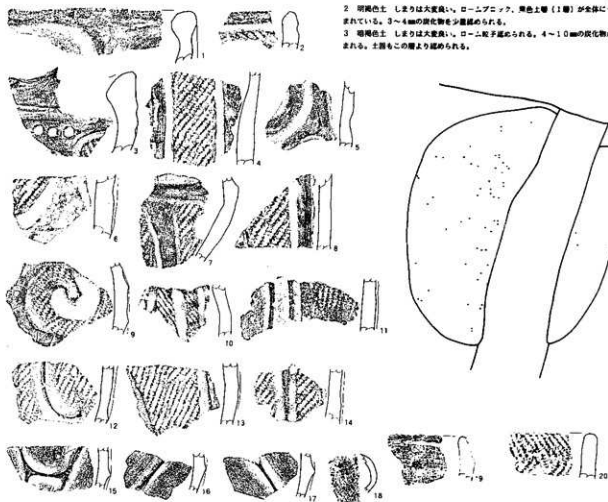
第6図 第1次調査区全体図



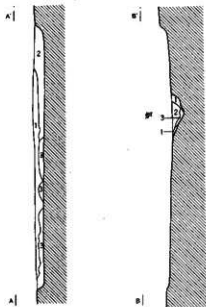
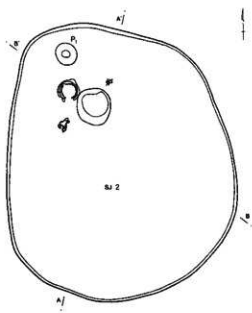
第7図 第1号住居跡



- 1 黒色土 しまりは良い。全体にローン殻、ローンブロックを含み、炭化物を微量含む。
(腐乱)
- 2 明褐色土 しまりは大変良い。ローンブロック、黄色土層(1層)が全体に一般に含まれている。3~4mmの炭化物を少量認められる。
- 3 暗褐色土 しまりは大変良い。ローン殻子認められる。4~10mmの炭化物が少量含まれる。土層もこの層より認められる。



第8図 第2号住居跡

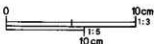
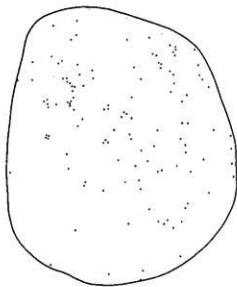
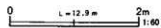


A-A

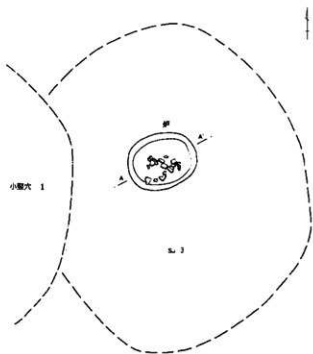
- 1 暗黒褐色土 しまりは良い。全体にロームブロック、ローム粒を多く含む。
- 2 暗黒褐色土 しまりは良い。全体にロームブロック、ローム粒を多く含むが1層よりその量は多い。一部焼土粒も含まれる。
- 3 黄褐色土 しまりは良い。ローム土である。

跡跡

- 1 黄褐色土 大変しまり良い。硬い。ローム土である。
- 2 暗黒褐色土 大変しまり良い。硬い。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 3 黄褐色土 大変しまり良い。焼土ブロック、焼土粒を多量に含む。赤っぽく見受けられる。炭化物も中央部に多く認められる。

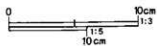
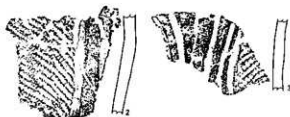
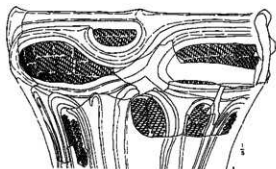


第9図 第3号住居跡



説明

- 1 赤褐色土 しまりは大変高い。焼土粒を多量に含み、やや赤っぽい。
- 2 暗赤褐色土 しまりは良い。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 3 暗黒褐色土 しまりは良い。炭化物粒子を多量によくみ、少量の焼土粒も認められる。



(1) 住居跡**第1号住居跡 (第7図)**

AX52グリッドからAY52グリッドで検出された。長径3.81m、短径3.23m、深さ0.31mから0.35mの楕円形をしていた。主軸の傾きは、N-18°-Eであった。第7号溝が切っていた。土層は、層が横に走っており人為堆積であった。ピットは北側に4個検出されたが、配置は不規則であった。

遺物は縄文時代後期、加曾利EⅣ段階を中心にした破片が出土した。1、2、7、8はキャリパー形の器形を持つと思われる口縁部破片である。胴部に幅広い磨消縄文が配される。3は内面が「く」字状に肥厚し点列を持つ。11~14は1本及び2本微隆線による渦巻文が描かれる。15~17は無文地に微隆線が描かれる。両耳壺と思われる破片である。本住居跡は全体として加曾利EⅣ段階の可能性が有る。

第2号住居跡 (第8図)

AR54グリッドで検出された。長径4.18m、短径3.56m、深さ0.14mの楕円形をしていた。主軸の傾きは、N-33°-Wであった。北側に寄って炉が検出された。炉の周辺からは1と2の土器が固まって検出された。ピットは1個だけ検出された。土層は自然堆積であった。

遺物は縄文時代中期加曾利E式のもの少量出土した。1はキャリパー形の深鉢上半部である。胴部には3本の懸垂文が垂下する。結果的に磨消となる。縄文はR L縦回転で口縁部は回転方向を変えている。口唇部はあまり肥厚しない。口縁部文様帯は下から持ち上がる隆帯が左右に開く。一部隆帯上に縄文が配される。全体として通常の加曾利EⅡ式とは異なった印象をもつ。中韓式の継承であろう。2は楕圓状の工具による波状文が縦位に配される。3、4は口縁部下に隆帯が1条めぐる。6は磨消縄文が配される胴部破片。本住居跡は加曾利EⅡ段階である。

第3号住居跡 (第9図、第20図)

AS54グリッドからAT54グリッドで検出された。第1号小竪穴に切られていた。長径(4.67)m、短径(4.20)mの楕円形をしていたと思われる。壁は確認で

きず、遺物の分布状況から形を推定した。中央部に楕円形の炉が存在していた。炉の中からは1の土器が分散した状態で出土した。ピットなどは確認できなかった。

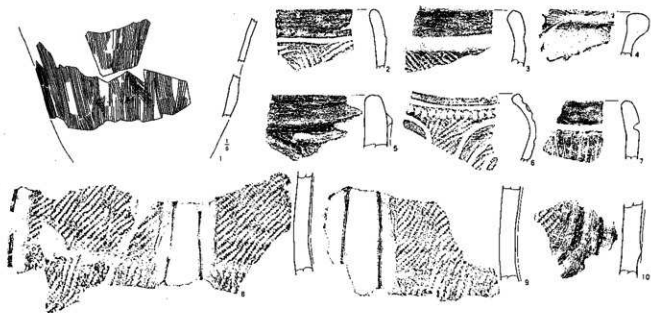
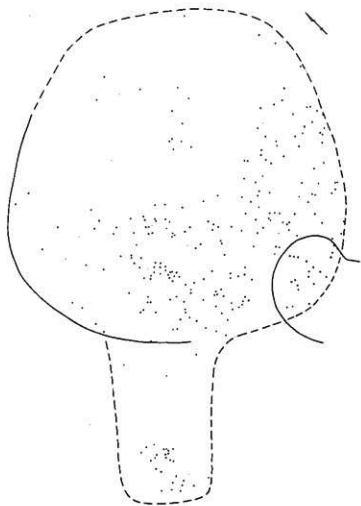
遺物は加曾利E式の土器が検出された。1はキャリパー形の深鉢で胴部下半を欠く。胴部に2本沈線による楕円文と「の」字状文が描かれる。縄文はL Rの縦回転で、口縁部文様帯で回転方向を変える。口縁部は楕円を基調にした隆帯文が描かれる。2、3は幅広い磨消縄文。5は2本の微隆帯による渦巻文が描かれるタイプである。本住居跡は加曾利EⅢ段階である。

第4号住居跡 (第4図、第20図)

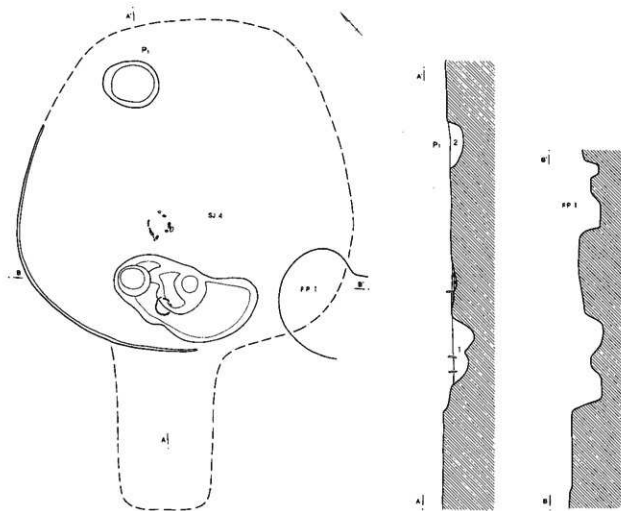
ASE3グリッドで検出された。第1号炉穴の上に構築されていて、第1号小竪穴を切っていた。長径(7.54)m、短径(5.09)mの柄鏡形をしていたと思われる。柄の部分は25m前後であろう。実際は西側の壁と炉とピットしか検出されなかったが、遺物の分布状態から推定した。主軸の傾きは、N-2°-Wであった。中央より入り口によって炉が検出された。土器片で囲われた部分に焼土が認められ、掘り込みは少なかった。入口部と炉の間に対ピットが配され中央部に1の土器が配置されていた。

出土遺物は加曾利E式土器が検出された。1は胴部破片で櫛状工具による多沈線が垂下する。3、5は口縁部文様帯を持つキャリパー形の口縁部破片。6は口縁下に刺突列を1段配し、沈線による磨消渦巻文が描かれる。8~13は2本の微隆帯による渦巻文が描かれるタイプのものである。18は口唇部に縄文帯を持つ特異なもので、幅広い沈線文を持つ。縄文はかなり細密である。本住居跡は加曾利EⅢ段階かEⅣ段階か難しいが6や18の土器から加曾利EⅣ段階としておきたい。

第10图 第4号住居跡(1)

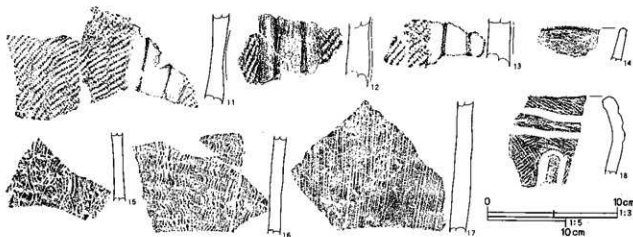


第11図 第4号住居跡 (2)



- 1 赤褐色土 しまりやや強く、砂質。4号住居層土中、もっとも黒色味が強い。全体に焼土粒を含むが、下部の3層に比べると量が多くなる。
- 2 褐色土 しまりやや強く、やや粘性がある。ロームブロックを多量に含む。そのままローム層へと移行する。
- 3 赤褐色土 しまりやや強く、やや粘質。焼土をブロック状に多量に含む。若干の炭化物も認められる。
- 4 赤褐色土 しまり強く粘質。焼土ブロック・炭化物が多くなる。

0 L=12.8m 2m 1:60



0 10cm 1:3 10cm

(2) 小竪穴

第1号小竪穴 (第12図、第20図)

AS53・54、AT53・54グリッドにまたがって検出された。第3号住居跡を切っていて、第4号住居跡に切られていた。長径(6.0)m、短径(5.0)mの楕円形をしていたと思われる。図中の点線は推定領域を示してある。遺物の分布状況から南西側が少し膨らむものと思

われる。柱穴、炉などは検出できなかったので小竪穴とした。

出土遺物は加曾利E式の小破片が少量出土した。1は口縁部文様部分。2、6は微隆帯による渦巻文が描かれる。3、4は口唇部下に1列の刺突列を持つ。加曾利EⅢ段階か。

(3) 埋壘

第1号埋壘 (第13図)

AY51グリッドで検出された。長径0.42m、短径0.36m、深さ-0.13mで円形の掘方を持つ。胴部上半部のみが埋められていた。

土器はキャリパー形の深鉢で括れは緩い。胴部は幅広い磨消縄文で充填縄文である。口縁部は楕円形を基調としたモチーフが隆帯で描かれる。RLの縄文は口縁部と胴部で回転を変えている。加曾利EⅣ段階か。

(4) 土壇

第1号土壇 (第14図)

BG48グリッドで検出された。長径(1.37)m、短径(0.39)m、深さ-0.20mの長方形をしていたと思われる。第1号溝と切りあっていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壇と思われる。

第3号土壇 (第14図)

AS53グリッドで検出された。長径-2.14m、短径-1.24m、深さ-0.52mの楕円形をしていた。埋土は人為堆積。

第2号土壇 (第14図)

BF50グリッドで検出された。長径-2.69m、短径-0.92m、深さ-0.20mの長方形をしていたと思われる。第4号溝と切りあっていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壇と思われる。

第4号土壇 (第14図)

AS53グリッドで検出された。長径-0.97m、短径-0.88m、深さ-0.39mの円形をしていた。覆土から加曾利E式土器の破片が出土した。いずれも加曾利EⅢ段階から加曾利EⅣ段階で断定は難しい。

(5) 炉穴

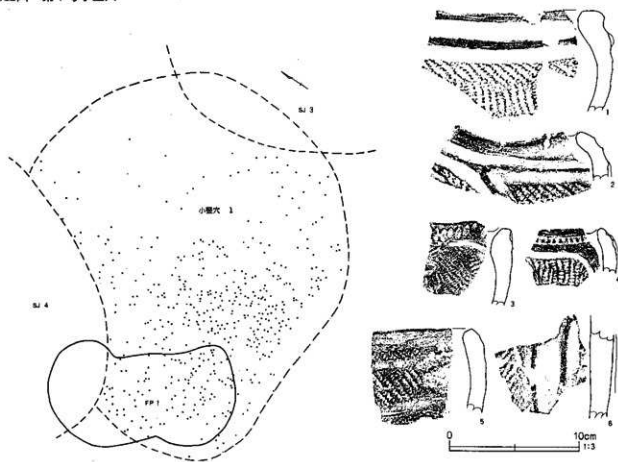
第1号炉穴 (第14図、第15図)

AS53グリッドで検出された。長径1.43m、短径(0.84)m、深さ-0.25mから-0.31mの楕円形をしていた。中段がある。上面に第4号住居跡が作られている。

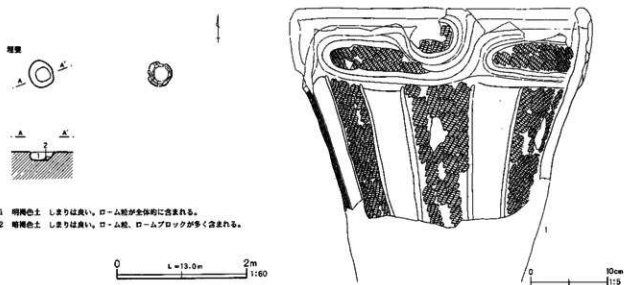
覆土からは破片であるが多くの縄文時代早期の土器

が出土している。大部分は胎土に繊維を含む。基本的には表裏に条痕文が付けられている。1～11は口縁部破片。1、12は口唇部に刻みがある。7、11、13～16は沈線による鋸歯状の文様が描かれる。15は格子目状の文様が描かれる。56は尖底部片。

第12図 第1号小壁穴

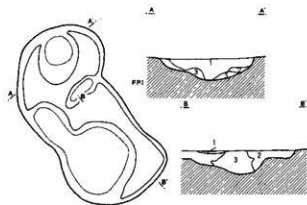
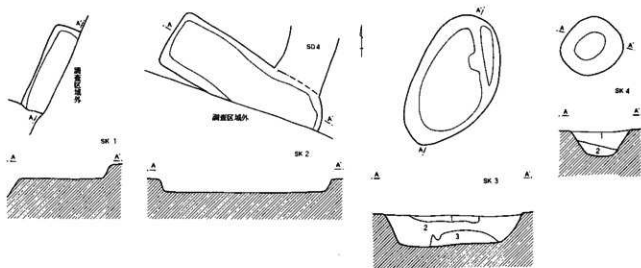


第13図 第1号埋壺



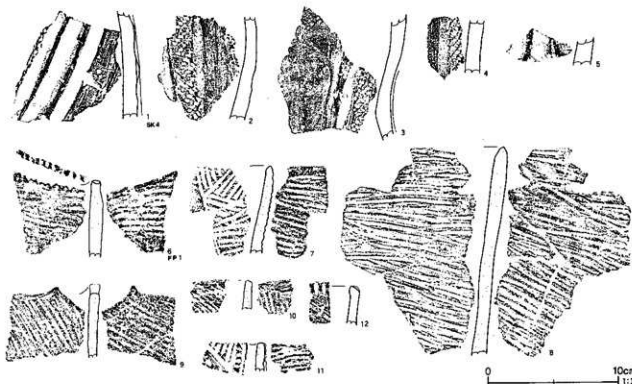
- 1 明褐色土 しまりは濃い、ローム泥が全体的に含まれる。
- 2 暗褐色土 しまりは濃い、ローム泥、ロームブロックが多く含まれる。

第14図 土壇(第1~4号)・炉穴(第1号)(1)



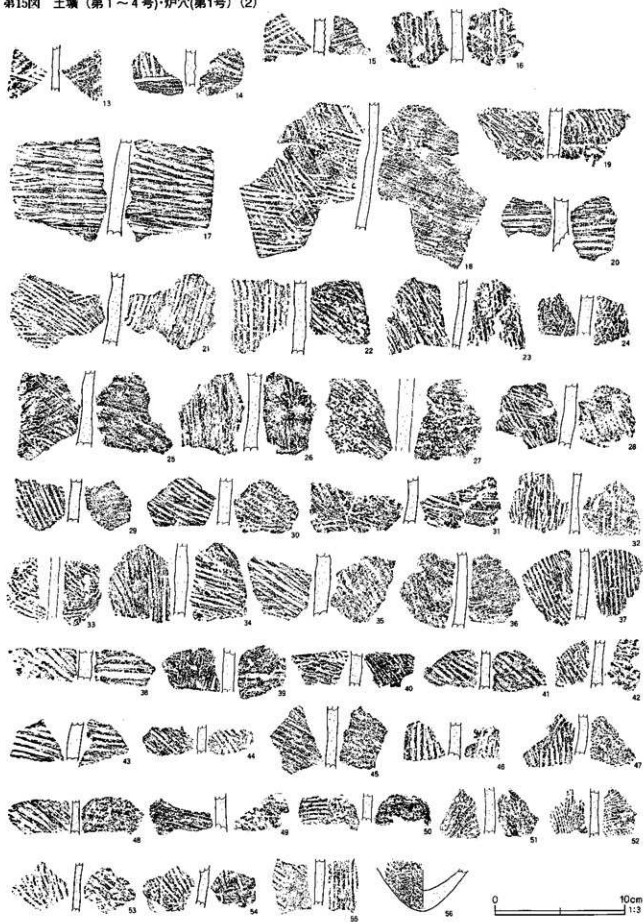
SK 3 築造は、しまりはよい。ローム層を数層含む。層の厚さが不均一。
 調査土 しまりはよい。ローム層を数層含む。層の厚さが不均一。炭化植物も少量認められる。
 SK 4 築造土 しまりはよい。ロームブロックの層が本層を占め、ローム層も多少認められる。
 SK 1 築造土 しまりはよい。ローム層を数層含む。層の厚さが不均一。炭化植物も少量認められる。
 SK 2 築造土 しまりはよい。ローム層を数層含む。層の厚さが不均一。炭化植物も少量認められる。
 SK 3 築造土 しまりはよい。ローム層を数層含む。層の厚さが不均一。炭化植物も少量認められる。
 SK 4 築造土 しまりはよい。ローム層を数層含む。層の厚さが不均一。炭化植物も少量認められる。

0 L=13.0m 2m 1:60

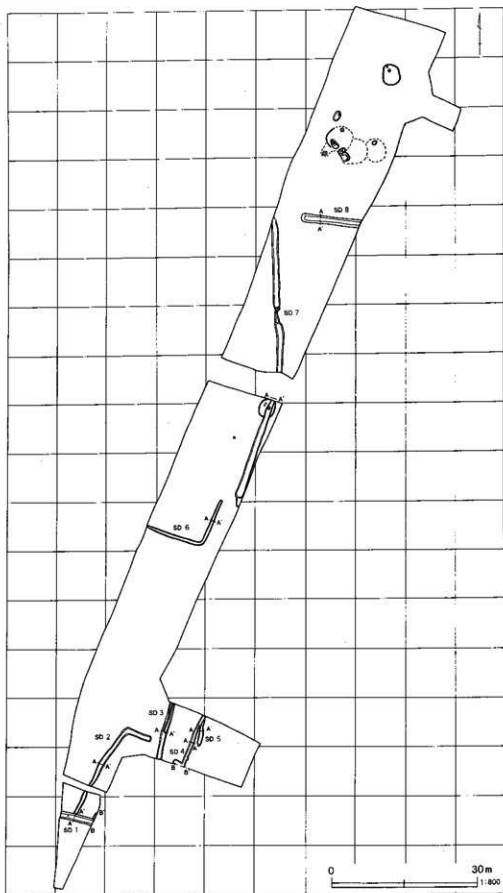


0 10cm 1:3

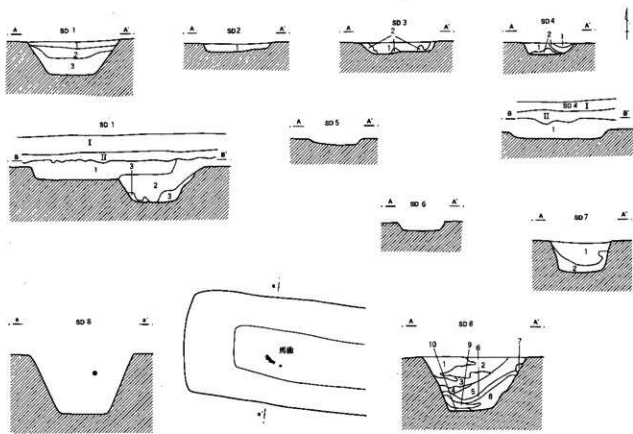
第15図 土壌(第1~4号)・炉穴(第1号)(2)



第16図 溝(第1～8号) (1)



第17図 溝(第1~8号)(2)



SD1

I 黒色土 いわゆる新作土である。農耕機械の鍬の及ぶ範囲と一致すると推される。フカクしており、乾くとサラサラとし、ずれ落ちでしまう。草の根などを多く含む。

II 灰褐色土 しまりは大変良く洗い、塊土状。炭化物が少量全体的に含まれている。

1 黒色土 しまりは高くサラサラしている。ローム粒が数個認められる。炭化物、粘土粒も少量認められる(長方形の硬質面から20cm程度掘り下げることでできる)。

2 黒色土 しまりは大変良く洗い、ローム粒が少量全体に認められる。

3 ロームブロック混じりの黒色土 主としてロームブロック、ローム粒が中心となるが、30%程度黒色土を混入する。

SD2

1 ロームブロック混じりの黒色土 しまりは良くない。黒色土にローム土が全体的に混入しており、30%程度はローム土である。

SD3

1 黒色土 しまりは良い。全体的にローム粒が含まれており、少量の粘土粒も認められる。

2 黒色土 はほとんどローム土であるが、20%程度の黒色土層とが混じっている。しまりは中程度である。

SD4

I 黒色土 いわゆる新作土である。農耕機械の鍬の及ぶ範囲と一致すると推される。フカクしており、乾くとサラサラとし、ずれ落ちでしまう。草の根などを多く含む。

II 灰褐色土 しまりは大変良く洗い、塊土状。炭化物が少量全体的に含まれている。

1 黒色土 しまりは中程度である。全体的に少量ではあるがローム粒が含まれている。少量の炭化物、粘土粒も認められる。

2 黒色土 しまりは良い。黒色土が20%程度混入する。主はローム土である。

SD7

1 黒色土 しまりは良く砂質。全体に黄褐色のローム粒を含む。下層に行くほどその量が多くなる。

2 黒褐色土 しまりは良く砂質。黄褐色の粒子を多量に含む。両状になって溝底付近に広がる。部分的にブロック状に1層に入り込む。

SD8

1 黒色土 しまりは中程度、砂質。若干のローム粒、炭化物を含む。全層土中、もっとも色調が良い。

2 黒褐色土 しまりは中程度砂質。1層よりも中程度色味を上げる。ローム粒が1層よりも多く含まれる。1層にレンズ状に入り込む。

3 黒褐色土 しまりは中程度砂質。黒色は1層よりも薄く、ローム粒も2層よりも少ない。

4 黒色土 しまりは中程度砂質。3層層間にレンズ状に入り込む。1層に色調は弱いが、1層よりもローム粒の粒子がやや多い。

5 黒褐色土 しまりは中程度砂質。色調は2層よりも中程度色調が良い。全体に2~3cmのローム粒、黒色土が状況に入る。特にローム粒は下部に行くほど多くなる。

6 黒色土 しまりは中程度砂質。4層に色調が良いが、より黒色が無い。中に黒色土が粒状に入る部分がある。

7 暗褐色土 しまりは中程度粘質。全体に大形のロームブロックが含まれる。

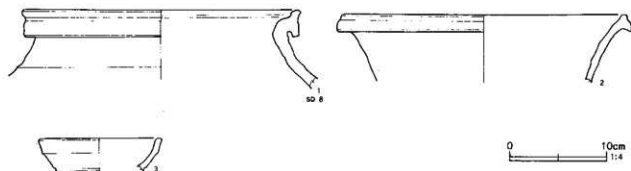
8 暗褐色土 色調は5層に弱く。しまりは中程度、中粘質。水分を多く含む。ローム粒や炭化物、黒色土であるが、5層よりも弱く混じりあっており全体に褐色を呈する。

9 暗褐色土 しまりは中程度、中粘質。色調は6層に弱く、下部へ行くほどロームブロックの大型が含まれる。水分が多い。

10 暗褐色土 しまりは中程度、粘質。水分が多い。7層に弱く、よりロームブロックが多く含まれる。部分の硬質したのもも含まれる。



第18図 溝(第1～8号) (3)



(6) 溝

第1号溝 (第16図、第17図)

BG48グリッドに位置していた。長さ約7.00m、幅約1.40m、深さ約0.21mから約0.56mであった。ほぼN77°-Wに伸びていた。第2号溝を切っていた。断面は矢研形をしていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第2号溝 (第16図、第17図)

BE49グリッドからBG48グリッドにかけて位置していた。長さ約(25.4)m、幅約1.20m、深さ約0.12mであった。ほぼN33°-Eに伸びていた。第1号溝に切られていた。断面は箱型をしていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第3号溝 (第16図、第17図)

BE50グリッドからBF50グリッドにかけて位置していた。長さ約11.3m、幅約1.2m、深さ約0.17mであった。ほぼN15°-Eに伸びていた。断面は箱型をしていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第4号溝 (第16図、第17図)

BE50、BE51グリッドからBF50グリッドにかけて位置していた。長さ約11.4m、幅約1.0m、深さ約0.14mから約0.18mであった。ほぼN24°-Eに伸びていた。第2号土塼、第5号溝と重複していた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第5号溝 (第16図、第17図)

BE50、BE51グリッドからBF50グリッドにかけて位置していた。長さ約(4.8)m、幅約0.8m、深さ約0.08mであった。ほぼN6°-Eに伸びていた。第4号溝と重複していた。断面は箱型をしていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第6号溝 (第16図、第17図)

AZ51グリッドからBA49グリッドにかけて位置していた。長さ約21.6m、幅約0.6m、深さ約0.13mであった。ほぼN72°-Eに伸びていた。断面は箱型をしていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第7号溝 (第16図、第17図)

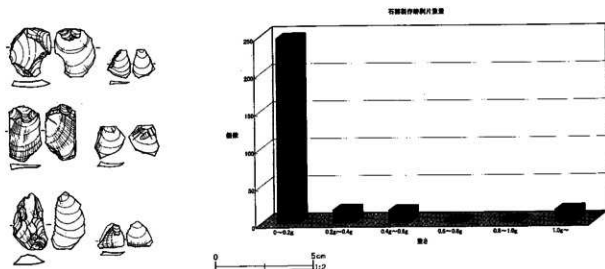
AU52グリッドからAZ51グリッドにかけて位置していた。長さ約(61.0)m、幅約1.6m、深さ約0.49mであった。ほぼN7°-Eに伸びていた。第1号住居跡を切っていた。断面は箱型をしていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第8号溝 (第16図～第18図)

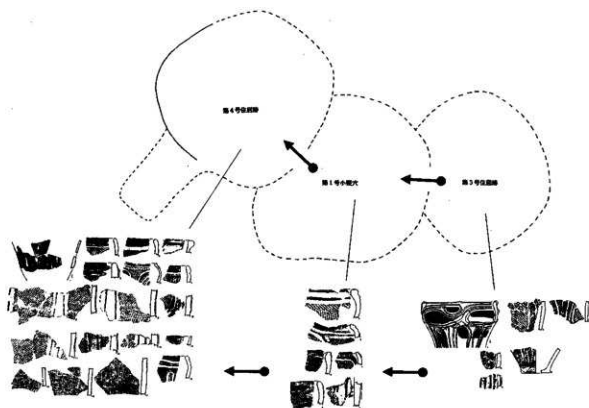
AU52グリッドからAU54グリッドにかけて位置していた。長さ約12.2m、幅約1.6m、深さ約0.84mであった。ほぼN83°-Wに伸びていた。断面は矢研形をしていた。

遺物は常滑産と思われる甕の破片が出土している(第18図1) 他、志野の小皿(第18図3)も出土して

第19図 石器製作跡出土石器



第20図 住居跡新旧概念図



いる。また、覆土中から馬の歯も出土した。遺物より

中世期以降の溝であろう。

(7) 石器製作跡

第4号住居跡覆土および、付近から、黒曜石の剥片が集中して出土した。いずれも、細かいもので製品はなかった。

剥片の代表例を図示しておいたが、大部分は0.2g

以下の微細なもので約200個を占めている。1.0gを超える素材剥片となるような剥片は少ないことから、加工の時に出るチップの廃棄であろう。

(8) グリッド出土遺物

第1群土器 (第21図～第22図)

縄文時代早期末条痕文系の土器を一括する。1は口縁直下に刺突列を1列置し、三角形の充填沈線文を持つ。2は口唇部に刻みがあり、波状口縁をしている。4は貝殻背印痕が口唇部に施文される。9は微隆線で文様が区画される。10、11は沈線区画内に単沈線が充填される。12～36は胴部破片で表裏に条痕文が充填される。37～49は条痕文がまばらであったり、縦線が表出することが多い。

第2群土器 (第22図～第24図)

縄文時代中期末～後期初頭の土器を本群とする。加曾利EⅢ段階～加曾利EⅣ段階にかけてのものであるが、単体では判断できないものもある。50～57は口縁部破片で「の」字状および楕円形状のモチーフを持つ。「の」字状文は下から巻き上がるものが多い。53、56、57、59～61は平縁深鉢の口縁部破片。56は幅広い沈線上の区画になっている。58は文様を構成する隆帯の分岐点に小さな盲孔が配される。62は連弧文系列。口縁直下に交互刺突文を配し、縄文を地文とした連弧文が描かれる。縄文の状態から加曾利EⅡ段階かもしれない。

63～65は同一固体であるが接合しなかった。口縁部は内彎し、口縁部端に1列の刺突列が配される。横に連結するような隆帯による口縁部文様を持つ。波状に持ち上がる部分に入り込むように胴部の文様が持ち上

がる。胴部文様はナゾリのかかなりきつい微隆起線によって描かれる。モチーフはこの破片でははっきりしなかった。加須低地、栃木県南部に多い加曾利E系列の土器である。加曾利EⅣ段階以降。加曾利EⅣ段階はこれら加曾利EⅢ式の伝統を引き継ぐ系列も含んでいる。

第23図1～3は従来の典型とされる加曾利EⅣ段階の口縁部破片である。波状口縁で口縁部に無文帯を持ち微隆起線による文様が描かれる。この系列は、加曾利EⅣ段階の一部の系列を構成するだけである。6～9は、称名寺式土器の古い部分またはその影響を受けた土器。これらの土器も加曾利EⅣ段階を構成する微小な系列の一部である。6はきつめに内彎する口縁部破片。細めの沈線による充填文様が同える。縄文は細かい。7は隆帯上に縄文が施文され「T」字状に突出して口縁部上の空間に開放される。8は内彎する口縁部を縄文で閉鎖するもの。わずかに隆帯が同える。9は細密な縄文と幅広い沈線文を持つ称名寺式土器。

10～15は口縁部に無文帯を持つ口縁部破片とそれ以外のもの。16～48は胴部破片。20は「の」字状の文様をもつが同時に隆帯も垣間見られる。29は胴部文様に楕円文を使用する複合タイプ。44は管形系の七器で北関東によく見られる加曾利EⅢまたは加曾利EⅣ段階のもの。

第3群土器 (第24図)

縄文時代後期の土器を一括する。52、53は堀ノ内2式土器。53は2段の微隆線を配し、裏面に沈線がある。54は磨消縄文系の加曾利B式土器。55～59は紐線文系の粗製土器である。

石器(第24図)

60は短冊形の打製石斧。裏面に自然面を残す。61は石棒の頭部である。下半のほとんどが欠落する。かなり大型となろう。縄文時代中期の所産。62、64は基部に抉りの入る石鎌である。63は三角形の石鎌。65はドリルである。

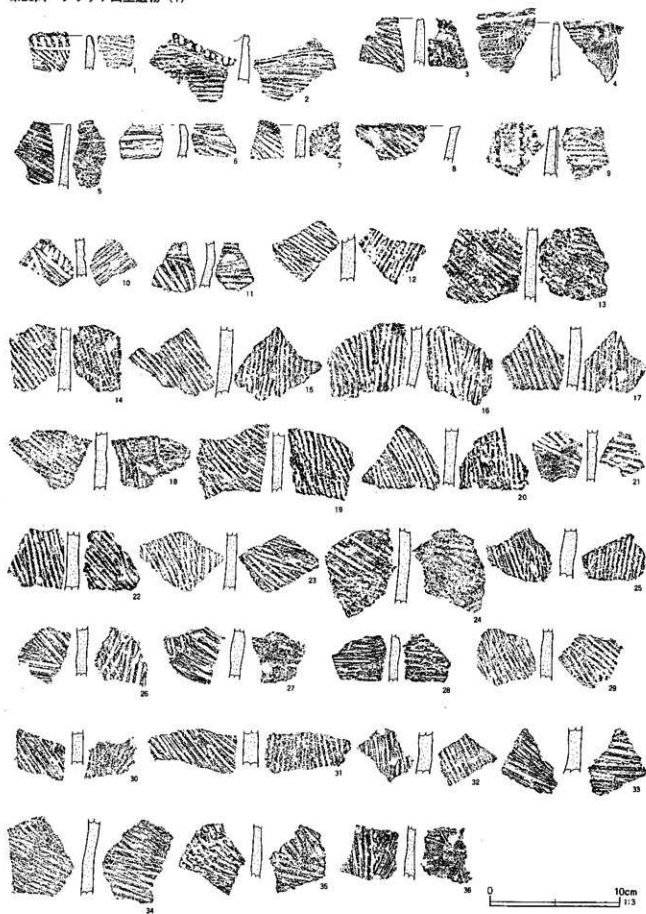
第1表 縄文時代以降石器観察表(1)
石器一覧表(1次)

図版番号	出土位置	器種	縦×横×厚さ(cm)	重量(g)	石質
24図-60	グリッド	打製石斧	7.8×5.6×2.1	125	ホルンフェルス
24図-61	グリッド	石棒	5.0×6.5×5.1	222	緑泥片石岩
24図-62	グリッド	石鎌	2.1×1.2×0.3	0.6	安山岩
24図-63	グリッド	石鎌	2.0×1.5×0.5	0.8	黒曜石
24図-64	グリッド	石鎌	2.0×1.2×0.3	0.5	チャート
24図-65	グリッド	ドリル	12.1×1.7×0.5	1.3	黒曜石

石器一覧表(2次)

図版番号	出土位置	器種	縦×横×厚さ(cm)	重量(g)	石質
55図-2	SD75	砥石	(5.3)×3.5×2.6	83.9	安山岩
55図-5	SD77	火打ち石	(2.3)×(2.4)×(0.8)	4.2	石英
55図-6	SD77	火打ち石	(2.9)×(2.7)×(1.1)	5.7	石英
55図-10	SD81	火打ち石	3.0×2.4×2.3	26.5	石英
58図-2	SD36	硯	(5.5)×(6.8)×(2.1)	61.7	
58図-3	SD36	砥石	(4.8)×3.2×2.9	55.5	砂岩
58図-4	SD39, 40	砥石	6.5×2.4×2.1	45	硬質砂岩
58図-5	SD41	砥石	9.0×2.4×3.2	61.9	安山岩
58図-6	SD43, 44	砥石	6.8×2.8×1.9	50.7	硬質砂岩
58図-7	SD43, 44	火打ち石	1.8×1.9×(1.5)	6.0	石英
58図-9	SD49	砥石	(4.5)×4.7×2.1	64.4	硬質砂岩
58図-11	SD49	砥石	10.8×5.8×2.1	218	砂岩
58図-13	SD50	砥石	(2.8)×(5.0)×1.6	33.6	砂岩
58図-14	SD50	石臼	(8.0)×(8.2)×9.6	425	安山岩
58図-15	SD50	砥石	(5.4)×4.2×1.7	59.8	砂岩
58図-17	SD68	硯	(4.3)×6.9×2.5	59.3	砂岩
58図-19	SD69	砥石	(7.9)×2.9×3.0	(81.2)	硬質砂岩
58図-20	SD70, 71	砥石	(8.7)×2.5×2.4	78.1	安山岩
60図-3	I13	火打ち石	(2.0)×(2.4)×(1.4)	5.2	石英
60図-4	A23グリッド	砥石	(3.65)×3.75×2.0	47.0	安山岩
60図-5	C2-1グリッド	ドリル	(3.6)×2.3×0.7	4.2	黒曜石
60図-6	SE2	スタンプ形石器	8.0×5.5×6.0	352.0	硬質砂岩
60図-7	SD9	打斧	(8.8)×4.5×2.1	85.6	安山岩

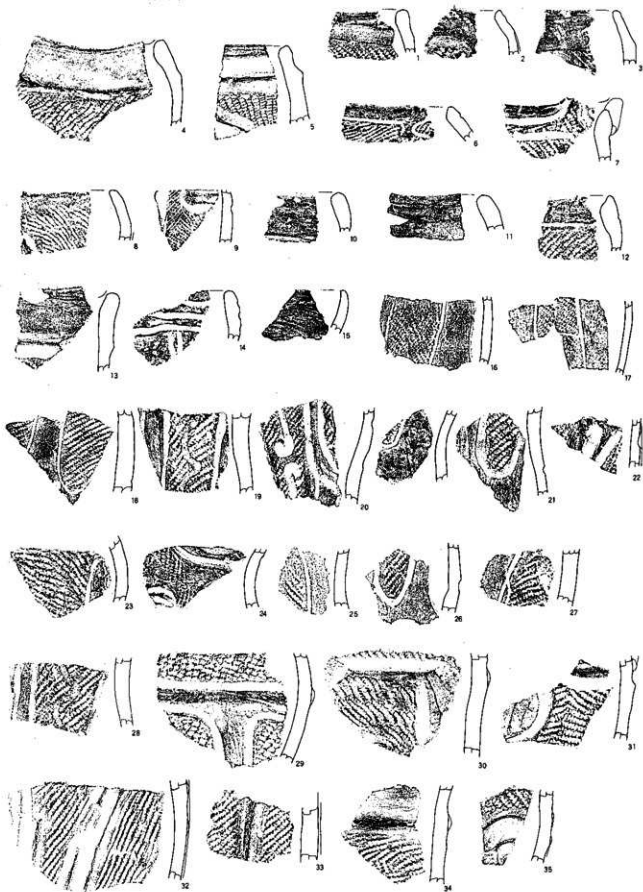
第21図 グリッド出土遺物 (1)



第22図 グリッド出土遺物(2)



第23図 グリッド出土物(3)



第24図 グリッド出土遺物 (4)



2. 第2次調査

調査の概要

発掘調査は平成4年10月1日～平成5年6月30日まで行われた。調査面積は9500㎡であった。旧石器時代、縄文時代、中・近世の遺構が検出調査された。

旧石器時代

ソフトローム層からチップ2点、尖頭器1点が出土した。

縄文時代

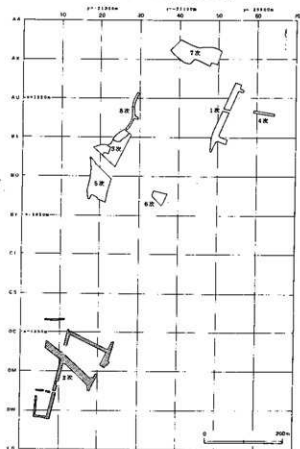
中期の土城が1基検出された。遺物は少なかった。

中・近世

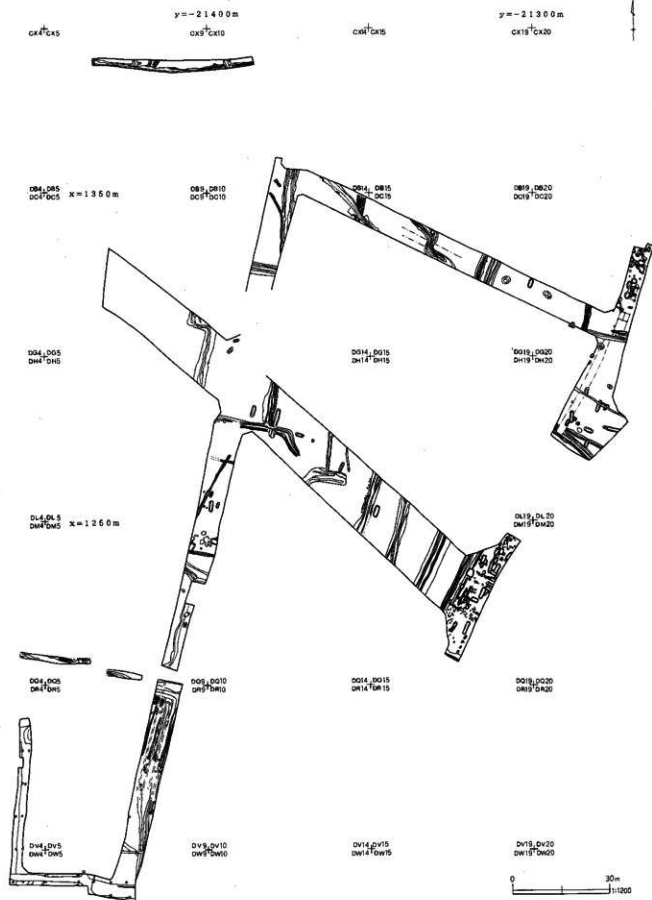
土城110基、溝74条、掘建柱建物跡5棟、井戸3基が検出された。土城は調査区の北東部に集中していた。長方形、楕円形をするもので遺物の出土は少なかった。溝は方形または環状に巡ると思われるものが数条あった。大部分は、遺物も少なく時期は不明である。

掘建柱建物跡は2間×1間で、主軸を東西に向けたものが1軒、調査区外にかかっていると推定されるものが2軒であった。2間×3間のものが2軒であった。

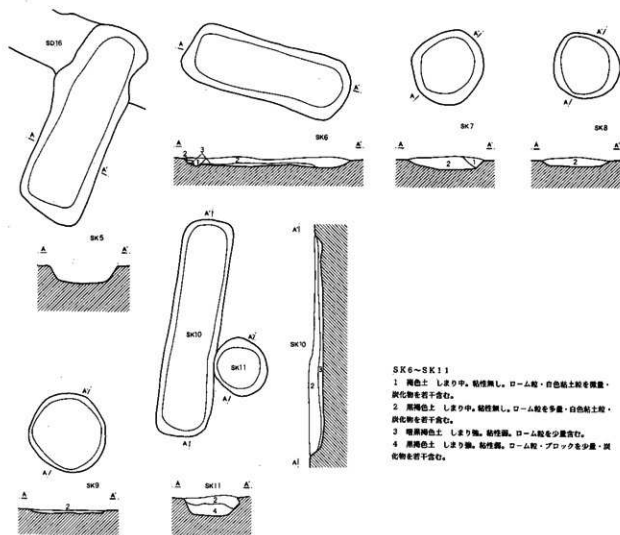
第25図 向原遺跡グリッド配置図(2次)



第26図 第2次調査区全体図



第27図 土墳 (第5～11号)



SK6～SK11

- 1 褐色土 しまり中。粘性無し。ローム殻・白色粘土層を微量・炭化物を若干含む。
- 2 黒褐色土 しまり中。粘性無し。ローム殻を少量・白色粘土層・炭化物を若干含む。
- 3 暗褐色土 しまり弱。粘性弱。ローム殻を少量含む。
- 4 黒褐色土 しまり強。粘性強。ローム殻・ブロックを少量・炭化物を若干含む。

(1) 土墳

第5号土墳 (第27図)

DJ21グリッドで検出された。長径3.15m、短径1.05m、深さ0.27mの隅丸長方形をしていた。第16号溝と切りあっていた。

第6号土墳 (第27図)

DJ21グリッドで検出された。長径2.58m、短径0.9m、深さ0.14mの隅丸長方形をしていた。中・近世期。

第7号土墳 (第27図)

DJ21グリッドで検出された。長径1.17m、短径1.09m、深さ0.15mの円形をしていた。中・近世期。

第8号土墳 (第27図)

DJ21グリッドで検出された。長径1.07m、短径1.03m、深さ0.09mの円形をしていた。中・近世期。

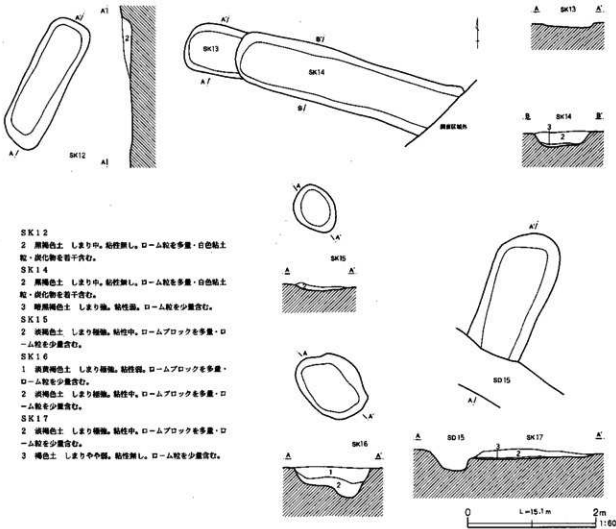
第9号土墳 (第27図)

DJ21グリッドで検出された。長径1.23m、短径1.20m、深さ0.06mの円形をしていた。中・近世期。

第10号土墳 (第27図)

DI21、DJ21グリッドで検出された。長径3.29m、短径0.78m、深さ0.20mの長方形をしていた。第11号土墳と切りあっていた。中・近世期。

第28図 土坑 (第12~17号)



- SK12
2 黄褐色土 しまり中、粘性無し、ローム殻を多量・白色粘土
殻・炭化物を若干含む。
- SK14
2 黄褐色土 しまり中、粘性無し、ローム殻を多量・白色粘土
殻・炭化物を若干含む。
3 暗黒褐色土 しまり強、粘性強、ローム殻を少量含む。
- SK15
2 黄褐色土 しまり強弱、粘性中、ロームブロックを多量・ロ
ーム殻を少量含む。
- SK16
1 黄褐色土 しまり強弱、粘性弱、ロームブロックを多量・
ローム殻を少量含む。
2 黄褐色土 しまり強弱、粘性中、ロームブロックを多量・ロ
ーム殻を少量含む。
3 褐色土 しまり中弱、粘性無し、ローム殻を少量含む。
- SK17
2 黄褐色土 しまり強弱、粘性中、ロームブロックを多量・ロ
ーム殻を少量含む。
3 褐色土 しまり中弱、粘性無し、ローム殻を少量含む。

第11号土坑 (第27図)

DE21グリッドで検出された。長径0.92m、短径(0.83)
m、深さ0.28mの円形をしていた。第10号土坑と切り
あっていた。中・近世期。

第12号土坑 (第28図)

DI21グリッドで検出された。長径-2.12m、短径-
0.68m、深さ0.14mの隅丸長方形をしていた。中・近世
期。

第13号土坑 (第28図)

DJ22グリッドで検出された。長径(0.78) m、短径-
0.77m、深さ0.07mの隅丸長方形をしていたと思われる。
第14号土坑と切りあっていた。中・近世期。

第14号土坑 (第28図)

DJ22グリッドで検出された。長径(3.32) m、短径-
0.87m、深さ0.22mの隅丸長方形をしていた。第13号土
坑と切りあっていた。中・近世期。

第15号土坑 (第28図)

DI21グリッドで検出された。長径-0.78m、短径-
0.62m、深さ0.07mの隅丸長方形をしていた。中・近世期。

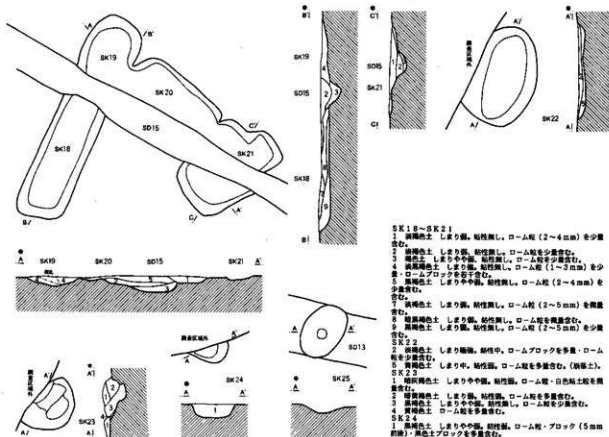
第16号土坑 (第28図)

DH22グリッドで検出された。長径-1.20m、短径-
0.89m、深さ0.46mの隅丸長方形をしていた。中・近世期。

第17号土坑 (第28図)

DI21グリッドで検出された。長径(2.00) m、短径-
0.95m、深さ0.13mの隅丸長方形をしていた。第15号溝
と切りあっていた。中・近世期。

第29図 土壌 (第18~25号)



第18号土壌 (第29図)

DE1, DE2グリッドで検出された。長径1.97m、短径0.74m、深さ0.18mの長方形をしていると思われる。第15号溝と切りあっていた。中・近世期。

第19号土壌 (第29図)

DI22グリッドで検出された。長径1.03m、短径0.79m、深さ0.15mの長方形をしていたと思われる。第20号土壌、第15号溝と切りあっていた。中・近世期。

第20号土壌 (第29図)

DI22グリッドで検出された。長径1.47m、短径0.62m、深さ0.09mの長方形をしていたと思われる。第19号土壌、第21号土壌、第15号溝と切りあっていた。中・近世期。

第21号土壌 (第29図)

DI22グリッドで検出された。長径1.61m、短径0.54m、深さ0.06mの長方形をしていたと思われる。

第20号土壌、第15号溝と切りあっていた。中・近世期。

第22号土壌 (第29図)

DH21グリッドで検出された。長径1.54m、短径0.92m、深さ0.14mの楕円形をしていた。中・近世期。

第23号土壌 (第29図)

DG21グリッドで検出された。長径0.91m、短径0.61m、深さ0.23mの円形をしていたと思われる。中・近世期。

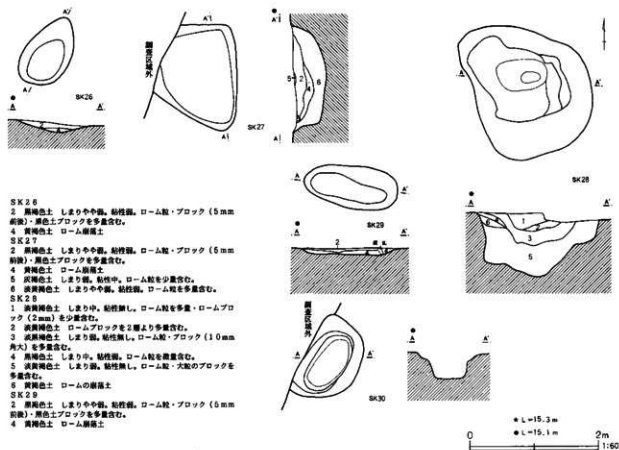
第24号土壌 (第29図)

DF22グリッドで検出された。長径0.34m、短径0.28m、深さ0.21mの楕円形をしていたと思われる。中・近世期。

第25号土壌 (第29図)

DG22グリッドで検出された。長径0.88m、短径0.60m、深さ0.13mの楕円形をしていた。第13号溝と切りあっていた。中・近世期。

第30図 土壌 (第26~30号)



第26号土壌 (第30図)

DF22グリッドで検出された。長径-1.14m、短径-0.71m、深さ-0.13mの楕円形をしていた。中・近世期。

第27号土壌 (第30図)

DF22グリッドで検出された。長径-1.63m、短径-(1.18)m、深さ-0.53mの不整形形をしていた。中・近世期。

第28号土壌 (第30図)

DG22グリッドで検出された。長径-2.33m、短径-1.94m、深さ-0.92mの不整形形をしていた。中・近世期。

第29号土壌 (第30図)

DF22, DF23グリッドで検出された。長径-1.45m、短径-0.65m、深さ-0.11mの楕円形をしていた。中・近世期。

第30号土壌 (第30図)

DF22グリッドで検出された。長径-1.36m、短径-

(0.85)m、深さ-0.40mの楕円形をしていた。中・近世期。

第31号土壌 (第31図)

DF22グリッドで検出された。長径-1.31m、短径-(0.19)m、深さ-0.24mの長方形をしていたと思われる。第32号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第32号土壌 (第31図)

DF22グリッドで検出された。長径-2.04m、短径-1.12m、深さ-0.25mの長方形をしていた。第31号土壌と切りあっていた。中・近世期。

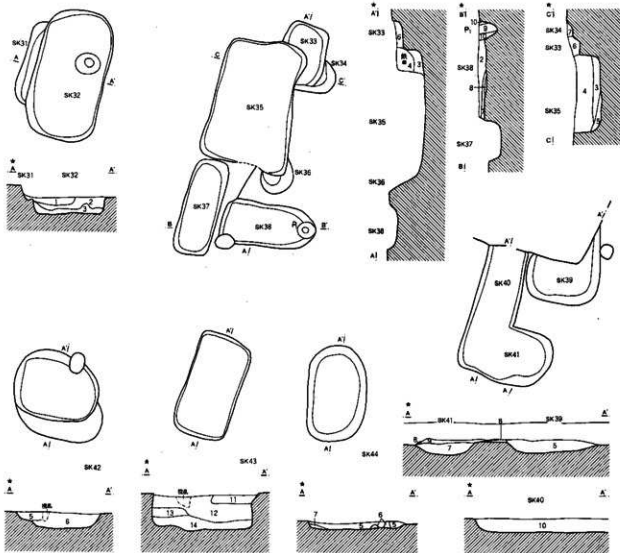
第33号土壌 (第31図)

DE23グリッドで検出された。長径-(0.92)m、短径-0.69m、深さ-0.19mの長方形をしていた。第34号土壌、第35号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第34号土壌 (第31図)

DE23グリッドで検出された。長径-0.52m、短径-(0.24)m、深さ-0.08mの長方形をしていたと思われる。

第31図 土壌 (第31~44号)



SK31・SK32

1 褐色土 しまりや中層。粘性弱。ローム粒・ブロック (2~3mm) を多量含む。

2 淡褐色土 しまり弱。粘性無し。ローム粒・ブロック (2~5mm)・黒色土ブロックを多量含む。

3 黄褐色土 しまり中。粘性中。ローム粒・ブロック (2~3mm) を多量含む。

SK33~SK38

4 淡褐色土 しまり弱。粘性弱。ローム粒・ブロック (3~10mm) を多量・黒色土ブロックを少量含む。

5 淡褐色土 しまり弱。粘性弱。ローム粒・ブロック (3~10mm)・黒色土ブロックを多量含む。

6 淡褐色土 しまり弱。粘性弱。ローム粒・ブロック (2~5mm)・黒色土ブロックを少量含む。

7 淡褐色土 しまり中弱。粘性弱。ローム粒・ブロック (2~4mm)・黒色土ブロックを少量含む。

8 淡褐色土 しまり中弱。粘性無し。ローム粒・ブロック (2~10mm)・黒色土ブロックを多量含む。

9 淡褐色土 しまり弱。粘性無し。ローム粒・ブロック (2~3mm)・黒色土ブロックを少量含む。

10 淡褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒・ブロックを多量含む。

SK39~SK41

5 淡褐色土 しまり弱。粘性無し。ローム粒・ブロック (2mm) を少量含む。

7 暗褐色土 ローム粒・ブロック (3~10mm) を多量含む。中軟散。中軟散。

8 暗褐色土 一層地山・ハーフロームを多量含む。しまり良好。色調は酸化の為かやや暗いものになっている。

9 暗褐色土 耕作土のものが入混入。ローム粒・ブロック (3~10mm) を含む。散。散。

10 黄褐色土 しまりあり。ロームブロック (10mm前後) を多量に含む。

SK42

5 淡褐色土 しまり弱。粘性無し。ローム粒・ブロック (2mm) を少量含む。

8 淡褐色土 しまり中弱。粘性無し。ローム粒・ブロック (2~5mm)・黒色土ブロックを多量含む。

SK43

11 淡褐色土 ローム粒・ブロック (3~5mm)・黒色土ブロックを多量含む。しまり中。粘性弱。

12 淡褐色土 ローム粒・ブロック (3~10mm)・黒色土ブロックを多量含む。しまり中。粘性弱。

13 淡褐色土 ローム粒・ブロック (2~3mm)・黒色土ブロックを多量含む。(11層と比べるとブロックの大きさが小粒になる)

14 黄褐色土 ローム粒・ブロック (5~10mm) を多量含む。しまり弱。粘性弱。

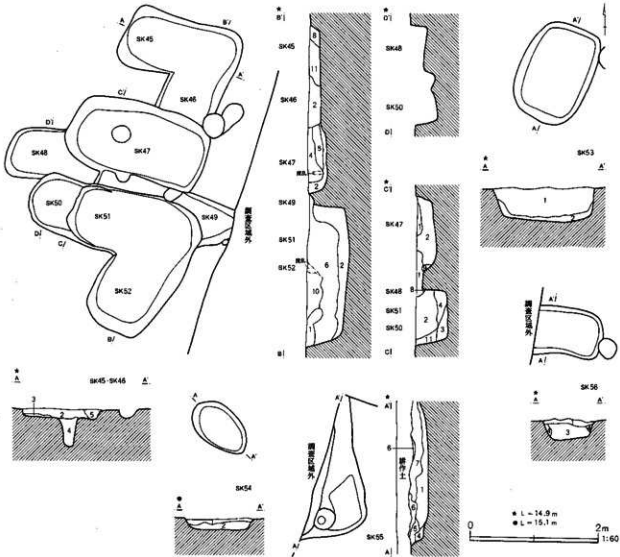
SK44

5 淡褐色土 しまり弱。粘性無し。ローム粒・ブロック (2mm) を少量含む。

8 淡褐色土 しまり中弱。粘性無し。ローム粒・ブロック (2~5mm)・黒色土ブロックを多量含む。

7 暗褐色土 ローム粒・ブロック (3~10mm) を多量含む。中軟散。

第32図 土壌 (第45~56号)



SK45~SK47・SK49~SK52

- 1 褐色土 しまり中や強。粘性無し。ローム殻・ブロック (2~3mm) を多量含む。
- 2 洗擦褐色土 しまり強。粘性無し。ローム殻・ブロック (2~5mm)・褐色土ブロックを多量含む。
- 3 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム殻・ブロック (2~3mm) を多量含む。
- 4 暗褐色土 しまり強。粘性中。ローム殻・ブロックを微量含む。
- 5 黄褐色土 しまり強。粘性無し。ローム殻・ブロック (2mm) を微量含む。
- 6 明褐色土 しまり中や強。粘性無し。ローム殻・ブロック (2~5mm)・褐色土ブロックを多量含む。
- 8 明褐色土 一部堆山・ハードロームを多量含む。しまり良好。色調は酸化の浅くやや暗いものになっている。
- 9 暗褐色土 中や軟質。ローム殻子を微量含む。
- 10 明褐色土 ハードロームブロック (10mm前後) を多量含む。
- 11 洗擦褐色土 軟質。ローム殻子・ロームブロックなどの混入は少ない。

SK48

- 1 明褐色土 しまりあり。ロームブロック (10mm前後) を多量含む。
- 2 暗褐色土 中や軟質。ロームブロック (10mm前後) を多量含む。

SK53

- 1 明褐色土 しまりあり。ロームブロック (10mm前後) を多量含む。
 - 2 明褐色土 中や軟質。ロームブロック (10mm前後) を多量含む。
- SK54

- 1 暗褐色土 しまり中や強。ロームブロックを少量含む。
 - 2 明褐色土 しまり中や強。ローム殻を少量含む。
- SK55

- 1 明褐色土 しまりあり。ロームブロック (10mm前後) を多量含む。
 - 2 明褐色土 ローム殻を含む。
 - 3 明褐色土 ロームブロック (5mm前後)・灰色シルトブロックを多量含む。
 - 4 暗褐色土 しまり中や強。ローム殻を少量含む。
 - 5 明褐色土 灰色シルト (耕作土中の混入) ブロックを多量含む。
 - 7 明褐色土 しまりあり。ローム殻を少量含む。
- SK56

- 1 明褐色土 しまりあり。ロームブロック (10mm前後) を多量含む。
- 2 ソフトローム・ハードロームを含む。
- 3 明褐色土
- 4 明褐色土 ローム殻を含む。

第33号土壌、第35号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第35号土壌 (第31図)

DE23、DF23グリッドで検出された。長径-1.90m、短径-1.17m、深さ-0.55mの長方形をしていた。第33号土壌、第34号土壌、第36号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第36号土壌 (第31図)

DF23グリッドで検出された。長径0.48m、短径(0.28)m、深さ-0.31mの円形をしていたと思われる。第35号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第37号土壌 (第31図)

DF22、DF23グリッドで検出された。長径-1.53m、短径-0.57m、深さ-0.23mの隅丸長方形をしていた。中・近世期。

第38号土壌 (第31図)

DF23グリッドで検出された。長径-1.46m、短径-0.35m、深さ-0.15mの長方形をしていた。中・近世期。

第39号土壌 (第31図)

DD23グリッドで検出された。長径-1.12m、短径(0.66)m、深さ-0.15mの隅丸長方形をしていたと思われる。中・近世期。

第40号土壌 (第31図)

DD23グリッドで検出された。長径(2.03)m、短径-0.67m、深さ-0.22mの長方形をしていたと思われる。第41号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第41号土壌 (第31図)

DD23グリッドで検出された。長径0.89m、短径(0.77)m、深さ-0.17mの長方形をしていたと思われる。第40号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第42号土壌 (第31図)

DE23グリッドで検出された。長径-1.33m、短径-1.06m、深さ-0.26mの隅丸長方形をしていた。中・近世期。

第43号土壌 (第31図)

DE22、DE23グリッドで検出された。長径-1.64m、短径-0.83m、深さ-0.57mの長方形をしていた。中・近

世期。

第44号土壌 (第31図)

DD23グリッドで検出された。長径-1.5m、短径-0.91m、深さ-0.13mの楕円形をしていた。中・近世期。

第45号土壌 (第32図)

DE23グリッドで検出された。長径-1.82m、短径-0.88m、深さ-0.17mの隅丸長方形をしていた。第46号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第46号土壌 (第32図)

DE23グリッドで検出された。長径0.91m、短径(0.63)m、深さ-0.19mの長方形をしていたと思われる。第45号土壌、第47号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第47号土壌 (第32図)

DE23グリッドで検出された。長径-2.17m、短径-1.12m、深さ-0.32mの長方形をしていた。第46号土壌、第48号土壌、第49号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第48号土壌 (第32図)

DE23グリッドで検出された。長径(1.03)m、短径-0.80m、深さ-0.26mの長方形をしていたと思われる。第47号土壌、第49号土壌、第50号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第49号土壌 (第32図)

DE23グリッドで検出された。長径(2.20)m、短径-0.72m、深さ-0.11mの長方形をしていた。第47号土壌、第48号土壌、第51号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第50号土壌 (第32図)

DE23グリッドで検出された。長径0.88m、短径(0.69)m、深さ-0.51mの長方形をしていたと思われる。第48号土壌、第51号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第51号土壌 (第32図)

DE23グリッドで検出された。長径2.05m、短径(1.03)m、深さ-0.65mの長方形をしていた。第49号土壌、第50号土壌、第52号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第52号土壌 (第32図)

DE23グリッドで検出された。長径(1.17)m、短径

1.09m、深さ0.64mの長方形をしていた。第51号土壇と切りあっていた。中・近世期。

第53号土壇 (第32図)

DE23グリッドで検出された。長径-1.55m、短径-1.12m、深さ0.51mの隅丸長方形をしていた。中・近世期。

第54号土壇 (第32図)

DD23グリッドで検出された。長径-1.01m、短径-0.60m、深さ0.18mの楕円形をしていた。中・近世期。

第55号土壇 (第32図)

DD23グリッドで検出された。長径(1.49) m、短径(0.73) m、深さ0.27mの長方形をしていたと思われる。中・近世期。

第56号土壇 (第32図)

DE23グリッドで検出された。長径(1.03) m、短径0.72m、深さ0.29mの長方形をしていたと思われる。中・近世期。

第57号土壇 (第33図)

DF20グリッドで検出された。長径-2.52m、短径-1.70m、深さ0.34mの不整形形をしていた。中・近世期。

第58号土壇 (第33図)

DD16グリッドで検出された。長径-0.84m、短径-0.52m、深さ0.69mの不整形形をしていた。第26号溝と切りあっていた。中・近世期。

第59号土壇 (第33図)

DB12グリッドで検出された。長径-0.99m、短径-0.64m、深さ0.17mの長方形をしていた。中・近世期。

第60号土壇

DB12グリッドで検出された。長径-1.05m、短径-0.73m、深さ0.19mの長方形をしていた。中・近世期。

第61号土壇 (第33図)

DE19グリッドで検出された。長径-2.84m、短径-0.90m、深さ0.21mの隅丸長方形をしていた。中・近世期。

第62号土壇 (第33図)

DG10グリッドで検出された。長径-1.29m、短径-0.72m、深さ0.28mの楕円形をしていた。中・近世期。

第63号土壇 (第33図)

DG10グリッドで検出された。長径-1.53m、短径-0.62m、深さ0.16mの楕円形をしていた。中・近世期。

第64号土壇 (第34図)

DI11グリッドで検出された。長径-3.02m、短径-0.79m、深さ0.24mの長方形をしていた。中・近世期。

第65号土壇 (第34図)

DJ13グリッドで検出された。長径-0.62m、短径-0.61m、深さ0.17mの不整形形をしていた。中・近世期。

第66号土壇 (第34図)

DI12、DJ11、DJ12グリッドで検出された。長径(9.05)m、短径0.93m、深さ0.27mの長方形をしていた。第39号溝、第40号溝と切りあっていた。中・近世期。

第67号土壇 (第34図)

DJ12グリッドで検出された。長径-1.66m、短径-0.70m、深さ0.13mの長方形をしていた。中・近世期。

第68号土壇 (第34図)

DK14グリッドで検出された。長径-2.56m、短径-0.59m、深さ0.17mの長方形をしていた。中・近世期。

第69号土壇 (第35図)

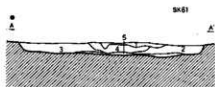
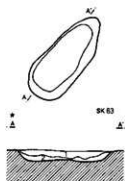
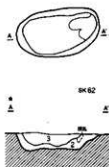
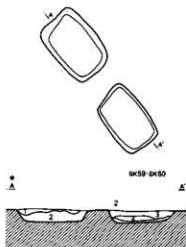
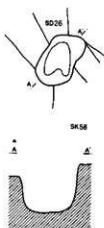
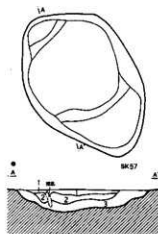
DL15グリッドで検出された。長径-3.39m、短径-0.73m、深さ0.31mの長方形をしていた。中・近世期。

第70号土壇 (第35図)

DM19グリッドで検出された。長径-2.03m、短径-0.86m、深さ0.23mの長方形をしていた。中・近世期。

第71号土壇・第72号土壇 (第35図)

DN19グリッドで検出された。長径2.46m、短径(0.64) m、深さ0.41mの長方形をしていたと思われる。第71号土壇、第72号土壇の切りあいは、はっきりしなかった。中・近世期。



SK 67

- 1 淡褐色土 しまり中・弱。粘性無し。ローム粒を微量・粘土粒(2mmより多い)を若干含む。
- 2 淡褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒・ブロック(2mm)を微量・粘土粒を若干含む。
- 3 淡黄褐色土 しまり強。粘性弱。ローム粒・ブロック(微細土)を多量含む。

SK 69・SK 60

- 1 明褐色土 しまり強。ロームブロック・黄褐色ブロックを含む。
- 2 黄褐色土 しまりあり。ローム粒・ロームブロックを多量含む。
- 3 黄褐色土 しまりあり。ロームブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 しまり強。ローム粒を少量含む。

SK 61

- 1 淡灰褐色土 弱作土
- 2 淡褐色土 しまり中・弱。粘性無し。ローム粒・ブロック・黒色土ブロックを多量含む。
- 3 淡褐色土 しまり強。粘性無し。ローム粒・ブロック(2~5mm)を多量・黒色土ブロックを微量含む。
- 4 暗褐色土 しまり中・弱。粘性無し。ローム粒・ブロック(2mm)を微量・粘土粒・腐植物を若干含む。
- 5 暗黄褐色土 しまり強。粘性弱。ローム粒を微量含む。

SK 62・SK 63

- 1 淡褐色土 しまり強。粘性無し。ローム粒を微量含む。
- 2 黄褐色土 しまり強。粘性無し。ローム粒を多量含む。
- 3 暗褐色土 しまり強。粘性無し。ローム粒・暗褐色ブロックを少量含む。

第73号土壤 (第35図)

DM15グリッドで検出された。長径2.25m、短径(0.64) m、深さ0.32mの隅丸長方形をしていた。第49号溝と切りあっていた。中・近世期。

第74号土壤 (第35図)

DM19グリッドで検出された。長径(2.55) m、短径0.69m、深さ0.09mの楕円形をしていた。中・近世期。

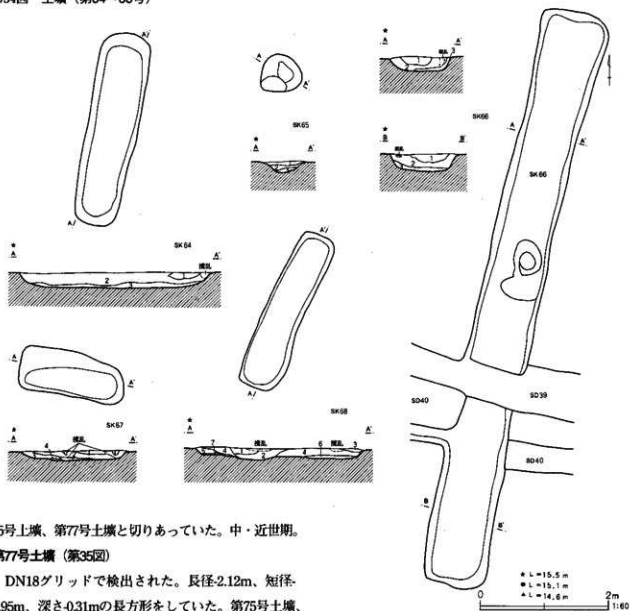
第75号土壤 (第35図)

DN18グリッドで検出された。長径(1.13) m、短径(0.30) m、深さ0.40mの長方形をしていたと思われる。第76号土壤、第77号土壤と切りあっていた。中・近世期。

第76号土壤 (第35図)

DN18グリッドで検出された。長径(2.82) m、短径1.19m、深さ0.38mの長方形をしていたと思われる。第

第34図 土壌 (第64~68号)



75号土壌、第77号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第77号土壌 (第35図)

DN18グリッドで検出された。長径2.12m、短径0.95m、深さ0.31mの長方形をしていた。第75号土壌、第76号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第78号土壌 (第36図)

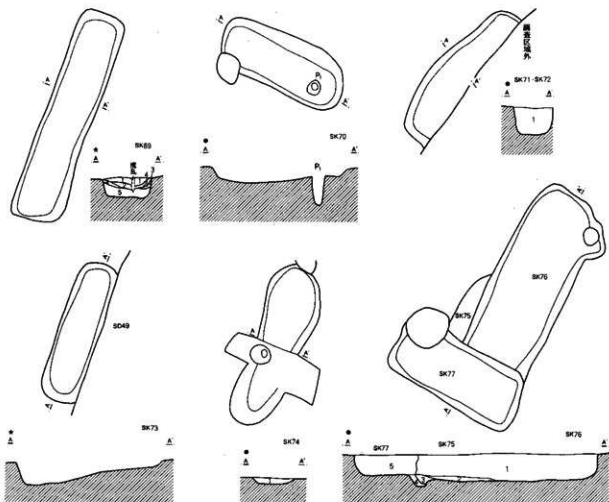
DN18グリッドで検出された。長径(1.13) m、短径0.80m、深さ0.64mの長方形をしていたと思われる。第79号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第79号土壌 (第36図)

DN18グリッドで検出された。長径(1.07) m、短径1.02m、深さ0.06mの長方形をしていたと思われる。第78号土壌、第80号土壌と切りあっていた。中・近世期。

- SK64
- 1 褐色土 しまり強。粘性弱し。ローム殻・ブロック(2~3mm)を散見含む。
 - 2 黒褐色土 しまり中強。粘性弱し。ローム殻・ブロック(2~10mm)を多量含む。
 - 3 黒褐色土 しまり中強。粘性弱し。ローム殻・ブロック(2~4mm)を散見含む。
- SK65
- 1 褐色土 しまり中強。粘性弱し。ローム殻を散見含む。
 - 2 黒褐色土 しまり中強。粘性弱し。ローム殻を少量含む。
 - 3 黒褐色土 しまり中。粘性強。ローム主体の層(焼酎土)。
- SK66
- 1 褐色土 しまり弱。粘性弱。ロームブロック(2~5mm)を少量・ローム殻を散見含む。
 - 2 褐色土 しまり弱。粘性弱。ロームブロック(2~10mm)を少量・ローム殻を散見含む。
 - 3 黒褐色土 しまり中。粘性強。ローム殻を散見含む。
- SK67
- 1 褐色土 しまり中強。粘性弱し。ローム殻を散見含む。
 - 2 黒褐色土 しまり中強。粘性弱し。ローム殻・ブロック(2~3mm)を少量含む。
 - 3 褐色土 しまり中強。粘性弱し。ローム殻・ブロック(2mm)を散見含む。
 - 4 ソフトローム。
- SK68
- 1 黒褐色土 しまり中。粘性強。ローム殻主体の層。
 - 2 黒褐色土 しまり中強。粘性強。ローム殻・ブロック(2~5mm)を多量含む。
 - 3 黒褐色土 しまり弱。粘性弱し。ローム殻を散見含む。
 - 4 黒褐色土 しまり中。粘性強。ローム殻・ブロック(2~7mm)を少量・褐色土ブロックを散見含む。
 - 5 褐色土 しまり中。粘性弱し。ローム殻・ブロック(2~4mm)を散見含む。
 - 6 黒褐色土 しまり中。粘性強。ローム殻・ブロックを主体とする層。
 - 7 ソフトローム。

第35図 土壇 (第69~77号)



SK69

- 1 暗オリーブ褐色土 粘性無し。黒色粒 (約5mm) を含む。
- 2 オリーブ褐色土 粘性無し。
- 3 におい黄褐色土 粘性無し。
- 4 黄褐色土 粘性無し。
- 5 黄褐色土 粘性無し。

SK71・SK72

- 1 黄褐色シルト ロームブロック (3cm以下) を含む。

SK74

- 1 黄褐色シルト 褐色ロームがブロック状に張り合う層。

SK75・SK76・SK77

- 1 黄褐色土 黄褐色ロームブロック (20mm以下) を含む。
- 2 褐色シルト
- 3 黄褐色シルト
- 4 黄褐色シルト
- 5 黄褐色土 明黄褐色ロームブロック (20mm以下) を多量含む。

第80号土壇 (第36図)

DN18グリッドで検出された。長径(0.61) m、短径(0.35) m、深さ0.07mの長方形をしていたと思われる。第79号土壇と切りあっていた。中・近世期。

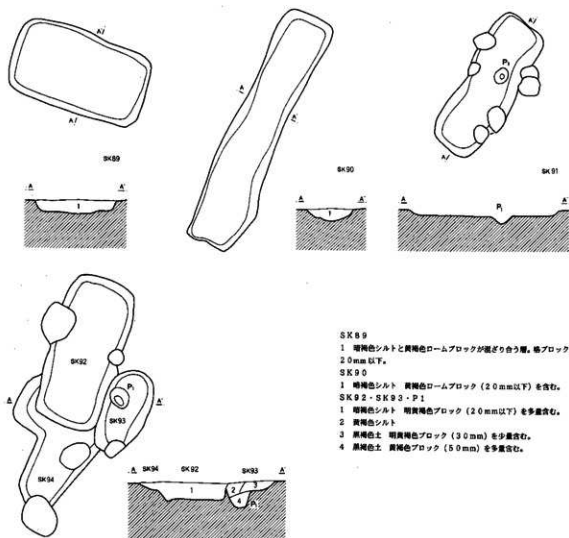
第81号土壇 (第36図)

DN18、DO18グリッドで検出された。長径(1.58) m、短径0.95m、深さ0.32mの長方形をしていた。第82号土壇、第83号土壇と切りあっていた。中・近世期。

第82号土壇 (第36図)

DO18グリッドで検出された。長径(0.71) m、短径(0.53) m、深さ0.28mの長方形をしていたと思われる。第81号土壇、第83号土壇と切りあっていた。中・近世期。

第37図 土壌 (第89~94号)



第92号土壌 (第37図)

DN18グリッドで検出された。長径-2.38m、短径-1.10m、深さ-0.26mの長方形をしていた。第93号土壌、第94号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第93号土壌 (第37図)

DN18グリッドで検出された。長径-1.41m、短径-0.70m、深さ-0.14mの楕円形をしていた。第92号土壌、第94号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第94号土壌 (第37図)

DN18グリッドで検出された。長径(1.32) m、短径-0.78m、深さ-0.11mの長方形をしていたと思われる。第92号土壌、第93号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第95号土壌 (第38図)

DN18グリッドで検出された。長径-1.30m、短径-0.82m、深さ-0.29mの長方形をしていた。中・近世期。

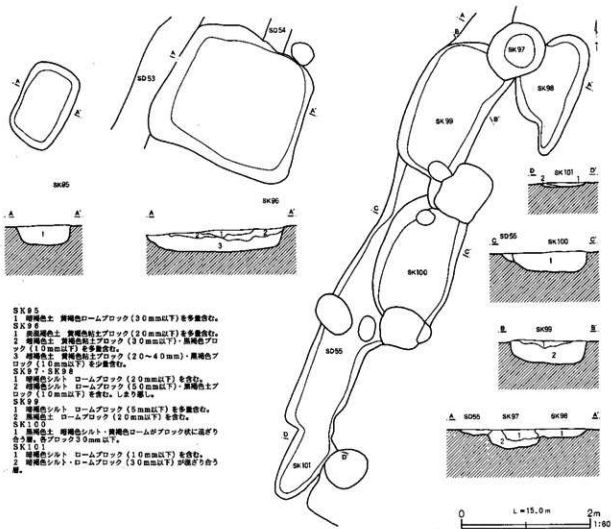
第96号土壌 (第38図)

DN17、DN18グリッドで検出された。長径-2.18m、短径-2.04m、深さ-0.34mの長方形をしていた。第53号溝、第54号溝と切りあっていた。中・近世期。

第97号土壌 (第38図)

DM18、DM19グリッドで検出された。長径-0.95m、短径-0.84m、深さ-0.30mの円形をしていた。第98号土壌、第99号土壌、第55号溝と切りあっていた。中・近世期。

第38図 土壌 (第95~101号)



第98号土壌 (第38図)

DM18, DM19, DN18, DN19グリッドで検出された。長径-1.49m、短径-0.82m、深さ-0.13mの不整形円形をしていた。第97号土壌と切りあっていた。中・近世期。

第99号土壌 (第38図)

DM18, DN18グリッドで検出された。長径-2.22m、短径-1.17m、深さ-0.35mの長方形をしていた。第97号土壌、第55号溝と切りあっていた。中・近世期。

第100号土壌 (第38図)

DN18グリッドで検出された。長径-(1.63)m、短径-1.20m、深さ-0.32mの楕円形をしていた。第55号溝と切りあっていた。中・近世期。

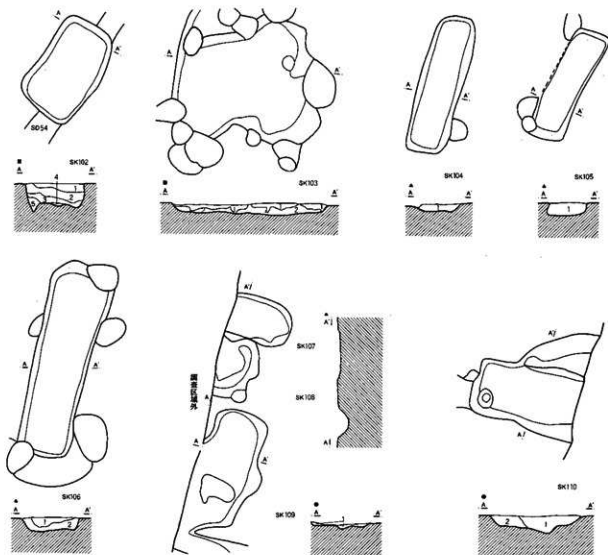
第101号土壌 (第38図)

DN18グリッドで検出された。長径-(1.13)m、短径-0.60m、深さ-0.06mの楕円形をしていたと思われる。第55号溝と切りあっていた。中・近世期。

第102号土壌 (第38図)

DN17, DO17グリッドで検出された。長径-1.58m、短径-0.98m、深さ-0.45mの長方形をしていた。第54号溝と切りあっていた。中・近世期。

第39図 土壌 (第102~110号)



SK102

- 1 黄褐色土 黒褐色ブロック (5mm以下) を少量含む。
- 2 黒褐色シルト 明黄褐色粘土ブロック (10~30mm) をまばらに含む。
- 3 黒褐色シルト 明黄褐色粘土ブロック (20~30mm) をまばらに含む。
- 4 黄褐色粘質土
- 5 暗褐色土

SK103

- 1 黒褐色土 明黄褐色土 (10mm以下) を多量含む。
- 2 黄褐色粘質土 黒褐色ブロック (50mm) を含む。

SK104

- 1 黒褐色土 黄褐色ブロック (30mm以下) を少量含む。

SK105

- 1 黒褐色土 黄褐色ブロック (15mm以下) を多量含む。

SK106

- 1 黒色土 黄褐色ブロック (3mm以下) を少量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色ブロック (10mm以下) を多量含む。

SK109

- 1 黒褐色土 黄褐色ブロック (20mm以下) を少量含む。

SK110

- 1 黒褐色土 黄褐色土 (15mm以下) ・カーボンを含量含む。
- 2 暗褐色土 黒褐色ブロック (50mm以下) を多量含む。

第103号土壌 (第39図)

DOI7グリッドで検出された。長径(2.49) m、短径(1.72) m、深さ0.18mの長方形をしていた。中・近世期。

第104号土壌 (第39図)

DL10グリッドで検出された。長径2.18m、短径0.66m、深さ0.13mの長方形をしていた。中・近世期。

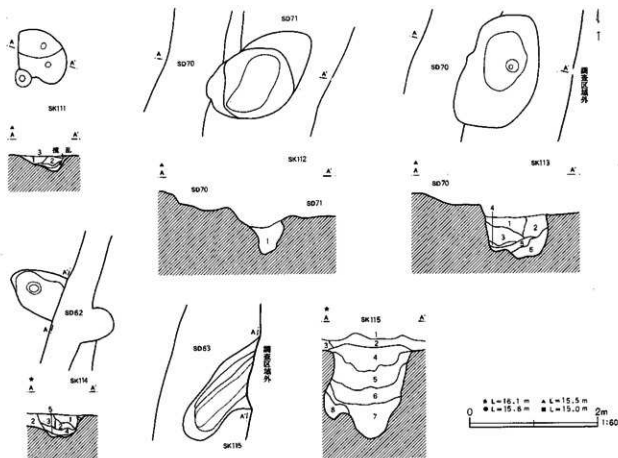
第105号土壌 (第39図)

DL10グリッドで検出された。長径1.85m、短径0.54m、深さ0.19mの長方形をしていた。中・近世期。

第106号土壌 (第39図)

DL10グリッドで検出された。長径3.05m、短径-

第40図 土壌 (第111~115号)



0.85m、深さ0.21mの長方形をしていた。中・近世期。

第107号土壌 (第39図)

DM9グリッドで検出された。長径(0.95)m、短径0.78m、深さ-0.03mの長方形をしていたと思われる。中・近世期。

第108号土壌 (第39図)

DM9グリッドで検出された。長径0.91m、短径(0.67)m、深さ-0.17mの長方形をしていたと思われる。中・近世期。

第109号土壌 (第39図)

DM9グリッドで検出された。長径1.86m、短径(0.88)m、深さ-0.08mの長方形をしていた。中・近世期。

第110号土壌 (第39図)

DM10グリッドで検出された。長径(1.63)m、短径1.38m、深さ-0.27mの長方形をしていたと思われる。中・近世期。

SK111

- 1 暗褐色シルト 褐色シルトが層ざりあり層。
- 2 褐色シルト 暗褐色シルトブロックを少量含む。
- 3 暗褐色シルト 褐色シルトブロックを少量含む。
- 4 暗褐色シルト 暗褐色シルトブロックを少量含む。

SK112

- 1 暗褐色土 暗褐色粘質ブロック(30mm以下)を少量含む。
- 2 暗褐色土 褐色土(20mm以下)を少量含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色粘質土(10mm以下)を少量含む。
- 4 暗褐色粘質土 褐色粘質土(60mm)を少量含む。
- 5 暗褐色粘質土 褐色粘質土(10~20mm)を少量含む。
- 6 暗褐色土 暗褐色粘質ブロック(60mm以下)を少量含む。

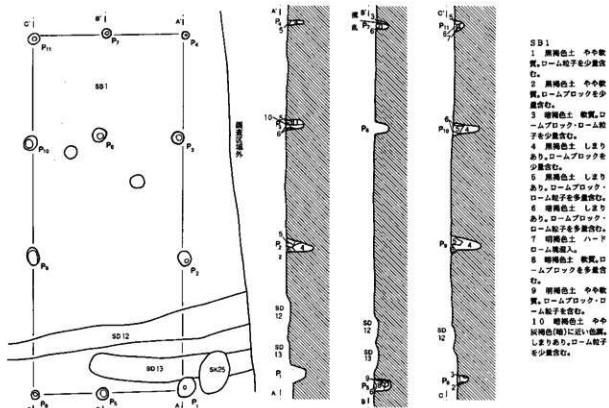
SK114

- 1 暗褐色粘質土 白色粘を少量含む。
- 2 暗褐色粘質土 褐色粘質ブロック(50mm)を含む。白色粘を少量含む。
- 3 暗褐色粘質土 白色粘質土を少量含む。
- 4 暗褐色粘質土 白色粘を少量含む。
- 5 褐色土 粘性無し。
- 6 暗褐色土

SK115

- 1 暗褐色土 褐色土(2mm以下)を少量含む。
- 2 暗褐色土 褐色ソフトローム(50mm以下)を極少量含む。
- 3 暗褐色土 暗褐色ソフトローム(5~10mm)を少量含む。
- 4 暗褐色土 暗褐色ハードローム(10mm以下)を少量含む。
- 5 暗褐色土 暗褐色ハードローム(30mm以下)を少量含む。
- 6 暗褐色土 暗褐色ハードローム(40mm以下)を少量含む。
- 7 暗褐色粘質土 褐色ハードローム(10mm以下)を少量含む。
- 8 暗褐色粘質土 褐色ハードローム(10mm)を少量含む。

第41図 第1号掘立柱建物跡



SB1

- 1 黒褐色土 中々軟質、ローム粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土 中々軟質、ロームブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 軟質、ロームブロック・ローム粒子を少量含む。
- 4 黒褐色土 しまりあり、ロームブロックを少量含む。
- 5 黒褐色土 しまりあり、ロームブロック・ローム粒子を多量含む。
- 6 暗褐色土 しまりあり、ロームブロック・ローム粒子を多量含む。
- 7 暗褐色土 ハードローム塊混入。
- 8 暗褐色土 軟質、ロームブロックを多量含む。
- 9 暗褐色土 中々軟質、ロームブロック・ローム粒子を含む。
- 10 暗褐色土 中々硬質(塊)に近い。しまりあり、ローム粒子を少量含む。

第111号土壌 (第40図)

DO9グリッドで検出された。長径-0.78m、短径-0.68m、深さ-0.26mの不整形円形をしていた。中・近世期。

第112号土壌 (第40図)

DO9グリッドで検出された。長径-1.07m、短径-1.06m、深さ-0.66mの楕円形をしていた。第70号溝、第71号溝と切りあっていた。中・近世期。

第113号土壌 (第40図)

DP9グリッドで検出された。長径-1.79m、短径-1.12m、深さ-0.75mの楕円形をしていた。第70号溝と切りあっていた。中・近世期。

第114号土壌 (第40図)

DU7、DU8グリッドで検出された。長径-(0.73)m、短径-0.64m、深さ-0.34mの楕円形をしていたと思われる。第62号溝と切りあっていた。中・近世期。

第115号土壌 (第40図)

DU8グリッドで検出された。長径-(1.35)m、短径-

0.59m、深さ-1.36mの楕円形をしていたと思われる。第63号溝と切りあっていた。中・近世期。

(2) 掘立柱建物跡

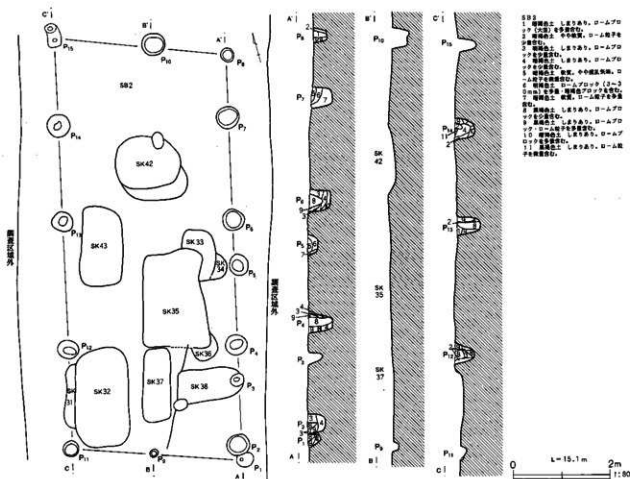
第1号掘立柱建物跡 (第41図)

DF22、DG22グリッドで検出された。主軸はN-13°Eであった。3間×2間の柱間を持つ。直径0.1mから0.2mの小さなピットで、深さは0.45m前後である。遺物は出土していない。中・近世の建物跡であったと思われる。

第2号掘立柱建物跡 (第42図)

DE22、DE23、DF22、DF23グリッドで検出された。4間×2間の柱間を持つ。第1号掘立柱建物跡と同一の向きで連続して検出された。ピットは0.3m前後と小さく、深さは0.35m前後である。遺物は出土していない。中・近世期の建物跡であったと思われる。

第42図 第2号掘立柱建物跡



第3号掘立柱建物跡 (第43図)

DO17、DQ17グリッドで検出された。2間×1間の柱間を持つ。他の掘立柱建物跡と長軸が直行する。ピットの直径は、0.3m前後で深さは0.3mから0.5mである。遺物は出土していない。中・近世期の建物跡であったと思われる。

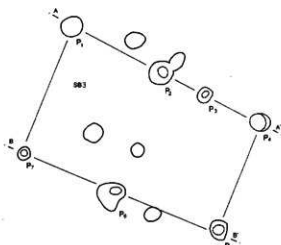
第4号掘立柱建物跡 (第44図)

DF22、DG22グリッドで検出された。主軸はN-13°-Eであった。3間の柱間片側だけが検出された。ピットの直径は0.3m前後で深さは0.4m内外である。遺物は発見されなかった。中・近世期の建物跡であったと思われる。

第5号掘立柱建物跡 (第44図)

DF22、DG22グリッドで検出された。主軸はN-13°-Eであった。現状で2間分の柱間が検出されている。ピットは直径0.3mから0.5mで、深さは0.4mから1.0mである。深いものは土層が水平に堆積して固められた様子が残存する。遺物は出土していない。中・近世期の建物跡であったと思われる。

第43図 第3号孤立柱建物跡



SB3-P2

- 1 黒褐色シルト 黄褐色ローム粒 (20mm以下) を多量含む。
- 2 シルトがブロック状に凝りあう層。ブロック (20mm以下) を含む。

SB3-P3

- 1 黒褐色シルト 黄褐色ローム粒 (10mm以下) を少量含む。
- 2 褐色ロームブロックとシルトが凝りあった層。ブロック (20mm以下) を含む。

SB3-P4

- 1 黒褐色シルトと褐色ロームブロックが凝りあった層。ブロック (70mm以下) を含む。しまり非常に悪い。
- 2 褐色ローム しまり悪い。

SB3-P5

- 1 黒褐色シルト 黄褐色ロームブロック (40mm程) を含む。
- 2 黒褐色シルト 褐色ロームがブロック (20mm以下) 状に凝りあった層。しまり悪い。



SB3-P6

- 1 黒褐色シルト 褐色ロームがブロック (20mm以下) 状に凝りあった層。

- 2 黒褐色シルト 褐色ロームがブロック (20mm以下) 状に凝りあった層。褐色ロームのブロックの割合が1にくらべて多い。
- 3 黒褐色シルト 褐色ロームがブロック (20mm以下) 状に凝りあった層。ブロック (5mm以下) を含む。

SB3-P7

- 1 黒褐色シルト 黄褐色ロームブロック (10mm以下) を含む。
- 2 黒褐色シルト 褐色ロームブロック (10mm以下) が凝りあった層。

- 3 黒褐色シルト 褐色ロームブロック (40mm以下) が凝りあった層。

(3) 溝

第9号溝 (第45図、第46図)

CX6、CV6グリッドからCX11、CY11グリッドにかけて東へ位置していた。長さ約50.3m、幅約0.2mから約2.9m、深さ-0.06mから-0.46mであった。ほぼN-83°-WからN-83°-Eに伸びていた。遺物は出土していない。中・近世期の溝と思われる。

第10号溝 (第45図、第46図)

DF21グリッドからDG21グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約63m、幅約0.5mから約0.7m、深さ-0.05mから-0.14mであった。ほぼN-15°-Eに伸びていた。第11号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第11号溝 (第45図、第46図)

DF21グリッドからDG21グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約7.7m、幅約1.3mから約1.9m、深さ-0.12mから-0.20mであった。ほぼN-15°-Eに伸びていた。第10号溝、第14号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第12号溝 (第45図、第46図)

DG22グリッドに位置していた。長さ約5.3m、幅約0.5mから約0.8m、深さ-0.07mから-0.09mであった。ほぼN-84°-Wに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

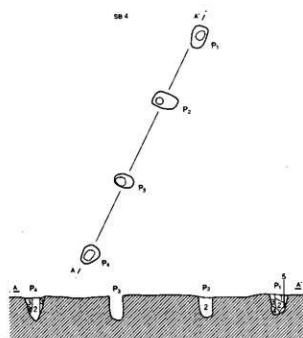
第13号溝 (第45図、第46図)

DG22グリッドに位置していた。長さ約3.4m、幅約0.4mから約0.7m、深さ-0.07mから-0.21mであった。ほぼN-70°-Wに伸びていた。断面は箱型をしていた。第25号土壌と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

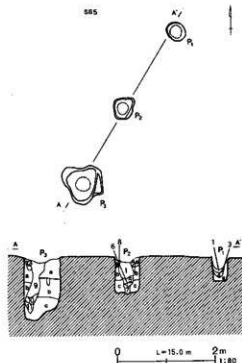
第14号溝 (第45図、第46図)

DG21グリッドからDG22グリッドにかけて東南へ位置していた。長さ約15.3m、幅約1.1mから約1.6m、深さ-0.01mから-0.18mであった。ほぼN-78°-Wに伸びていた。第11号溝、第25号土壌と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第44図 第4・5号掘立柱建物跡



- SB4
- 1 堆積土 しまり悪い、ローム粒子を少量含む。
 - 2 堆積土 ローム粒子を少量、灰化粒子を含む。
 - 3 堆積土 しまり悪い、ローム粒子・ロームブロック(2~5mm)を多量含む。
 - 4 堆積土 ロームブロックを少量含む。
 - 5 黄褐色土 黒褐色ブロックを少量含む、ソフトローム風。



- SB5-P1・P2・P3
- a 堆積土
 - b 堆積土
 - c 堆積土
 - 1 堆積土 堆積土(5mm以下)を少量含む。
 - 2 堆積土 堆積土(5mm以下)を少量含む。
 - 3 堆積土 堆積土(5mm以下)を少量含む。
 - 4 堆積土
 - 5 堆積土 堆積土(10mm以下)を少量含む。
 - 6 堆積土 堆積土(5mm以下)を少量含む。
 - 7 堆積土 堆積土(10mm以下)を少量含む。
 - 8 堆積土 堆積土(10mm以下)を少量含む。
 - 9 堆積土 堆積土(10mm以下)を少量含む。
 - 10 堆積土 堆積土(20mm以下)を少量含む。
 - 11 堆積土 堆積土(20mm)を少量含む。
 - 12 堆積土 堆積土(20mm以下)を少量含む。

第15号溝 (第45図、第46図)

DH21、DJ21グリッドからDJ22グリッドにかけて東南へ位置していた。長さ約18.0m、幅約0.4mから約0.7m、深さ0.18mから0.28mであった。ほぼN-60°-Wに伸びていた。第17号土塊、第18号土塊、第19号土塊、第20号土塊、第21号土塊と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第16号溝 (第45図、第46図)

DJ21グリッドからDJ22グリッドにかけて東南へ位置

していた。長さ(約15.6m)、幅約0.4mから約1.1m、深さ0.23mから0.25mであった。ほぼN-64°-Wに伸びていた。途中攪乱で切られていた。第5号土塊と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第17号溝・第18号溝 (第45図、第46図)

DJ20グリッドに位置していた。長さ(約10.8)m、幅約0.7mから約0.8m、深さ0.09mから0.22mであった。ほぼN-60°-Wに伸びていた。途中攪乱に切られていた。中・近世期の溝と思われる。

第19号溝 (第45図、第46図)

DJ20グリッドからDK21グリッドにかけて東南へ位置していた。長さ約(11.5)m、幅約0.8mから約1.2m、深さ0.09mから0.14mであった。ほぼN55°-Wに伸びていた。途中攪乱に切られていた。中・近世期の溝と思われる。

第20号溝・第21号溝 (第45図、第46図)

DJ20グリッドからDK21グリッドにかけて東南へ位置していた。長さ約14.1m、幅約0.8mから約2.3m、深さ0.08mから0.15mであった。ほぼN55°-Wに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第22号溝 (第47図、第48図)

DE18グリッドに位置していた。長さ約7.7m、幅約0.9mから約1.4m、深さ0.34mから0.38mであった。ほぼN22°-Eに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第23号溝 (第47図、第48図)

DE18グリッドに位置していた。長さ約7.7m、幅約0.5mから約0.8m、深さ0.36mから0.38mであった。ほぼN24°-Eに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第24号溝 (第47図、第48図)

DD18グリッドからDE18グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約7.6m、幅約0.6mから約0.8m、深さ0.42mから0.47mであった。ほぼN15°-Eに伸びていた。第25号溝と隣っていた。中・近世期の溝と思われる。

第25号溝 (第47図、第48図)

DD18グリッドからDE18グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約7.7m、幅約0.8mから約1.3m、深さ0.53mから0.55mであった。ほぼN19°-Eに伸びていた。第24号溝と隣っていた。中・近世期の溝と思われる。

第26号溝 (第47図、第48図)

DC16グリッドからDE17グリッドにかけてZ型に位置していた。長さ約19.4m、幅約1.7mから約10.5m、深さ0.37mから0.41mであった。ほぼN42°-Wに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第27号溝 (第47図、第48図)

DC14グリッドにて位置していた。長さ約(5.3)m、幅約0.5mから約0.7m、深さ0.19mであった。ほぼN10°-Eに伸びていた。途中第30号溝に切られていた。中・近世期の溝と思われる。

第28号溝・第29号溝 (第47図、第48図)

DC14グリッドに位置していた。長さ約(4.9)m、幅約1.3mから約1.5m、深さ0.14mから0.37mであった。ほぼN8°-Eに伸びていた。途中第30号溝に切られていた。中・近世期の溝と思われる。

第30号溝 (第47図、第48図)

DB13グリッドからDC14、DD15グリッドにかけて南東へ位置していた。長さ約18.9m、幅約1.0mから約2.4m、深さ0.94mであった。ほぼN41°-Wに伸びていた。第27号溝、第28号溝、第29号溝を切っていた。中・近世期の溝と思われる。

第31号溝 (第47図、第48図)

DB12グリッドからDC12、DD12グリッドにかけて南へ位置していた。長さ約18.6m、幅約0.4mから約1.4m、深さ0.13mから0.15mであった。ほぼN8°-Eに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第32号溝 (第47図、第48図)

DB12グリッドに位置していた。長さ約4.2m、幅約0.3mから約0.5m、深さ0.03mであった。ほぼN4°-Eに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第33号溝 (第47図、第48図)

DB12グリッドからDD12グリッドにかけて南へ位置していた。長さ約16.4m、幅約0.6mから約1.1m、深さ0.09mから0.12mであった。ほぼN3°-Eに伸びていた。第34号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第34号溝 (第47図、第48図)

DB11グリッドからDD12グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約20.6m、幅約0.2mから約0.6m、深さ0.13mから0.15mであった。ほぼN12°-Wに伸びていた。第33号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第35号溝 (第47図、第48図)

DE11グリッドからDE12グリッドにかけて東へ位置

していた。長さ約8.1m、幅約3.1mから約3.9m、深さ0.54mであった。ほぼN82°-Wに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第36号溝 (第49図、第50図)

DF9グリッドからDH9グリッドにかけて位置していた。長さ約26.7m、幅約1.0mから約3.3m、深さ1.02mから1.13mであった。ほぼN9°-Wに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第37号溝 (第49図、第50図)

DH11、DH12グリッドからDI11グリッドにかけて位置していた。長さ約13.6m、幅約1.1mから約2.3m、深さ0.12mから0.32mであった。ほぼN10°-Eに伸びていた。第38号溝と重複し、第39号溝が切っていた。中・近世期の溝と思われる。

第38号溝 (第49図、第50図)

DH12グリッドからDI11グリッドにかけて位置していた。長さ約12.8m、幅約0.3mから約1.0m、深さ0.26mであった。ほぼN9°-Eに伸びていた。第37号溝と重複し、第39号溝が切っていた。中・近世期の溝と思われる。

第39号溝 (第49図、第50図)

DI10グリッドからDJ12グリッドにかけて東南へ位置していた。長さ約31.0m、幅約0.6mから約1.3m、深さ0.28mであった。ほぼN78°-Wに伸びていた。第66号土壌と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第40号溝 (第49図、第50図)

DI10グリッドからDJ12グリッドにかけて東南へ位置していた。長さ約29.8m、幅約0.3mから約0.8m、深さ0.16mから0.19mであった。ほぼN81°-Wに伸びていた。第66号土壌と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第41号溝 (第49図、第50図、第51図)

DJ13グリッドからDK13グリッドにかけて南へ位置していた。長さ約12.1m、幅約0.7mから約1.1m、深さ0.18mであった。ほぼN4°-Eに伸びていた。第43号溝と重複していた。断面三角形の砥石が出土している。中・近世期の溝と思われる。

第42号溝 (第49図、第50図)

DJ14グリッドからDK14グリッドにかけて南へ位置していた。長さ約7.4m、幅約0.3mから約0.5m、深さ0.25mであった。ほぼN7°-Wに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第43号溝 (第49図、第50図)

DK13グリッドからDK14グリッドにかけて東へ位置していた。長さ約14.6m、幅約0.8mから約2.3m、深さ0.8mであった。ほぼN79°-Wに伸びていた。第44号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第44号溝 (第49図、第50図)

DK13グリッドからDK14グリッドにかけて東へ位置していた。長さ約12.5m、幅約1.0mから約2.8m、深さ0.34mであった。ほぼN82°-Wに伸びていた。第43号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第45号溝 (第49図、第50図)

DJ10グリッドからDK10グリッドにかけて東へ位置していた。長さ約4.6m、幅約0.6mから約1.0m、深さ0.17mであった。ほぼN80°-Wに伸びていた。第46号溝を切っていた。中・近世期の溝と思われる。

第46号溝 (第49図、第50図)

DJ11グリッドからDI9グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約28.0m、幅約0.4mから約1.1m、深さ0.09mから0.12mであった。ほぼN28°-Eに伸びていた。第45号溝に切られていた。中・近世期の溝と思われる。

第47号溝 (第51図、第52図)

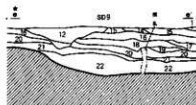
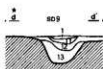
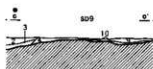
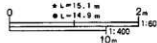
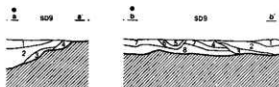
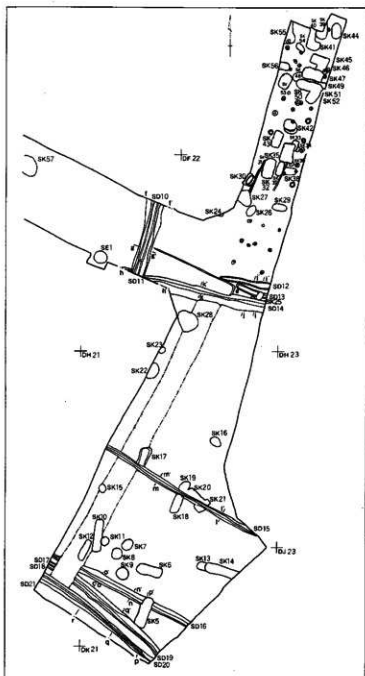
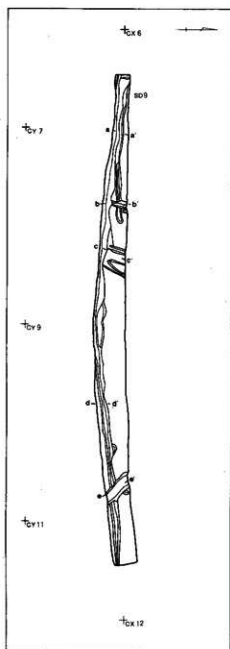
DK15グリッドからDM14グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約18.4m、幅約2.9mから約3.3m、深さ0.9mから1.09mであった。ほぼN19°-Eに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第48号溝 (第51図、第52図)

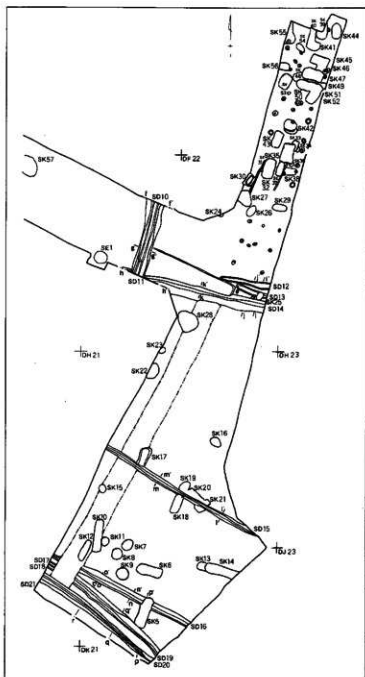
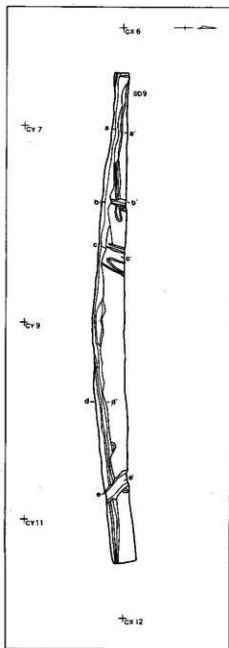
DL15、DL16グリッドからDN15グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約19.2m、幅約0.9mから約2.0m、深さ0.3mから0.57mであった。ほぼN18°-Eに伸びていた。第49号溝、第73号土壌と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第49号溝 (第51図、第52図、第58図10)

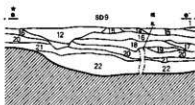
第45图 溝 (第9~21号) (1)



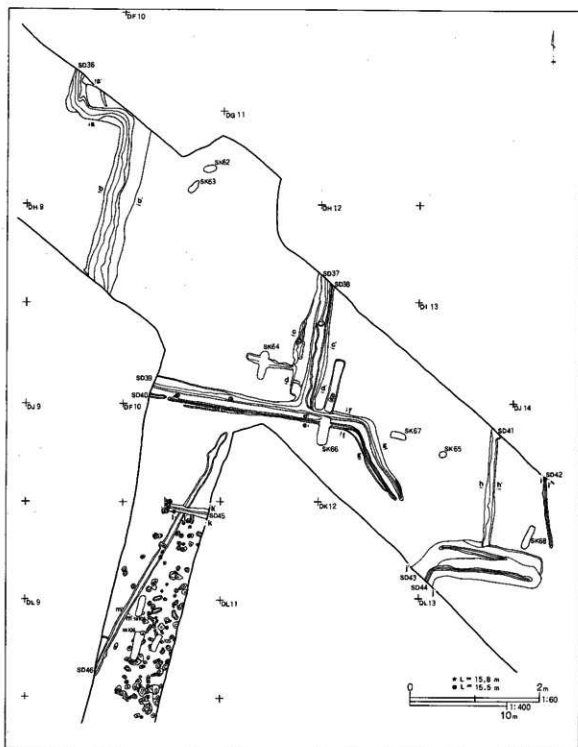
第45图 溝 (第9~21号) (1)



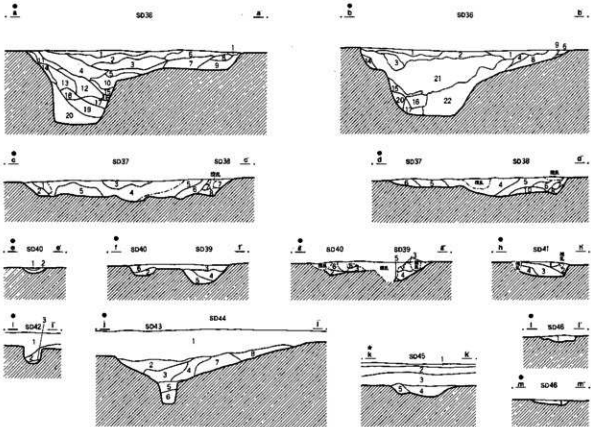
● SD9 ① ② ● SD9 ③ ④



第49図 溝 (第36~46号) (1)



第50図 溝 (第36~46号) (2)



SD36

- 1 褐色土 中軟質。ローム粒・ロームブロックを散見す。
- 2 褐色土 ローム粒・ロームブロック(3~5mm)を多数含む。1層40cm中位に。
- 3 褐色土 しまり中。2層より色黒い。
- 4 褐色土 黄褐色ブロック(30mm)を少量含む。中軟質。
- 5 褐色土 大型のロームブロック(10~30cm)を多数含む。
- 6 褐色土 ロームブロック(10mm)を少量含む。軟質。
- 7 褐色土 ロームブロック(10mm)を多数含む。
- 8 褐色土 ロームブロック(10mm)を少量含む。軟質。
- 9 褐色土 ローム粒を少量含む。部分的に砂粒もあらる。
- 10 褐色土 大型のロームブロック(30~50cm)を多数含む。
- 11 黄褐色土 しまり良好。黄褐色ブロック・ロームブロックを少量含む。

SD37

- 1 黄褐色土 粘性あり。ローム粒の混入。
- 2 黄褐色土 ロームブロック(10mm)を少量含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロック(ハート10~20mm)を多数含む。
- 4 黄褐色土 ローム粒を少量含む。軟質。
- 5 黄褐色土 ロームブロック・黄褐色ブロックを少量含む。
- 6 黄褐色土 ロームブロックを多数含む。軟質。砂粒を含む(多い)。
- 7 黄褐色土 ロームブロックを少量含む。
- 8 黄褐色土 下部に粘性あり。ロームブロックを多数含む。
- 9 黒褐色土 全体にブロック状(20~30mm)になっている。
- 10 黄褐色土 しまり中。ローム粒・ロームブロックを少量。他に炭化粒を少量。砂粒を含む。
- 11 黄褐色土 中軟質あり。ロームブロックを少量。砂粒を含む。

SD37

- 1 褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を散見す。
- 2 褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を散見す。
- 3 褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒・ロームブロック(2~3mm)を少量含む。
- 4 褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒・ロームブロック(2~5mm)を少量含む。
- 5 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒・ロームブロックを多数含む。
- 6 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒・ロームブロック(2~3mm)を少量含む。
- 7 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を散見す。
- 8 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を散見す。
- 9 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒・ロームブロックを少量含む。
- 10 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒・ロームブロックを少量含む。

SD38・SD40

- 1 褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を散見す。
- 2 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を散見す。
- 3 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を散見す。
- 4 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を少量。ロームブロック(2~10mm)を散見す。
- 5 褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒・ブロック(2~10mm)を散見す。
- 6 褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を散見(耕作土)含む。

SD41

- 1 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を散見す。
- 2 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ロームブロック(2~7mm)を少量。ローム粒を散見す。
- 3 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒・ブロック(3~10mm)を多数含む。
- 4 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒・ブロック(2~4mm)を少量含む。

SD42

- 1 耕作土
- 2 褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を少量含む。
- 3 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を少量含む(耕作土)。

SD43

- 1 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を少量。白色砂子・炭化物を散見。焼土粒を若干含む(耕作土)。
- 2 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を少量。炭化物を若干含む。
- 3 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒・ブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を少量含む。
- 5 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を少量含む。
- 6 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒・黄褐色ブロックを散見す。

SD44

- 1 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を少量。炭化物を若干含む。
- 2 黄褐色土 しまり中。粘性弱。ローム粒を少量。炭化物を若干含む。
- 3 黄褐色土 黄褐色ブロック(2mm以下)をかなり多く含む(シト質)。
- 4 黄褐色土 黄褐色土(2mm以下)。カーボンも散見す。
- 5 黄褐色土 黄褐色土(20mm以下)を少量含む。
- 6 黄褐色土 黄褐色ブロック(40mm以下)を多数含む。

SD45

- 1 黄褐色土 黄褐色ブロック(10mm以下)を散見す。

DL16グリッドからDN15グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約19.1m、幅約0.6mから約1.8m、深さ0.41mから0.47mであった。ほぼN-16°-Eに伸びていた。第48号溝と重複していた。灯明受け皿が出土している。中・近世期の溝と思われる。

第50号溝 (第51図、第52図)

DM17グリッドからDN16、DO16グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約18.3m、幅約4.6mから約5.1m、深さ0.61mであった。ほぼN-26°-Eに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第51号溝・第52号溝 (第51図、第52図)

DN17、DN18グリッドからDO17グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約18.8m、幅約0.7mから約1.8m、深さ0.09mから0.13mであった。ほぼN-26°-Eに伸びていた。重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第53号溝 (第51図、第52図)

DM18グリッドからDO17グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約20.6m、幅約0.5mから約0.9m、深さ0.11mであった。ほぼN-29°-Eに伸びていた。第96号土壌に切られていた。中・近世期の溝と思われる。

第54号溝 (第51図、第52図)

DM18グリッドからDO17グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約17.6m、幅約0.4mから約0.8m、深さ0.08mであった。ほぼN-28°-Eに伸びていた。第96号土壌、第102号土壌に切られていた。中・近世期の溝と思われる。

第55号溝 (第51図、第52図)

DM18グリッドからDN18グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約10.1m、幅約0.3mから約0.9m、深さ0.09mであった。ほぼN-23°-Eに伸びていた。第97号土壌、第99号土壌、第100号土壌、第101号土壌と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第56号溝 (第51図、第52図)

DO17グリッドに位置していた。長さ約(3.9)m、幅約0.3mから約0.6m、深さ0.19mであった。ほぼN-30°-Eに伸びていた。第58号溝と重複していた。中・近世期の

溝と思われる。

第57号溝 (第51図、第52図)

DO18グリッドからDO17グリッドにかけて位置していた。長さ約(3.7)m、幅約0.5mから約0.7m、深さ0.11mであった。ほぼN-28°-Eに伸びていた。第58号溝、第103号土壌と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第58号溝 (第51図、第52図)

DO17グリッドに位置していた。長さ約(3.1)m、幅約0.5mから約0.7m、深さ0.07mであった。ほぼN-61°-Wに伸びていた。第56溝、第57号溝、第103号土壌と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第59号溝 (第51図、第52図)

DP17グリッドからDQ17グリッドにかけて東南へ位置していた。長さ約4.9m、幅約1.2mから約1.9m、深さ0.47mから0.97mであった。ほぼN-61°-Wに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第60号溝 (第53図)

DW7グリッドに位置していた。長さ約4.2m、幅約0.4mから約0.6m、深さ0.15mであった。ほぼN-86°-Wに伸びていた。第61号溝、第62号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第61号溝 (第53図)

DV7グリッドからDW7グリッドにかけて南東へ位置していた。長さ約6.2m、幅約1.1mから約1.3m、深さ0.22mから0.34mであった。ほぼN-45°-Wに伸びていた。第60号溝、第62号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第62号溝 (第53図)

DR8グリッドからDW7グリッドにかけて南へ位置していた。長さ約58.8m、幅約0.5mから約1.2m、深さ0.14mから0.44mであった。ほぼN-72°-Wに伸びていた。第61号溝、第63号溝、第114号土壌と重複していた。途中攪乱に切られていた。中・近世期の溝と思われる。

第63号溝 (第53図、第58図16)

DT8グリッドからDW8グリッドにかけて位置していた。長さ約27.2m、幅約0.3mから約1.4m、深さ0.37mか

ら0.77mであった。ほぼN14'-Eに伸びていた。第115号土壌と重複していた。鉄軸のかかった蓋が出土している。中・近世期の溝と思われる。

第64号溝 (第53図)

DR8グリッドに位置していた。長さ約3.2m、幅約0.2mから約0.4m、深さ0.07mであった。ほぼN90'-Wに伸びていた。第62号溝、第65号溝と重複していた。途中攪乱に切られていた。中・近世期の溝と思われる。

第65号溝 (第53図)

DR8グリッドからDT7グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約18.1m、幅約0.2mから約0.7m、深さ0.09mから0.1mであった。ほぼN15'-Eに伸びていた。第62号溝、第64号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第66号溝 (第53図)

DR8グリッドに位置していた。長さ約3.4m、幅約0.4mから約0.5m、深さ0.06mから0.25mであった。ほぼN71'-Wに伸びていた。途中攪乱に切られていた。中・近世期の溝と思われる。

第67号溝 (第53図、第58図19)

DR8グリッドに位置していた。長さ約3.1m、幅約0.3mから約0.6m、深さ0.2mであった。ほぼN71'-Wに伸びていた。途中攪乱に切られていた。砥石が出土している。中・近世期の溝と思われる。

第68号溝 (第53図、第58図)

DR8グリッドからDT8グリッドにかけて逆L字型に位置していた。長さ約29.1m、幅約0.5mから約1.4m、深さ0.43mから0.73mであった。ほぼN73'-Wに伸びていた。硯が出土している。中・近世期の溝と思われる。

第69号溝 (第53図)

DR8グリッドからDR9グリッドにかけて東へ位置していた。長さ約7.9m、幅約0.3mから約1.2m、深さ0.42mであった。ほぼN84'-Eに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第70号溝・第71号溝 (第54図、第58図20)

DO9グリッドからDQ8、DQ9グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約20.7m、幅約2.2mから約3.0m、

深さ0.16mから0.26mであった。ほぼN13'-Eに伸びていた。第112号土壌、第113号土壌と重複していた。砥石が出土している。中・近世期の溝と思われる。

第72号溝 (第54図、第58図18)

DN9グリッドに位置していた。長さ約7.3m、幅約(3.1)mから約(3.9)m、深さ0.68mから0.82mであった。ほぼN60'-Wに伸びていた。灯明受け皿が出土している。中・近世期の溝と思われる。

第73号溝 (第54図)

DM9グリッドからDN10グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約7.1m、幅約0.5mから約1.2m、深さ0.16mから0.17mであった。ほぼN77'-Wに伸びていた。第109号土壌と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第74号溝 (第55図、第56図)

DS4グリッドに位置していた。長さ約2.7m、幅約1.2mから約1.6m、深さ0.26mから0.3mであった。ほぼN88'-Wに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第75号溝 (第55図、第56図)

DT4グリッドからDX4グリッドにかけて南へ位置していた。長さ約35.4m、幅約0.7mから約1.2m、深さ0.58mであった。ほぼN4'-Eに伸びていた。第77号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

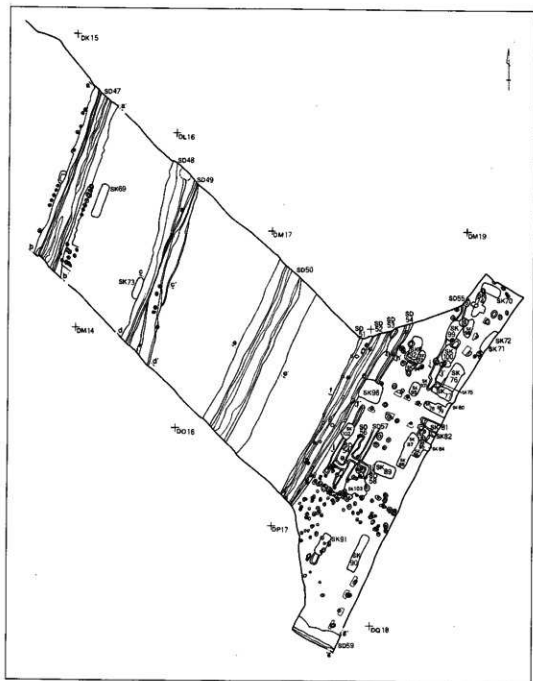
第76号溝 (第55図、第56図)

DW4グリッドからDX4グリッドにかけて南へ位置していた。長さ約3.5m、幅約1.1mから約1.3m、深さ0.33mから0.37mであった。ほぼN13'-Eに伸びていた。第77号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

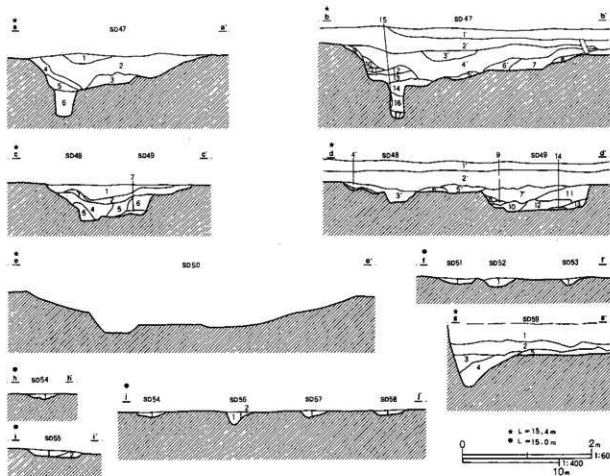
第77号溝 (第55図、第56図)

DW4グリッドからDX7グリッドにかけて東へ位置していた。長さ約38.3m、幅約0.6mから約2.6m、深さ0.6mから0.66mであった。ほぼN85'-Wに伸びていた。第75号溝、第76号溝、第78号溝、第79号溝、第80号溝と重複していた。遺物がまとまって出土している。3、4は灯明受け皿で鉄軸がかかる。5、6は火打石。中・近世期の溝と思われる。

第78号溝 (第55図、第56図)



第52図 溝 (第47~59号) (2)



SD 47

1. 褐色シルト 黄褐色土 (2mm以下) を多数含む。
- 1' 黄褐色シルト 黄褐色土 (1mm) を多数、カーボンを含み、火山灰をかなり多く含む。鉄分の比重が上下30~40mm異なっている。
2. 暗褐色土 黄褐色ハードブロック (20mm以下) を少量、黄褐色土 (2mm以下) を多数、褐色シルトを少量含む。
- 2' 褐色シルト 黄褐色土 (2mm以下) を多数、カーボンを微量含む。
3. 暗褐色土 黄褐色土 (2mm以下) をかなり多く、暗褐色粘質土 (30mm) を微量含む。
- 3' 暗褐色土 褐色土 (2mm以下)、暗褐色シルトブロックを多数含む。
4. 暗褐色土 褐色土 (20mm以下) を非常に多く含む。
- 4' 暗褐色土 黄褐色ハードブロック (20mm以下) を少量、黄褐色土 (2mm以下) を多数、褐色シルトを少量含む。
5. 暗褐色土 褐色土 (3mm以下) を微量含む。
- 5' 暗褐色土 暗褐色ハードブロック (20mm以下) を多数含む。
6. 暗褐色土 暗褐色ハードブロック (10~30mm) を多数含む。
- 6' 暗褐色土 褐色ソフトロームブロック (20mm以下) を多数、褐色粘質ブロックを微量含む。
7. 暗褐色土 褐色ブロック (5mm以下) を少量含む。
8. 暗褐色土 褐色ハードブロック (15mm以下) をかなり多く含む。
9. 暗褐色土 褐色ハードブロック (40mm) を含む。
10. 暗褐色土 暗褐色ハードブロック (40mm) を含む。
11. 褐色土 暗褐色ブロック (20mm)、褐色土 (10mm以下) を多数含む。
12. 暗褐色土 暗褐色ハードブロック (40mm) を含む。
13. 褐色土 暗褐色ブロック (20mm)、褐色土 (10mm以下) を多数含む。
14. 暗褐色土 暗褐色ハードブロック (40mm) を含む。
15. 暗褐色土 暗褐色ハードブロック (40mm) を含む。
16. 褐色土 褐色粘質ブロック (30mm以下) を多数含む。
17. 暗褐色土 褐色粘質ブロック (30mm) をかなり多く含む。

SD48・SD49

1. 灰白褐色土 粘状無し、黄褐色ブロック (10mm) を含む。
- 1' 灰白褐色シルト 微塵を含む。
2. 灰白黄褐色土 粘状無し。
- 2' 灰白黄褐色土 粘性中々あり。
3. 黄褐色粘質土 褐色土 粘性無し。
4. 褐色土 黄褐色粘質ブロックを含む。
- 4' 黄褐色土 粘性無し。
5. 黄褐色土 粘性無し。
- 5' 灰白黄褐色土 粘性無し、黄褐色粘質ブロック (30mm) を含む。
6. 黄褐色土 粘性中々あり。
7. 黄褐色土 粘性無し、粘土ブロックを含む。
8. 黄褐色土 粘性あり、細かい黄褐色砂を含む。
9. 黄褐色土 粘性中々あり。
10. 黄褐色土 粘性あり。
11. 灰白黄褐色土 粘性中々あり。
12. オリーブ褐色土 粘性無し、黄褐色粘質ブロック (10mm) を含む。
13. 黄褐色土 粘性無し、細かい黄褐色砂を含む。
14. 暗褐色土 粘性あり、褐色ブロック層 (10mm) を含む。
15. 暗褐色土 褐色ソフトロームブロック (20mm以下) を多数含む。

SD 51

1. 灰白黄褐色土

SD 52

1. 褐色土

SD 53

1. 褐色土

SD 54

1. 褐色土 黄褐色粘土ブロック (50mm以下) を多数含む。

SD 55

1. 暗褐色シルト ロームブロック (10mm以下) を含む。

SD 56

2. 暗褐色シルト ロームブロック (20mm以下) を含む。

SD 57

1. 暗褐色土 黄褐色ブロックをかなり多く含む。

SD 58

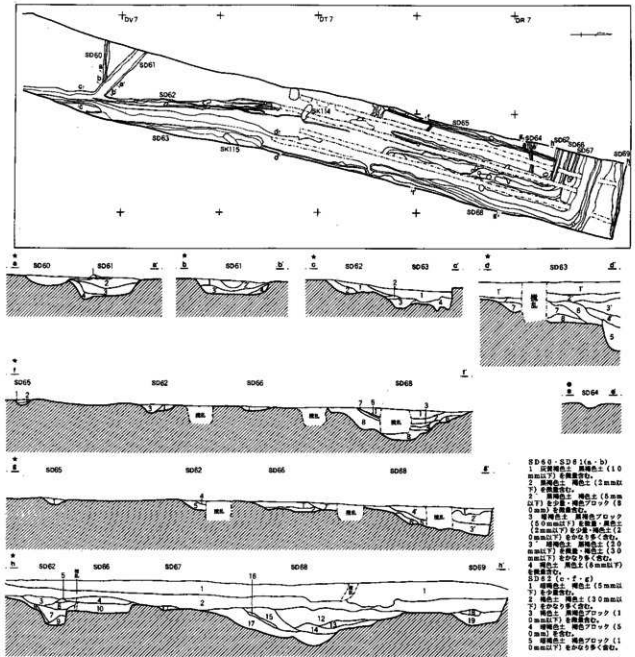
2. 灰白黄褐色土 黄褐色ブロックをかなり多く含む。

SD 59

1. 灰白黄褐色シルト 暗褐色粘土 (2mm以下) を多数含む。

2. 暗褐色シルト 暗褐色土 (2mm以下) を多数、黄褐色土 (10mm) を微量含む。
3. 暗褐色土 黄褐色粘質土 (10~30mm) を微量含む。
4. 暗褐色土 黄褐色粘質土 (30mm) を微量、黄褐色土 (6mm以下) を多数含む。
5. 暗褐色土 黄褐色ブロック (30mm以下) を多数含む。

第53図 溝 (第60~69号)

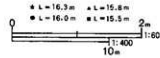
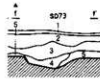
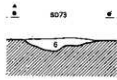
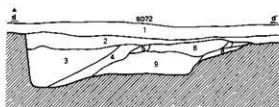
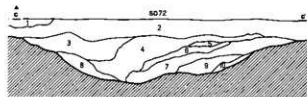
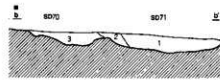
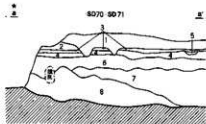
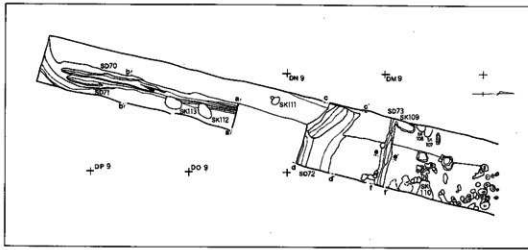


- SD60
- 1 暗褐色土 褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 2 暗褐色シルト 褐色土 (3mm以下) を少量含む。下層に砂が混入している。
 - 3 褐色土 フロント部は硬直。
 - 4 暗褐色シルト 褐色土 (2mm以下) を少量含む。ホ-ロ-部は硬直。
 - 5 暗褐色土 褐色土 (1.5mm以下) を多少含む。C部。
 - 6 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (20mm以下) を少量含む。
 - 7 暗褐色土 褐色土 (20mm以下) を少量含む。
 - 8 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm) を少量含む。
 - 9 暗褐色土 褐色土 (5mm以下) を多少含む。
 - 10 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (10mm以下) を少量含む。
- SD61
- 1 暗褐色土 褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 2 暗褐色シルト 褐色土 (3mm以下) を少量含む。下層に砂が混入している。
 - 3 褐色土 フロント部は硬直。
 - 4 暗褐色シルト 褐色土 (2mm以下) を少量含む。ホ-ロ-部は硬直。
 - 5 暗褐色土 褐色土 (1.5mm以下) を多少含む。C部。
 - 6 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (20mm以下) を少量含む。
 - 7 暗褐色土 褐色土 (20mm以下) を少量含む。
 - 8 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm) を少量含む。
 - 9 暗褐色土 褐色土 (5mm以下) を多少含む。
 - 10 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (10mm以下) を少量含む。

- SD62
- 1 暗褐色土 褐色土 (20mm以下) を少量含む。
 - 2 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (5mm以下) を少量含む。
 - 3 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。
 - 4 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。
 - 5 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。
 - 6 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。
 - 7 暗褐色土 フラット部は硬直でアロップが混入したものを認む。
 - 8 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (5mm以下) を少量含む。
 - 9 暗褐色土 褐色土 (5mm以下) を少量含む。ホ-ロ-部は硬直。
 - 10 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。
 - 11 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。
 - 12 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。
 - 13 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。
 - 14 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。
 - 15 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。
 - 16 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。
 - 17 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。
 - 18 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。
 - 19 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (15mm以下) を少量含む。

- SD63 - SD68 (a - b)
- 1 暗褐色土 暗褐色土 (10mm以下) を少量含む。
 - 2 暗褐色土 暗褐色土 (2mm以下) を少量含む。
 - 3 暗褐色土 褐色土 (5mm以下) を少量含む。褐色アロップ (8mm) を少量含む。
 - 4 暗褐色土 暗褐色アロップ (50mm以下) を少量含む。褐色土 (2mm以下) を多少含む。褐色土 (10mm以下) を多少含む。褐色土 (10mm以下) を多少含む。褐色土 (10mm以下) を多少含む。
 - 5 暗褐色土 褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 6 暗褐色土 褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 7 暗褐色土 褐色土 (30mm以下) を少量含む。
 - 8 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm以下) を少量含む。
 - 9 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm以下) を少量含む。
 - 10 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm以下) を少量含む。
 - 11 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm以下) を少量含む。
 - 12 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm以下) を少量含む。
 - 13 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm以下) を少量含む。
 - 14 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm以下) を少量含む。
 - 15 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm以下) を少量含む。
 - 16 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm以下) を少量含む。
 - 17 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm以下) を少量含む。
 - 18 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm以下) を少量含む。
 - 19 暗褐色土 暗褐色粘質アロップ (30mm以下) を少量含む。
- SD69
- 1 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 2 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 3 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 4 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 5 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 6 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 7 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 8 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 9 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 10 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 11 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 12 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 13 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 14 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 15 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 16 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 17 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 18 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。
 - 19 暗褐色土 暗褐色土 (5mm以下) を少量含む。

第54図 溝 (第70~73号)



SD70・SD71 (a)

- 1 黒褐色土 耕作土
- 2 黒褐色土 鉄分が少し沈着している。
- 3 褐色土 鉄分が多く沈着している。カーボンも散見含む。
- 4 黒褐色土 黒褐色土 (1mm) を含む。
- 5 褐色土 鉄分が非常に多く沈着している。
- 6 黒褐色土 黒褐色土 (2mm以下) を多く、カーボンを散見含む。
- 7 黒褐色土 褐色粘質土 (30mm) を散見、黒褐色ブロック (5mm以下) を少量、カーボンを散見含む。
- 8 褐色土 褐色粘質土 (10mm) を散見、褐色ブロック (2mm) を少量含む。

SD70・SD71 (b)

- 1 褐色土 褐色粘質土 (30mm以下) を散見含む。
- 2 褐色土 褐色ブロック (10mm)、褐色ブロック (3mm以下) を少量含む。
- 3 褐色土 褐色粘質土 (20mm) を散見、褐色色粒 (2mm以下) を少量含む。

SD72 (c)

- 1 濃い黄褐色土 黄褐色粒 (1mm) を少量、火山灰を少量含む。
- 2 褐色土 黄褐色土 (2mm以下) を少量、火山灰を少量含む。
- 3 褐色土 黄褐色土 (20mm以下) を少量、カーボンを散見含む。
- 4 褐色土 黄褐色土 (10mm以下) を少量、カーボンを散見含む。
- 5 褐色土 黄褐色土 (10mm以下) を少量含む。
- 6 褐色土 砂を少量含む、黄褐色土 (20mm以下) を少量含む。
- 7 褐色土 黄褐色土 (20mm以下) を少量含む。
- 8 褐色土 黄褐色土 (10mm以下) を少量含む。
- 9 黒褐色土 黒褐色土 (30mm以下) を散見、黄褐色土 (12mm以下) を少量含む。
- 10 黒褐色土 黒褐色土 (15mm以下) を少量含む。

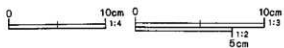
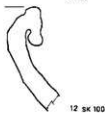
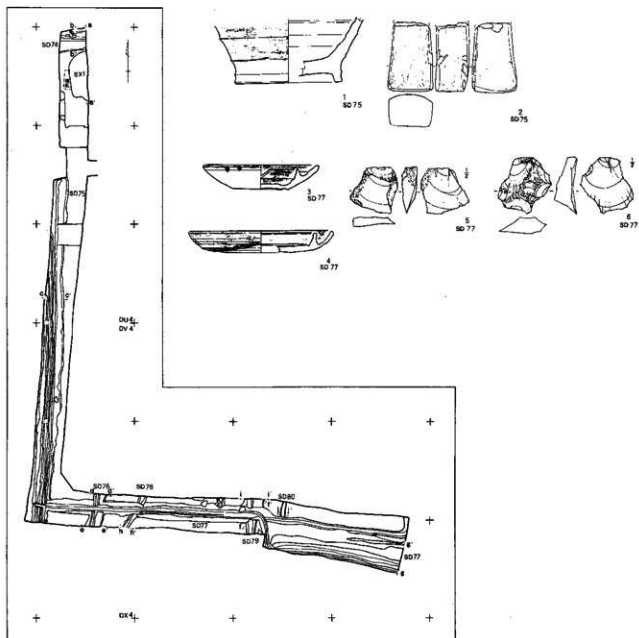
SD72 (d)

- 1 褐色土 黄褐色粒 (2mm以下) を少量、火山灰を少量、カーボンを散見含む。
- 2 褐色土 黄褐色粒 (2mm以下) を少量含む。
- 3 褐色土 黄褐色土 (20mm以下) を少量、黒土 (20mm以下) を少量含む。
- 4 褐色土 黄褐色粘質土 (10mm以下) を散見含む。
- 5 褐色土 砂を非常に多く含む。
- 6 褐色土 黄褐色土 (15mm以下) を少量含む。
- 7 褐色土 黄褐色土 (30mm以下) を非常に多く含む。
- 8 褐色土 黄褐色粘質土 (40mm以下) を少量含む。

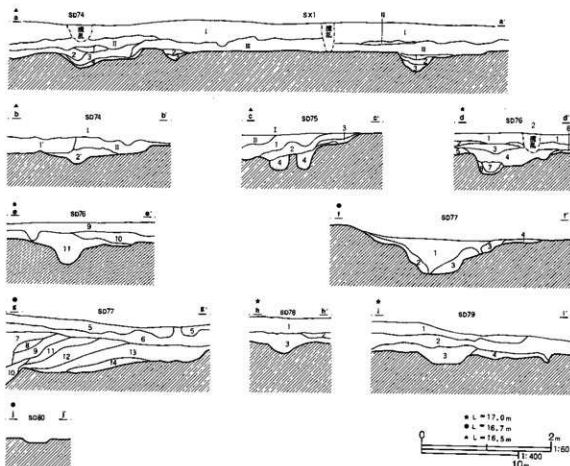
SD73

- 1 耕作土
- 2 褐色土 黄褐色粒 (1mm以下) を少量含む。
- 3 褐色土 黄褐色粒 (2mm以下) を少量含む。
- 4 黒褐色土 黄褐色ブロック (15mm以下) を散見含む。
- 5 黒褐色土 黄褐色ブロック (20mm以下) を少量含む。
- 6 黒褐色土 黄褐色ブロック (20mm以下) を少量含む。

第55图 清 (第74~80号) (1)



第56図 溝 (第74~80号) (2)



SD74 (a・b)

- 1 暗褐色土 黒褐色炭 (3mm以下)・炭化物を少量・灰褐色粘土粒子 (10mm程度) を含む。土中に黒曜石のすずみ屑が散在する。
- II 暗褐色土 黄褐色ロームブロック (200mm以下)・灰褐色炭 (10mm程度) を含む。
- III 暗褐色土 黄褐色土ブロック (50mm以下) を多数含む。層相は埋没の目立たずや異なるが、そのブロックの縁部が異なるためである。埋没のセクションは30度傾斜する。
- 1 暗褐色土 灰褐色ロームブロック (30mm程度) を多数・灰褐色粘土粒 (50mm以下) を含む。
- 2 暗褐色土 灰褐色ロームブロック (50mm以下) を少量含む。
- 2 黄褐色土 黄褐色ロームブロック (50mm程度) 様じまった黒褐色土ブロック (50mm以下) を少量含む。
- 2 暗褐色土 灰褐色ロームブロック (40mm以下) を多数含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色ローム炭 (10mm以下) を多数・灰褐色粘土粒 (50mm以下) を少量含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色ローム炭 (10mm以下) を少量含む。

SD75

- I 灰褐色粘り土
- II 褐色土にロームブロックが散入する。埋め戻された層。
- III ローム粒子を多数散入する。埋め戻された層。
- IV 灰褐色土ブロック・ローム炭・ロームブロックを多数散入する。埋め戻された層。
- V ロームを少量含む。

SD76

- 1 暗褐色土 赤褐色土 (1mm以下)・カーボンを含む。
- 2 黄褐色土 褐色土 (3mm以下) を多数含む。
- 3 暗褐色土 褐色土 (2mm以下) を多数含む。
- 4 黄褐色土 褐色土 (10~30mm) を多数含む。
- 5 黄褐色土 褐色土 (2mm以下) を多数含む。
- 6 黄褐色土 褐色土 (10mm以下) を多数含む。
- 7 暗褐色土 褐色土 (5mm以下) を多数含む。
- 8 暗褐色土 褐色土 (5mm以下) を少量含む。
- 9 暗褐色土 褐色土 (5mm以下) を少量含む。自然色を多数含む。
- 10 暗褐色土 上部に褐色土が薄く残っている。
- 11 黄褐色土 上部に褐色土がブロック状に散在する。

SD77

- 1 暗褐色土 褐色土 (8mm以下) を多数含む。
- 2 暗褐色土 暗褐色粘り土 (20mm以下) を多数含む。
- 3 暗褐色シルト 褐色土 (5mm以下) を多数・暗褐色粘り土 (20mm以下) を多数含む。(5層より上へ、土より下)
- 4 暗褐色シルト 褐色土 (5mm以下) を多数・暗褐色粘り土 (20mm以下) を多数含む。(5層より上へ、土より下)
- 5 黄褐色土 自然色を多数含む。鉄分を含む。
- 6 暗褐色シルト 褐色土 (3mm以下) を多数含む。
- 7 暗褐色土 褐色土 (5mm以下) を少量・白色炭を少量・カーボンを含む。
- 8 暗褐色土 褐色土 (5mm以下) を少量・灰褐色粘り土ブロックを含む。

SD78

- 9 暗褐色土 暗褐色粘り土 (15mm以下) を多数・褐色土 (3mm以下) を多数含む。プラスチック層。
- 10 暗褐色土 褐色粘り土 (5mm以下) を少量・暗褐色粘り土 (30mm以下) を多数含む。

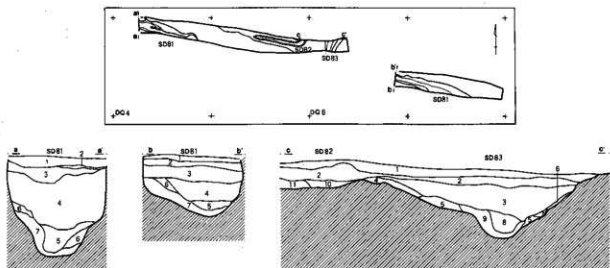
SD79

- 11 暗褐色土 暗褐色粘り土 (50mm以下) 褐色土 (20mm以下) を少量含む。
- 12 暗褐色土 暗褐色粘り土 (5~10mm) を多数・褐色土 (2mm以下) を多数・カーボンを含む。
- 13 黄褐色土 暗褐色粘り土 (20~40mm) を多数・褐色土 (3mm以下) を少量含む。カーボンを含む。
- 14 暗褐色土 褐色土 (2mm以下) 暗褐色粘り土 (20mm) を少量含む。

SD79

- 1 黄褐色粘り土 赤褐色土 (2mm以下) を少量・白色炭を多数含む。
 - 2 黄褐色土 褐色土ブロック (10mm)・カーボンを含む。
 - 3 暗褐色土 褐色土 (30mm以下) を少量含む。
- SD79
- 1 黄褐色土 褐色土 (5mm以下)・カーボン・白色炭を多数含む。
 - 2 暗褐色土 褐色土 (2mm以下) を多数・自然色を少量含む。
 - 3 暗褐色土 褐色土 (20mm以下)・カーボンを含む。
 - 4 暗褐色土 褐色土 (30mm以下) を多数含む。

第57図 溝 (第81~83号)



SD81 (a)

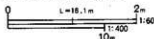
- 1 埋戻し土 鉄が少量混入。
- 2 埋戻し埋土 鉄が多量混入。
- 3 埋戻し土 埋戻し土 (5mm以下) を少量・カーボン (10×20mm) を含む。
- 4 埋戻し土 埋戻し土 (3mm以下) を多量含む。
- 5 埋戻し土 褐色粘質ブロック (20mm以下) を多量含む。
- 6 埋戻し土 褐色粘質ブロック (10~30mm) を少量含む。
- 7 埋戻し土 褐色粘質ブロック (30~40mm) を多量含む。

SD81 (b)

- 1 埋戻し土 耕作土
- 2 埋戻し土 埋戻し土 (2mm以下) を少量含む。
- 3 埋戻し土 埋戻し土 (2mm以下) を少量・カーボンを含み混入。
- 4 埋戻し土 褐色粘質土 (40mm以下) を多量含む。
- 5 埋戻し土 埋戻し土 (2mm以下) を多量含む。
- 6 埋戻し土 埋戻し土 (2mm以下) を少量・カーボンを含む。
- 7 埋戻し土 褐色粘質土 (10~20mm) を少量・埋戻し土 (5mm以下) を多量含む。

SD82・SD83

- 1 埋戻し土 鉄が少量混入している。
- 2 埋戻し埋土 埋戻し土 (2mm以下) を少量・カーボンを含み混入。
- 3 埋戻し土 埋戻し土 (5mm以下) を少量・カーボンを含み混入。
- 4 埋戻し土 埋戻し土 (20mm以下) を少量含む。
- 5 埋戻し土 褐色粘質ブロック (20mm) を含む、ブロック状に堆積している。
- 6 埋戻し土 赤褐色にやわらかい土層。
- 7 埋戻し土 埋戻し土 (10mm以下) を少量含む。
- 8 埋戻し土 褐色粘質ブロック (10mm以下) を少量含む。
- 9 埋戻し土 埋戻し土 (2mm以下) を少量含む。
- 10 埋戻し土 埋戻し土 (10mm以下) を少量含む。
- 11 埋戻し土 埋戻し土 (20mm以下) を少量含む。



DW5グリッドからDX4グリッドにかけて南西へ位置していた。長さ約3.6m、幅約0.5mから約0.8m、深さ0.17mであった。ほぼN28°Eに伸びていた。第77号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第79号溝 (第55図、第56図)

DW6グリッドからDX6グリッドにかけて南へ位置していた。長さ約3.7m、幅約2.0mから約2.6m、深さ0.19mであった。ほぼN8°Eに伸びていた。第77号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第80号溝 (第55図、第56図)

DW6グリッドに位置していた。長さ約1.6m、幅約0.4mから約0.5m、深さ0.07mであった。ほぼN10°Eに伸びていた。第77号溝と重複していた。中・近世期の溝と思われる。

第81号溝A (第57図)

DQ4グリッドに位置していた。長さ約6.3m、幅約

0.8mから約1.2m、深さ1.47mであった。ほぼN72°Wに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第81号溝B (第55図、第57図)

DQ6グリッドからDQ7グリッドにかけて東へ位置していた。長さ約6.0m、幅約0.7mから約1.1m、深さ0.89mであった。ほぼN71°Wに伸びていた。遺物が少し出土している。8、9は焙烙破片。10は火打石。中・近世期の溝と思われる。

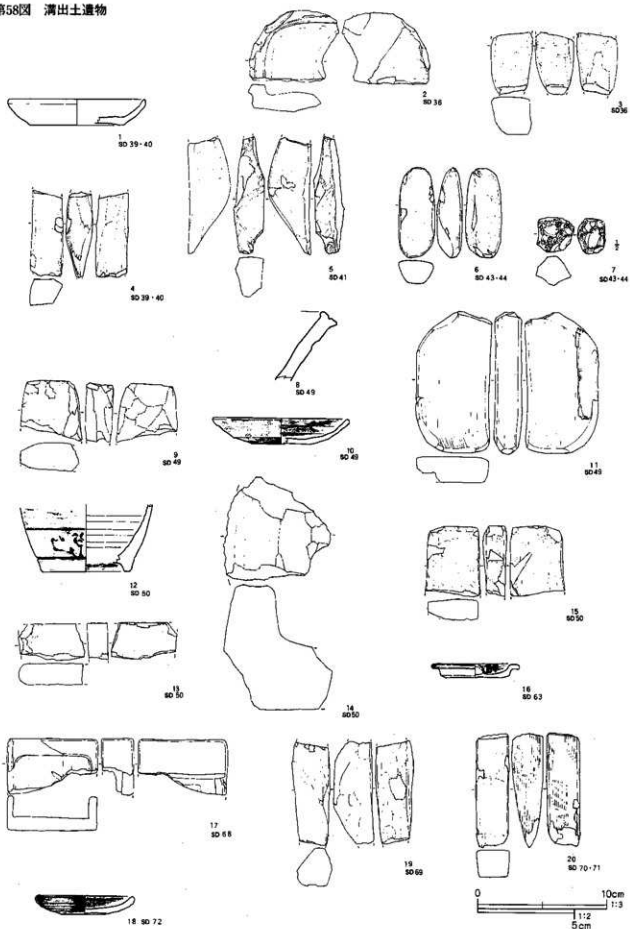
第82号溝 (第57図)

DQ5グリッドに位置していた。長さ約5.3m、幅約0.4mから約0.9m、深さ0.14mであった。ほぼN80°Wに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

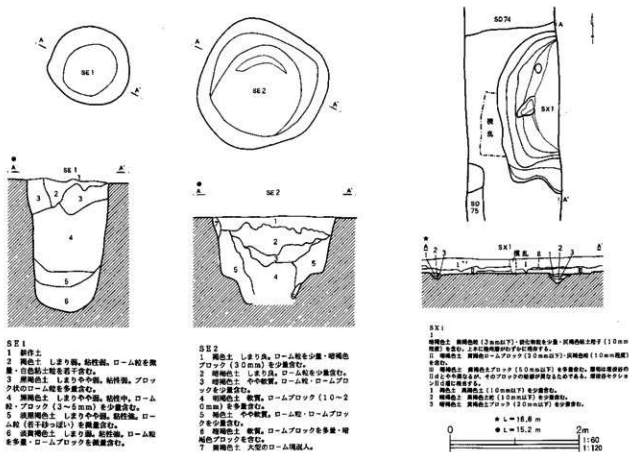
第83号溝 (第57図)

DQ6グリッドに位置していた。長さ約1.2m、幅約0.9mから約1.6m、深さ0.94mであった。ほぼN12°Eに伸びていた。中・近世期の溝と思われる。

第58図 溝出土遺物



第59図 第1・2号井戸・第1号不明遺構



(4) 井戸

第1号井戸 (第59図)

DF21、DG21グリッドで検出された。長径2.56m、短径2.40m、深さ2.01mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の井戸と思われる。

第2号井戸 (第59図)

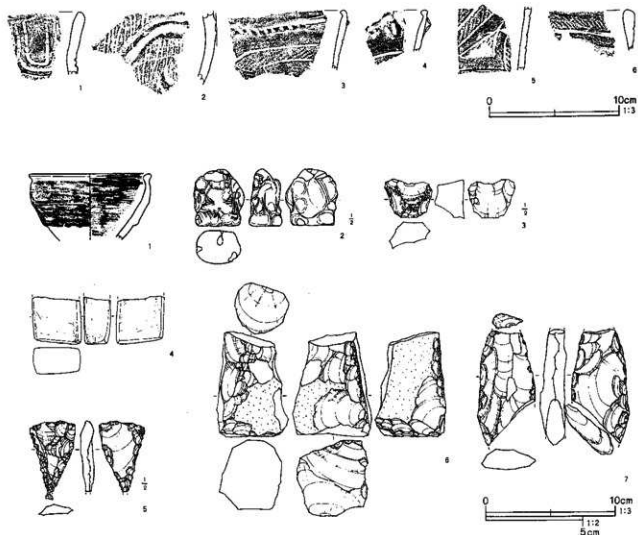
DE19グリッドで検出された。長径4.13m、短径3.97m、深さ1.34mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の井戸と思われる。

(5) 不明遺構

第1号不明遺構 (第59図)

DS4グリッドで検出された。長径5.01m、短径1.74m、深さ0.12mの不整形円形をしていたと思われる。途中攪乱と重複していた。遺物は出土しなかった。中・近世期の遺構と思われる。

第60図 グリッド出土遺物



(6) グリッド出土遺物

縄文土器 (第60図1~6)

1は阿玉台式土器で結節沈線文が「U」の字状に描かれている。口縁部破片。2撚り糸文を地文として隆帯による胴部渦巻文が描かれる。加曾利EⅢ段階の曾利系土器か。3~5は堀ノ内2式土器。1、2は口縁部破片で1条の微隆線と磨消し縄文が配される。5は帯状文系の土器で安行1式土器。

陶磁器 (第60図6、7)

6は黒天日の破片である。鉄釉がたっぷりと掛けられている。7は型作りの泥面子で「布袋様」の形をしている。

縄文時代の石器 (第60図10~12)

10はチャート製のドリルで先端が欠けている。入念な作りである。11は頁岩製の礫器で非常に丹念な作りである。12は短冊形の打製石斧で先端が欠けている。

近世期の石器 (第60図8~9)

8はメノウ製の火打石で細かい衝撃痕が多く残っている。9は平砥石。

3. 第3次調査

調査の概要

発掘調査は平成6年7月11日～平成6年12月6日まで行われた。調査面積は3700㎡であった。綾瀬川沖積地に張り出した台地上にあり、東側に小さな谷が入る。旧石器時代、縄文時代、古墳時代前期、平安時代、近世の遺構を確認調査した。

旧石器時代

石器集中箇所10箇所が確認調査された。この内4箇所はローム黒色帯中の下部からの出土で、大型剥片を含む石器類が検出、調査された。当地方ではこの層位からの出土は珍しい。

縄文時代

縄文時代早期の炉穴(ファイヤーピット)が4基調査され、条痕文系の土器が出土した。

古墳時代前期

竪穴住居跡が9軒、土壇14基、方形周溝墓1基を調査した。炉を持つ大型の住居跡が4軒で他は小型の住居跡であった。大形住居跡はいずれも焼失していた。方形周溝墓は長方形をした大形で、南西コーナーのテラス部分、東側周溝底部から供献土器が出土した。土壇には埋土に火山灰を含むものがあり土器を含んでいた。

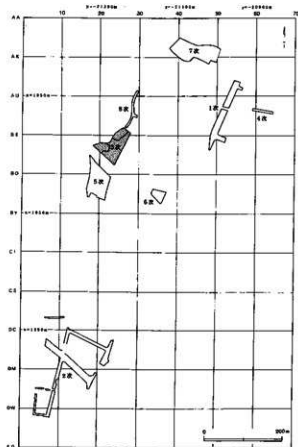
平安時代

竪穴住居跡を1軒調査した。住居跡内からは須恵器、土師器などが出土した。

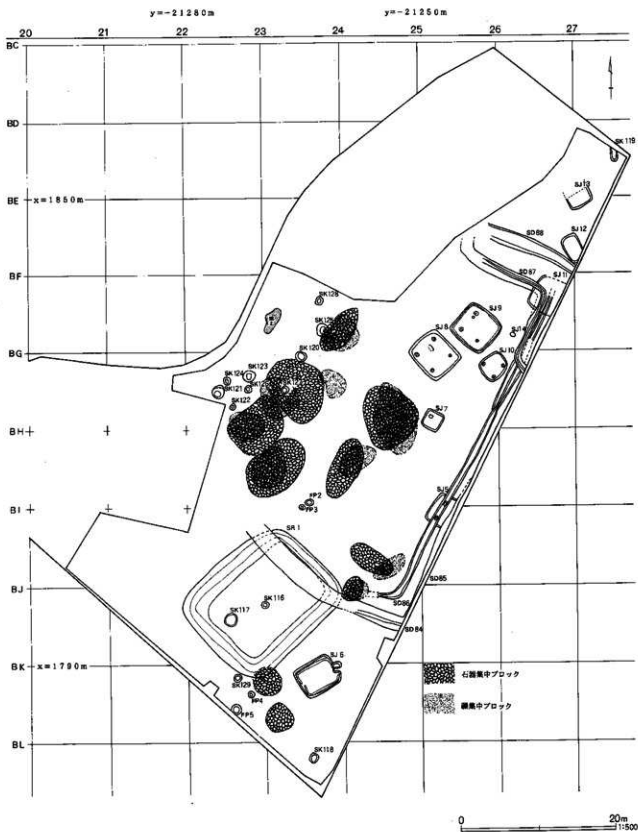
近世

溝を5条調査したが遺物は少なかった。

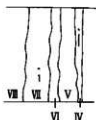
第61図 向原遺跡グリッド配置図(3次)



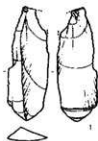
第62図 第3次調査区全体図



第63図 第1号石器集中



B123 + B124



(1) 旧石器時代の石器集中・礫群

旧石器時代の石器集中は大きく黒色帯 (V、VI層) の上下で大別される。黒色帯より上の石器集中は、土壌分析でA T火山灰の降下以降とされる。斜面部に面した3、4、5、8～10石器集中である。下層部分は1、2、6、7石器集中で、大形の剥片を中心にしたものであった。

上面の石器群はなだらかに傾斜する谷に向かって形成されている。石器集中は、6m前後の円形に集中するタイプと長楕円形に集中するタイプの2種類であっ

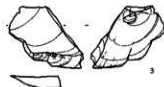
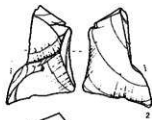
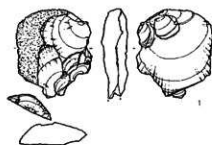
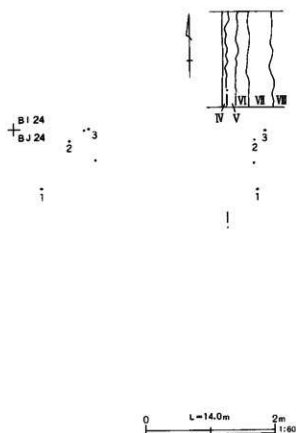
た。それぞれの集中は環状に分布していて、あたかも縄文時代の小規模環状集落の感がある。

本遺跡の石器集中は、総じて製品の出土が極めて少ない。礫群と混じて集中をなすものもある。基本的には廃棄の形態と理解される。

第1号石器集中 (第63図)

B124グリッドで確認された。出土点数は少ない。縦長剥片が出土している。

第64図 第2号石器集中



第2石器集中 (第64図)

BJ24グリッドで出土した。長径1.2m、短径0.5mの楕円形に集中していた。層はⅥからである。剥片が出土しただけで製品は出土しなかった。1は黒色ガラス質安山岩製。

第3石器集中 (第64図)

BF23、BF24グリッドで検出された。長径5m、短径2mの楕円形に集中していた。一番北側である。第Ⅲ層からの出土である。頁岩、安山岩などの剥片、石核で構成される。出土点数は少ない。

第4石器集中 (第65図、第66図、第75図)

BG24、BH24グリッドで検出された。直径約6mの円形に集中していた。第Ⅲ層から出土した。東から西に斜面に傾斜していて、図中の土層断面図はあまり適切でない。チャート、黒曜石を主体とした石器集中。接合資料が何点か検出された。4～8はスクレーパーである。5は良質なメノウ製。10は黒色ガラス質安山岩製で7点の接合資料。12はマイクロチップ。14～17

はマイクロコア状の石核である。

第5石器集中 (第67図)

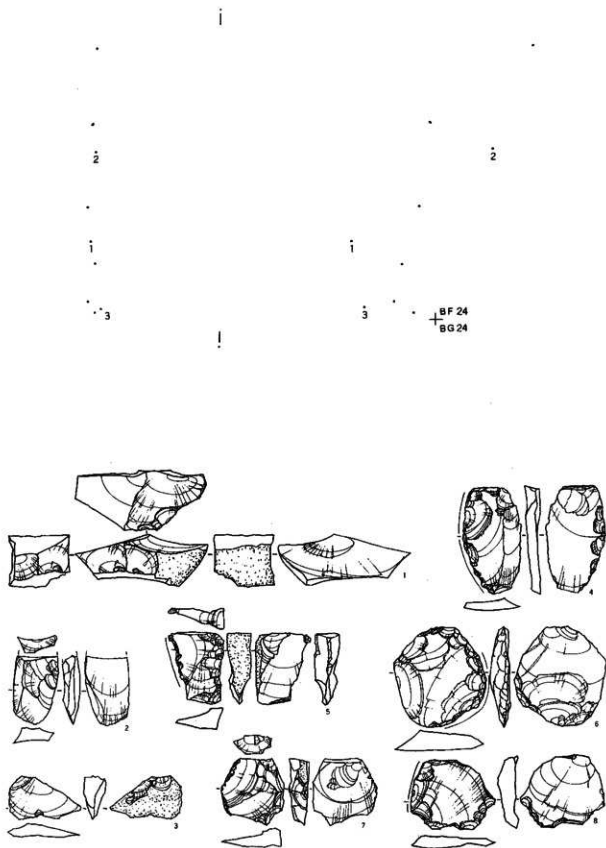
BH22、BH23グリッドで検出された。直径6m前後の円形に集中していた。第Ⅲ層中から検出された。チャートを主体とした石器集中である。製品はなく大形の剥片が見られた。

第6石器集中 (第68図)

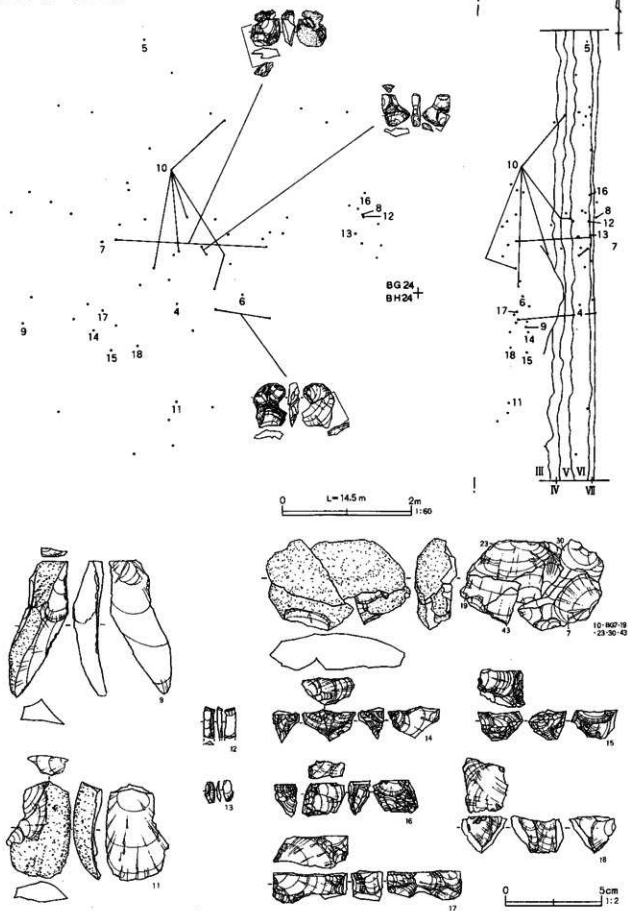
BK22、BK23グリッドで検出された。長径3m、短径2mの楕円形に集中していた。第Ⅷ層中からの出土である。頁岩、安山岩を主体とした縦長の大形剥片で構成される。7は珪質頁岩製で3点の接合資料。

第7石器集中 (第69図)

BK23グリッドで検出された。直径2m前後の円形に集中していた。第Ⅷ層中からの出土である。頁岩、安山岩を主体とした縦長の大形剥片を主体とした石器集中である。1は先端部に加工がある。



第66図 第4号石器集中



第67图 第5号石器集中

3 4

3

4

1

5

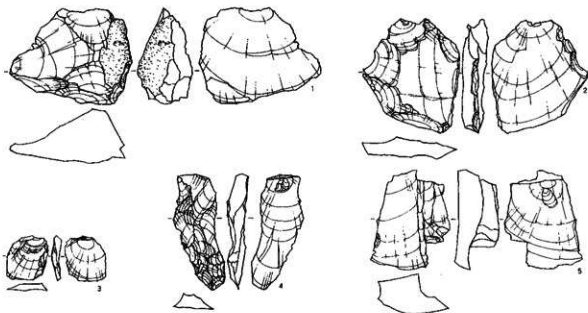
2

1

5

2

BH 22 BH 23

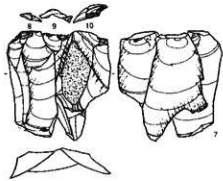
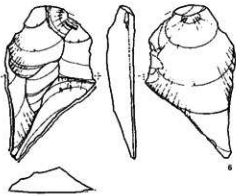
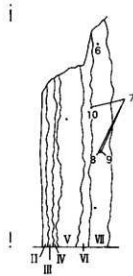


第68図 第6号石器集中

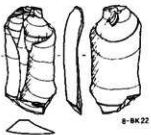


BK 22 + BK 23

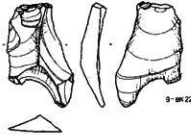
6



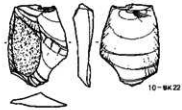
0 L=14.5m 2m 1:80



8-BK 22



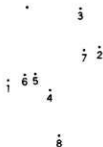
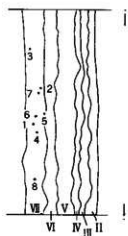
9-BK 22



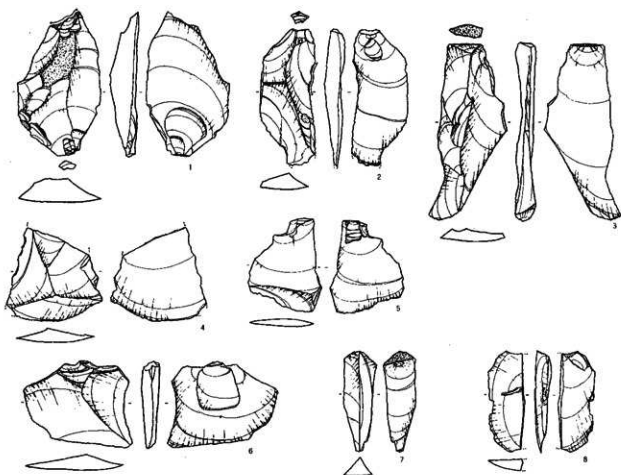
10-BK 22

0 5cm 1:2

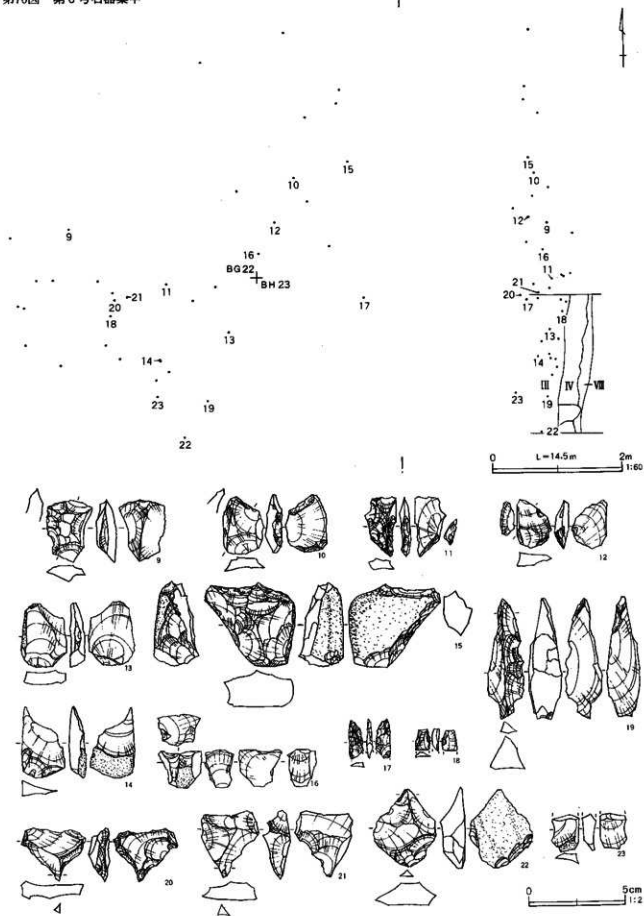
第69图 第7号石器集中



BK22 + BK23



第70図 第8号石器集中

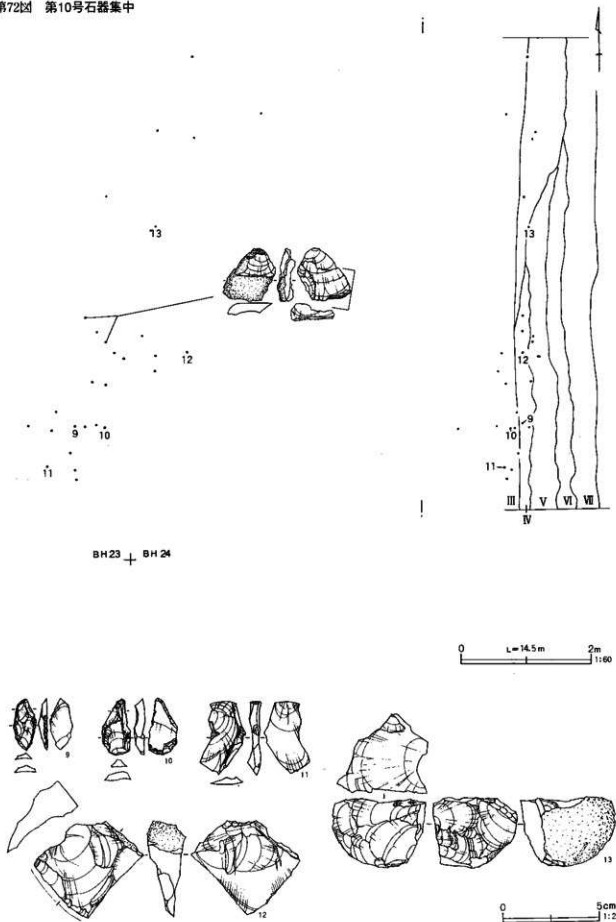


第71图 第9号石器集中

BG 22 + BG 23



第72図 第10号石器集中



第8石器集中 (第70図)

BG22、BG23、BH22、BH23グリッドで検出された。長径6m、短径5mではぼ円形に集中していた。長径8m、短径6mの楕円形に集中していた。南側の3点はずせば、6m前後の円形である。第Ⅲ層中からの出土である。粗雑なメノウとチャートを主体とした石器集中である。11はナイフ形石器。19は角錐状石器。20は錐としておく。粗雑なメノウでは、先端が尖った14や21のような剥片が多くなるようである。

第9石器集中 (第71図)

BG23グリッドで検出された。長径7m、短径2mの楕円形に集中していた。第Ⅲ層中からの出土である。チャートとメノウを主体とした石器集中。尖頭器状の剥片も出土している。1は良質なメノウ製。

第10石器集中 (第72図)

BH23、BH24グリッドで検出された。第Ⅲ層中からの出土である。チャートを主体とした石器集中である。1、2は小形のナイフ形石器あるいは尖頭器。2は裏面基部に加江がある。5はガラス質安山岩製の石核である。

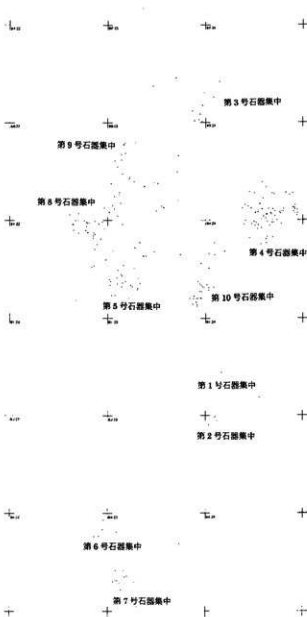
石器集中外の旧石器 (第75図1～5)

グリッドや方形周溝墓の溝から出土した原位置を失した石器を一括する。1は頁岩製の流麗なナイフ形石器。見事なブランディングが施されている。2は砂岩製のナイフ形石器。3は砂岩製の尖頭器。裏面からの剥離で成型されている。4はスクレイパー。5は切り出し形のナイフである。

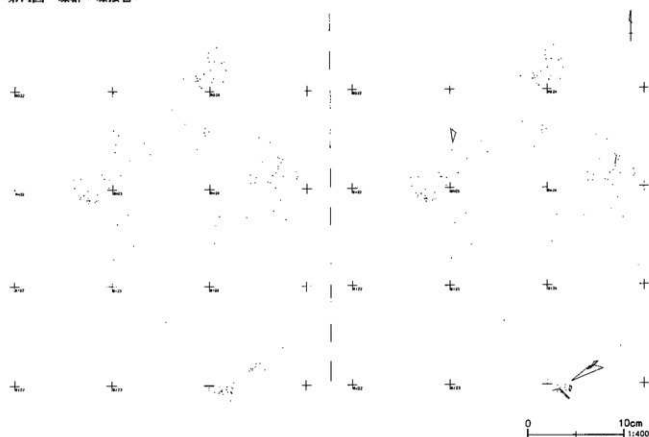
礫群 (第74図)

安山岩を主体とした礫群が検出された。いずれも破碎された礫が集中して出土した。第1号石器集中、第2号石器集中、第3号石器集中、第4号石器集中、第8号石器集中、第10号石器集中の中に混在すると言い換えられる。第5号石器集中、第6号石器集中、第7号石器集中中に礫群の混在はない。

第73図 石器集中全体図



第74図 礫群・礫接合



第2表 旧石器時代石器一覧表

第1号石器集中

No	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石質	縦×横×厚さ	重量	接合	石器集中	備考
10	BI-24	8.15	4.50	13.550	剥片	ホルンフェルス	3.12×2.22×0.18	2.34		1	第63図1
13	BI-24	5.48	8.29	13.426	剥片	ホルンフェルス	5.72×2.07×0.81	7.61		1	

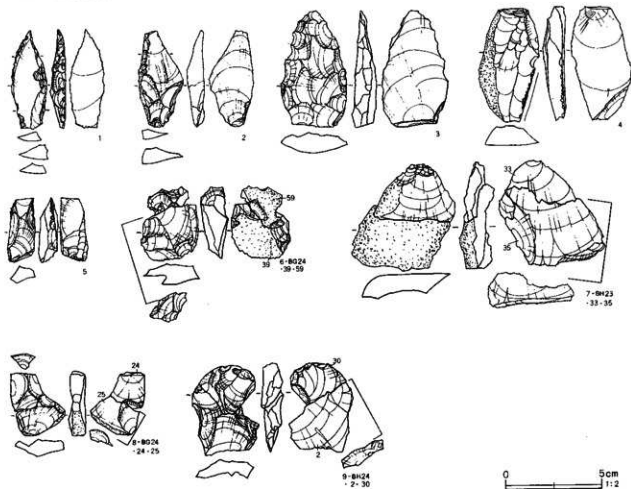
第2号石器集中

No	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石質	縦×横×厚さ	重量	接合	石器集中	備考
1	BJ-24	0.15	9.04	13.623	剥片	安山岩	5.11×3.92×0.68	10.16		2	第64図2
3	BJ-24	0.92	9.58	13.578	剥片	黒色ガラス質安山岩	4.44×4.28×1.24	23.08		2	第64図1
21	BJ-24	0.05	8.93	13.487	剥片	粘板岩	2.32×4.38×1.05	4.46		2	第64図3
26	BJ-24	0.50	8.76	13.638	剥片	チャート	1.94×3.10×0.55	2.60		2	
31	BJ-24	0.05	8.93	13.487	剥片	頁岩	1.00×3.09×0.58	0.98		2	

第3号石器集中

No	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石質	縦×横×厚さ	重量	接合	石器集中	備考
4	BF-23	9.89	0.35	12.612	剥片	頁岩	2.94×4.06×1.24	11.83		3	
5	BF-23	9.15	0.53	12.620	石鏢	黒曜石	2.46×1.75×0.35	0.89		3	混入?
6	BF-23	9.81	1.10	12.654	剥片	チャート	2.24×3.70×1.08	6.87		3	第65図3
8	BF-23	8.26	0.27	12.515	剥片	黒曜石	0.86×1.53×0.38	0.39		3	
12	BF-23	8.80	1.30	12.564	石核	頁岩	2.81×6.83×2.56	51.50		3	第65図1
20	BF-23	6.21	5.27	11.565	剥片	チャート	2.68×3.11×2.27	15.54		3	
22	BF-23	9.72	0.65	12.497	剥片	チャート	2.89×1.70×1.67	4.98		3	
24	BF-23	6.98	0.09	12.572	剥片	チャート	2.82×2.92×0.77	4.59		3	
25	BF-23	6.98	0.09	12.572	剥片	チャート	2.24×2.64×0.51	2.46		3	
26	BF-23	6.98	0.09	12.572	剥片	チャート	2.05×1.20×0.78	1.42		3	
5	BF-24	7.38	9.13	12.660	剥片	頁岩	(3.47)×2.19×0.88	8.11		3	第65図2
10	BF-24	5.79	8.52	12.660	剥片	ホルンフェルス	2.08×2.52×0.60	2.79		3	

第75図 石器実測図



第4号石器集中

No	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石 質	縦×横×厚さ	重量	接合	石器集中	備考
1	BG-24	9.36	3.67	13.400	剥片	黒曜石	1.50×2.37×1.74	1.54		4	
3	BG-24	8.88	3.74	13.359	剥片	黒曜石	1.18×2.68×0.64	1.74		4	
7	BG-24	7.36	2.97	13.318	剥片	黒色ガラス質安山岩	4.98×2.77×1.62	16.86	19.23.30.43	4	第66図10
10	BG-24	8.76	6.23	13.122	剥片	チャート	1.75×2.41×0.74	2.60		4	
11	BG-24	7.25	3.17	13.194	剥片	チャート	2.96×1.48×0.74	3.42		4	
14	BG-24	6.12	4.20	12.830	剥片	メノウ	2.82×3.63×1.22	11.15		4	第65図5
16	BG-24	7.23	5.00	12.772	剥片	チャート	1.96×1.59×0.48	1.86		4	
17	BG-24	7.12	5.51	12.773	剥片	チャート	2.52×2.09×0.89	3.79		4	
19	BG-24	9.29	2.32	13.211	剥片	黒色ガラス質安山岩	2.78×2.28×0.76	3.97	7.23.30.43	4	第66図10
20	BG-24	9.10	2.89	12.894	剥片	安山岩	2.14×1.75×0.53	1.66		4	
21	BG-24	8.87	3.10	12.890	剥片	チャート	2.00×2.54×0.30	1.20		4	
23	BG-24	8.83	3.53	12.969	剥片	黒色ガラス質安山岩	3.30×5.08×2.28	31.72	7.19.30.43.	4	第66図10
24	BG-24	9.28	3.30	12.828	剥片	黒色ガラス質安山岩	(1.77)×1.87×0.88	2.82	25	4	
25	BG-24	9.40	3.24	12.885	剥片	黒色ガラス質安山岩	3.07×2.71×0.88	5.02	24	4	
27	BG-24	9.41	3.73	14.109	剥片	黒色ガラス質安山岩	2.04×2.83×0.55	2.82		4	
28	BG-24	9.80	3.80	13.837	剥片	チャート	1.78×2.74×0.93	3.58		4	
30	BG-24	9.93	3.11	13.950	剥片	黒色ガラス質安山岩	4.56×2.83×1.38	17.80	7.19.23.43	4	第66図10
31	BG-24	8.30	4.45	13.967	剥片	チャート	1.25×2.04×1.13	2.30		4	
32	BG-24	8.40	4.43	13.865	剥片	チャート	0.38×1.41×0.62	0.84		4	
33	BG-24	8.44	5.95	13.808	剥片	チャート	2.01×1.69×0.50	1.47		4	
35	BG-24	8.78	5.31	13.903	剥片	チャート	3.13×3.14×1.01	5.90		4	
38	BG-24	9.24	4.91	13.994	剥片	ホルンフェルス	1.75×1.36×0.32	0.78		4	
39	BG-24	9.18	4.63	13.887	剥片	チャート	2.17×2.18×1.34	3.30	59	4	第75図6
40	BG-24	8.95	4.57	14.102	剥片	黒曜石	1.72×1.83×0.61	1.41		4	
41	BG-24	8.87	4.17	14.027	剥片	黒曜石	(2.78)×2.51×1.16	5.93		4	
43	BG-24	9.60	4.03	13.907	剥片	黒色ガラス質安山岩	1.64×1.67×0.61	1.13	7.19.23.30.	4	第66図10

向原遺跡3次調査

No	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石 質	縦×横×厚さ	重量	接 合	石器集中	備 考
44	BG-24	9.87	4.25	13.857	剥片	砂岩	3.90×3.42×0.84	10.04		4	
45	BG-24	図記載なし		13.862	剥片	チャート	3.52×2.96×0.87	6.27		4	
49	BG-24	6.63	3.77	13.000	剥片	チャート	1.50×1.24×0.38	0.72		4	
50	BG-24	7.78	4.10	12.762	剥片	チャート	3.55×3.81×1.15	11.26		4	
53	BG-24	8.59	5.62	12.662	剥片	チャート	1.10×2.20×0.60	0.82		4	
54	BG-24	9.23	4.85	12.732	剥片	チャート	3.40×3.27×1.09	12.01		4	第65図 7
55	BG-24	9.56	2.86	12.836	剥片	チャート	1.79×1.14×0.60	0.91		4	
56	BG-24	9.19	2.39	12.762	剥片	チャート	3.15×2.76×0.93	5.62		4	
57	BG-24	9.07	2.24	12.772	剥片	チャート	1.46×1.70×0.77	1.41		4	
58	BG-24	9.09	2.07	12.955	剥片	チャート	1.78×1.31×0.74	1.14		4	
59	BG-24	図記載なし		12.728	剥片	チャート	2.87×3.53×1.21	8.84	39	4	第74図 6
61	BG-24	8.47	0.83	12.764	剥片	チャート	2.01×2.08×1.11	4.26		4	
62	BG-24	8.72	0.91	12.842	剥片	チャート	1.60×1.61×0.90	1.76		4	
63	BG-24	8.86	0.86	12.752	剥片	チャート	3.58×4.34×0.95	13.33		4	第65図 8
64	BG-24	8.84	2.00	12.676	剥片	チャート	1.76×0.81×0.57	0.50		4	
65	BG-24	8.94	0.61	13.363	剥片	安山岩	2.37×3.53×0.46	3.69		4	
66	BG-24	9.10	0.97	12.749	マイクロ	チャート	1.59×0.52×0.25	0.18		4	第66図12
67	BG-24	9.27	0.84	12.780	剥片	チャート	1.56×1.54×0.29	0.48		4	
68	BG-24	9.48	0.64	12.747	剥片	チャート	1.25×1.64×0.43	0.51		4	
69	BG-24	9.28	0.57	12.913	剥片	チャート	2.77×1.71×0.61	3.00		4	
70	BG-24	7.20	1.80	12.958	剥片	チャート	2.48×2.79×1.01	5.77		4	
71	BG-24	7.40	1.41	12.888	剥片	チャート	2.05×1.41×0.53	1.55		4	
72	BG-24	7.25	1.10	12.832	剥片	チャート	1.24×2.87×1.87	8.00		4	
74	BG-24	8.70	1.05	12.877	剥片	チャート	1.25×1.91×0.50	0.90		4	
77	BG-24	9.09	2.07	12.955	剥片	チャート	1.61×1.02×0.34	0.46		4	
78	BG-24	9.10	0.97	12.749	剥片	チャート	1.05×0.50×0.18	0.07		4	第66図13
1	BH-24	0.03	2.68	13.802	削器	砂岩	4.73×4.64×1.09	29.06	30	4	第65図 6
2	BH-24	0.40	2.26	13.818	剥片	チャート	3.09×3.34×0.81	7.06		4	
3	BH-24	0.27	3.23	13.855	剥片	砂岩	1.72×1.84×0.33	1.20		4	
4	BH-24	0.58	3.44	14.020	剥片	黒曜石	1.91×1.97×0.57	2.00		4	
6	BH-24	1.68	3.68	14.006	剥片	黒色ガラス質安山岩	4.86×3.24×1.31	19.76		4	第66図11
7	BH-24	1.95	3.79	14.144	剥片	チャート	1.84×0.82×0.34	0.44		4	
8	BH-24	0.18	5.05	13.683	剥片	黒曜石	2.18×1.62×0.80	2.57		4	
9	BH-24	0.28	4.82	13.883	石核	黒曜石	3.81×1.44×1.17	11.92		4	第66図17
10	BH-24	0.50	4.62	13.755	剥片	黒曜石	0.76×2.01×1.12	1.29		4	
11	BH-24	0.58	4.97	13.721	石核	黒曜石	1.62×2.67×1.41	3.81		4	第66図14
12	BH-24	0.82	4.28	13.963	石核	黒曜石	1.76×2.65×2.64	9.89		4	第66図18
13	BH-24	0.89	4.69	13.734	石核	黒曜石	1.43×2.58×2.04	6.50		4	第66図16
14	BH-24	0.41	5.26	13.732	剥片	黒曜石	1.48×1.71×0.62	1.45		4	
15	BH-24	1.83	5.50	14.015	剥片	黒曜石	1.48×1.00×0.30	0.28		4	
16	BH-24	0.46	6.05	13.872	剥片	ホルンフェルス	6.43×2.71×1.48	19.56		4	第66図 1
20	BH-24	6.56	9.85	12.826	剥片	チャート	3.64×1.94×0.66	3.00		4	
28	BH-24	0.07	5.92	12.726	剥片	チャート	1.55×1.32×1.04	1.65		4	
29	BH-24	0.18	3.68	12.935	削器	珪質頁岩	5.33×3.00×8.11	12.51		4	第65図 4
30	BH-24	0.28	3.09	12.682	剥片	チャート	2.44×2.73×0.85	4.59	2	4	
31	BH-24	1.77	3.13	12.796	剥片	チャート	2.76×1.52×0.38	1.91		4	
34	BH-24	2.35	3.74	13.442	剥片	砂岩	3.32×2.08×1.01	6.72		4	
36	BH-24	2.47	4.33	12.967	剥片	チャート	4.12×2.30×1.23	8.69		4	

第5号石器集中

No	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石 質	縦×横×厚さ	重量	接 合	石器集中	備 考
1	BH-23	6.90	6.90	12.709	剥片	チャート	0.68×2.78×0.70	1.54		5	
2	BH-23	6.37	6.65	12.728	剥片	チャート	(4.16)×4.08×0.84	16.29		5	
3	BH-23	6.70	7.45	12.666	剥片	チャート	1.06×1.36×0.56	0.49		5	
4	BH-23	6.55	7.60	12.676	剥片	チャート	1.03×1.08×0.25	0.30		5	
6	BH-23	4.83	7.23	12.688	剥片	チャート	5.81×2.74×0.98	11.21		5	第67図 4
7	BH-23	6.15	8.13	12.865	剥片	チャート	5.12×2.93×0.85	13.41		5	第67図 5
8	BH-23	6.30	8.40	12.934	剥片	チャート	1.13×1.42×0.28	0.30		5	
9	BH-23	6.38	8.94	12.765	剥片	チャート	0.69×0.90×0.35	0.13		5	
10	BH-23	6.68	8.53	12.602	剥片	チャート	5.35×5.25×1.19	37.03		5	第67図 2
11	BH-23	5.58	8.47	12.625	剥片	チャート	0.68×1.15×0.28	0.22		5	
12	BH-23	5.45	8.55	12.647	剥片	チャート	1.72×3.23×0.68	3.37		5	
13	BH-23	5.78	8.97	12.641	剥片	チャート	6.40×5.56×2.62	67.48		5	第67図 1
14	BH-23	5.01	8.88	12.666	剥片	チャート	0.95×0.94×0.56	0.35		5	
15	BH-23	4.51	8.33	12.853	剥片	チャート	2.20×1.23×0.26	0.46		5	
17	BH-23	3.04	9.38	12.645	剥片	チャート	3.30×2.63×1.04	5.24		5	
19	BH-23	5.94	9.75	12.602	剥片	チャート	0.76×1.18×0.24	0.18		5	

No.	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石 質	縦×横×厚さ	重量	接 合	石器集中	備 考
20	BH-23	6.50	9.73	12.995	剥片	チャート	1.02×0.89×0.13	0.09		5	
21	BH-23	6.15	9.65	12.721	剥片	チャート	2.96×3.42×1.00	5.20		5	
23	BH-23	7.55	9.55	12.964	剥片	チャート	1.70×1.47×0.85	1.55		5	
24	BH-23	7.56	9.22	12.700	剥片	チャート	3.54×4.42×1.02	24.07		5	
26	BH-23	3.18	5.18	12.871	剥片	チャート	2.83×1.76×0.36	1.55		5	
48	BH-23	2.73	7.14	12.620	剥片	チャート	1.18×1.70×0.44	0.69		5	
49	BH-23	2.21	6.65	12.057	剥片	チャート	(1.48)×1.44×1.12	2.34		5	
50	BH-23	3.60	6.28	12.646	剥片	チャート	2.70×4.35×1.46	16.00		5	
51	BH-23	3.60	6.00	12.680	剥片	チャート	2.99×3.48×1.19	10.15		5	
52	BH-23	7.03	6.96	12.654	剥片	チャート	1.33×1.86×0.58	0.99		5	
53	BH-23	7.85	7.79	12.639	剥片	チャート	1.91×2.45×0.76	4.37		5	
54	BH-23	7.97	0.78	12.870	剥片	チャート	(3.06)×3.74×1.34	13.11		5	
13	BH-22	4.00	0.24	12.570	剥片	チャート	2.36×2.56×0.71	4.73		5	
14	BH-22	4.62	1.45	12.592	剥片	メノウ	1.32×1.24×0.54	0.49		5	
15	BH-22	4.74	1.67	12.574	剥片	チャート	3.31×1.52×0.43	2.22		5	第67図3

第6号石器集中

No.	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石 質	縦×横×厚さ	重量	接 合	石器集中	備 考
1	BK-22	0.77	0.49	13.140	剥片	ホルンフェルス	7.98×4.74×1.60	37.18		6	第68図6
2	BK-22	1.75	0.60	13.247	剥片	珪質頁岩	4.19×3.36×0.98	9.37	3.4	6	第68図7、9
3	BK-22	2.41	0.98	13.095	剥片	珪質頁岩	5.36×3.32×0.92	10.74	2.4	6	第68図7、10
4	BK-22	2.42	1.45	13.117	剥片	珪質頁岩	5.46×2.63×0.83	11.74	2.3	6	第68図7、8
1	BK-23	1.93	9.03	13.653	剥片	黒曜石	2.08×1.03×0.45	0.65		6	
2	BK-23	3.29	9.19	13.222	剥片	チャート	4.09×2.65×0.84	4.48		6	

第7号石器集中

No.	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石 質	縦×横×厚さ	重量	接 合	石器集中	備 考
3	BK-23	7.00	7.27	13.244	剥片	安山岩	2.10×1.94×0.86	1.83		7	
4	BK-23	6.42	8.04	13.179	剥片	ホルンフェルス	6.97×2.74×0.87	15.14		7	第69図2
5	BK-23	6.47	8.26	13.163	剥片	珪質頁岩	5.12×1.68×1.09	6.74		7	第69図7
6	BK-23	7.08	8.80	13.134	剥片	ホルンフェルス	4.51×4.93×0.74	15.13		7	第69図4
7	BK-23	7.78	8.66	13.108	剥片	珪質頁岩	5.14×1.90×0.84	6.85		7	第69図8
8	BK-23	6.83	9.02	13.139	剥片	珪質頁岩	4.76×3.78×0.78	7.68		7	第69図5
9	BK-23	6.84	9.18	13.140	剥片	ホルンフェルス	4.09×5.89×0.88	18.91		7	第69図6
10	BK-23	6.94	9.43	13.088	剥片	珪質頁岩	7.34×4.34×1.31	35.78		7	第69図1
11	BK-23	5.81	9.15	13.015	剥片	安山岩	2.81×2.76×1.01	7.65		7	
12	BK-23	5.83	8.34	13.125	剥片	ホルンフェルス	9.02×3.44×1.04	24.36		7	第69図3

第8号石器集中

No.	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石 質	縦×横×厚さ	重量	接 合	石器集中	備 考
1	BG-22	9.62	0.00	12.315	石核	メノウ	1.41×2.22×1.89	7.45		8	第70図16
3	BG-22	8.66	0.30	12.237	剥片	メノウ	2.32×2.44×0.92	3.62		8	
10	BG-22	9.34	3.78	11.867	剥片	メノウ	3.21×3.02×1.25	13.34		8	
22	BG-23	7.13	8.72	12.527	剥片	メノウ	2.93×2.53×0.77	4.95		8	
23	BG-23	7.33	8.76	12.550	剥片	メノウ	1.43×1.11×1.02	1.87		8	
25	BG-23	7.55	9.24	12.335	剥片	メノウ	2.73×1.95×0.86	3.60		8	
26	BG-23	8.23	8.61	12.480	石核	チャート	2.81×5.67×4.05	49.18		8	
29	BG-23	8.83	9.24	12.416	剥片	メノウ	2.42×2.68×0.68	2.51		8	
30	BG-23	9.53	8.90	12.517	剥片	チャート	1.39×2.55×1.09	4.07		8	
31	BG-23	9.15	9.75	12.481	剥片	チャート	2.02×2.35×0.78	2.99		8	
46	BG-23	6.25	9.56	12.467	剥片	安山岩	3.64×1.87×1.18	5.31		8	
1	BH-22	0.36	1.00	12.404	剥片	黒曜石	1.23×1.93×0.47	0.88		8	
3	BH-22	0.28	2.00	12.397	石核	チャート	2.81×3.62×1.74	9.58		8	
4	BH-22	0.32	2.20	12.681	ドリル	メノウ	2.67×3.25×1.02	5.96		8	
7	BH-22	1.26	1.50	12.427	剥片	メノウ	(3.71)×2.27×0.94	5.94		8	第70図14
8	BH-22	1.03	2.32	12.367	剥片	メノウ	1.96×1.52×0.50	1.57		8	
9	BH-22	1.55	1.56	12.218	剥片	チャート	2.01×2.61×9.06	4.93		8	
10	BH-22	2.43	1.15	12.405	剥片	チャート	2.36×2.32×1.33	5.05		8	第70図22
11	BH-22	1.88	0.79	12.298	石核	メノウ	1.68×6.08×1.84	13.47		8	
12	BH-22	2.94	1.40	12.491	剥片	砂岩	1.77×1.33×0.64	1.16		8	
16	BH-22	0.21	2.22	12.235	剥片	黒曜石	1.15×0.93×0.18	0.12		8	
17	BH-22	1.23	2.11	12.266	剥片	メノウ	0.86×1.77×0.88	2.57		8	
18	BH-22	1.00	3.54	12.125	剥片	黒曜石	2.7×1.7×0.99	4.31		8	
19	BH-22	0.40	3.65	12.070	剥片	メノウ	1.63×2.17×0.45	1.39		8	
20	BH-22	0.42	3.58	12.000	剥片	黒曜石	0.54×0.92×0.29	0.09		8	

No	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石 質	縦×横×厚さ	重量	接 合	石器集中	備 考
23	BH-22	0.02	3.36	12.033	剥片	メノウ	2.42×1.03×0.56	1.06		8	第70図18
24	BH-22	1.31	3.02	12.178	剥片	メノウ	2.16×3.78×0.75	4.65		8	
32	BH-22	0.57	2.25	12.039	剥片	黒曜石	0.66×1.04×0.33	0.20		8	
33	BH-22	0.03	2.46	12.010	剥片	黒曜石	1.24×2.22×0.48	0.92		8	
36	BH-22	1.43	1.37	12.148	剥片	メノウ	1.44×2.10×0.61	1.36		8	
37	BH-22	1.30	1.51	12.240	剥片	メノウ	2.62×3.08×1.49	8.93		8	
40	BH-22	0.00	3.13	11.918	剥片	メノウ	1.62×1.88×0.62	1.33		8	
42	BH-22	0.15	0.65	12.472	剥片	チャート	0.58×1.21×0.71	0.37		8	
43	BH-22	1.81	1.55	12.782	剥片	チャート	1.91×1.45×0.75	1.89		8	
44	BH-22	原因記載なし		12.940	剥片	チャート	3.43×4.07×1.20	8.63		8	
47	BH-23	0.34	8.38	12.568	剥片	チャート	0.71×1.98×0.31	0.41		8	

第9号石器集中

No	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石 質	縦×横×厚さ	重量	接 合	石器集中	備 考
7	BG-23	3.50	2.72	12.674	剥片	ホルンフェルス	1.24×1.88×0.26	0.59		9	第71図 8
8	BG-23	5.10	2.85	12.417	剥片	安山岩	3.48×1.99×0.60	3.15		9	
9	BG-23	6.27	4.82	12.460	剥片	チャート	2.44×2.22×0.62	2.84		9	
10	BG-23	6.20	5.24	12.594	剥片	チャート	1.62×2.63×1.01	3.68		9	
12	BG-23	6.56	6.19	12.404	剥片	安山岩	2.98×1.45×1.14	5.27		9	
13	BG-23	8.55	4.45	12.646	剥片	チャート	1.53×2.05×0.82	1.57		9	
14	BG-23	8.70	4.22	12.748	剥片	砂岩	5.22×1.86×1.35	8.89		9	
15	BG-23	6.06	7.22	12.362	剥片	砂岩	1.35×2.36×0.70	1.43		9	
16	BG-23	9.04	4.99	12.727	剥片	安山岩	(1.31)×0.27×0.20	0.36		9	
18	BG-23	5.79	7.71	12.362	剥片	チャート	3.94×2.31×0.87	6.80		9	
20	BG-23	5.30	8.39	12.453	剥片	チャート	(2.12)×2.08×0.68	2.29		9	
34	BG-23	3.97	9.19	12.008	剥片	メノウ	5.48×6.62×1.51	37.15		9	
37	BG-23	4.58	8.92	12.139	剥片	チャート	2.08×0.84×1.00	1.14		9	
38	BG-23	3.90	8.49	12.200	剥片	チャート	2.26×2.28×0.91	4.32		9	
39	BG-23	3.33	8.53	12.118	剥片	チャート	1.92×2.01×1.23	3.38		9	
40	BG-23	3.22	8.11	12.122	剥片	チャート	2.24×3.42×1.49	9.08		9	
41	BG-23	2.33	8.28	12.096	剥片	チャート	2.71×2.27×0.55	2.36		9	
42	BG-23	2.19	8.15	12.028	剥片	チャート	2.57×2.89×0.65	4.48		9	
43	BG-23	5.62	7.66	12.194	剥片	メノウ	1.75×1.98×0.65	1.58		9	
44	BG-23	2.12	7.10	12.228	剥片	チャート	1.41×1.26×0.28	0.21		9	
45	BG-23	5.10	2.85	12.417	剥片	チャート	3.08×3.17×0.81	5.89		9	
47	BG-23	6.56	6.19	12.404	剥片	チャート	2.15×2.33×0.63	2.55		9	

第10号石器集中

No	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石 質	縦×横×厚さ	重量	接 合	石器集中	備 考
25	BH-23	原因記載なし		12.630	ナイフ	チャート	2.56×1.12×0.46	1.14		10	第72図 1
27	BH-23	7.74	1.18	13.060	剥片	チャート	2.04×2.77×0.64	3.06		10	
28	BH-23	7.95	1.60	13.042	剥片	チャート	0.79×1.65×0.47	0.42		10	
29	BH-23	7.96	0.92	13.054	剥片	粘板岩	3.01×2.60×0.86	5.28		10	
30	BH-23	7.97	0.78	12.870	剥片	チャート	2.45×2.37×0.56	2.00		10	
31	BH-23	7.30	0.42	13.244	剥片	チャート	0.65×1.52×0.28	0.25		10	
32	BH-23	7.27	0.60	12.872	剥片	メノウ	2.59×5.51×1.39	17.75		10	
33	BH-23	6.66	0.43	12.898	剥片	チャート	3.01×4.28×0.84	12.08	35	10	
34	BH-23	6.51	0.57	12.966	剥片	チャート	5.43×3.66×1.65	22.45		10	
35	BH-23	6.28	0.75	12.972	剥片	チャート	4.14×4.91×1.48	27.94	33	10	
38	BH-23	8.76	0.87	13.200	剥片	チャート	1.28×1.73×0.53	1.05		10	
39	BH-23	8.62	0.88	13.132	剥片	粘板岩	1.56×1.43×0.61	1.24		10	
40	BH-23	8.37	0.95	13.055	剥片	粘板岩	3.42×2.16×0.74	3.67		10	
41	BH-23	8.57	1.32	13.245	剥片	チャート	3.68×2.21×0.67	4.65		10	
42	BH-23	7.97	0.44	13.126	ナイフ	チャート	2.80×1.42×0.51	2.10		10	
43	BH-23	7.95	0.53	13.359	剥片	チャート	(2.86)×2.17×0.98	5.00		10	
44	BH-23	8.00	1.24	13.957	剥片	チャート	1.12×0.82×0.32	0.17		10	
45	BH-23	6.90	0.14	12.725	剥片	チャート	3.32×2.22×1.24	7.87		10	
46	BH-23	6.83	0.27	13.319	剥片	粘板岩	3.20×2.25×5.05	3.85		10	
17	BH-24	7.09	9.66	13.360	剥片	頁岩	1.49×1.61×0.49	1.10		10	
18	BH-24	6.82	9.16	12.972	剥片	チャート	4.06×4.56×2.02	30.47		10	
19	BH-24	6.86	9.65	12.798	剥片	粘板岩	1.32×3.03×1.48	4.04		10	
22	BH-24	4.88	9.66	12.836	石核	安山岩	3.46×5.01×4.39	96.11		10	
23	BH-24	3.42	9.64	12.792	剥片	粘板岩	3.03×2.64×1.04	5.15		10	
24	BH-24	3.52	9.06	12.836	剥片	黒色ガラス質安山岩	2.12×1.82×0.37	1.73		10	
26	BH-24	2.28	9.09	12.940	剥片	黒色ガラス質安山岩	3.89×4.26×1.27	23.63		10	
27	BH-24	3.16	8.02	13.250	剥片	チャート	1.24×1.20×0.37	0.47		10	

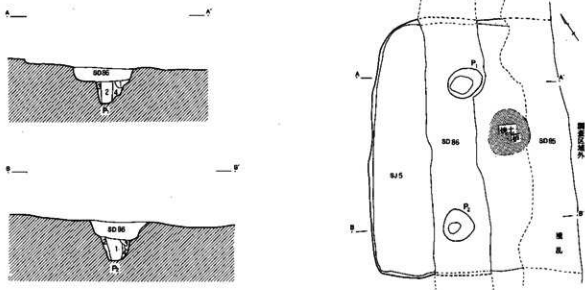
第3表 旧石器時代礫観察表

No.	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	材質	重量	接合	備考
2	BG-22	8.93	0.28	12.248	礫	砂岩	27.39		
4	BG-22	8.85	0.87	12.203	礫	砂岩	1.37		
5	BG-22	8.43	1.07	12.267	礫	砂岩	27.06		
8	BG-22	8.92	3.18	11.910	礫	チャート	15.50		
9	BG-22	9.00	3.94	11.880	礫	砂岩	25.25		
11	BG-22	9.84	3.79	12.016	礫	チャート	52.73		
12	BG-22	8.87	0.76	12.144	礫	安山岩	2.21		
13	BG-22	9.72	0.30	12.027	礫	安山岩	30.15		
2	BH-22	0.40	1.50	12.310	礫	チャート	5.89		
5	BH-22	1.00	1.41	12.483	礫	チャート	9.40		
6	BH-22	1.05	1.60	12.247	礫	チャート	6.80		
21	BH-22	0.42	3.40	12.020	礫	砂岩	9.15		
22	BH-22	0.66	3.20	12.041	礫	チャート	5.77		
25	BH-22	0.44	2.88	12.000	礫	安山岩	83.46		
26	BH-22	0.50	2.87	12.045	礫	砂岩	295.85		
27	BH-22	1.00	2.54	12.133	礫	砂岩	4.28		
28	BH-22	0.98	2.35	12.235	礫	砂岩	8.59		
29	BH-22	0.73	2.46	12.014	礫	安山岩	5.12		
30	BH-22	1.03	2.27	12.083	礫	安山岩	26.55		
31	BH-22	1.28	2.36	12.010	礫	砂岩	6.66		
34	BH-22	0.04	2.44	12.093	礫	チャート	1.61		
38	BH-22	1.18	1.73	12.218	礫	砂岩	34.96		
39	BH-22	0.83	3.25	11.929	礫	チャート	22.57		
1	BF-23	9.68	0.87	12.575	礫	チャート	19.21		
2	BF-23	9.65	0.85	12.576	礫	チャート	24.30		
3	BF-23	9.63	0.89	12.572	礫	砂岩	5.47		
7	BF-23	9.50	1.08	12.622	礫	安山岩	30.44		
9	BF-23	8.23	0.63	12.518	礫	チャート	17.14		
10	BF-23	8.73	1.03	12.610	礫	チャート	22.03		
11	BF-23	8.92	1.27	12.568	礫	安山岩	4.99		
13	BF-23	8.66	1.33	12.514	礫	安山岩	11.82		
14	BF-23	8.96	1.50	12.490	礫	安山岩	41.39		
15	BF-23	8.43	1.45	12.512	礫	チャート	27.65		
17	BF-23	6.98	0.09	12.572	礫	チャート	3.80		
18	BF-23	6.55	0.20	12.478	礫	安山岩	26.68		
19	BF-23	6.06	0.15	12.625	礫	安山岩	44.03		
1	BG-23	3.64	0.42	12.692	礫	砂岩	12.75		
2	BG-23	4.09	0.48	13.650	礫	砂岩	20.73		
3	BG-23	4.38	0.40	13.560	礫	砂岩	7.31		
4	BG-23	3.97	0.01	12.634	礫	砂岩	21.84		
5	BG-23	5.79	1.20	12.685	礫	砂岩	8.07		
6	BG-23	3.28	2.48	12.497	礫	チャート	28.41		
11	BG-23	6.39	5.94	12.536	礫	安山岩	0.47		
17	BG-23	5.28	6.57	12.407	礫	安山岩	111.94		
19	BG-23	4.50	9.20	12.297	礫	安山岩	52.59		
21	BG-23	6.25	9.56	12.467	礫	砂岩	53.9		
24	BG-23	7.05	8.00	12.411	礫	安山岩	25.71		
27	BG-23	8.54	8.89	12.352	礫	チャート	69.85		
33	BG-23	0.24	9.83	11.674	礫	砂岩	138.71		
35	BG-23	4.05	9.75	11.873	礫	安山岩	180.86		
36	BG-23	5.45	9.50	12.142	礫	安山岩	219.57		
5	BH-23	5.87	7.79	12.715	礫	砂岩	1.45		
16	BH-23	2.70	8.47	12.520	礫	安山岩	12.32		
18	BH-23	3.74	9.55	12.771	礫	砂岩	2.85		
22	BH-23	7.32	9.80	12.727	礫	チャート	4.92		
1	BF-24	8.90	9.87	12.675	礫	安山岩	35.23		
2	BF-24	8.54	9.69	12.634	礫	安山岩	34.56		
3	BF-24	8.90	8.72	12.570	礫	砂岩	25.52		
4	BF-24	7.75	8.38	12.632	礫	チャート	10.87		
6	BF-24	7.67	9.99	12.596	礫	砂岩	50.33		
7	BF-24	6.80	9.57	12.665	礫	安山岩	15.55		
8	BF-24	6.97	8.82	12.575	礫	安山岩	22.79		
9	BF-24	6.85	8.55	12.556	礫	砂岩	19.39		
11	BF-24	5.38	9.32	12.626	礫	安山岩	7.87		
4	BG-24	8.40	3.15	13.385	礫	安山岩	105.27	9.12	
5	BG-24	8.88	5.18	13.214	礫	砂岩	40.15		
6	BG-24	7.36	2.64	13.365	礫	砂岩	10.66	4.12	

向原遺跡 3次調査

No.	グリッド	北-南	東-西	標高(m)	器種	石 質	重 量	接 合	備 考
8	BG-24	7.03	2.48	13.401	礎	砂岩	53.50		
9	BG-24	6.93	2.84	13.360	礎	安山岩	17.34	4.12	
12	BG-24	7.75	2.95	13.135	礎	安山岩	55.61	4.9	
13	BG-24	8.00	2.95	13.238	礎	砂岩	43.79		
15	BG-24	7.28	4.57	13.105	礎	砂岩	28.44		
18	BG-24	8.73	2.42	13.006	礎		0.93		
22	BG-24	8.67	3.50	12.805	礎	砂岩	14.12		
26	BG-24	9.39	3.72	14.120	礎	チャート	9.36		
29	BG-24	9.91	3.21	13.888	礎	チャート	5.38		
36	BG-24	9.41	5.75	13.812	礎	砂岩	1.36		
37	BG-24	9.39	5.29	13.928	礎	チャート	3.57		
42	BG-24	9.31	4.00	13.777	礎	チャート	18.10		
46	BG-24	6.80	3.00	14.007	礎	砂岩	5.96		
47	BG-24	4.82	4.92	13.014	礎	チャート	15.58		
48	BG-24	5.31	3.79	13.173	礎	砂岩	6.10		
52	BG-24	8.60	5.79	12.696	礎	砂岩	5.64		
73	BG-24	8.30	1.08	12.773	礎	チャート	1.66		
75	BG-24	8.79	0.95	12.768	礎	安山岩	949.72		
76	BG-24	9.00	1.05	12.788	礎	安山岩	379.20		
5	BH-24	1.22	2.72	13.905	礎	砂岩	4.85		
21	BH-24	5.59	9.50	12.572	礎	砂岩	2.27		
25	BH-24	2.87	9.00	12.664	礎	チャート	9.31		
32	BH-24	2.33	3.44	12.870	礎	チャート	777.94		チャート原石
35	BH-24	3.22	2.19	13.036	礎	閃緑岩	6.51		
37	BH-24	2.97	6.20	12.704	礎	チャート	22.37		
1	BF-24	8.53	5.87	13.624	礎	安山岩	37.31	2.3.4.6.8.9	
2	BF-24	8.28	5.71	13.603	礎	安山岩	52.71	1.3.4.6.8.9	
3	BF-24	8.32	5.68	13.604	礎	安山岩	103.41	1.2.4.6.8.9	
4	BF-24	8.43	5.55	13.581	礎	安山岩	238.69	1.2.3.6.8.9	
5	BF-24	8.3	5.50	13.611	礎	安山岩	17.57	12	
6	BF-24	8.28	5.52	13.609	礎	安山岩	6.37	1.2.3.4.8.9	
7	BF-24	8.14	5.25	13.566	礎	安山岩	167.09	5.11.16	
8	BF-24	7.81	5.16	13.560	礎	安山岩	59.67	1.2.3.4.6.9	
9	BF-24	7.76	4.78	13.572	礎	安山岩	108.62	1.2.3.4.6.8	
11	BF-24	8.43	4.27	13.575	礎	安山岩	141.78	5.7.16	
12	BF-24	9.69	7.46	13.666	礎	砂岩	80.40	5.12.BJ24-5.E8	折
14	BF-24	6.22	2.44	13.448	礎	安山岩	13.61		
16	BF-24	9.69	7.46	13.666	礎	安山岩	171.01	5.7.11	
2	BJ-24	0.16	8.93	13.608	礎	砂岩	1.33		
4	BJ-24	0.80	9.00	13.600	礎	砂岩	11.12		
5	BJ-24	0.67	8.92	13.610	礎	砂岩	23.29	一括3ヶBJ24-12	
6	BJ-24	0.65	8.68	13.623	礎	砂岩	79.39	7.8.27.30	
7	BJ-24	0.65	8.73	13.618	礎	砂岩	42.59	6.8.27.30	
8	BJ-24	0.57	8.69	13.634	礎	砂岩	26.15	6.7.27.30	
9	BJ-24	0.53	8.72	13.613	礎	砂岩	A26.29		
10	BJ-24	0.50	8.76	13.638	礎	砂岩	98.17		
11	BJ-24	0.42	8.19	13.626	礎	砂岩	184.82	20	
12	BJ-24	0.90	8.57	13.607	礎	砂岩	13.66		
14	BJ-24	0.15	8.14	13.599	礎	安山岩	33.79		
15	BJ-24	0.32	7.57	13.646	礎	砂岩	59.62	16.17.18.24.25.29	
16	BJ-24	0.72	7.73	13.619	礎	砂岩	A93.39	15.17.18.24.25.29	
17	BJ-24	0.79	7.69	13.646	礎	砂岩	102.73	15.16.18.24.25.29	
18	BJ-24	0.80	7.64	13.638	礎	砂岩	239.54	15.16.17.24.25.29	
19	BJ-24	1.56	7.79	13.633	礎	安山岩	A16.35	23	
20	BJ-24	0.70	9.43	13.537	礎	砂岩	7.88	11	
22	BJ-24	0.40	8.64	13.468	礎	安山岩	6.43		
23	BJ-24	0.69	8.07	13.504	礎	安山岩	13.12		
24	BJ-24	0.61	7.73	13.508	礎	砂岩	6.36	15.16.17.18.25.29	
25	BJ-24	0.20	7.66	13.592	礎	砂岩	40.03	15.16.17.18.24.25	
27	BJ-24	0.53	8.72	13.613	礎	砂岩	B21.03	6.7.8.30	
28	BJ-24	0.53	8.72	13.613	礎	砂岩	3.69		
29	BJ-24	0.72	7.73	13.619	礎	砂岩	B43.93	15.16.17.18.24.25	
30	BJ-24	1.56	7.79	13.633	礎	砂岩	B3.38	6.7.8.27 A.23. 折	

第76図 第5号住居跡

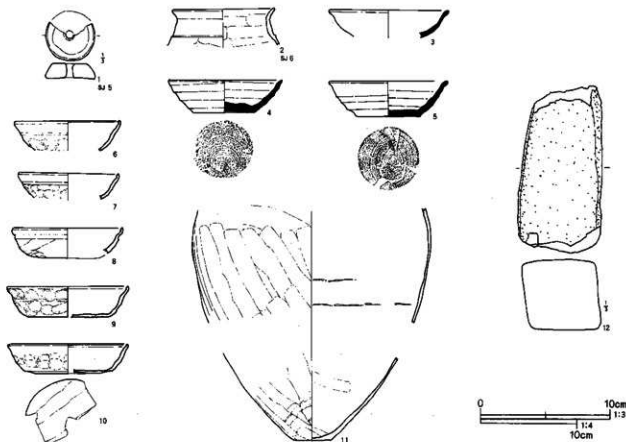


P1

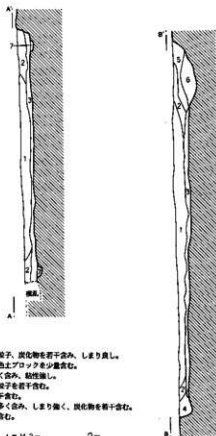
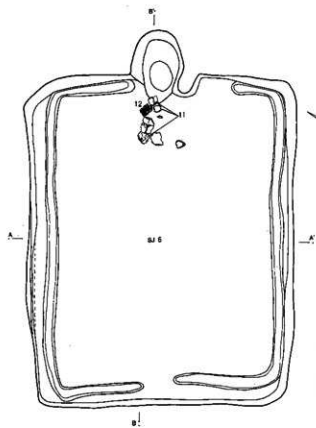
- 1 黄褐色土 しまりあり。焼土粒子 (0.2mm) を少し含む。3、4層より黄色い。
- 2 茶褐色土 ややしまりない。ロームブロック (1~4cm) を多く含む。
- 3 黄褐色土 しまりあり。ローム粒子 (1~2mm) を多く含む。
- 4 黄褐色土 しまりあり。3層よりロームブロックが多い。

P2

- 1 暗茶褐色土 ややしまりない。ロームブロック (2cm) をわずかに含む。
- 2 茶褐色土 しまりあり。ロームブロック (3cm) が多く混じる。
- 3 茶褐色土 しまりあり。2層より黄色い。ローム粒子 (5mm) を多く含む。
- 4 黄褐色土 しまりあり。3層よりロームブロックが多い。

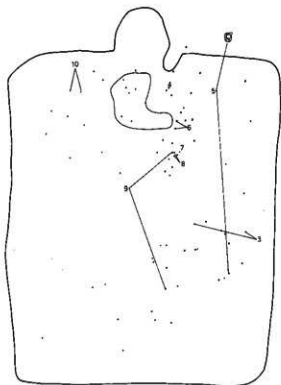


第77図 第6号住居跡

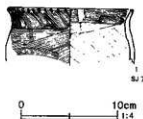
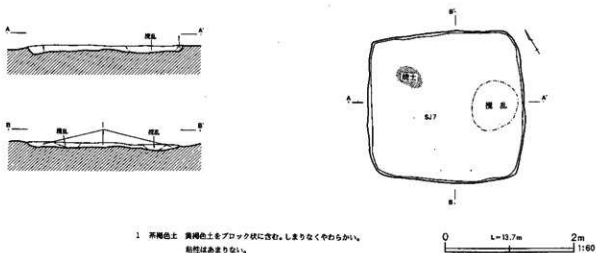


- 1 褐色土 ローム粒子、焼土粒子、炭化物を若干含み、しまり厚し。
- 2 暗褐色土 ローム粒子、褐色土ブロックを少量含む。
- 3 灰褐色土 ローム粒子を多く含み、粘性強し。
- 4 暗黄褐色土 同此層に焼土粒子を若干含む。
- 5 暗黄褐色土 焼土粒子を若干含む。
- 6 暗褐色土 焼土ブロックを多く含み、しまり強く、炭化物を若干含む。
- 7 褐色土 ローム粒子を少量含む。

0 14.2m 2m 1:60



第78図 第7号住居跡



(2) 住居跡

第5号住居跡 (第76図)

BH25グリッドからBI25グリッドで検出された。東側は調査区外であった。長径3.87m、短径(3.13)m、深さ0.14mの長方形をしていた。主軸の傾きは、N-31°Eであった。第85号溝、第86号溝に切られていた。中央部によく焼けた炉が検出された。柱穴は2本見つかった。4本柱穴と推定される。

遺物は、土製紡錘車が1点出土した。

第6号住居跡 (第76図、第77図)

BJ23グリッドからBK23グリッドで検出された。長径5.77m、短径4.00m、深さ0.36mの長方形をしていた。カマドを有する。主軸の傾きは、N-63°Eであった。壁溝はカマドとカマドの反対側を除いて全周する。柱穴は検出されなかった。自然堆積。

遺物は、土師器環、甕、須恵器環が見つかった。土

師器環は極薄手で口縁部は内側に曲がる。口縁部はナデられることが多く、体部に指頭痕が残っている。甕は体部に縦方向のケズリ。[口縁部付近には「コ」字状の段がある。須恵器環は立ち上がりやや弱く、低部は糸切り、糸切周辺ケズリである。12は土製の支脚で断面方形をしている。

第7号住居跡 (第78図)

BG25グリッドからBH25グリッドで検出された。長径2.40m、短径2.36m、深さ0.12mの長方形をしていた。主軸の傾きは、N-31°Eであった。北側コーナーに寄って炉が検出された。焼上は薄い。柱穴は確認されなかった。堆積状況は明瞭でない。

遺物は甕が1点出土している。1は口縁部はわずかに開き口唇部に小口状工具によるキザキがある。表面はナデA、内面はナデCが施文される。

第4表 遺物観察表(1)

第7号住居跡 第78図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
1	甕	(13.0)	—	—	B 2	A	暗褐色	25%	sj3 no.3	

第8号住居跡 第79図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
1	台付甕	15.8	23.9	4.8	A	A	暗褐色	95%	sj4 no.29	
2	鉢	(8.8)	—	—	A	C	橙褐色	20%	sj4 no.2+no.6	
3	鉢	—	5.0	—	B 1	C	にぶい暗褐色	20%	sj4 no.3+no.22	
4	台付甕台部	—	—	9.6	A	A	暗赤褐色	100%	sj4	

第9号住居跡 第79図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
5	高坏	21.4	—	—	B 2	A	暗赤褐色	坏部50%	sj5 no.24, 25, 26	
6	高坏	14.0	—	—	A	A	赤褐色	坏部完形	sj5 no.1, 3-15, 18-20	

第11号住居跡 第82図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
1	鉢	8.8	9.2	5.4	B 2	C	薄い橙色	50%	sj7 no.6	
2	台付甕	—	—	(10.4)	B 2	B	暗褐色	台部25%	sj7 no.7	

第12号住居跡 第83図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
3	台付甕	15.8	25.0	8.6	A	B	暗褐色	96%	sj8 no.29	
4	甕	13.0	25.0	8.8	A	A	橙褐色	95%	sj8	
5	鉢	10.6	8.6	4.5	B 1	C	橙褐色	95%	sj8	
6	高坏	—	—	—	B 2	C	橙褐色		sj8 no.14	
7	甕	—	—	5.0	B 1	A	黄褐色		sj8 -折	

第20号土壇 第86図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
1	台付甕	14.2	—	—	A	A	黒褐色	70%	sk5 D-5一括	
2	台付甕	(13.6)	—	—	B 4	B	黒褐色	30%	sk5	
3	鉢	6.8	11.8	4.6	A	A	にぶい橙色		sk5 no.4	
4	甕	(15.8)	—	—	A	C	黄褐色		sk5 D-3, 4, 5	赤彩
5	甕	—	—	—	B 2	A	薄い灰褐色	胴部67%	sk5 no.2	
6	甕	19.7	25.5	8.5	A	A	褐色	80%	sk6	

第21号土壇 第87図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
9	甕	11.0	22.2	(6.8)	B 1	A	暗褐色	40%	sk6 no.1, c-5, 12	赤彩

第123号土壇 第87図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
10	甕	18.4	—	—	A	A	灰白色		sk8	赤彩
11	小形甕	—	(10.0)	4.8	B 2	A	薄い赤褐色	80%	sk8 no.3	
12	小形甕	—	—	4.6	B 2	A	灰褐色		sk8 no.6	
13	—	—	—	8.4	A	A	灰褐色	底部25%	sk8 no.1, 4	

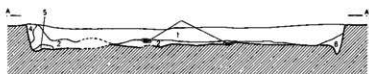
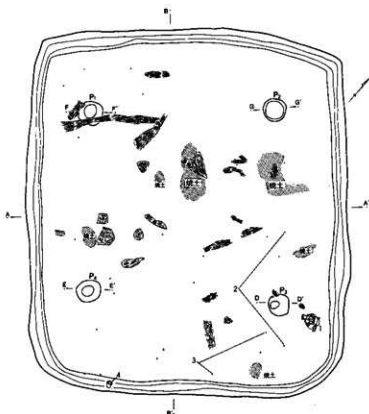
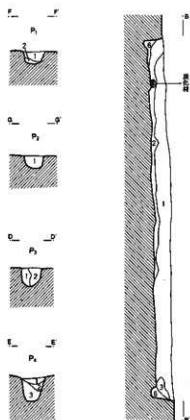
第124号土壇 第87図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
14	甕	—	—	(8.0)	B 1	A	灰褐色	底部33%	sk9 no.1	

第1号方圆形溝墓 第91図

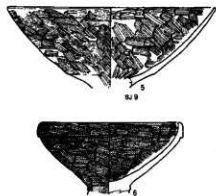
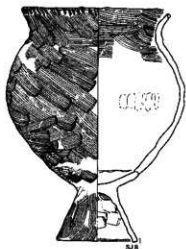
番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
1	甕	9.0	58.3	15.1	B 1	A	薄い赤褐色	90%	SR1	
2	高坏	16.4	—	—	A	A	赤褐色	坏部20%	SR1 E-195	赤彩
3	高坏	16.1	—	—	A	A	赤褐色		SR1 w-81	
4	小形甕	4.8	6.4	3.2	A	C	薄い橙色	100%	SR1 G-G'	
5	鉢	(6.5)	3.8	(4.0)	A	C	明赤褐色	20%	SR1 N-54	
6	鉢	3.8	—	—	B 2	A	暗褐色	25%	SR1 E-176	
7	高坏(脚部)	—	—	(11.8)	A	A	明褐色		SR1 S-6, 7, 43, 197	赤彩
8	高坏(脚部)	—	—	—	A	A	赤褐色		SR1 w-115	
9	小形鉢	(7.2)	(6.0)	—	B 2	A	暗褐色		SR1 E-111, 148	
10	小形鉢	8.2	—	—	A	A	暗褐色	口縁20%	SR1 S-5	
11	鉢	(9.4)	—	—	A	A	暗褐色	口縁20%	SR1 S-229	
12	高坏	—	—	(10.9)	A	C	橙褐色		SR1 N-111	
13	甕台	—	—	—	A	A	褐色	20%	SR1 N-73	赤彩

第79図 第8号住居跡

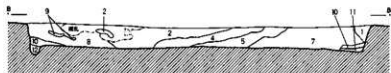
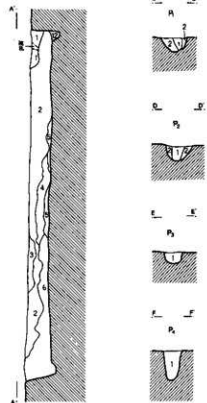
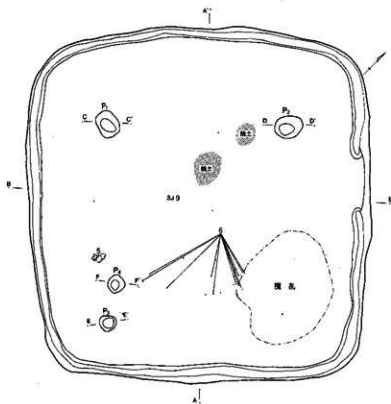


- P1
1 赤褐色土 しまり強い、ロームブロック(3cm)を少し含む。
2 黄褐色土 しまりあり。地山のロームに近似。
- P2
1 赤褐色土 しまり強い、ロームブロック(3cm)を少し含む。
P3
1 赤褐色土 しまりあり。
2 黄褐色土 しまりあり。地山のロームに近似。
- P4
1 赤褐色土 しまり強い、ロームブロック(3cm)を少し含む。
2 赤褐色土 しまり強い、ロームブロックを1層より多く含む。
3 黄褐色土 しまりあり。地山のロームに近似。

- 1 褐色土 しまりあまりない。焼土と炭化種子(2~3mm)を少し含む。地山のロームがまばらに混入する。
2 赤褐色土 しまりあり。炭化材と焼土を多く含む。
3 赤褐色土 2層よりしまりなし。炭化物と焼土を多く含む。
4 黄褐色土 しまりあまりない。壁が壊れた部分と混わる。
5 黄褐色土 4層よりしまりあり。
6 黄褐色土 たいへんしまりがある。



第80図 第9号住居跡



- 1 黄褐色土、しまりあまりない。
- 2 黄褐色土、1層よりしまりあり、ロームブロック(4cm)をまばらに含む。建物跡の中心の部分を1つよりな溝い、みがかのころに入る。
- 3 黄褐色土、1層より黄褐色い、ローム瓦片(5mm)を少し含む。
- 4 黄褐色土、たいへんしまりがある。黄褐色土をまばらに含む。
- 5 黄褐色土、しまりあり、2層より厚く、黄褐色土、ローム瓦片(2-3mm)を多く含む。

- 6 黄褐色土、しまりあり、ローム瓦片(5mm)を含む。
- 7 黄褐色土、6層より黄褐色い、ロームブロック(2cm)を多く含む。
- 8 黄褐色土、4層よりしまりあり、灰土層と土をわずかに含む。
- 9 灰褐色土、しまり、粗粒あり。
- 10 黄褐色土、しまりあり、ロームブロック(3cm)を少し含む。
- 11 黄褐色土、はまより厚い、地に近し。
- 12 黄褐色土、しまりあり、地に近し。

P1-P2-P3

- 1 黄褐色土、しまりあり、ローム瓦片(3mm)を少し含む。
- 2 黄褐色土、しまりあり、ローム瓦片(3mm)を多く含む。
- P4
- 1 黄褐色土、しまりあり、ローム瓦片(5-10mm)を多く含む。

0 L=12.6m 2m 1:60

第8号住居跡 (第79図)

BF24、BF25グリッドからBG24、BG25グリッドで検出された。長径5.62m、短径4.95m、深さ0.46mの長方形をしていた。主軸の傾きは、N-43°-Wであった。4本柱穴が確認された。炉は中央からやや北によって確認された。床面にはかなりの焼土と炭化材が散乱していた。土壌の堆積は、埋めた形跡はなく自然堆積と思われる。

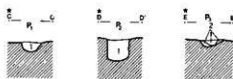
遺物は台付甕、鉢類が出土した。1は台付甕で口唇部に小口状工具によるキザミがある。表面体部はナデ

Aが施文されている。内面口縁部付近は、ナデAが胴部中央付近には指節による押さえが残っている。台部は端部がわずかに内向する。2、3は碗で赤彩、入念に磨かれる。3はわずかに上げ底風。

第9号住居跡 (第79図、第80図)

BF25、BF26グリッドからBG25グリッドで検出された。長径5.46m、短径5.28m、深さ0.49mの隅丸方形をしていた。北東部を除いて塹溝が全周する。主軸の傾きは、N-43°-Wであった。中央からやや北西に寄って、焼土が見つかっている。炉跡と思われる。柱穴は4本

第81図 第10号住居跡



- 1 腐植土 しまりなし、ロームブロック (6~8cm) を主体とする。
 2 腐植土 しまりなし、ロームブロック (3~4cm) を主体とし、
 粘土 (3~4cm) と腐植土の中間層が多く含む。

P1

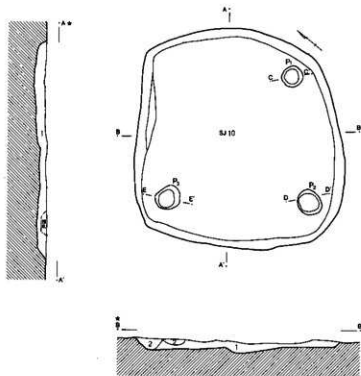
- 1 腐植土 しまりあり、ローム粒子 (2~3mm) をたいへん多く含む。
 P2

- 1 腐植土 しまりあり、ローム粒子 (5~10mm) をたいへん多く含む。
 腐植土も多く含む。

P3

- 1 腐植土 しまりなし、ローム粒子 (2~3mm) を多く含む。

- 2 腐植土 しまりあり、ローム粒子 (2~3mm) をたいへん多く含む。



見つかって、3本が支柱穴と思われる。埋土は自然堆積で傾斜地の状況を示している。遺物は高坏の坏部が2点見つかった。5は大型で比較的薄手で口縁部がすんなりと外反し下部でわずかな段を持つ。内外面ともにミガキが行われる。6はきっちりした小型で口縁部に段を持つ。表裏両面ともに人念なミガキが施される。

第10号住居跡 (第81図)

BG25、BG26グリッドから検出された。長径3.36m、短径3.24m、深さ0.18mの隅丸方形をしていた。主軸の傾きは、N-39°Eであった。柱穴はコーナーに寄った3箇所で検出した。北側で検出できなかった。炉は確認されなかった。埋土は薄く堆積状況は確認できない。実測できる遺物はなかった。

第11号住居跡 (第82図)

BF26グリッドから検出された。長径4.31m、短径(3.73)m、深さ0.96mの隅丸方形をしていた。主軸の傾きは、N-32°Eであった。第86号溝、第87号溝に切られていた。攪乱に荒らされていた。柱穴は1箇所しか

検出できなかった。壁溝が現状で一周する。炉も検出できなかった。

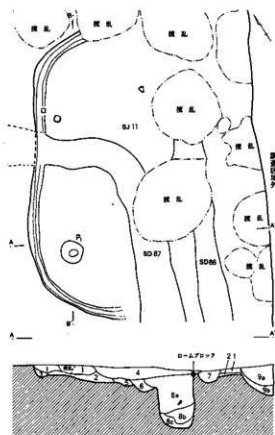
遺物は鉢、台付甕、土缶が2個体出土した。1は鉢。口縁部は立ち気味で、わずかに屈曲する。表面は縦方向の粗いミガキ。内面は横方向のナデBである。2は台付甕台部。端部はわずかに開く。

第12号住居跡 (第83図)

BE26グリッドからBE27グリッドで検出された。長径(3.12)m、短径2.15m、深さ0.31mの長方形をしていた。主軸の傾きは、N-31°Wであった。柱穴、炉ともに検出できなかった。遺物は北壁に寄って検出している。

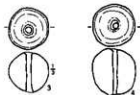
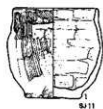
遺物は、比較的多く出土している。1~3は台付甕。3は口唇部に小口状工具によるキザミが施文される。外面は丹念なナデA。内面中央部付近に指頭による押さえが確認される。台部はわずかに内彎する。きわめて薄手。4はほぼ完成品。口縁部はきちんと面取りがされている。外面はナデAが施文され磨かれなし。口縁部内面については磨かれる。

第82図 第11号住居跡



- 1 赤褐色土 しまり強い。炭化物(2~3mm)とローム粒子(3~6mm)を多く含む。
- 2 赤褐色土 しまりあり。1層より黄色い。炭化物は1層より少ない。1層よりローム粒子を多く含む。
- 3 黄褐色土 しまりあり。ロームブロック(2~3cm)を多く含む。
- 4 赤褐色土 しまり強い。1層より黄色い。炭化物(2~3mm)とローム粒子(3~6mm)を少量含む。
- 5 赤褐色土 しまりあり。4層より黄色く、2層より黄色い。炭化物はほとんど含まない。
- 6 赤褐色土 しまりあり。4層、5層より黄色い。ローム粒子(2mm)を多く含む。砂質の火山灰を産層付近に多く含む。
- 7 赤褐色土 しまりあり。4層よりしまりあり。ローム粒子(2mm)を少し含む。
- 8a 黄褐色土 しまりあり。ロームブロック(3~5cm)を多く含む。
- 8b 暗褐色土 しまりあり。ロームブロック(3~5cm)を少量含む。
- 8c 黄色土 しまりあり。堆山のロームが腐化してゴロゴロにひびいたもの。
- 9a 暗赤褐色土 しまり強い。ロームブロック(2~3cm)を含む。
- 9b 赤褐色土 しまり強い。9aよりロームブロックを多く含む。

0 L=13.6m 2m 1:60

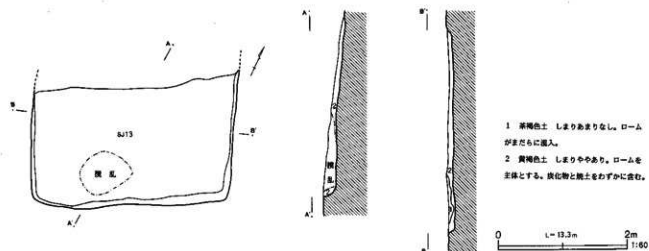


0 10cm 1:4 10cm

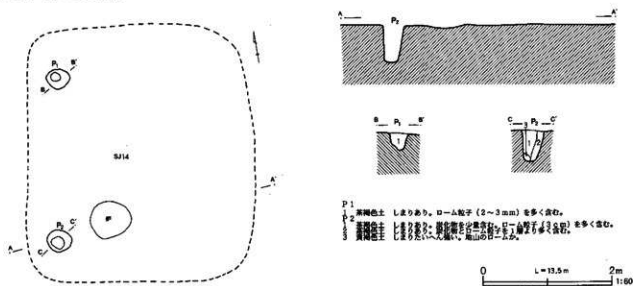
第5表 遺物観察表(2)
第1号方形周溝墓(第92図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎十・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
14	壺	—	(43.1)	11.2	A	A	暗褐色	70%	SRI S-202 w-136	
15	壺	25.6	—	—	B 2	A	暗褐色	20%	SRI w-18, 34	赤彩
16	壺	(13.6)	—	—	B 1	C	暗褐色	口縁20%	SRI w-99	
17	壺	14.4	—	—	A	C	灰褐色		SRI N-30, 45	
18	小形埴	9.6	—	—	A	A	赤褐色	口縁50%	SRI N-27, 44, 108	赤彩
19	広口壺	—	—	—	B 3	A	明褐色		SRI	
20	壺	—	—	9.2	B 3	A	橙褐色		SRI w-165, 166, 174	赤彩
21	壺	—	—	—	A	B	明褐色	胴部25%	SRI w-167, 168, 169	
22	壺	—	—	6.8	A	A	橙褐色	底部50%	SRI w-91	赤彩
23	壺(底部)	—	8.4	—	B 3	A	暗褐色			

第84図 第13号住居跡



第85図 第14号住居跡



5は鉢。口縁部はやや立ち気味でわずかに屈曲する。表面は粗く磨かれる。8は壺頸部で三角形の突帯が付加されている。

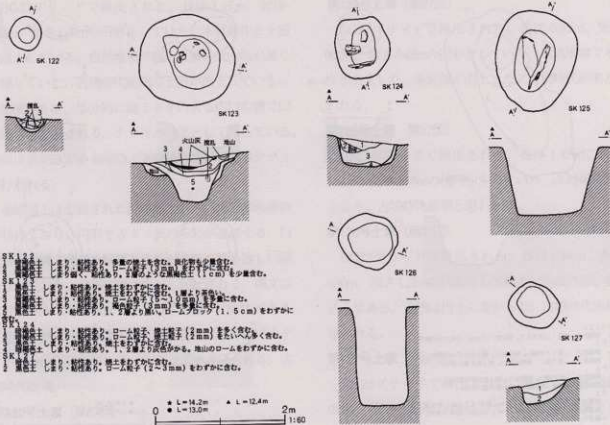
第13号住居跡 (第84図)

BD26、BD27グリッドからBE26、BE27グリッドで検出された。長径3.13m、短径(1.77)m、深さ0.19mの長方形をしていたと思われる。主軸の傾きは、N-26°-Wであった。柱穴、炉跡ともに確認出来なかった。遺物は出土しなかった。

第14号住居跡 (第85図)

BF26グリッドから検出された。長径(3.95)m、短径(2.51)mの隅丸方形をしていたと思われる。主軸の傾きは、N-9°-Eであった。壁は確認されなかったが、炉とピットが検出された。炉は南にかなり寄っている。2本の柱穴は主柱穴であろう。遺物は検出されなかった。

第87図 土壇 (第122~127号)



SK 122: 土壇の中心部を削り、その中心部に土壇を築き、その周囲に土壇を築く。土壇の高さは約1.5m、直径は約3mである。土壇の中心部には、直径約1.5mの円形の穴があり、その周囲には、直径約1.5mの円形の穴が並んでいる。土壇の中心部には、直径約1.5mの円形の穴があり、その周囲には、直径約1.5mの円形の穴が並んでいる。

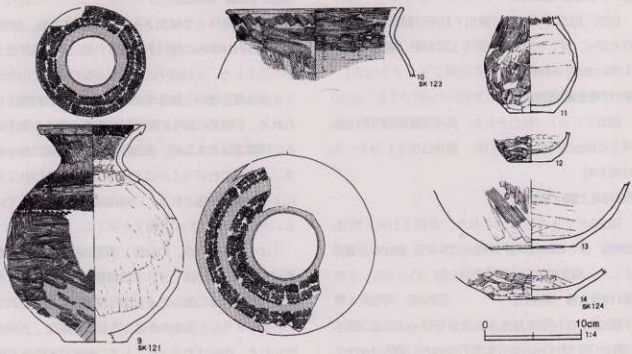
SK 123: 土壇の中心部を削り、その中心部に土壇を築き、その周囲に土壇を築く。土壇の高さは約1.5m、直径は約3mである。土壇の中心部には、直径約1.5mの円形の穴があり、その周囲には、直径約1.5mの円形の穴が並んでいる。土壇の中心部には、直径約1.5mの円形の穴があり、その周囲には、直径約1.5mの円形の穴が並んでいる。

SK 124: 土壇の中心部を削り、その中心部に土壇を築き、その周囲に土壇を築く。土壇の高さは約1.5m、直径は約3mである。土壇の中心部には、直径約1.5mの円形の穴があり、その周囲には、直径約1.5mの円形の穴が並んでいる。土壇の中心部には、直径約1.5mの円形の穴があり、その周囲には、直径約1.5mの円形の穴が並んでいる。

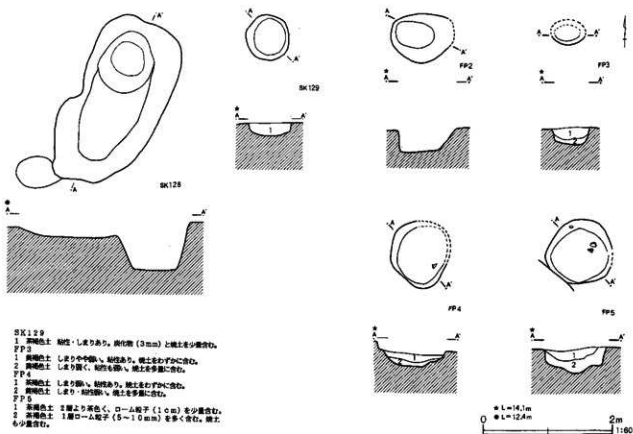
SK 125: 土壇の中心部を削り、その中心部に土壇を築き、その周囲に土壇を築く。土壇の高さは約1.5m、直径は約3mである。土壇の中心部には、直径約1.5mの円形の穴があり、その周囲には、直径約1.5mの円形の穴が並んでいる。土壇の中心部には、直径約1.5mの円形の穴があり、その周囲には、直径約1.5mの円形の穴が並んでいる。

SK 126: 土壇の中心部を削り、その中心部に土壇を築き、その周囲に土壇を築く。土壇の高さは約1.5m、直径は約3mである。土壇の中心部には、直径約1.5mの円形の穴があり、その周囲には、直径約1.5mの円形の穴が並んでいる。土壇の中心部には、直径約1.5mの円形の穴があり、その周囲には、直径約1.5mの円形の穴が並んでいる。

SK 127: 土壇の中心部を削り、その中心部に土壇を築き、その周囲に土壇を築く。土壇の高さは約1.5m、直径は約3mである。土壇の中心部には、直径約1.5mの円形の穴があり、その周囲には、直径約1.5mの円形の穴が並んでいる。土壇の中心部には、直径約1.5mの円形の穴があり、その周囲には、直径約1.5mの円形の穴が並んでいる。



第88図 土壌 (第128・129号)・炉穴 (第2～5号)



(3) 土壌

第116号土壌 (第86図)

BJ22、BJ23 グリッドで検出された。長径0.74m、短径0.67m、深さ0.24mの円形をしていた。遺物は出土していない。時期不明。

第117号土壌 (第86図)

BJ22グリッドで検出された。長径1.63m、短径1.61m、深さ0.18mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第118号土壌 (第86図)

BL23グリッドで検出された。長径1.17m、短径0.94m、深さ0.44mの楕円形をしていた。破片が少量出土した。縄文時代。

第119号土壌 (第86図)

BD27グリッドで検出された。長径(1.56)m、短径0.86m、深さ0.37mの楕円形をしていた。遺物は出土していない。時期不明。

第120号土壌 (第86図)

BG23グリッドで検出された。長径1.77m、短径1.44m、深さ0.64mの楕円形をしていた。木材破片と土器が出土した。木材破片は腐敗がかなり進んでいた。

土器は甕、壺が5個体実測できた。1は台付甕と思われる。口唇部には小口状工具によるキザミが施される。口縁部は立ち気味。表面はナデAが全面に施される。2は甕で台がつくかは不明。口唇部に小口状工具によるキザミが施される。口縁部は受口状になっている。かすかに横方向の沈線文が見える。

3は小型の飾り壺。口縁部と頸部に縄文が施文される。LR横回転で横「S」字状の結節が下端に配される。体部は入念に磨かれる。4は薄手の甕で磨かれる。口唇部がきちんと面取られる。5は壺胴部で、表面が磨かれる。内面はナデ上げられる。最大径がかなり下にある。古墳時代前期。

第121号土壙 (第86図、第87図)

BG22グリッドで検出された。長径-1.47m、短径-1.43m、深さ-1.05mの円形をしていた。木材破片と土器が出土している。自然堆積で埋土層に火山灰が薄く堆積していた。古墳時代前期の土器が出土している。

第86図6は、部分的に縦ミガキの入る広口の甕で口縁部は折り返される。ナデAが地文として残っている。内面はナデBが中央部に、下部接合部以下にはナデAが行われる。

第87図7は赤彩された飾り壺である。縄文部の赤彩が抜けており、円形でボタン状の赤彩が連続する。口縁裏面の縄文部にも同様なものがある。折り返し口縁になっており、頸部に縄文帯が2列配される。縄文はL R横回転で粒が細かく、0段多条の可能性ある。下端部に横「S」状文が付く。胴部はほぼ球形でナデAが部分的に残っている。内面はナデ上げられる。古墳時代前期。

第122号土壙 (第87図)

BG22グリッドで検出された。長径-0.50m、短径-0.48m、深さ-0.20mの円形をしていた。時期不明。

第123号土壙 (第87図)

BG22グリッドで検出された。長径-1.46m、短径-1.38m、深さ-0.60mの円形をしていた。自然堆積で埋土層に火山灰が薄く堆積していた。古墳時代前期の土器が出土している。

第87図8は薄手で赤彩された甕。口縁部はきちんと面取りされる。表面にはナデAが残っている。9は小型壺で口縁部欠落。表面はナデA。10も同じ器形でミ

ガキが窺える。古墳時代前期。

第124号土壙 (第87図)

BG22グリッドで検出された。長径-0.92m、短径-0.83m、深さ-0.42mの円形をしていた。自然堆積で木材片が出土した。壺底部が出土した。古墳時代前期と思われる。

第125号土壙 (第87図)

BF23グリッドで検出された。長径-1.48m、短径-1.24m、深さ-1.06mの楕円形をしていた。木材破片が出土した。古墳時代前期と思われる。

第126号土壙 (第87図)

BG22グリッドで検出された。長径-0.88m、短径-0.80m、深さ-1.51mの円形をしていた。かなり深い掘り込みである。遺物は出土しなかった。古墳時代前期と思われる。

第127号土壙 (第87図)

BG23グリッドで検出された。長径-0.76m、短径-0.68m、深さ-0.30mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第128号土壙 (第88図)

BF23グリッドで検出された。長径-2.65m、短径-1.43m、深さ-0.74mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第129号土壙 (第88図)

BK22グリッドで検出された。長径-0.70m、短径-0.67m、深さ-0.19mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

(4) 炉穴**第2号炉穴 (第88図)**

BH23グリッドで検出された。長径-(0.98)m、短径-0.77m、深さ-0.36mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。縄文時代早期と思われる。

第3号炉穴 (第88図)

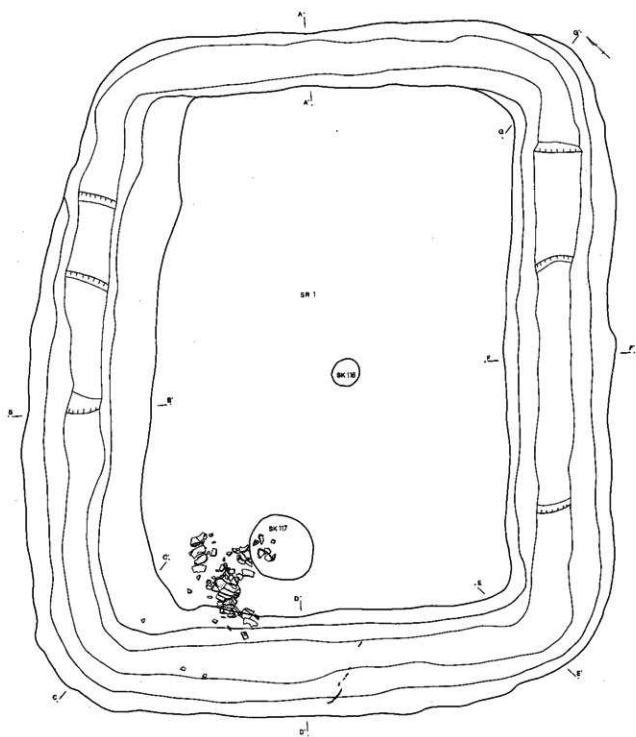
BH23、BI23グリッドで検出された。長径-(0.54)m、

短径-(0.38)m、深さ-0.27mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。縄文時代早期と思われる。

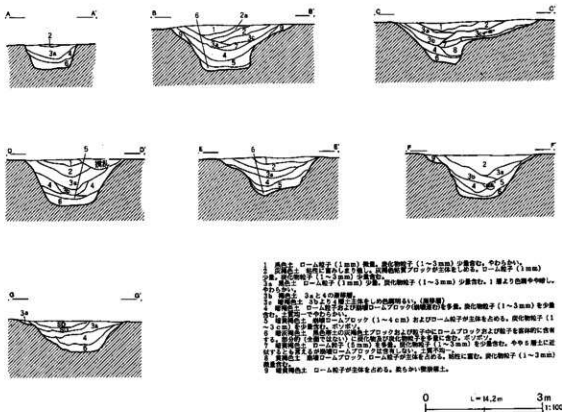
第4号炉穴 (第88図)

BK22グリッドで検出された。長径-1.04m、短径-(0.95)m、深さ-0.31mの円形をしていた。焼土の堆積は薄かった。遺物は出土しなかった。縄文時代早期と思

第89图 第1号方形周溝墓(1)



第90図 第1号方形周溝墓(2)



われる。

第5号炉穴(第88図)

BK22グリッドで検出された。長径(1.04)m、短径

0.98m、深さ0.38mの円形をしていた。焼土の堆積は薄かった。遺物は出土しなかった。縄文時代早期と思われる。

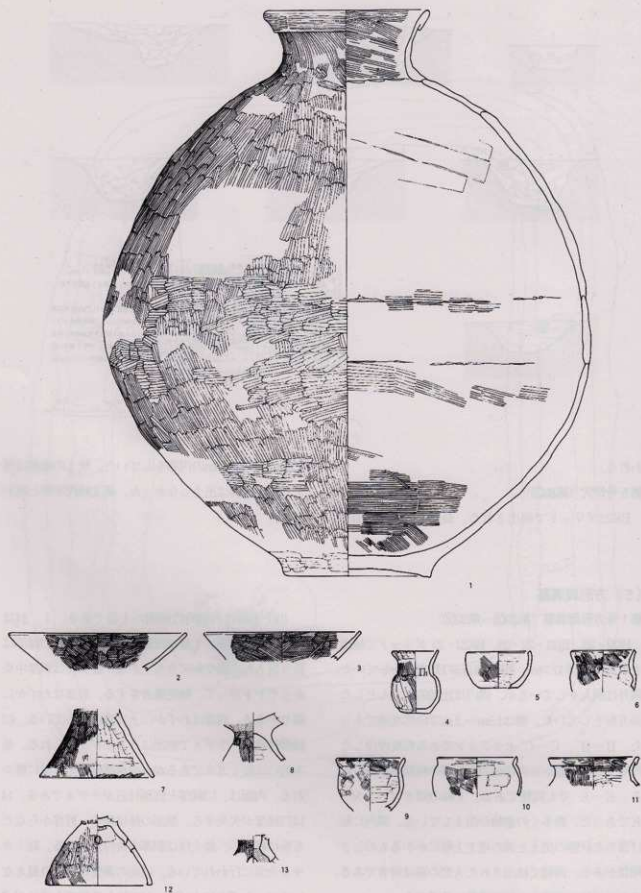
(5) 方形周溝墓

第1号方形周溝墓(第89図~第92図)

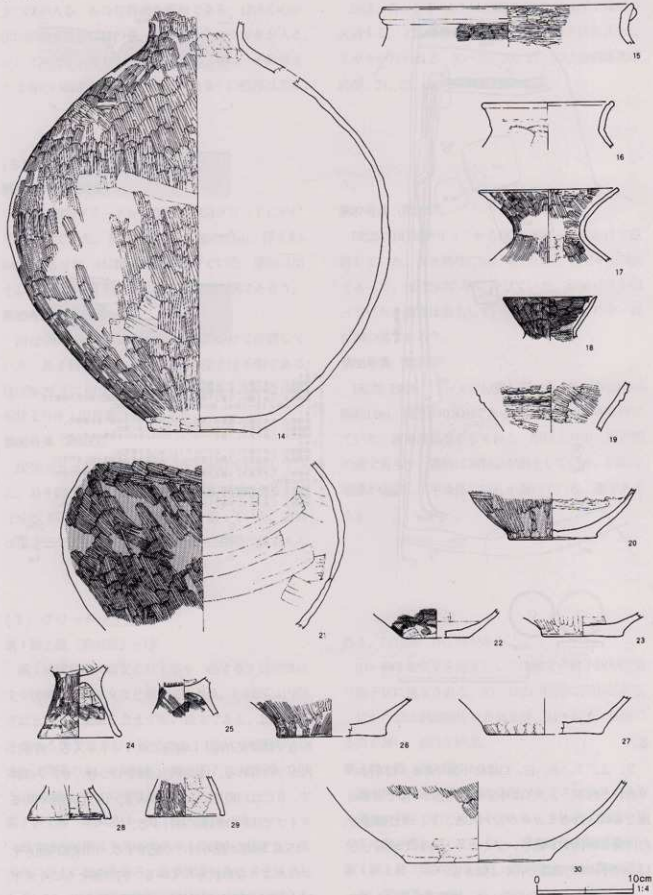
BI22・23、BJ21・22・23、BK22・23グリッドで検出された。長径17.74m、短径15.0mの長方形をしていた。溝外は隅丸をしているが、溝内は比較的きちんとした長方形をしていた。溝は1.5m~3mで自然堆積であった。B-B'、C-C'セクションである程度埋没した段階での、内側からの積極的な土層の堆積が認められる。E-E'でも同様である。主軸の傾きは、N-50'Eであった。数多くの遺物が出土している。溝内に転げ落ちた状態の出土と溝の埋土上層にかかるものと2種類がある。西側で検出された大型の壺は後者である。これは戸崎前遺跡の方形周溝墓に共通する。

出土遺物は古墳時代前期の土器である。1、14は大型の壺である。1はほぼ高さ0.6mを測る。口縁部は折り返され、緩やかに立ち上がる。最大径は胴部中央からやや下がり、無花果方をする。肩部はわずかに張りがある。底部はわずかに上げ底になっている。口縁部付近は、ナデAで胴部はミガキがかけられる。基本的には縦ミガキであるが、中央部付近では横に磨かれる。内面は、口縁部と底部付近がナデAである。14は口縁部が欠失する。頸部の径は細い。肩部からなだらかに移行し、最大径は胴部中央付近である。縦ミガキが全面に行われている。内面の調整はあまり見えないナデ。わずかに上げ底。14に比して繊細な感じがす

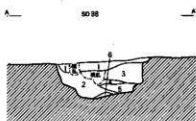
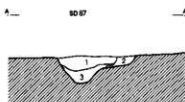
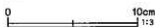
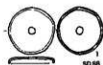
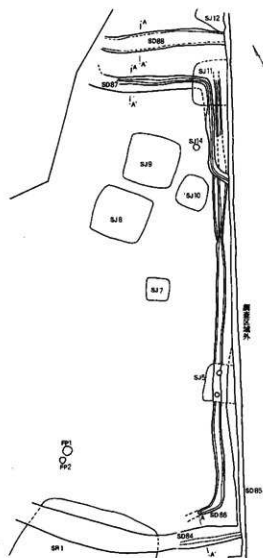
第91图 第1号方形周清墓 (3)



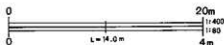
第92図 第1号方形周溝墓 (4)



第93図 溝 (第84~87号)



- SD84
- 1 黄褐色土 しまりあり、ローム粒子 (5mm) を多く含む。
 - 2 茶褐色土 しまりあり、ローム粒子 (2~3mm) を多く含む。
 - 3 茶褐色土 しまりあり、1層より茶色い。腐化部附近には火山灰と思われる砂質土を含む。ローム粒子 (2~3mm)、炭化物 (2~3mm) を少量含む。
- SD87
- 1 茶褐色土 しまりあり、腐を多く含む。ローム粒子 (2~3mm) を少量含む。
 - 2 黄褐色土 しまりあり、ロームブロック (5cm) を多く含む。
 - 3 茶褐色土 しまりあり、1層をベースとし、火山灰と思われる砂質土を多く含む。
- SD98
- 1 茶褐色土 しまりあり、ロームブロック (1cm) を少量含む。
 - 2 黄褐色土 しまりあり、1層より茶色い。ロームブロック (1~3cm) をわずかに含む。
 - 3 茶褐色土 しまりあり、1層より茶色い。ローム粒子 (5mm) と炭化物 (3mm) をわずかに含む。
 - 4 茶褐色土 3層と近似的だが、層入する。炭化物の大きさが1cmと大きい。
 - 5 黄褐色土 しまりあり、ロームブロック (1~5cm) を多量に含む。
 - 6 黄褐色土 しまりあり、5層より茶色い。ロームブロック (2cm) を多量に含む。



る。

2、3、7、8、12、13は高環類である。12を除いて赤彩される。2、3は外反する大型の坏部で表裏両面ともに人急なミガキが行われる。7、8は脚部で、台付甕との区別が難しいがミガキと赤彩で峻別した。12は内燗気味の脚部で孔が3個ある。

4~6、9~11は小型壺、鉢、碗類である。4は小

形甕でほぼ完存品。口縁部にスリットが入る。肩部に段がつけられる。11は折返口縁を持つ甕。6、7は鉢で、9には口唇部にキザミが入る。10は口唇部が尖るタイプで球形の胴部に移行する。

15は口縁部が貼り付けで肥厚する。口縁部内面もそがれたような形状をしている。内外面ともにミガキ。16は立ち気味の口縁を持つ。頸部のナデがかなり深く

入り、わずかに段となる。口唇部内面にわずかに沈線上の段が入る。かなり特異な器形である。17はくの字状に屈曲する単口縁の壺。ナデAの上にミガキが入る。シンプルですっきりした感じがある。18は、小形壺または埴の口縁部であろう。赤彩される。口唇部は尖る。

(6) 溝

第84号溝 (第93図)

BE22、BE23グリッドからBJ23、BJ24グリッドにかけて位置していた。長さ約(6.4)m、幅約2.1m、深さ約0.42mであった。ほぼN70°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第85号溝 (第93図)

BH25グリッドからBJ24グリッドにかけて位置していた。長さ約(56.6)m、幅約0.7m、深さは不明である。ほぼN29°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第86号溝 (第93図)

BE26グリッドからBJ24グリッドにかけて位置していた。長さ約(35.5)m、幅約0.9m、深さは不明である。ほぼN25°-Eに伸びていた。第87号溝を切っていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

(7) グリッド出土遺物

第1群土器 (第94図1～13)

縄文時代早期沈線文系の土器を一括する。貝殻腹縁文や沈線文、凹線文などが施文される。口縁部は内削ぎ状となる。繊維を含まず堅い焼きである。10～12は伴出する押型文系の土器である。10は口縁部破片で、表面は間隔のあいた縦回転、裏面直下では横回転で以下は縦回転。13は尖底である。

第2群土器 (第94図14～30、第95図31～57)

縄文時代早期後半条痕文系の土器群を一括する。基本的に胎土に繊維を含み、表裏両面に条痕文が施文される。14～16は微隆起縞間に肋骨状の沈線文が施文さ

内外面ともに入念なミガキが行われる。

19は、吉ヶ谷系(または北関東系)のL縁部で端部が欠落する。2段隆帯が同える。この段の上にも入念なミガキが行われる。20～23、26、27、30は壺胴部及び底部。24、25、28、29は台付壺の台部。

う。

第87号溝 (第93図)

BE25、BG26グリッドからBG26グリッドにかけて位置していた。長さ約(19.7)m、幅約1.6m、深さ約0.54mであった。ほぼN21°-Wに伸びていた。第86号溝を切っていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第88号溝 (第93図)

BE25、BE26グリッドに位置していた。長さ約(12.5)m、幅約1.9m、深さ約0.80mであった。ほぼN63°-Wに伸びていた。断面は箱型をしていた。形状より中・近世期の溝であろう。遺物は銅製品が出土している。円形で端部が内向し、中央部には孔が開いている。蓋であろうか。

れる。口唇部に押圧痕がある。

50～55は条痕文を地文として沈線文が格子状や区切り格子状に施文される。50～53は口唇部に押圧がある。

17から33は胴部破片で表裏条痕。34～49は、裏面の条痕が薄い。49は尖底部。

第3群土器 (第96図1～18)

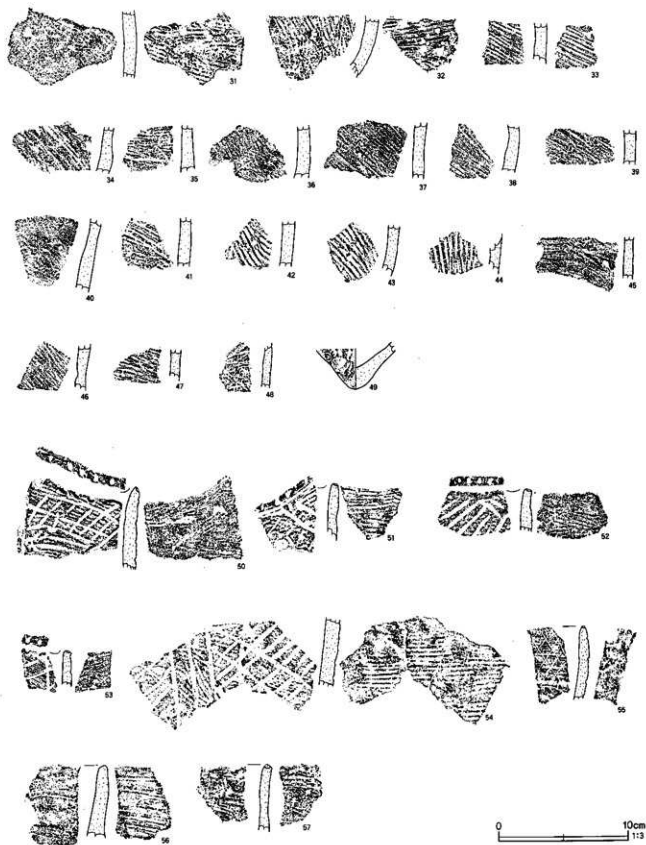
基本的には薄い擦痕状の条痕が施文されるが、多条の縄文や押圧された隆帯が加わる。全体的に繊維の量が多く第2群に比しても多い。縄文時代前期初頭か。

第4群土器 (第96図19～33、第97図34～88、第98図1～47、第99図48、49)

第94図 グリッド出土遺物 (1)



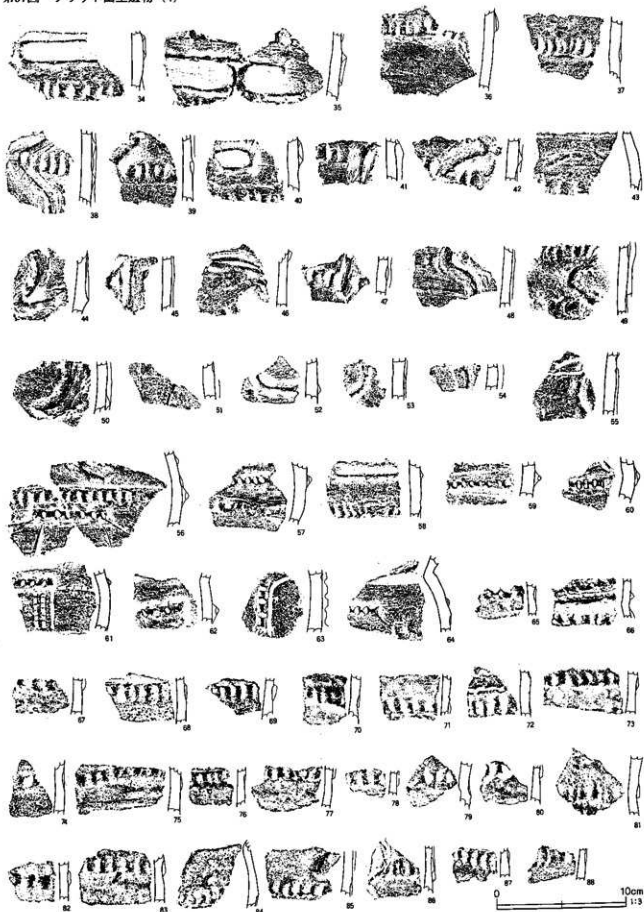
第95図 グリッド出土遺物(2)



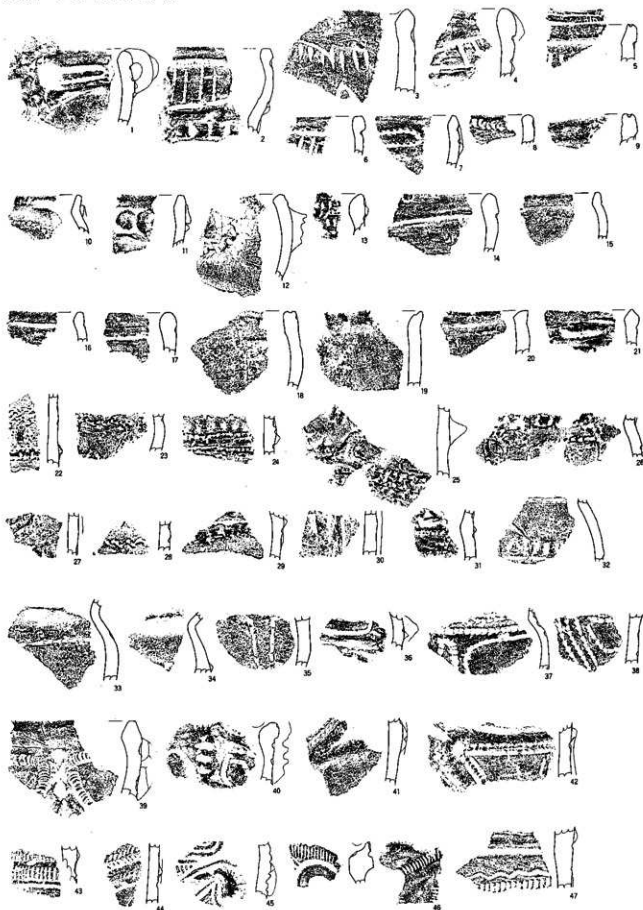
第96図 グリッド出土遺物 (3)



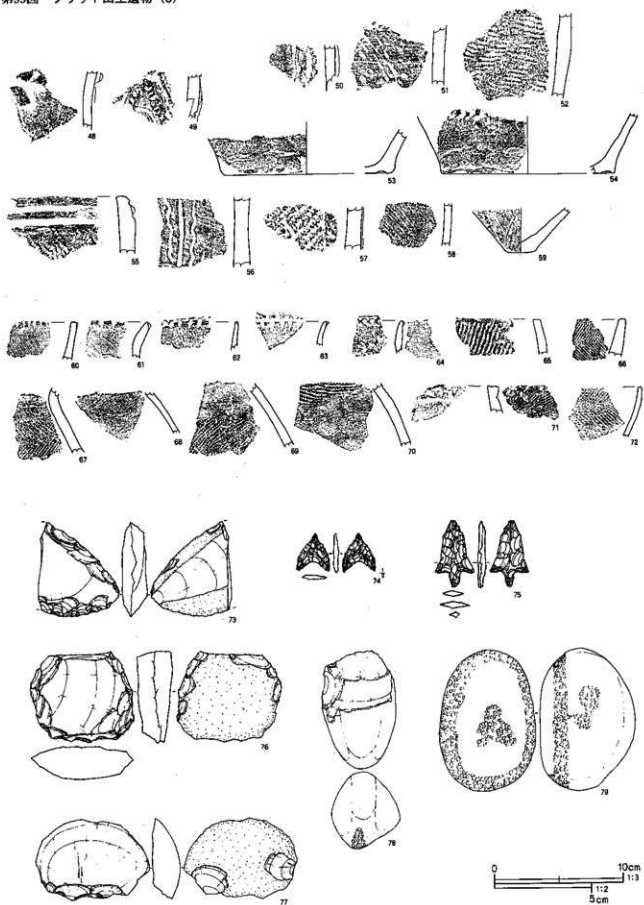
第97図 グリッド出土遺物(4)



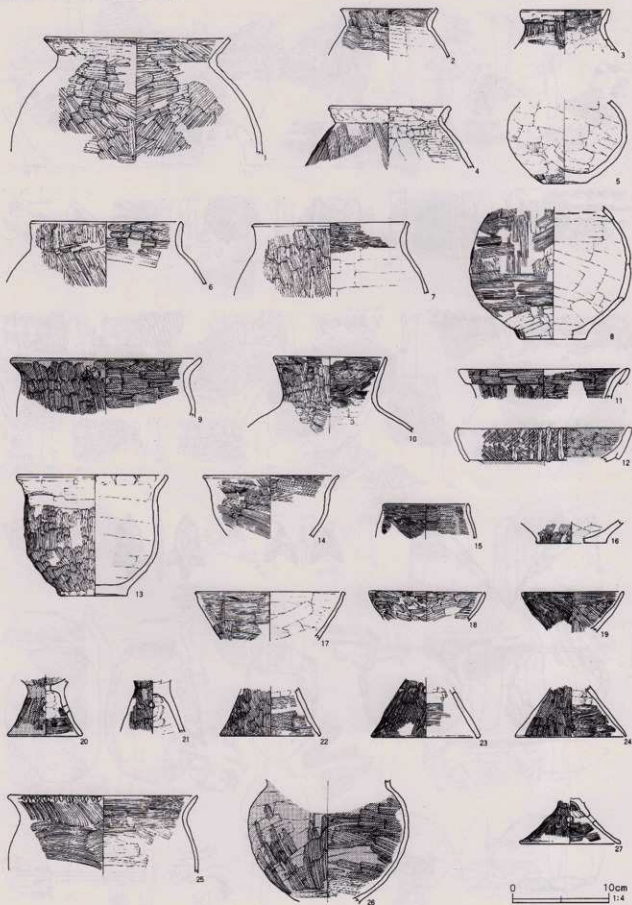
第98図 グリッド出土物 (5)



第99図 グリッド出土遺物 (6)



第100図 グリッド出土遺物 (7)



縄文時代中期阿玉台式系の土器を一括する。接合しなかった同一個体とその他に分けて説明する。

第96図19～第97図88は同一個体と思われる。口縁部に正面を向いた半円形の突起を数箇所持つ。口縁部文様下でいったん屈曲する器形を持つ。文様は断面三角形の隆帯で描かれ、キザミがつくこともある。口縁部は楕円形状の隆帯文が施され、隆帯に沿って1列の結節沈線文が配される。胴部上半に細長い楕円形状の文様が施文される。それ以下に、垂下する隆帯文と連続爪形文が数段施文される。多分阿玉台Ⅰb式であろう。

その他の種類を一括する。第98図1～21は口縁部破片。1は構状把手が付く。基本的には単列の結節沈線文が施文されることが多い。14～21は現状で無文の口縁部破片。22～38は胴部破片で単列または複列の結節沈線文が施文される。

第98図39～47、第99図48、49は、大型化した角押し文、キャタピラー文などが施文される。時期的に新しく、勝坂式の範疇に入るものもある。

第4群土器（第99図55～57）

縄文時代中期加曾利EⅡ式に属するものを一括する。

第5群土器（第99図58～59）

縄文時代後期紐線文系の土器を含める。59は底部で

ある。

第6群土器（第99図60～72、第100図1～27）

古墳時代前期に属する土器を含める。60～64は口縁部にキザミのある甕類を採掘した。65～72は縄文の施文された飾り壺、椀類を含める。縄文は細密であることが多い。飾り壺胴部上半または、折返口縁部であることが多い。

向原3次調査では、グリッドから実測可能な古墳時代前期の土器が出土した。遺構に属さない分資料的価値は下がるが、ここに概観しておく。1、6、7は薄手で口唇部がきちんと面取りされ、ミガキが表裏両面に施される特徴的なものである。6、7の口縁部は立ち気味である。

2～4は長胴の甕と思われる。特に「く」字状の口縁下に指頭で押さえた痕跡が明瞭に残された尾山台タイプのものである。8、10～12は壺。10は薄手で口縁部が立ち気味。面取りがされる。12は飾り壺口縁部、折返し口縁部に羽状縄文と棒状突起が施される。13～15は鉢、椀類。13も特徴的な器形である。

17から24、27は高環。17は大形の器種となろう。脚部に孔が施されるのが向原遺跡の特徴である。

4. 第4次調査

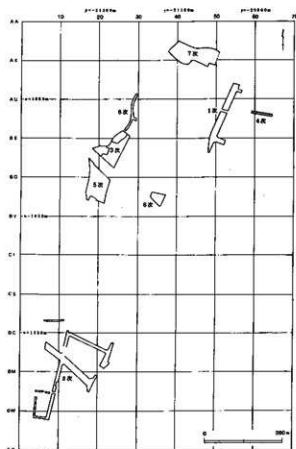
調査の概要

発掘調査は平成6年10月11日～平成7年1月10日まで実施した。調査面積は400㎡であった。

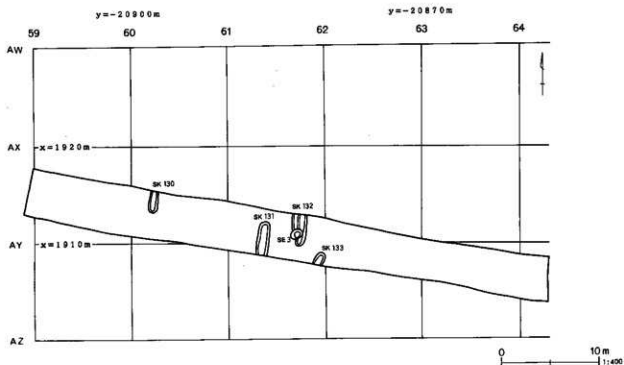
北側に突き出す舌状台地の東側に位置していた。東側に小支谷が貫入する。第2次調査区の東側に位置する。6mの道路幅の調査であった。

遺構の検出は少なく、中・近世期の土壌が4基、井戸1基が検出されたに過ぎなかった。遺物は、縄文時代早期、中期、後期に属する土器破片が少数出土した。

第101図 向原遺跡グリッド配置図(4次)



第102図 第4次調査区全体図



(1) 土壌

第130号土壌 (第103図)

AX60グリッドで検出された。長径2.2m、短径0.65m、深さ0.27mの長方形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第131号土壌 (第103図)

AX61、AY61グリッドにかけて検出された。長径3.45m、短径1.00m、深さ0.23mの長方形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第132号土壌 (第103図)

AX61、AY61グリッドにかけて検出された。長径

3.10m、短径1.42m、深さ0.25mの長楕円形をしていた。幅0.75m前後の段があった。第3号井戸と重複していた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第133号土壌 (第103図)

AY61グリッドで検出された。長径1.30m、短径1.02m、深さ0.23mの長楕円形をしていた。遺物は、混入と思われる縄文土器破片が出土した。中・近世期の土壌と思われる。

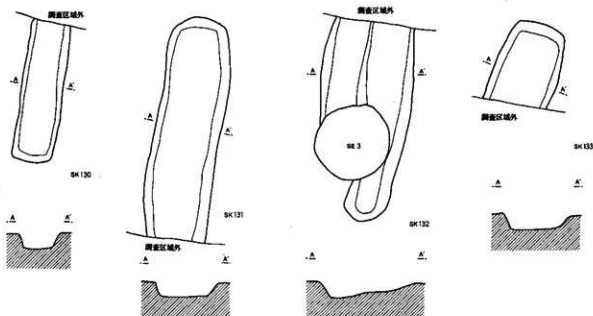
(2) 井戸

第3号井戸 (第104図)

AX61グリッドで検出された。径1.13m前後の円形を

していた。深さ0.23mと浅かったが井戸と認識した。遺物は出土しなかった。

第103図 土壘 (第130~133号)



(3) グリッド出土遺物

第1群土器 (第104図1~4)

縄文時代早期末葉、条痕文系の土器である。いずれにも繊維が混入されている。1は微隆線が垂下して、条痕文が充填される。2、3は表裏に条痕文が認められる。

第2群土器 (第104図5)

縄文時代中期中葉、勝坂式と思われる。半截竹管に沿って、押し引き文が見られる。

第3群土器 (第105図6~20)

縄文時代中期終末から後期初葉に属する土器群を一括する。段階設定で言えば加曾利EⅢ段階から加曾利EⅣ段階にかけてのものである。

6~11、20にかけては、磨消縄文を配する加曾利EⅢ段階~EⅣ段階のものである。概して沈線は浅く太い。大部分は加曾利EⅣ段階のものであろう。

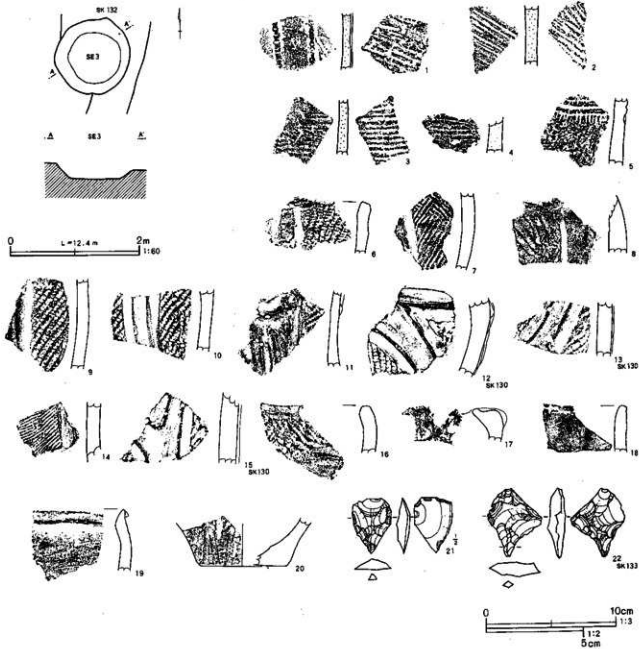
12~15は、微隆起線で渦巻文を描く系列のものである。12はしっかりしたなぞりと縄文を持つ加曾利EⅢ段階のもの。他は、加曾利EⅣ段階のものであろう。

16~19はその他の系列の土器を纏めた。16は口縁部下に横走縄文帯を持つもので加曾利EⅣ段階以降のもの。19は口縁下に微隆線を持つ。17は上面小皿状の突起である。

石器 (第104図21、22)

21は横長の剥片を利用した安山岩製のドリルである。22も同様のドリルである。

第104図 第3号井戸・グリッド出土遺物



5. 第5次調査

調査の概要

平成7年2月1日から平成7年3月31日、平成7年4月1日～平成7年12月8日まで実施した。調査面積は4100㎡であった。調査区は西側で傾斜して谷に向かっている。

縄文時代

早期、前期、中期に属する住居跡が9軒、炉穴、土壌などが調査された。特に堀ノ内2式に見るべきものがあった。

古墳時代前期

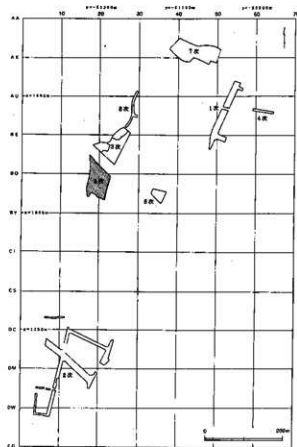
住居跡が9軒、土壌などが検出調査された。住居跡から銅鏃が出土した。また、斜面部から検出した土壌の埋土上層からは火山灰が見つかった。

奈良・平安時代

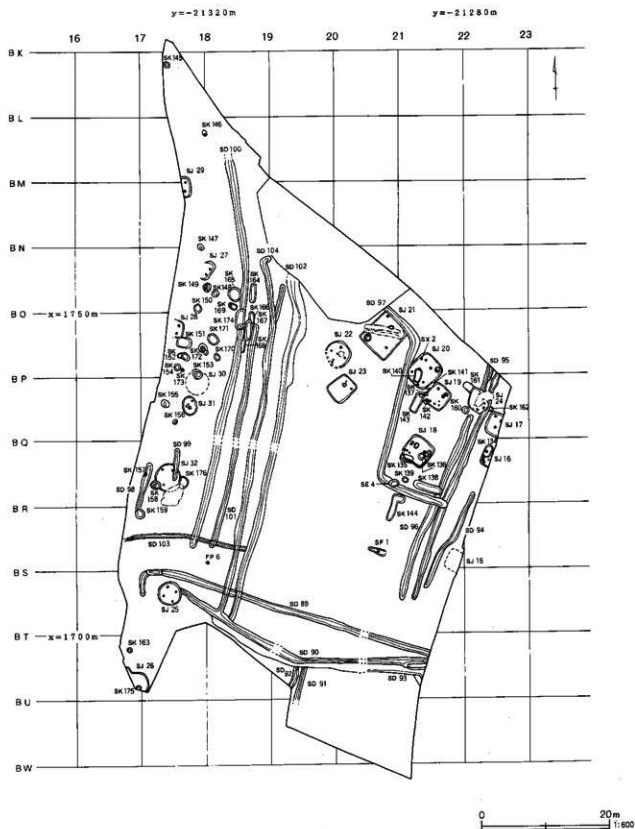
須恵器杯を2枚重ね合わせた特殊な遺構が調査された。また、炭焼窯もこの時代か。

それ以降の溝、土壌なども多数出土した。

第105図 向原遺跡グリッド配置図(5次)



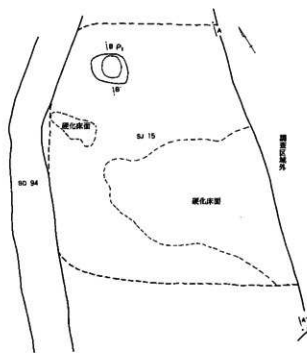
第106図 第5次調査区全体図



第107図 第15号住居跡



- 1 灰黄褐色土 表土。
 - 2 褐色土 しまりあり。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
 - 3 黒褐色土 しまりなし。ローム粒子を少量含む。
 - 4 におい黄褐色 しまりなし。ローム粒子を少量含む。
 - 5 黄褐色土 しまりなし。ローム粒子を多量含む。
- P1
- 1 黒褐色土 しまりあり。ローム粒子少量混入。
 - 2 褐色土 しまりなし。ローム粒子多量混入。



(1) 住居跡

第15号住居跡 (第107図)

BR21グリッドからBS21グリッドで検出された。長軸(4.40)m、短軸(3.36)m、深さ0.06mの隅丸長方形をしていたと思われる。東側は調査区外であった。主軸の傾きは、N-32°Eであったと思われる。第94号溝に切られていた。壁などは検出できなかったが、ピットと硬化床面が検出された。炉跡も検出できなかった。遺物は出土しなかった。古墳時代前期と思われる。

第16号住居跡 (第108図)

BQ21グリッドで検出された。長軸2.51m、短軸(1.47)m、深さ0.38mの隅丸方形をしていたと思われる。主軸の傾きは、N-18°Eであったと思われる。第134号土壌に切られていた。ピットは4箇所検出された。P1とP2は主柱穴と思われる。P4は貯蔵穴であろうか。自然堆積。土器破片が出土したが実測にはいたらなかっ

た。古墳時代前期の住居跡と思われる。

第17号住居跡 (第109図)

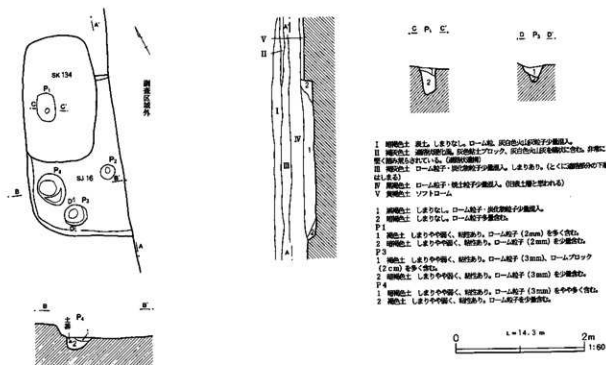
BP22グリッドで検出された。長軸3.64m、短軸(2.13)m、深さ0.63mの隅丸方形をしていたと思われる。掘り込みはかなり深い。南側を除いて壁溝がめぐっている。ピットは2箇所検出された。P1は主柱穴であろう。炉跡はやや北によって検出されている。主軸の傾きは、N-19°Eであった。

遺物は、古墳時代前期の上器がわずかに出土している。1は碗と思われるがあるいは高坏か。横方向のナデBが行われる。口縁部はわずかに内彎気味。

第18号住居跡 (第109図、第110図)

BP21、BQ21グリッドで検出された。長軸4.18m、短軸3.96m、深さ0.22mの隅丸方形をしていた。中央部付近に攪乱が入る。ピットは8箇所検出されたが、主柱

第108図 第16号住居跡



穴は判然としなかった。P3は貯蔵穴と思われる、壺が横になって検出された。炉跡は不整楕円形をしていて、土器片が入っていた。主軸の傾きは、N-45°Eであった。第135号土塊、第136号土塊に切られていた。

遺物は、土器と銅鏃、磨石が出土している。2は台付甕。表面にはナデCが行われる。口縁曲部にはより強く行われ、わずかに段を有する。3、4は壺底部。5は、口縁部が欠落した壺で、以下はほぼ完存する。口頸部の括れは細く、最大径は胴部下半にある。流麗な無花果形をしている。口縁部は、ナデられ調整痕は観察できなかった。2個の張りこぶが付く。このような張り瘤は、茨城県南部に見られることが多い。6は甕胴部。内面はナデあげられる。

7は大形の高環と思われる。表面はナデられ、調整痕は見えない。環部下端で明瞭な段を有する。本遺跡では特異な高環である。8は銅鏃である。断面菱形で柄の部分は角型をしている。

第19号住居跡 (第111図)

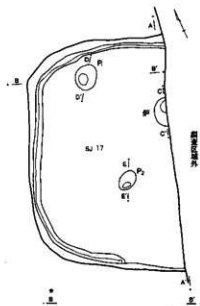
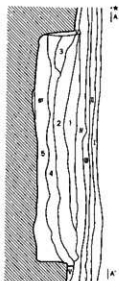
BP21グリッドで検出された。長軸3.77m、短軸3.53m、深さ0.25mの隅丸方形をしていた。主軸の傾きは、N-42°Eであった。第137号土塊、第141号土塊、第142号土塊、第143号土塊に切られていた。遺物は出土しなかった。ピットは5箇所検出されたが主柱穴は判然としなかった。炉跡は北によって検出された。たぶん自然堆積。実測できる遺物はなかったが、古墳時代前期と思われる。

第20号住居跡 (第112図)

BO21グリッドからBP21グリッドで検出された。長軸4.98m、短軸4.66m、深さ0.18mの隅丸長方形をしていた。主軸の傾きは、N-51°Eであった。掘乱し、第140号土塊に切られる。P1、P2、P3、P4が主柱穴と思われる。炉跡は2箇所検出された。自然堆積。

遺物は、台付甕台部が実測できたほかは、小破片であった。

第109図 第17号住居跡

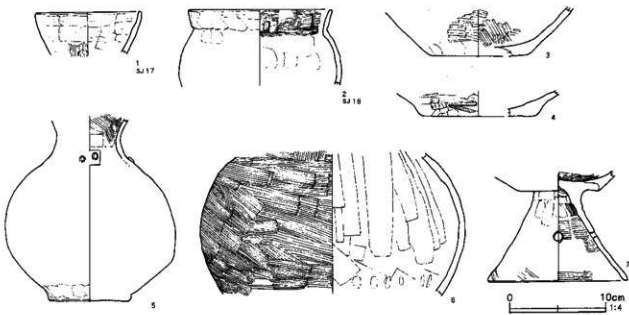


- I 暗褐色土 炭土。しまりなし。ローム粒、灰白色火山灰粒子少量混入。
- II 黄灰色土 凝結状腐化層。灰褐色土ブロック、灰白色火山灰を凝結に含む、非常に堅く踏み荒らされている。(凝結状遺構)
- III 暗灰色土 ローム粒子・炭化物粒子少量混入。しまりあり。(とくに凝結部分の下層はしる)
- IV 黒褐色土 ローム粒子・炭土粒少量混入。(図表上層と思われる)
- V 黄褐色土 ソフトローム

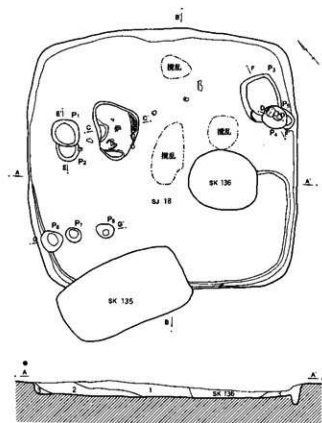


- 1 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子少量混入。
- 2 におい黄褐色土 しまりあり。ロームブロック(1~2cm)を多量に含む。
- 3 暗褐色土 しまりあり。ロームブロック(1~2cm)を多量に含む。
- 4 黒褐色土 しまりあり。ロームブロック(1~2cm)を多量に含む。(埋め戻し土)
- 5 におい黄褐色土 しまりあり。ロームブロック(2~3cm)を多量に含む。(埋め戻し土)。焼土粒子を少量含む。

- 炉跡
- 1 暗褐色土 焼土ブロック・ロームブロック多量。炭化物少量含む。
 - 2 におい黄褐色土 ロームブロック多量。焼土粒子少量含む。
- P1・P2
- 1 黒褐色土 しまりなし。ローム粒子少量含む。
 - 2 暗褐色土 しまりあり。ロームブロック少量含む。



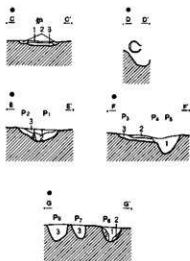
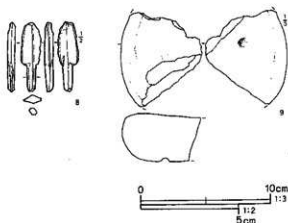
第110図 第18号住居跡



- 1 黒褐色土 しまりやや強く、粘性あり。ローム粒子・炭化質・焼土を中々多く含む。
- 2 暗褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子・炭化質・焼土を多く含む。
- 3 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子を多く含む。
- 4 黒褐色土 しまり・粘性あり。炭化質を多く含む。

同層

- 1 黒褐色土 しまり強く、粘性も強い。焼土粒子 (3-5mm) を多く含む。
- 2 褐色土 しまり強く、粘性あり。焼土粒子 (2mm) をわずかに含む。土層を穿るために掘ったくぼみに埋まっている。
- 3 暗褐色土 焼土ブロック・焼土粒子多量混入。ロームブロック少量混入。(全体によく混ざっている)



P1・P2
1 暗褐色土 しまり・粘性あり。焼土粒子 (2mm)、ローム粒子 (2mm) を中々含む。

2 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (3mm)、ロームブロック (2cm) を多く含む。

3 暗褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (3mm) を多く含む。

4 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (3mm) を多く含む。

P3・P4・P5

1 暗褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (3mm) を多く含む。

2 褐色土 ローム粒子 (3mm) を少量含む。

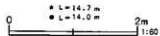
3 暗褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック (2cm) を多く含む。

P6・P7・P8

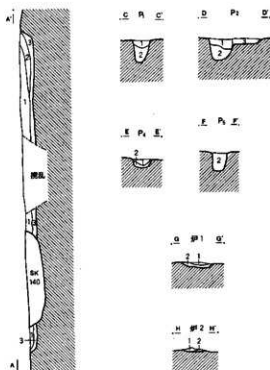
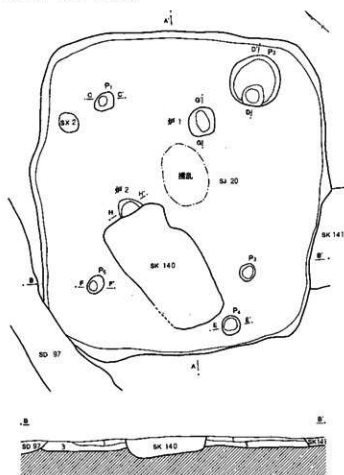
1 暗褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を多く含む。

2 褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック (2cm) を多く含む。

3 暗褐色土 しまり強く、粘性あり。ロームブロック (2cm) をほとんど多く含む。



第112図 第20号住居跡



- 1 灰黄褐色土 しまりなし。ローム粒子を少量含む。
 2 灰褐色土 しまりなし。焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。
 3 におい黄褐色土 しまりなし。ローム粒子を少量含む。

- 断面1
 1 明赤褐色土 焼土ブロックを少量含む。
 2 黄褐色土 焼土粒子を少量含む。
 断面2
 1 明赤褐色土 焼土ブロックを少量含む。
 2 黄褐色土 焼土粒子を少量含む。
 P1-P5
 1 暗褐色土 しまりなし。ローム粒子多量。焼土粒・炭化物粒少量含む。
 2 灰褐色土 しまりなし。ローム粒子を少量含む。
 3 黄褐色土 しまりなし。ローム粒子を少量含む。

0 L=14.1 m 2m 1:60

第6表 遺物観察表(3)

第13号住居跡 第83図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
8	壺	—	—	—	B 3	A	薄い褐色	けい部20%	sj9 No.1	

第17号住居跡 第109図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
1	鉢	10.8	—	—	A	A	褐色	sj3		

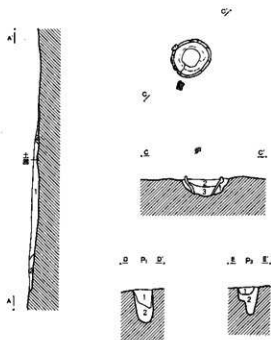
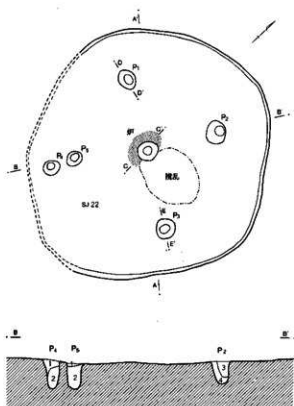
第18号住居跡 第109図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
2	壺	14.8	—	—	A 1	B	赤褐色	口縁50%	sj4 No.3, 4	
3	壺	—	—	(10.0)	A	A	暗褐色	底部33%	sj4 C区B-15グリッド	
4	壺(底部)	—	—	12.0	B 1	B	明褐色		sj4 No.4	
5	—	—	(18.8)	8.3	B 1	C	薄い赤褐色		sj4 No.2	
6	台付釜	—	—	—	B 1	B	黒褐色		sj4 No.13	
7	高坏(脚部)	—	—	(14.5)	B 1	B	におい赤褐色		sj4 No.9	

第19号住居跡 第111図

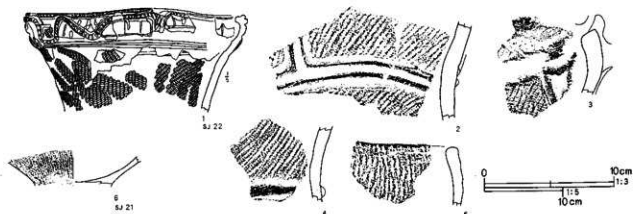
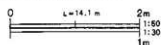
番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
6	台付釜(台部)	—	—	10	B 1	A	明褐色		sj5 No.1	

第114図 第22号住居跡

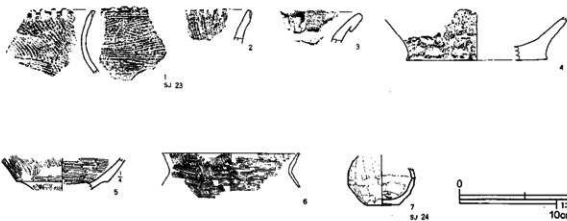
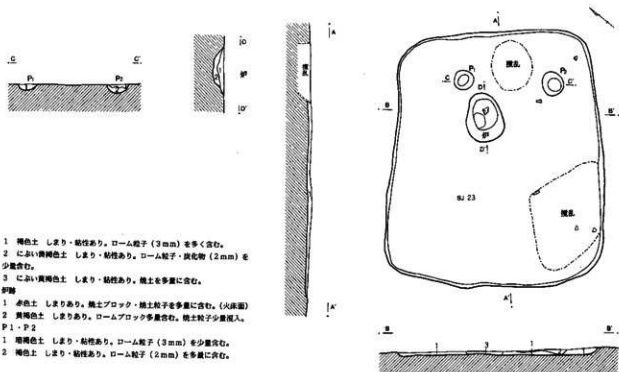


- 1 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(2mm)を少量含む。
 2 黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック(2cm)を多く含む。
 附録
 1 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。焼土・炭化物(2mm)を多く含む。
 2 暗褐色土 しまり・粘性あり。焼土・炭化物・ローム粒子(2mm)を中々多く含む。
 3 褐色土 しまり・粘性あり。焼土・ローム粒子(2mm)を少量含む。

- P1
 1 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(2mm)を少量含む。
 2 褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック(2cm)を多く含む。
 P2・P4・P5
 1 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(3mm)を多く含む。
 2 黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(1cm)を多く含む。
 3 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(3mm)を多く含む。
 4 褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック(3cm)を多く含む。
 P3
 1 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子を少量含む。
 2 褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック(3cm)を多く含む。



第115図 第23号住居跡



第21号住居跡 (第113図)

BO20、BO21グリッドで検出された。長軸(5.73)m、短軸5.24m、深さ0.14mのコーナーのきっちりとした長方形をしていた。主軸の傾きは、N-49°-Eであった。第97号溝に切られていた。ピットは2箇所検出されたが主柱穴は判然としなかった。西側コーナーには貯蔵穴と思われるピットが存在した。炉跡は中央から北によって検出された。遺物は台付甕の胴下半部が出土し

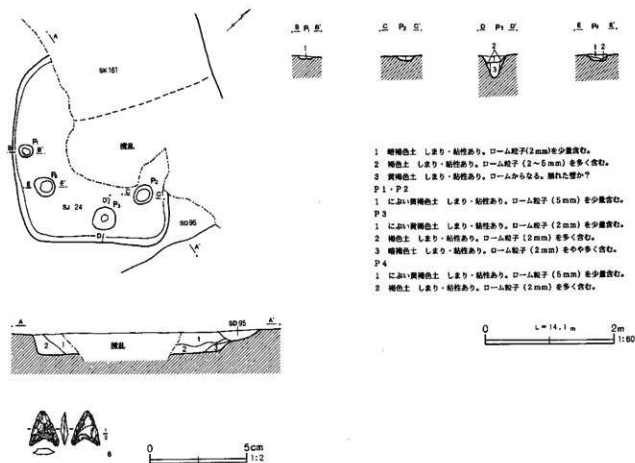
ただけである。古墳時代前期と思われる。

第22号住居跡 (第114図)

BO19、BO20グリッドで検出された。長軸4.06m、短軸(3.77)m、深さ0.11mの楕円形をしていた。主軸の傾きは、N-12°-Wであった。4本柱穴で中央部に土器埋設跡があった。縄文時代中期の土器が出土している。

1は埋設土器。キャリバー形の胴部上半部が残っていた。口縁部は内開し、キザミのある隆帯で文様が描

第116図 第24号住居跡



かれる。波状を基調にして、内面に単沈線が充填される。胴部は斜行回転の縄文が施文され、結果的に条が縦に見える。2～4は胴部破片。縄文を地文として2本対の隆帯による文様が描かれる。縄文時代中期加曾利E I段階と思われる。

第23号住居跡 (第115図)

BP19、BP20グリッドで検出された。長軸3.93m、短軸3.36m、深さ0.11mの隅丸長方形をしていた。主軸の傾きは、N-52°Eであった。ピットは北側の主柱穴と思われる2箇所が検出されただけであった。炉は北によって検出された。

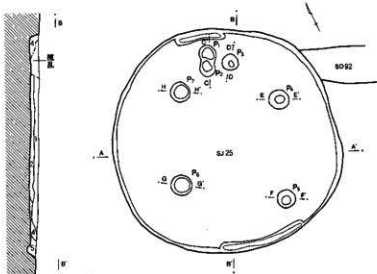
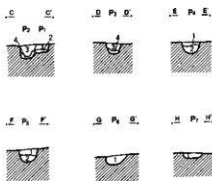
遺物は古墳時代前期の土器破片が出土している。1、2は台付甕口縁部破片。3は折り返し口縁部壺破片。5は高坏の坏部で、明顯に段を有する。6は非常に薄手の甕で口唇部はきちんと面取りがされキザミが施さ

れる。ナデAは目が細く、口縁部で縦方向に行われいったん止められる。

第24号住居跡 (第116図)

BP22グリッドで検出された。長軸2.86m、短軸2.33m、深さ0.32mの隅丸長方形をしていたと思われる。主軸の傾きは、N-48°Wであった。攪乱、第161号土壌に大部分が切られていた。ピットは4箇所検出されたが、主柱穴は判然としなかった。現状で炉は検出されなかった。遺物は、古墳時代前期に属する手捏状の小形壺が出土している。内面底部付近に指形爪の爪あとが残っている。また、攪乱から石鏃が出土している。

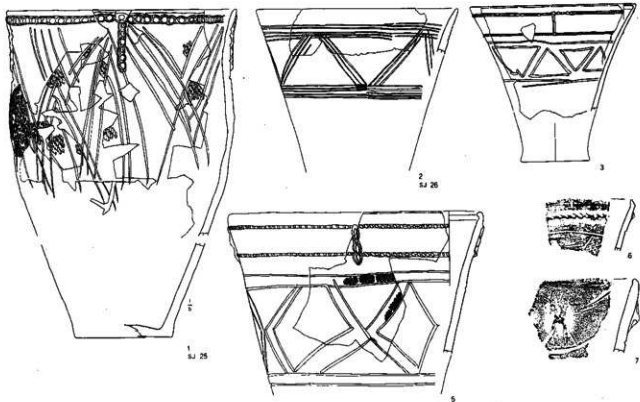
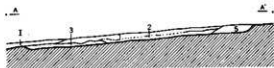
第117図 第25号住居跡



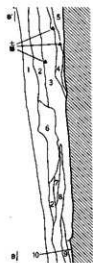
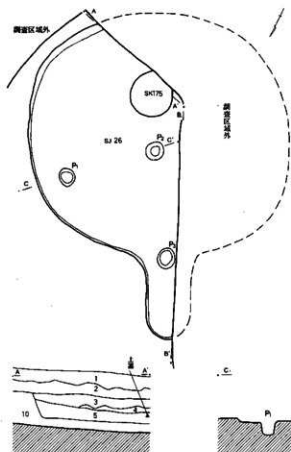
- 1 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粘土子 (3mm) をわずかに含む。
- 2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粘土子 (2mm) を少量含む。
- 3 濃い黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粘土子 (2mm) を多く含む。
- 4 黄土 しまり・粘性あり。ロームブロック (1cm) を多く含む。
- 5 暗褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック (1cm) を少量含む。
- 6 黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粘土子 (2mm) を少量含む。径に向かう傾斜地に埋蔵する土。

P1~P7

- 1 黄土 しまり・粘性あり。ローム粘土子 (2mm) を多く含む。
- 2 黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粘土子 (3mm) をたいへん多く含む。
- 3 黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粘土子 (2mm) を多く含む。
- 4 黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粘土子 (3mm) を多く含む。

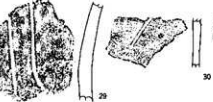
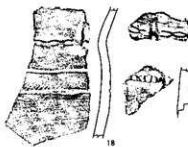
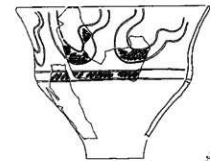
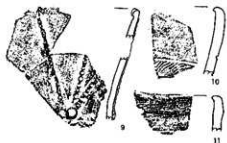


第118図 第26号住居跡



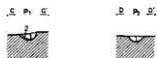
- 1 黒褐色土 白色粒子・ローム粒子少量混入。
- 2 黒色土 白色粒子・ローム粒子少量混入。
- 3 暗褐色土 粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 4 褐色土 粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 5 におい黄褐色土 粘性あり。ローム粒子を多量に含む。
- 6 黒色土 火山灰粒子(5~10mm) 同様に混入。
- 7 灰黄褐色土 粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 8 黒褐色土 粘性あり。ローム粒子を少量混入、白色粒子混入。
- 9 暗褐色土 粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 10 灰黄褐色土 粘性あり。ローム粒子を多量に含む。

0 L=13.1 m 2m
1:80

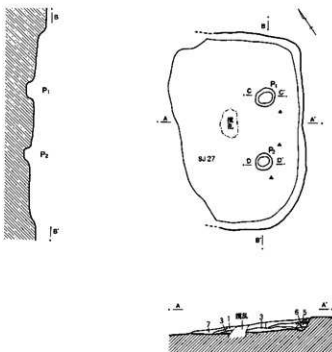


0 10cm
1:5
10cm
1:3

第119図 第27号住居跡



- 1 黒褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子・焼土・炭化粒(2~3mm)を多く含む。
 - 2 黒色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(2mm)を少量含む。
 - 3 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(2mm)を中多く含む。
 - 4 黒褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック(3cm)を少量含む。
 - 5 灰黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック
 - 6 黒褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(3mm)をわずかに含む。
 - 7 黒紫色土 しまり・粘性あり。炭分を中多く含む。
- P1・P2
- 1 灰黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(2mm)を少量含む。
 - 2 に近い黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(2mm)を多く含む。



第25号住居跡(第117図)

BS17グリッドで検出された。長軸3.50m、短軸3.36m、深さ0.14mの円形をしていた。5本柱穴で深さはあまりない。炉は検出されなかった。第92号溝に切られていた。遺物は縄文時代後期に属する深鉢が1個体実測できた。口縁下で緩やかに括れ、立ち気味の口縁部を持つ。円形の刺突列が入る隆帯が口縁部に配される。4単位で0.08mほど垂下する。胴部にはまばらな縄文を地文として「X」字状や「U」字状の多条沈線文が描かれる。縄文時代後期Ⅱ内2式期と思われる。

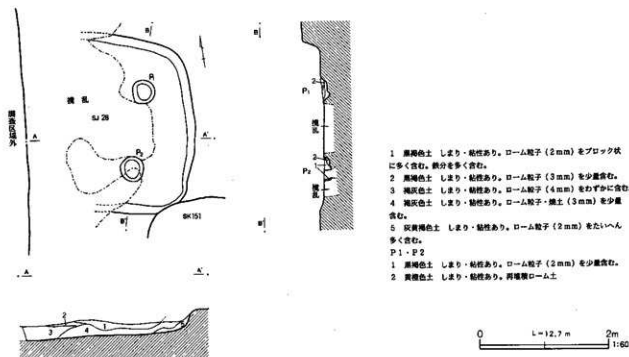
第26号住居跡(第117図、第118図)

BT16、BT17グリッドで検出された。長軸(4.08)m、短軸(2.34)m、深さ0.09mの柄鏡形をしていたと思われ

る。南側の大部分は調査区外である。柱穴は3箇所検出されているが切羽跡は検出できなかった。柄の部分は斜面部の下方を向いている。主軸の傾きは、N-28°-Wであった。第175号土壌に切られていた。土層は斜面方向上部からの自然堆積。遺物は縄文時代後期の土器破片がまとめて出土した。

2~5は朝顔形の小形深鉢で復元実測できた。2は半截竹管による平行区画線を引き間に沈線による鋸歯文を配している。縄文の充填はない。3はキザミのある隆起線を口縁部に2条めぐらし、以下に沈線で三角形の文様を横位に連結している。やはり縄文の充填はない。4は口縁下で緩く「く」字状に屈曲する器形を持つ。底部は急激にすぼまる。鋭い沈線で区画された

第120図 第28号住居跡



縄文帯で下限を区画し、以上に変形「C」字状文を磨消縄文によって描いている。5は3と同様にキザミのある2条の微隆帯を口縁部に配し、鎖状の隆帯で連結する。以下に細い沈線で区画された縄文帯で菱形の文様を描いている。

8~15は口縁部破片で復元された土器と同様の文様を持つ。9は屈曲を持つ深鉢で「V」字状のキザミある隆帯が垂下する。16~32は胴部破片で沈線文系と磨消縄文系に大別される。

第27号住居跡 (第119図)

BN18グリッドで検出された。長軸3.06m、短軸(1.95)m、深さ0.18mの方形をしていたと思われる。西半分は攪乱である。主柱穴と思われるピットが2箇所検出された。炉跡は検出されなかった。主軸の傾きは、N-35°-Eであった。主柱穴と思われるピットが2箇所検出されたが炉跡は見つからなかった。遺物は縄文時代早期の土器が少量出土している。縄文時代の住居跡と思われるが仔細な時期は不明である。

第28号住居跡 (第120図)

BO17グリッドで検出された。長軸2.56m、短軸(0.66)m、深さ0.40mの隅丸方形をしていたと思われる。主柱穴と思われるピットが2箇所見つかっている。炉跡は検出できなかった。主軸の傾きは、N-10°-Eであった。第151号七塚に切られていた。遺物は出土しなかった。縄文時代の住居跡と思われるが仔細は不明である。

第29号住居跡 (第121図)

BL17、BM17グリッドで検出された。長軸3.02m、短軸(1.23)m、深さ0.33mの隅丸方形をしていたと思われる。主柱穴と思われるピットが2箇所検出されている。主軸の傾きは、N-3°-Wであった。遺物は出土しなかった。住居跡の時期は不明である。

第30号住居跡 (第122図)

BO17、BO18グリッドからBP17、BP18グリッドで検出された。長軸(3.72)m、短軸(3.67)m、の円形に復元しておいたが方形かもしれない。主柱穴と思われる3箇所のピットが検出された。主軸の傾きは、N-43°-Wであった。縄文時代早期条痕文系の土器群が1個体分

検出された。胎土に繊維を含む。表裏に条痕を持つ土器。下端で急激にすばり緩やかな尖底になるものと思われる。

第31号住居跡 (第123図)

BP17グリッドで検出された。長軸2.87m、短軸2.23m、深さ0.28mの楕円形をしていた。主軸の傾きは、N-4°-Wであった。ピットは3箇所検出されたが、不規則なものである。炉跡は中央から南によって見つかった。遺物は出土しなかった。縄文時代の住居跡と思われるが仔細は不明である。

第32号住居跡 (第124図)

BQ17グリッドで検出された。長軸4.25m、短軸3.77m、深さ0.23mの楕円形をしていた。主柱穴は4本確認されたが炉跡は検出できなかった。主軸の傾きは、N-0°-Eであった。第99号溝、第158号土壕、第176号土壕に切られていた。遺物は縄文時代後期の土器が1個体出土した。平縁深鉢で緩やかに屈曲して外反する。口縁部に無文帯を持つ。縄文を地文として沈線文が描かれる。2本の沈線を垂下させ、間に対向「U」字状文を描いている。堀ノ内1式から連続する系列である。口縁部裏面には沈線がない。

(2) 土壌

第134号土壌 (第125図)

BQ22グリッドで検出された。長径-1.93m、短径-1.14m、深さ0.22mの隅丸長方形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第135号土壌 (第125図)

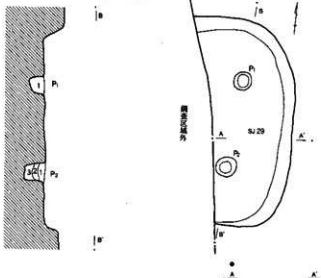
BQ21グリッドで検出された。長径-1.97m、短径-1.09m、深さ0.19mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第136号土壌 (第125図)

BQ21グリッドで検出された。長径-2.08m、短径-0.90m、深さ0.40mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期は不明である。

第137号土壌 (第125図)

第121図 第29号住居跡



- 1 黒褐色土 しまり・粘性あり。焼土粒子 (2-4mm) をたいへん多く含む。
 - 2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり。焼土粒子 (2mm) を少量含む。
 - 3 灰黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を少量含む。
- P1・P2

- 1 褐色土 しまり・粘性あり。鉄分をやや多く含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子 (2mm) を少量含む。
- 3 褐色土 しまり・粘性あり。1層より明るい。ローム粒子 (2mm) を多く含む。

BP21グリッドで検出された。長径-0.57m、短径-0.53m、深さ0.22mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期は不明である。

第138号土壌 (第125図)

BQ21グリッドで検出された。長径-4.41m、短径-1.05m、深さ0.24mの楕円形をしていた。第96号溝を切っていた。混入と思われる縄文時代中期土器破片が少量出土した。いずれも阿玉台式である。中・近世期の土壌と思われる。

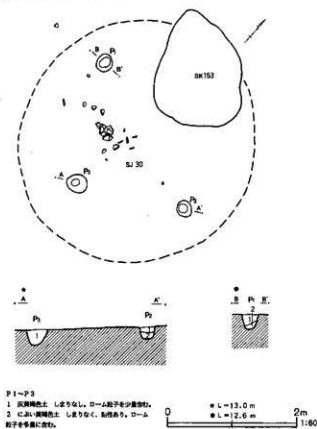
第139号土壌 (第125図)

BQ21グリッドで検出された。長径-0.92m、短径-0.92m、深さ0.88mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期は不明である。

第140号土壌 (第125図)

BO21、BP21グリッドで検出された。長径-2.03m、短径-1.14m、深さ0.31mの不整形長方形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第122図 第30号住居跡



第141号土壌 (第126図)

BP21グリッドで検出された。長径1.43m、短径0.45m、深さ0.22mの長方形をしていたと思われる。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第142号土壌 (第126図)

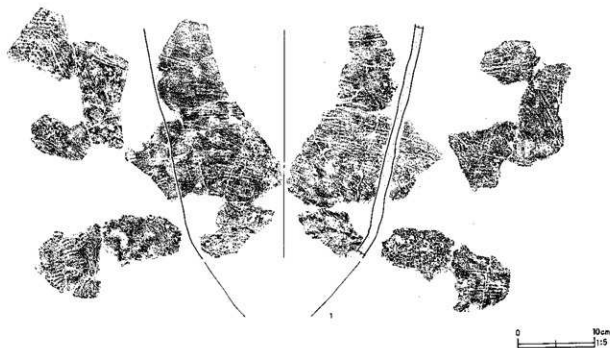
BP21グリッドで検出された。長径0.78m、短径0.65m、深さ0.22mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期は不明である。

第143号土壌 (第126図)

BP21グリッドで検出された。長径3.02m、短径1.27m、深さ0.14mの長方形をしていた。第19号住居跡を切っていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第144号土壌 (第127図)

BQ20、BQ21、BR20グリッドで検出された。長径4.24m、短径1.84m、深さ0.12mの長方形をしていた。混入と思われる縄文時代中期の土器破片が出土した。いずれも阿玉台式に属する。形状から中・近世期の土壌と思われる。



第145号土壌 (第127図)

BK17グリッドで検出された。長径-0.92m、短径-0.86m、深さ-0.52mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期は不明である。

第146号土壌 (第127図)

BL17、BL18グリッドで検出された。長径-0.91m、短径-0.59m、深さ-0.73mの不整形円形をしていた。混入と思われる縄文時代中期の七器破片が出土した。仔細な時期は不明である。

第147号土壌 (第127図、第128図)

BM17、BN17グリッドで検出された。長径-1.02m、短径-0.90m、深さ-0.59mの円形をしていた。埋土上層に火山灰が含まれる。自然堆積。古墳時代前期と思われる土器破片が出土した。第128図1はほぼ完存する鉢形土器である。口縁部は小さく外反する。底部は突出気味で小さい。口縁屈曲部はナデBによってかなり削られる。表面にはナデAが行われているが、底部付近と胴部の整形の差が明瞭に出ている。第3次調査にも共通する火山灰降下前の時期である。

第148号土壌 (第127図)

BN18グリッドで検出された。長径-1.01m、短径-0.94m、深さ-0.19mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期は不明である。

第149号土壌 (第127図)

BN17、BN18グリッドで検出された。長径-1.37m、短径-1.17m、深さ-0.61mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期は不明である。

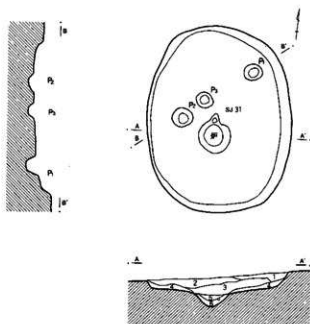
第150号土壌 (第128図)

BN17グリッドで検出された。長径-1.32m、短径-1.17m、深さ-0.36mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。

第151号土壌 (第128図)

BO17グリッドで検出された。長径-2.21m、短径-1.59m、深さ-0.40mの長方形をしていた。埋土最上層から火山灰が検出された。遺物は古墳時代前期に属する鉢が出土した。7は小さく外反する鉢。口唇部は面取りされる。表面はナデAの上にミガキがかけられる。

第123図 第31号住居跡



- 1 黄褐色土 ロームブロック (1~3cm) 多量、炭化物粒 (3~5mm) 少量混入。
- 2 黒褐色土 ローム粒 (3~5mm)、炭化物 (3~5mm) 少量混入。
- 3 黒褐色土 ローム粒・炭化物粒 (5~9mm) 多量、焼土粒 (1~3mm) 少量混入。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (1~3cm) 多量混入。
- 5 黒色土 ローム粒・炭化物粒 (1~5mm) 多量、焼土粒 (1~3mm) 多量混入。
- 6 黒色土 ロームブロック (3~5cm) 多量、ローム粒・炭化物粒 (1~3mm) 多量混入。

口縁部のナデAはかなり強く行われていて、端部が段になる。第147号土壌土器と同じように胴部と底部付近の差が明瞭に伺える。別に作られ、最終的に接合されて完成品になったのであろう。

第152号土壌 (第128図)

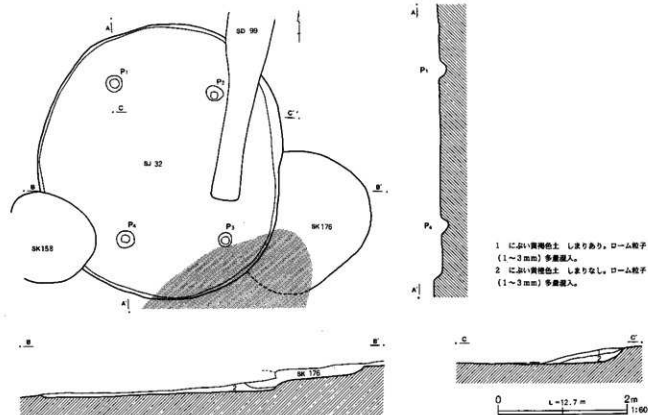
BO17グリッドで検出された。長径-1.92m、短径-1.05m、深さ-0.53mの楕円形をしていた。埋土上層部から火山灰が検出された。

遺物は古墳時代前期の土器が出土している。8は折返口縁を持つ壺で内外面が磨かれる。10は本遺跡に特徴的な小型壺である。口縁部が気持ち肥厚して外反する。9は高環脚部で赤彩されている。表面は入念なミガキが行われる。5は飾り壺の折り返し口縁部破片で棒状浮文の変わりに沈線が垂下している。現状で縄文は施文されていない。

第153号土壌 (第128図)

BO17グリッドで検出された。長径-1.81m、短径-

第124図 第32号住居跡



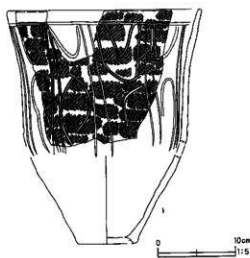
1.34m、深さ-1.14mの楕円形をしていた。中段を有す。埋土上層から火山灰が検出された。遺物は古墳時代前期に属する土器が出土している。12は壺胴部。表面は入念な縦ミガキが行われる。胴下半で明瞭な接合痕が見られる。13は高坏の坏部で赤彩される。下半部に稜がある。入念なミガキが行われる。口縁部端部にかけて薄くなる。

第154号土壇 (第128図)

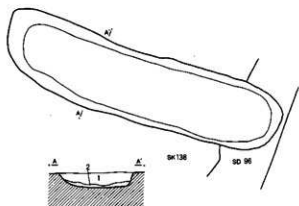
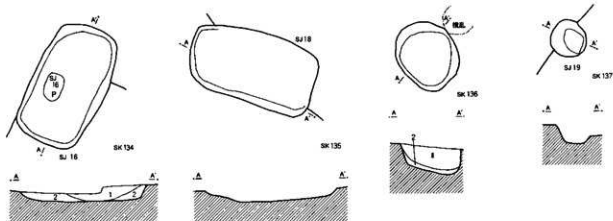
BO17グリッドで検出された。長径-1.47m、短径-1.20m、深さ-0.88mの円形をしていた。埋土上層から火山灰が検出されている。遺物は出土しなかった。埋土の状況から古墳時代前期と思われる。

第155号土壇 (第128図)

BP17グリッドで検出された。長径-1.18m、短径-1.07m、深さ-0.95mの円形をしていた。埋土上層から火山灰が検出された。遺物は古墳時代前期に属する台付甕の台部が出土した。わずかに内罅する台部である。



第125図 土壌 (第134~138号)



SK134

- 1 褐色土 しまりやや細く、粘性あり。ローム粒子(4mm)を中々多く含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや細く、粘性あり。ローム粒子(5mm)を多く含む。

SK136

- 1 黄褐色土 しまり細く、粘性あり。ローム・黄土粒子(3mm)を中々多く含む。
- 2 黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック(1cm)を多く含む。

SK138

- 1 じがい黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(3mm)、ロームブロック(1cm)を多く含む。
- 2 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(3mm)を少量含む。



第156号土壌 (第129図)

BP17グリッドで検出された。長径-0.81m、短径-0.59m、深さ-0.42mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第157号土壌 (第129図)

BQ17グリッドで検出された。長径-0.43m、短径-0.34m、深さ-0.31mの円形をしていた。ピット状の小さなものである。第98号溝の中に存在する。遺物は古墳時代前期に属する高坪が出上した。坏部がほぼ完存する。赤彩されている。表面はナデBでざらついた感じがする。内面はミガキ。

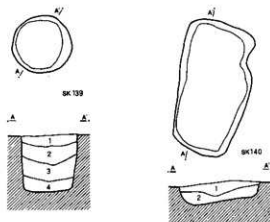
第158号土壌 (第129図)

BQ17グリッドで検出された。長径-1.66m、短径-1.42m、深さ-0.99mの円形をしていた。埋土上層から火山灰が出土した。遺物は出土しなかった。古墳時代前期と思われる。

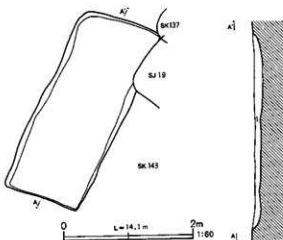
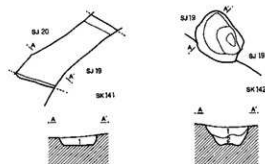
第159号土壌 (第129図)

BR16, BL17グリッドで検出された。長径-1.32m、短径-1.23m、深さ-0.16mの円形をしていた。第98号溝を切っている。遺物は出土しなかった。時期は明確でない。

第126図 土壌 (第139~143号)



- SK139
 1 暗褐色土 ローム粒子少量混入。
 2 黒褐色土 ロームブロック少量、ローム粒子少量混入。
 3 褐色土 ローム粒子少量混入。
 4 黒褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- SK140
 1 黒褐色土 しまりなし、ローム粒子を少量含む。
 2 黒褐色土 しまりなし、ローム粒子を多量に含む。
- SK141
 1 黒土 しまりなし、ローム粒子を少量含む。
- SK142
 1 暗褐色土 しまりなし、ローム粒子少量混入。
 2 暗褐色土 しまりなし、ロームブロック少量混入。
- SK143
 1 褐色土 しまりなし、ローム小ブロック(2~3cm)を多量に含む。



第160号土壌 (第129図)

BP21、BP22グリッドで検出された。長径1.14m、短径1.04m、深さ0.29mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期は明確でない。

第161号土壌 (第129図)

BP21、BP22グリッドで検出された。長径1.44m、短径1.08m、深さ0.07mの長方形をしていた。第24号住居跡を切っていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第162号土壌 (第129図)

BP22グリッドで検出された。長径0.59m、短径0.43m、深さ0.19mの円形をしていた。第95号溝に切られている。遺物は出土しなかった。時期は明確でない。

第163号土壌 (第130図)

BT16グリッドで検出された。直径0.69m前後の不整形円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期は明確でない。

第164号土壌 (第130図)

BN18グリッドで検出された。長径2.94m、短径0.95m、深さ0.17mの長方形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第165号土壌 (第130図)

BN18グリッドで検出された。長径2.19m、短径2.11m、深さ0.18mの円形をしていた。縄文時代後期の土器が出土している。時期は明確ではない。

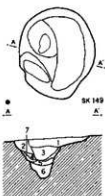
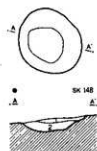
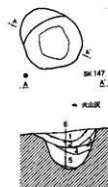
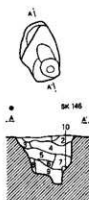
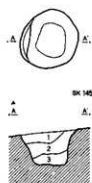
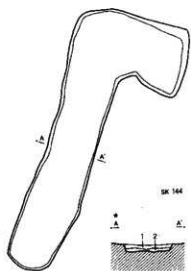
第166号土壌 (第130図)

BO18グリッドで検出された。長径1.95m、短径0.80m、深さ0.12mの長方形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第167号土壌 (第130図)

BO18グリッドで検出された。長径3.17m、短径0.99m、深さ0.17mの長方形をしていた。第166号・第168号土壌を切っている。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

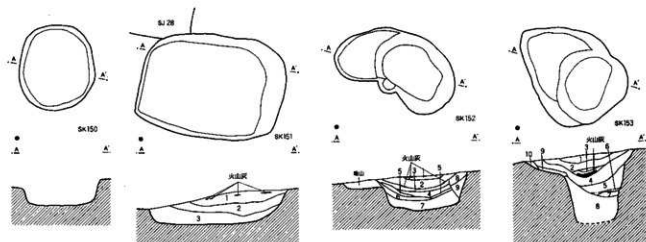
第127図 土壤 (第144~149号)



- SK 144 暗褐色土 しまりあり、ローム粒を少量含む。
 暗褐色土 しまりあり、ローム粒を少量含む。
- SK 145 暗褐色土 しまり、粘性あり、硬塊のような結核土。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒、鉄分(2mm)を少量含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、1層より厚い。
- SK 146 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒(2mm)をわずかに含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、1層よりローム粒を多く含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒(2mm)を多く含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、3層よりローム粒を多く含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒(3mm)を多く含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒(3mm)を多く含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ロームブロック(1cm)を多く含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ロームブロック(2cm)を多く含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒(5mm)を多く含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、硬塊のような結核土。
- SK 147 暗褐色土 しまり、粘性あり、鉄分を少量含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、鉄分を少量含む。上部、中部に火山灰を含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒(2mm)を中々多く含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒(2~3mm)を多く含む。土中に火山灰を含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒をほとんど含まない。層別No.1出土層。
- SK 148 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒(5mm)を少量含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒(2mm)を多く含む。
- SK 149 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒(2mm)をわずかに含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒(2mm)を多く含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒(3mm)を多く含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ローム粒(3mm)を多く含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ロームブロック(2cm)を少量含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、ロームブロック(2cm)を少量含む。
 暗褐色土 しまり、粘性あり、暗褐色土(2mm)を少量含む。



第128号 土壇 (第150~155号)

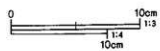
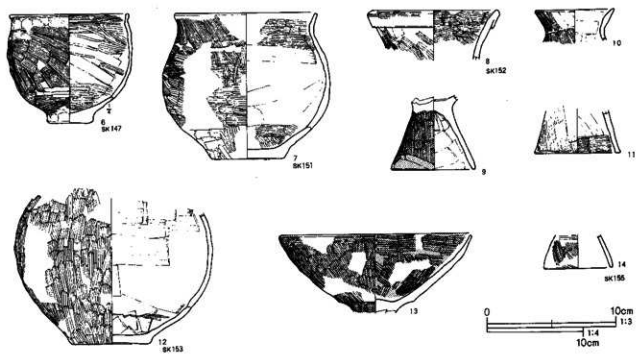
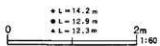
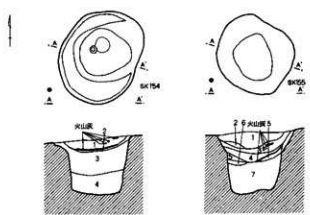


S K 150
 K 150 土壇の中心部に穴壇があり、その周囲に土壇が築かれている。土壇の形状はほぼ楕円形である。土壇の周囲には、石垣や溝などが見られる。土壇の中心部には、穴壇があり、その周囲には土壇が築かれている。土壇の形状はほぼ楕円形である。土壇の周囲には、石垣や溝などが見られる。

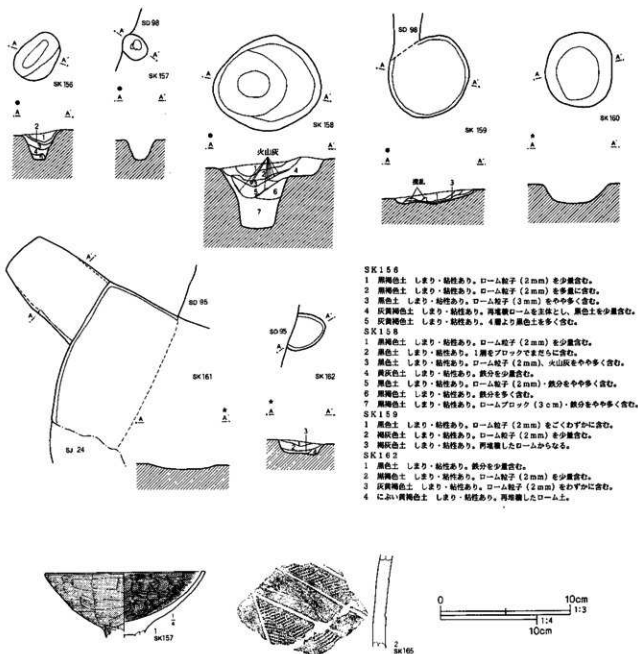
S K 151
 K 151 土壇の中心部に穴壇があり、その周囲に土壇が築かれている。土壇の形状はほぼ長方形である。土壇の周囲には、石垣や溝などが見られる。土壇の中心部には、穴壇があり、その周囲には土壇が築かれている。土壇の形状はほぼ長方形である。土壇の周囲には、石垣や溝などが見られる。

S K 152
 K 152 土壇の中心部に穴壇があり、その周囲に土壇が築かれている。土壇の形状は複雑な形状である。土壇の周囲には、石垣や溝などが見られる。土壇の中心部には、穴壇があり、その周囲には土壇が築かれている。土壇の形状は複雑な形状である。土壇の周囲には、石垣や溝などが見られる。

S K 153
 K 153 土壇の中心部に穴壇があり、その周囲に土壇が築かれている。土壇の形状は複雑な形状である。土壇の周囲には、石垣や溝などが見られる。土壇の中心部には、穴壇があり、その周囲には土壇が築かれている。土壇の形状は複雑な形状である。土壇の周囲には、石垣や溝などが見られる。



第129図 土壌 (第156~162号)



- SK 156
 1 黒褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を少量含む。
 2 黒褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を少量含む。
 3 黒色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (3mm) をやや多く含む。
 4 灰褐色土 しまり・粘性あり。薄層状ロームを主体とし、黒色土を少量含む。
 5 灰褐色土 しまり・粘性あり。4層より黒色土を多く含む。
- SK 158
 1 黒褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を少量含む。
 2 黒色土 しまり・粘性あり。1層をブロックでまだらに含む。
 3 黒色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm)、火山灰をやや多く含む。
 4 灰褐色土 しまり・粘性あり。鉄分を少量含む。
 5 黒色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (3mm)、鉄分をやや多く含む。
 6 黒褐色土 しまり・粘性あり。鉄分を多く含む。
 7 黒褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック (3cm)、鉄分をやや多く含む。
- SK 159
 1 黒色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) をごくわずかに含む。
 2 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を少量含む。
 3 褐色土 しまり・粘性あり。再堆積したロームからなる。
- SK 162
 1 黒色土 しまり・粘性あり。鉄分を少量含む。
 2 黒褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を少量含む。
 3 灰褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) をわずかに含む。
 4 に近い黒褐色土 しまり・粘性あり。再堆積したローム土。

第168号土壌 (第130図)

BO18グリッドで検出された。長径2.13m、短径(0.56)m、深さ0.23mの長方形をしていた。第100号溝に切られている。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第169号土壌 (第130図)

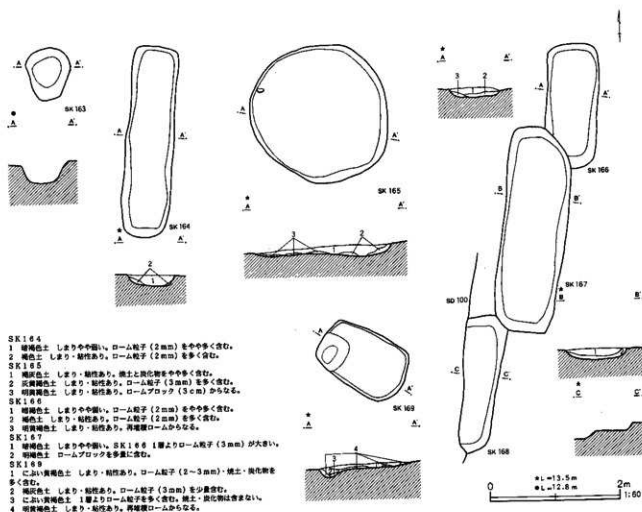
BN18グリッドで検出された。長径1.42m、短径

0.93m、深さ0.15mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第170号土壌 (第131図)

BO18グリッドで検出された。長径1.12m、短径0.83m、深さ0.08mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第130図 土壌 (第163~169号)



第171号土壌 (第131図)

BO18グリッドで検出された。長径-1.78m、短径-1.47m、深さ-0.14mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第172号土壌 (第131図)

BO17、BO18グリッドで検出された。長径-1.92m、短径-1.42m、深さ-0.54mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第173号土壌 (第131図)

BO17グリッドで検出された。長径-(0.48)m、短径-0.41m、深さ-0.17mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第174号土壌 (第131図)

BN18、BO18グリッドで検出された。長径-3.94m、短径-(0.73)m、深さ-0.19mの長方形をしていた第12号溝を切っている。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

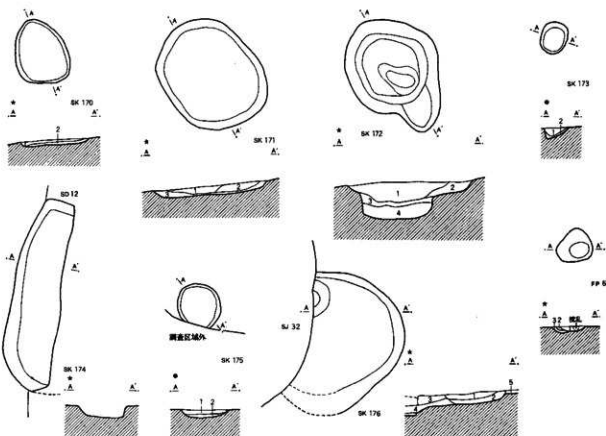
第175号土壌 (第131図)

BT16グリッドで検出された。長径-0.68m、短径-(0.63)m、深さ-0.07mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第176号土壌 (第131図)

BQ17グリッドで検出された。長径-(2.21)m、短径-(1.42)m、深さ-0.24mの円形をしていた。第32号住居跡に切られている。遺物は出土しなかった。縄文時代の遺構と思われるが仔細は不明。

第131図 土壌 (第170~176号)・第6号炉穴



SK 170

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム銭子(2mm)をやや多く含む。
- 2 褐色土 しまり・粘性あり。ローム銭子(2mm)を多く含む。

SK 171

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い。ローム銭子(2mm)をやや多く含む。
- 2 褐色土 しまり・粘性あり。ローム銭子(2mm)を多く含む。
- 3 明黄褐色土 しまり・粘性あり。河原塚ロムからなる。

SK 172

- 1 黒色土 粘性あり。ローム銭子(2~3mm)・炭化物少量混入。
- 2 灰黄褐色土 粘性あり。ロームブロック(3cm)多量混入。
- 3 黒褐色土 粘性あり。ロームブロック(3cm)・炭化物多量。焼土粒(2~3mm)少量混入。
- 4 におい黄褐色土 粘性あり。ロームブロック(3cm)多量混入。

SK 173

- 1 黒褐色土 しまり・粘性あり。ローム銭子(5mm)をわずかに含む。
- 2 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム銭子(2mm)をわずかに含む。

SK 175

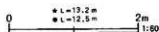
- 1 暗褐色土 しまり・粘性あり。ローム銭子(1~3mm)をやや多く含む。
- 2 におい黄褐色土 ローム銭子(2mm)を多く含む。

SK 176

- 1 黒褐色土 しまりあり。ローム銭子(1~3mm)・炭化物粒子少量混入。*古式土入。
- 2 灰黄褐色土 しまりなし。ロームブロック(1~3cm)多量混入。
- 3 灰黄褐色土 しまりなし。ローム銭子(1~3mm)少量混入。
- 4 におい黄褐色土 しまりあり。ローム銭子(1~3mm)多量混入。
- 5 暗褐色土 しまりあり。ロームブロック(1~3cm)多量混入。

FP 6

- 1 黄褐色土 しまり・粘性あり。焼土(2mm)を多く含む。
- 2 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。焼土ブロック(1cm)を少量含む。
- 3 明黄褐色土 しまり・粘性あり。焼土(2mm)を少量含む。



(3) 炉穴**第6号炉穴 (第131図)**

BR18グリッドで検出された。長径0.66m、短径

0.52m、深さ0.09mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。縄文時代の炉穴と思われるが、仔細は不明。

(4) 溝**第89号溝 (第132図、第133図)**

BS17グリッドからBT21グリッドにかけて位置していた。長さ約(49.40)m、幅約0.90m、深さ約0.41mであった。ほぼN-74°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第90号溝 (第132図、第133図)

BS17グリッドからBT21グリッドにかけて位置していた。長さ約(41.00)m、幅約0.40m、深さ約0.43mであった。ほぼN-72°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第91号溝 (第132図、第133図)

BT19グリッドに位置していた。長さ約(5.20)m、幅約0.70m、深さ約0.17mであった。ほぼN-15°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第92号溝 (第132図、第133図)

BT19グリッドに位置していた。長さ約(3.30)m、幅約0.70m、深さ約0.20mであった。ほぼN-16°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第93号溝 (第132図、第133図)

BT20グリッドからBT21グリッドにかけて位置していた。長さ約(4.80)m、幅約(0.60)m、深さ約0.38mであった。ほぼN-74°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第94号溝 (第132図、第133図)

BQ22グリッドからBS21グリッドにかけて位置していた。長さ約16.90m、幅約0.60m、深さ約0.09mであった。ほぼN-27°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第95号溝 (第132図、第133図)

BO22グリッドからBS21グリッドにかけて位置していた。長さ約(37.50)m、幅約0.80m、深さ約0.28mであった。ほぼN-21°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第96号溝 (第132図、第133図)

BO22グリッドからBS20グリッドにかけて位置していた。長さ約30.70m、幅約0.70m、深さ約0.24mであった。ほぼN-21°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第97号溝 (第132図、第133図)

BN20グリッドからBR21グリッドにかけて位置していた。長さ約(40.00)m、幅約0.90m、深さ約0.24mであった。ほぼN-15°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第98号溝 (第132図、第133図)

BQ17グリッドからBR16グリッドにかけて位置していた。長さ約(7.40)m、幅約0.80m、深さ約0.08mであった。ほぼN-10°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第99号溝 (第132図、第133図)

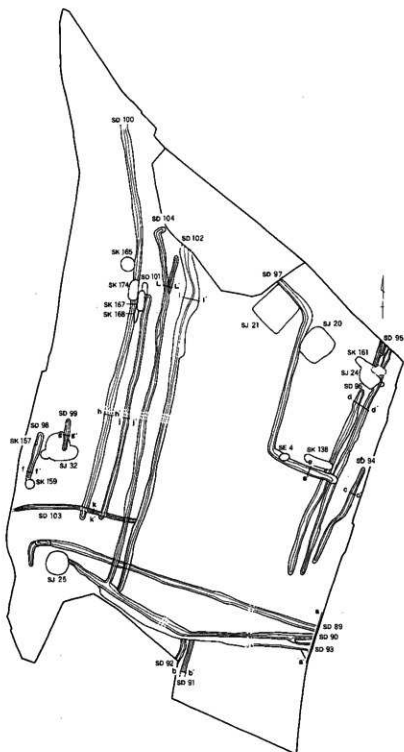
BQ17グリッドに位置していた。長さ約4.90m、幅約0.50m、深さ約0.17mであった。ほぼN-6°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第100号溝 (第132図、第133図)

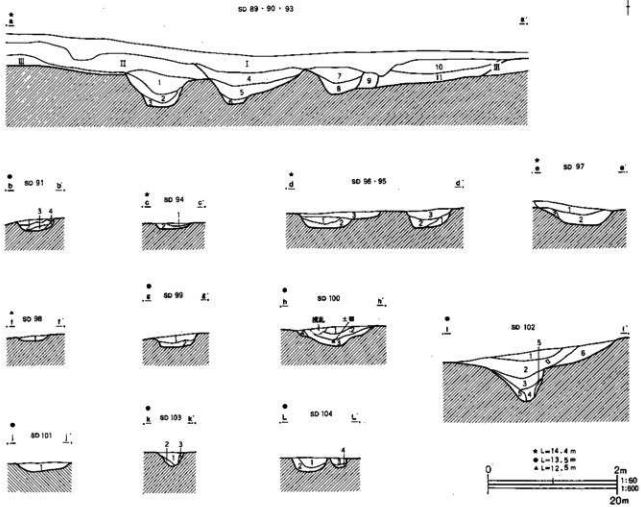
BU8グリッドからBR17グリッドにかけて位置していた。長さ約(6.120)m、幅約0.80m、深さ約0.30mであった。ほぼN-7°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第101号溝 (第132図、第133図)

BO18グリッドからBR18グリッドにかけて位置して



第133図 溝 (第89~104号) (2)



SD 89・90・93 黄土

- I 褐色土 草木根がはいる層
 - II 暗褐色土 しまり・粘性あり。ポレンツパイヌ (1mm) をわずかに含む。
 - III 黄褐色土 しまりの中細く、粘性あり。ローム粒子 (5mm) を少量含む。
- SD 89・90・93 a-a'
- 1 におい黄褐色土 しまりの中細く、粘性あり。ローム粒子 (2mm) をやや多く含む。
 - 2 におい黄褐色土 しまりの中細く、粘性あり。ローム粒子 (3mm) を多く含む。
 - 3 黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) をたいへん多く含む。
 - 4 におい黄褐色土 しまりの中細く、粘性あり。ローム粒子 (3mm) をやや多く含む。
 - 5 暗褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック (1cm) をわずかに含む。
 - 6 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (3cm) を多く含む。
 - 7 におい黄褐色土 しまりの中細く、粘性あり。1層より薄い、ローム粒子 (1mm) を多く含む。
 - 8 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック (1cm) を少量含む。
 - 9 褐色土 しまり強く、粘性あり。ロームブロック (1~2cm) を少量含む。
 - 10 褐色土 しまりの中細く、粘性あり。9層より薄い、ローム粒子 (1mm) を少量含む。
 - 11 褐色土 しまりの中細く、粘性あり。10層より明るく、ローム粒子 (1mm) を多く含む。

SD 91

- 1 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (1mm) を少量含む。
- 2 黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を多く含む。
- 3 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (1mm) をわずかに含む。
- 4 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を少量含む。

SD 94

- 1 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (3mm) を少量含む。
- 2 黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (3mm) をたいへん多く含む。

SD 95

- 1 黄褐色土 しまりの中細い、ローム粒子 (2mm) を多く含む。
- 2 褐色土 しまりの中細い、ローム粒子 (2mm) を多く含む。
- 3 褐色土 しまりの中細い、ローム粒子 (2mm) をやや多く含む。

SD 96

- 1 暗褐色土 しまりの中細い、ローム粒子 (2mm) を少量含む。
- 2 黄褐色土 ローム粒子 (2mm) を多く含む。
- 3 褐色土 しまりの中細い、ローム粒子 (3mm) を少量含む。

SD 97

- 1 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2~5mm) を多く含む。
- 2 褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック (1cm) をたいへん多く含む。
- 3 黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームの再堆積土からなる。

SD 98

- 1 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を少量含む。

SD 99

- 1 暗褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) をやや多く含む。
- 2 灰黄褐色土 しまり・粘性あり。1層をブロック状に含む。

SD 100

- 1 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (3mm) を少量含む。
- 2 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) をわずかに含む。
- 3 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を多く含む。
- 4 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) をやや多く含む。

SD 101

- 1 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を多く含む。

SD 102

- 1 褐色土 しまり・粘性強い、ローム粒子 (4mm) を少量含む。
- 2 褐色土 しまり・粘性強い、ローム粒子 (4mm)・灰色結土ブロック (1cm) を少量含む。
- 3 褐色土 しまり・粘性強い、I、2層より明るい、ローム粒子 (2~4mm) をやや多く含む。
- 4 褐色土 しまり強く、粘性あり。I、2層より明るい、ローム粒子 (2~4mm) を多く含む。

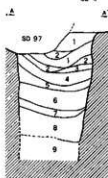
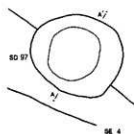
SD 103

- 1 黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を少量含む。
- 2 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子 (2mm) を多く含む。
- 3 暗黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック (3cm) を少量含む。

SD 104

- 1 灰黄褐色土 しまり・粘性の中細い、ローム粒子 (5mm) を少量含む。
- 2 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック (2~3cm) を少量に含む。
- 3 灰黄褐色土 しまり・粘性の中細い、ローム粒子 (5mm) を多く含む。
- 4 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。再堆積ローム土。

第134図 第4号井戸・第2号不明遺構



S S 4

- 1 におい黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(2mm)をやや多く含む。
- 2 褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(2mm)を多く含む。
- 3 暗褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(2mm)をやや多く含む。
- 4 黄褐色土 しまり・粘性あり。ローム粒子(2mm)をたいへん多く含む。
- 5 におい黄褐色土 しまりあり。ローム粒多量混入。
- 6 暗褐色土 しまりなし。ローム粒少量混入。
- 7 黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック(2~3cm)少量混入。
- 8 灰黄褐色土 しまりあり。ロームブロック(2~3cm)多量混入。
- 9 黒土 しまりなく、粘性あり。ローム粒子を少量含む。



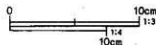
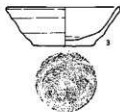
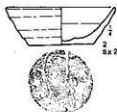
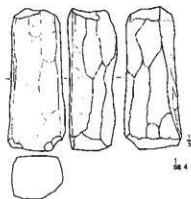
A1

S X 2



S X 2 (埋納遺構)

- 1 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子を少量含む。
- 2 におい黄褐色土 しまりなし。ローム粒子を少量含む。



いた。長さ約35.20m、幅約0.40m、深さ約0.14mであった。ほぼN-12°-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第102号溝 (第131図、第132図、第133図)

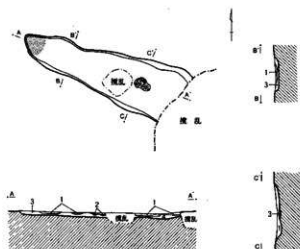
BN19グリッドからBS18グリッドにかけて位置していた。長さ約(53.80)m、幅約0.80m、深さ約0.75mであった。ほぼN-12°-Eに伸びていた。キセルが一点出土

している。形状より中・近世期の溝であろう。

第103号溝 (第132図、第133図)

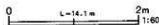
BR16グリッドからBR18グリッドにかけて位置していた。長さ約(19.00)m、幅約0.50m、深さ約0.22mであった。ほぼN-85°-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第135図 第1号炭焼窯



SF1

- 1 褐色土 しまり・粘性あり。炭化物主体。
- 2 褐色土 しまり・粘性あり。還元炭で青くなっている。
- 3 赤褐色土 しまり・粘性あり。焼土からなる。
- 4 褐色土 しまり・粘性あり。焼土・ローム粒子(2mm)を少量含む。



第104号溝 (第132図、第133図)

BN18グリッドからBS18グリッドにかけて位置していた。長さ約55.80m、幅約0.50m、深さ約0.21mであった。ほぼN9°Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

(5) 井戸

第4号井戸 (第134図)

BQ20グリッドで検出された。長径1.43m、短径1.22m、深さは約1.98mの円形をしていた。第97号溝を切っている。砥石が1点出土している。中・近世期の井戸と思われる。

(6) 不明遺構

第2号不明遺構 (第134図)

BQ21グリッドで検出された。長径0.35m、短径0.28mの円形ピット内に須恵器環2個体の口縁部をあわせるようにして置かれていた。特殊な用途であろう。2、3ともに糸切の底部を持ち、全体に白っぽい胎土を持つ。

(7) 炭焼窯

第1号炭焼窯

BR20グリッドに位置していた。長さ約2.47m、幅約0.87m、深さ約0.12mの楕円形をしていた。東側が攪乱され、焚き口部のみの調査であった。大部分は消失して底面部分だけ残存していた。ほぼN67°Wに伸びていた。遺物は出土していない。時期決定は難しいが、「薬師堂根遺跡」の報告では古代の可能性が指摘されている。

(8) グリッド出土遺物

第1群土器 (第136図1~12)

縄文時代早期貝殻沈線文系の土器群を一括する。1は平行沈線文が描かれる特徴的なもの。3は波状口縁で地文に貝殻腹線文がある。5~9は厚手で地文に貝殻腹線文がある。田戸下層式土器。

第2群土器 (第136図13~34)

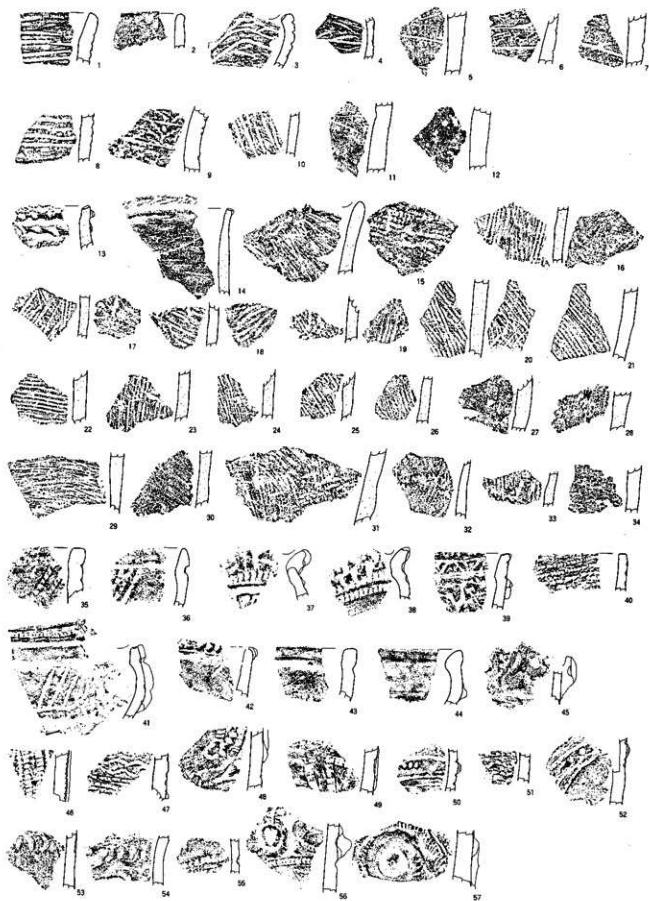
縄文時代前期初頭の条痕文系土器群を一括する。13はキザミの入った2条の隆帯を口縁部下に配す他地域の土器。15は波状口縁裏面に縄文が入る。胴部破片は条痕文が施文されるものと擦痕文のものがある。

第3群土器 (第136図35~57)

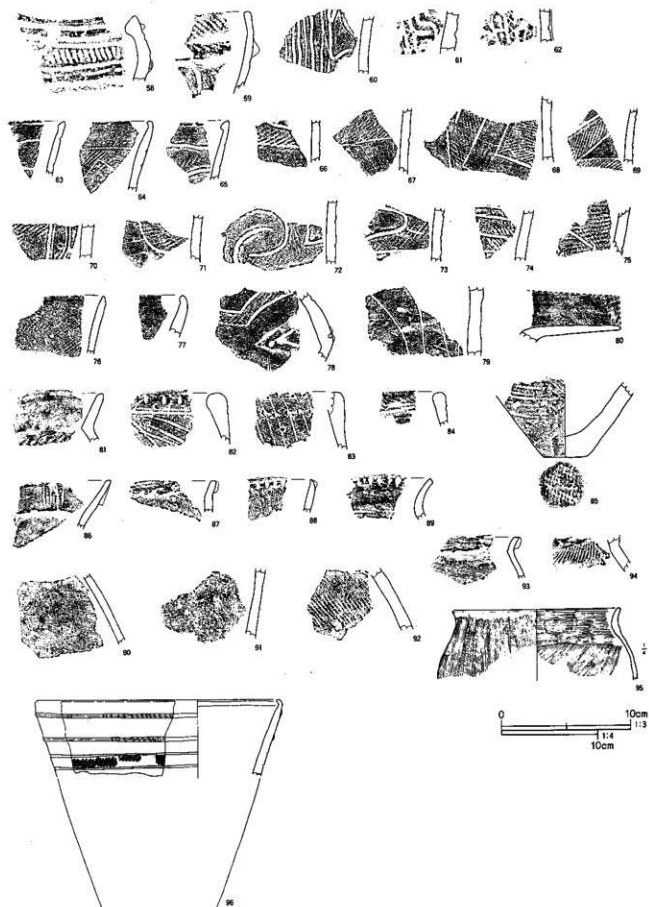
縄文時代中期阿玉台式土器を一括する。35、36、41の口縁部には斜行する数条の結節沈線文が施文されている。39は鋸歯状の結節沈線文が描かれる。57は円形の隆起線に沿ってキャタピラー文が施文されている。

第4群土器 (第137図58)

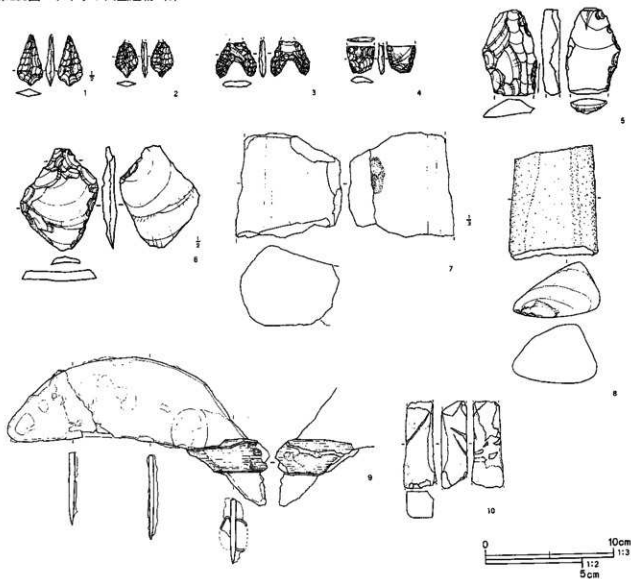
第136図 グリッド出土遺物 (1)



第137図 グリッド出土遺物 (2)



第138図 グリッド出土遺物 (3)



58は加曾利E I段階の口縁部である。1点だけであるが分離した。

第5群土器 (第137図59～62)

縄文時代後期初頭の土器を一括する。59は本来無文帯となる部分に縄文が施文されている。加曾利E IV段階またはV段階。60～62は同一個体と思われる。隆帯上に連「ハ」状のキザミが認められる。曾利系列の末葉で多分堀ノ内段階まで残る例である。

第6群土器 (第137図63～80、96)

堀ノ内2式土器を一括する。外反する口縁部を持ち、口唇部が内側に折れ曲がる。96はキザミの入った微隆起線を2条めぐらし、以下に帯状の磨消文を配する。

磨消による三角形や「の」字状の文様が描かれる。

第7群土器 (第137図81～85)

縄文時代後期中葉加曾利B式土器および細線文系の土器を一括する。

第8群土器 (第137図86～95)

古埤時代前期の土器を一括する。86は折返口縁に沈線文を垂下させ棒状浮文の換わりとしている。90～94が縄文が施文される土器。横回転で細密なものが多い。95は縦ミガキの入る薄手の甕である。口唇部の面取りがだいぶ緩んでいる。

石器 (第138図1～8、10)

1～3までは石鏃。1、2の基部は小さく突出する。

3には挟りが入る。4～6はスクレイパーである。 残りの非常によい鎌である。グリッドからの出土である。基部着柄部に木質が残っていた。

鉄器 (第138図9)

第8表 遺物観察表(5)

第151号土壌 第128図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
7	甕	14.8	15.0	7.6	A	A	暗褐色		sk20 No.13, 18	

第152号土壌 第128図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
8	甕(口縁部)	13.8	—	—	A	A	暗褐色		sk21 No.1	
9	高坏(脚部)	—	—	9.0	A 1	A	暗赤褐色		sk21 No.1	赤彩
10	小形甕	(4.2)	—	—	A 1	A	暗褐色		sk21	
11	台付甕(白部)	—	—	(9.0)	A	B	褐色		sk21	

第153号土壌 第128図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
12	甕	—	—	8.3	B 4	A	黒褐色	胴部50%	sk22	
13	高坏(脚部)	20.1	—	—	B 1	A	赤褐色		sk22	赤彩

第155号土壌 第128図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
14	台付甕	—	—	7.1	A	C	褐色	白部20%	sk24	

第157号土壌 第129図

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・産地	焼成	色調	残存率	注記	備考
1	高坏	16.6	—	—	A	B	明褐色	坏部100%	sk26	赤彩

第9表 縄文時代以降石器観察表(2)

石器一覧表(3次)

図版番号	出土位置	器種	縦×横×厚さ(cm)	重量(g)	石質
99図-73	H2グリッド	石匙	7.2×6.1×1.9	2.6	硬質砂岩
99図-74		石鎌	1.95×1.7×0.2	0.6	チャート
99図-75	SJ11	石鎌	3.4×2.0×0.4	1.7	砂岩
99図-76	BJ22	礫器	7.0×8.0×2.7	72.5	安山岩
99図-77	SJ11	礫器	6.2×8.7×2.1	65.2	安山岩
99図-78	BG23	礫石	9.0×5.6×5.8	87.2	安山岩
99図-79		礫石	10.9×7.4×7.3	124	安山岩

石器一覧表(4次)

図版番号	出土位置	器種	縦×横×厚さ(cm)	重量(g)	石質
104図-21	グリッド	ドリル	2.9×1.9×0.7	3.3	安山岩
104図-22	SK133	ドリル	3.6×2.8×1.0	6.4	チャート

石器一覧表(5次)

図版番号	出土位置	器種	縦×横×厚さ(cm)	重量(g)	石質
110図-8	SJ18	銅鉄	3.6×1.1×4.5	2.9	
110図-9	SJ18	石皿	(7.2)×(6.3)×3.8	158	安山岩
116図-8	SJ24	石鎌	1.8×1.5×0.4	0.7	チャート
134図-1	SE4	礫石	10.9×4.4×3.7	212	砂岩
138図-1	グリッド	石鎌	2.6×1.3×0.4	0.9	砂岩
138図-2	S D100	石鎌	1.8×1.1×0.3	0.6	チャート
138図-3	グリッド	石鎌	(1.9)×2.0×0.3	0.9	黒曜石
138図-4	SD100	先端器?	1.4×1.5×0.3	0.8	黒曜石
138図-5	SD100	スクレイパー	4.4×2.8×1.0	136	チャート
138図-6	SD101	石匙	5.3×4.0×0.6	13.4	硬質砂岩
138図-7	グリッド	石皿	(6.1)×(8.1)×6.2	497	安山岩
138図-8	グリッド	礫器	8.7×6.8×4.5	421	安山岩
138図-10	グリッド	礫石	6.7×2.5×2.0	46.7	砂岩

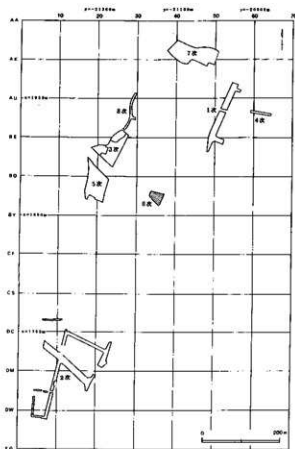
6. 第6次調査

調査の概要

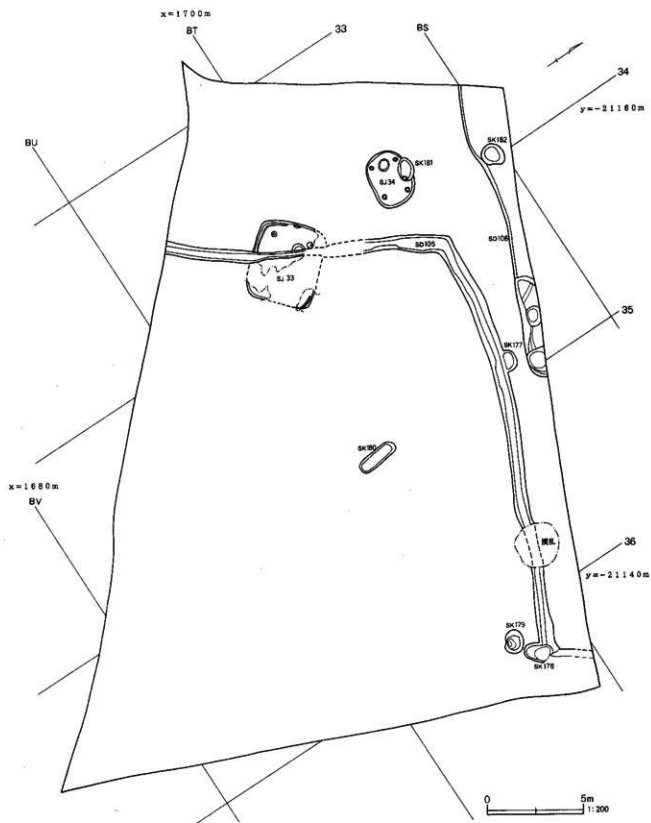
平成7年10月1日～平成7年12月8日まで実施した。調査面積は900㎡であった。台地の中央にかけて位置していた。ほぼ古墳時代前期の遺構が切れる。

調査された遺構は古墳時代前期の住居跡が2軒、上墳が6基、溝などであった。遺構遺物ともに少なかった。

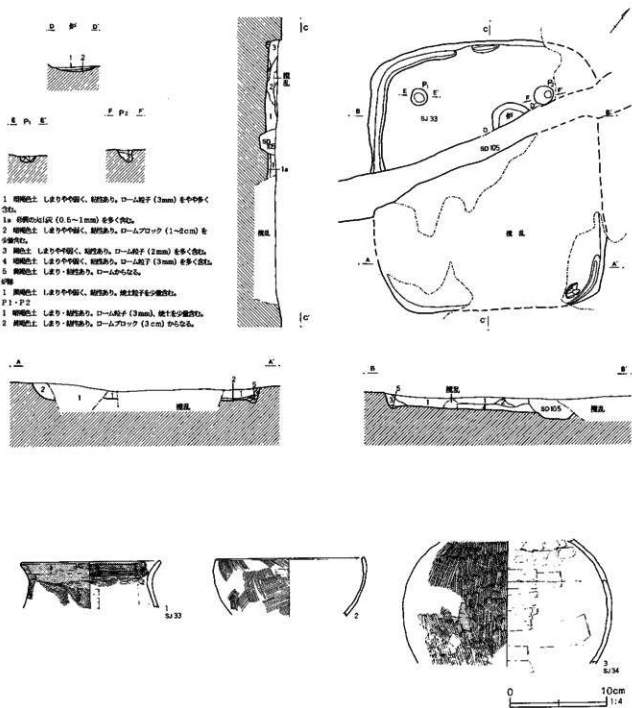
第139図 向原遺跡グリッド配置図（6次）



第140図 第6次調査区全体図



第141図 第33号住居跡



(1) 住居跡

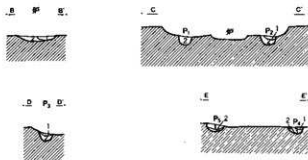
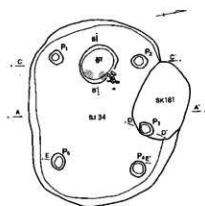
第33号住居跡 (第141図)

BT33、BT34グリッドで検出された。長軸(4.13m)、短軸(3.50m)、深さ0.25mから0.30mの隅丸方形をしていた。主軸の傾きは、N-0°-Wであった。第105号溝に

切られていた。一部に壁溝が配される。柱穴は北側に2箇所主柱穴が検出されたが南側にはなかった。炉は中央からやや北によって作られていた。溝に切断されていた。自然堆積と思われる。

遺物は古墳時代前期の土器が2個体出土した。1は

第142図 第34号住居跡



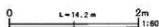
- 1 暗褐色土 しまりやや強く、粘粒あり。ローム粒子 (2mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 しまりやや強く、粘粒あり。ローム粒子 (2mm)・粘土をやや多く含む。
- 3 暗褐色土 しまり・粘粒あり。黒色炭子 (3mm) を多く含む。
- 4 褐色土 しまり・粘粒あり。ローム粒子 (2mm) からなる。

付録

- 1 暗褐色土 しまり・粘粒あり。粘土を多く含む。
- 2 におい黄褐色土 ローム粒子 (2mm) を少量含む。

付1-5

- 1 暗褐色土 しまり・粘粒あり。ローム粒子 (3mm) を少量含む。
- 2 褐色土 しまり・粘粒あり。ロームアロック (2cm) を多く含む。
- 3 におい黄褐色土 しまり・粘粒あり。ローム粒子 (3mm) をやや多く含む。



赤染された長胴の甕で本遺跡ではめずらしい。2は柄で薄手のつくり、表面にナデAが残る。古墳時代前期と思われる。

第34号住居跡 (第141図、第142図)

BS33グリッドで検出された。長軸2.90m、短軸 (L62)m、深さ0.16mの楕円形をしていた。主軸の傾きは、N-87°-Wであった。第181号土壌に切られていた。ピットは5箇所検出され、内4本が主柱穴である。炉は中央からかなり西に寄っていてよく焼けていた。自然堆積。

遺物は3の壺胴部が実測できた。表面に縦方向の入念なミガキが施される。

(2) 土壌

第177号土壌 (第143図)

BS34グリッドで検出された。長径1.06m、短径 (0.60)m、深さ0.34mの隅丸方形をしていた。第105号溝と切りあっていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第178号土壌 (第143図)

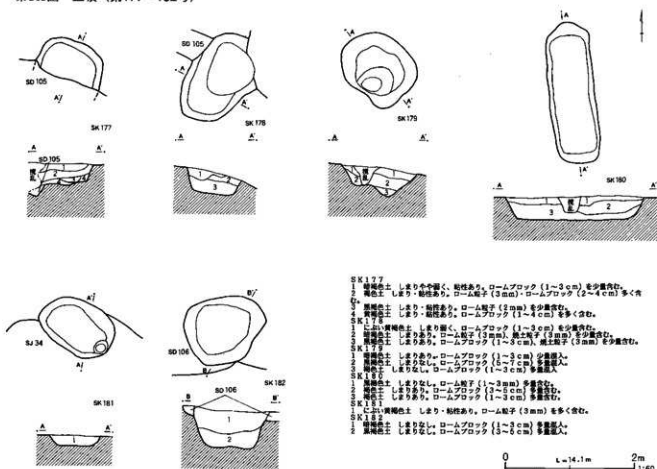
BT36グリッドで検出された。長径1.45m、短径1.05m、深さ0.33mの楕円形をしていた。第105号溝と切りあっていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第179号土壌 (第143図)

BT36グリッドで検出された。長径1.20m、短径0.94m、深さ0.40mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第180号土壌 (第143図)

第143図 土壌 (第177~182号)



BT34グリッドで検出された。長径2.18m、短径0.68m、深さ0.34mの長方形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第181号土壌 (第143図)

BS33グリッドで検出された。長径1.16m、短径0.81m、深さ0.16mの楕円形をしていた。第34号住居跡を切っていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第182号土壌 (第143図)

BS33、BS34グリッドで検出された。長径1.24m、短径1.06m、深さ0.47mの不正円形をしていた。第106号溝と切りあっていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

- SK 177
 1 黒褐色土 しまりやや強く、粘性あり。ロームブロック (1~3cm) を少量含む。
 2 褐色土 しまり・粘性あり。ローム破片 (3mm)・ロームブロック (2~4cm) 多く含む。
 3 黒褐色土 しまり・粘性あり。ローム破片 (2mm) を少量含む。
 4 黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック (1~4cm) を多く含む。
 SK 178
 1 黒褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック (1~3cm) を少量含む。
 2 黄褐色土 しまりあり。ローム破片 (3mm)、焼土破片 (3mm) を少量含む。
 3 黒褐色土 しまりあり。ロームブロック (1~3cm)、焼土破片 (3mm) を少量含む。
 SK 179
 1 黒褐色土 しまりあり。ロームブロック (1~3cm) を少量含む。
 2 黄褐色土 しまりなし。ロームブロック (5~7cm) を少量含む。
 3 褐色土 しまりなし。ロームブロック (1~3cm) を少量含む。
 SK 180
 1 黒褐色土 しまりなし。ローム破片 (1~3mm) を少量含む。
 2 黄褐色土 しまりあり。ロームブロック (3~5cm) を少量含む。
 3 黒褐色土 しまりあり。ロームブロック (1~3cm) を少量含む。
 SK 181
 1 黒褐色土 しまり・粘性あり。ローム破片 (3mm) を多く含む。
 2 黄褐色土 しまりなし。ローム破片 (1~3cm) を少量含む。
 SK 182
 1 黒褐色土 しまりなし。ローム破片 (1~3cm) を少量含む。
 2 黄褐色土 しまりあり。ロームブロック (3~5cm) を少量含む。
 3 黒褐色土 しまりあり。ロームブロック (1~3cm) を少量含む。

(3) 溝

第105号溝 (第144図)

BT33グリッドからBT36グリッドにかけて位置していた。長さ約39.1m、幅約0.06mから約0.09m、深さ約0.41mから約0.55mであった。ほぼN79°Eに伸びていて、途中で南西方向に屈曲する。断面は「U」字状をしていた。第33号住居跡を切り、第177号土壌、第178号土壌と重複していた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第106号溝 (第144図)

BS33グリッドからBS35グリッドにかけて位置していた。一部調査区外。長さ約16.8m、幅約(0.20)mから約(0.80)m、深さ約0.49mから約0.61mであった。ほぼN73°Wに伸びていた。断面は箱型をしていた。第182号土壌と重複していた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

7. 第7次調査

調査の概要

発掘調査は平成8年9月11日～平成8年12月31日まで行われた。調査面積は4800㎡であった。調査区の平坦部分は、畑などの開墾のためかなり削平されていて、縄文時代の住居跡の中には殆ど残っていないものもあった。

旧石器時代

剥片、石核などが50点ほど出土した。石材は安山岩とチャート。層位はソフトロームからハードロームにかけてであった。

縄文時代

遺構は台地の斜面部と平坦地の双方に見つかった。竪穴住居跡（早期3軒、後期3軒）が6軒、竪穴14基、土壇17基であった。後期の住居跡のうち2軒は柄鏡形住居跡であった。

古墳時代

前期に属する遺構は、土壇と溝であった。覆土上層には火山灰が確認できた。

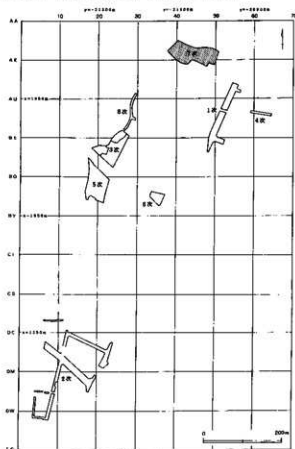
平安時代

遺構は住居跡が1軒検出できた。かなり攪乱が入っていたが、覆土からは須恵器などの遺物が多く出土した。須恵器環は茨城県産と推定される。

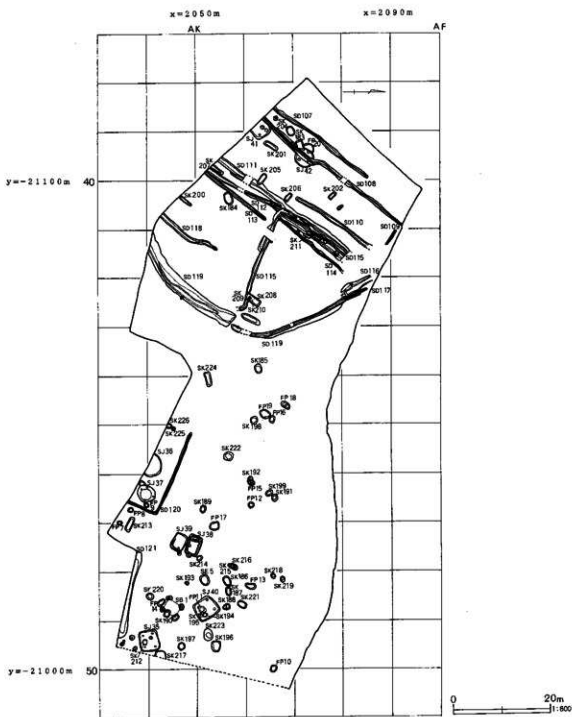
中・近世以降

掘立柱建物跡1軒、土壇27基、井戸1基、溝13条が検出できた。一部江戸時代に下るものもある。

第145図 向原遺跡グリッド配置図（7次）



第146図 第7次調査区全体図



(1) 旧石器時代の石器集中・礫群

第11号石器集中 (第147図)

AM3、AM4グリッドにまたがって検出された。出土層位は第Ⅲ～Ⅳ層にかけてである。長径約5m、短径約3mの楕円形に分布していた。チャートを主体とす

るが、頁岩、黒色ガラス質安山岩も加わる。製品は検出されなかった。

1は黒色ガラス質安山岩製の石核である。2、3は同じ石質の剥片。

(2) 住居跡

第35号住居跡 (第148図、第149図)

AK49グリッドからAL49グリッドで検出された。長軸4.34m、短軸4.03m、深さ0.13mの長方形をしていた。主軸の傾きは、N-1°Eであった。炉跡は中央から西によって検出された。ピットは3箇所存在するが不確実である。縄文時代早期末葉の土器が出土した。

1は復元できたもので表裏に条痕文が施文される。あるいは平底か。直線的に底部に移行する。口唇部はわずかに内そぎ気味。2は口唇部が丸い。他は表裏に条痕文が施文される胴部破片である。縄文時代早期末葉の住居跡であろう。

第36号住居跡 (第149図)

AK45、AK46グリッドからBL45、BL46グリッドで検出された。直径4.77m前後の円形をしていたものと思われる。深さ0.13m前後と極めて浅かった。かなり攪乱が入っていた。炉跡が中央にありその中から縄文時代の遺物が出土した。縄文時代後期の住居跡と思われる。

9は両耳竝である。かなり平べったい感じがする。口縁部が欠落する。口縁部の無文帯と区画する隆帯が同える。以下に縦位の櫛描文が密に施文される。加曾利EⅣ段階。

第37号住居跡 (第150図、第151図)

AK46グリッドからAL46グリッドで検出された。長軸4.39m、短軸3.34m、深さ0.38mの柄鏡形をしていた。主軸の傾きは、N-6°Eであった。4本柱穴で柱穴間に間仕切りと思われる溝が確認できた。炉跡は検出できなかった。縄文時代後期の遺物が出土した。

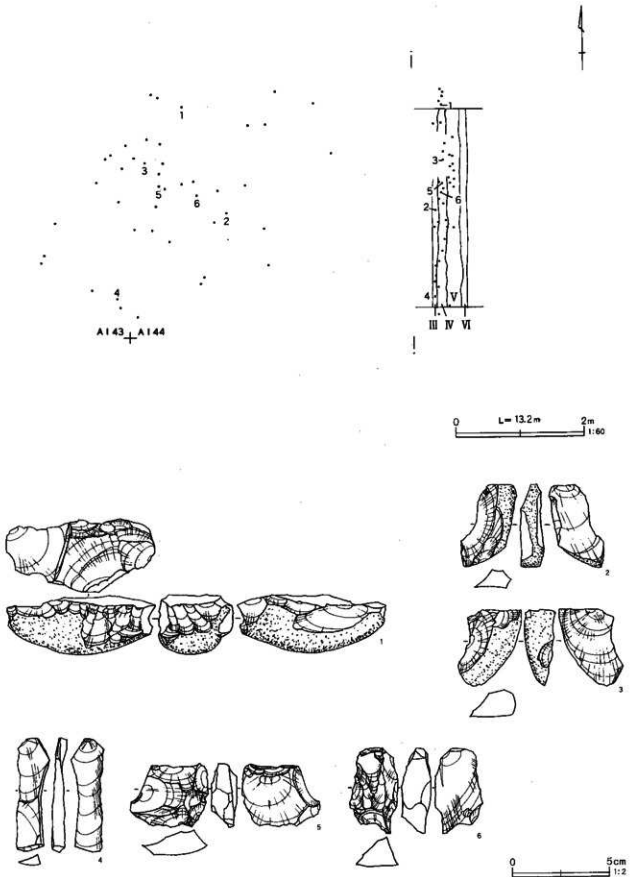
1は胴部で緩く括れるキャリバー形土器で口縁が内

彎する。充填波状文の間に下から楕円文が突き上げる文様構成をとっている。2は同様な器形で口縁部に無文部を置き、以下に縦位の櫛描文が密に描かれるもの。3は櫛描文が施文される小型の深鉢で中の開いた円柱状の突起を持つと思われる。6、7は口縁部文様帯を持つ地特有の深鉢口縁部破片。11はリング状の突起を持つ。19～25は微隆線による渦巻文系列の土器で微隆線が1本になっている。加曾利EⅣ段階。

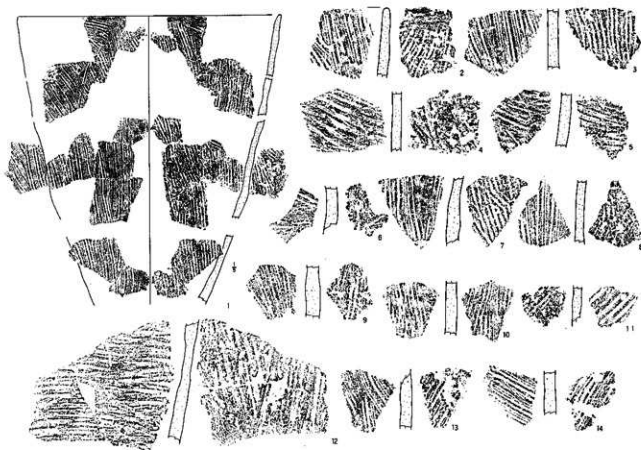
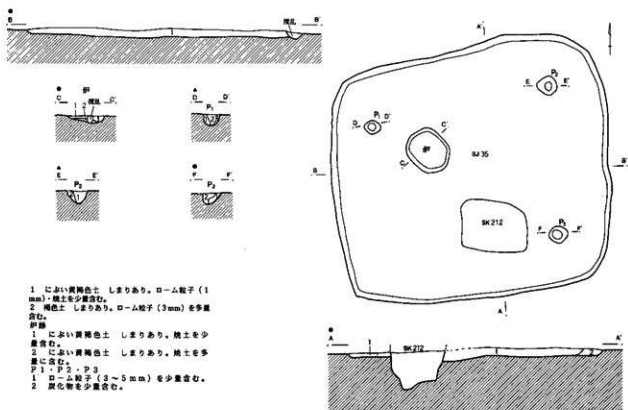
第38号住居跡 (第152図、第153図)

AJ47グリッドからAK47グリッドで検出された。長軸4.13m、短軸2.52m、深さ0.44mの長方形をしていた。第39号住居跡を切って作られている。主軸の傾きは、N-17°Eであった。カマドは東向きに存在する。方形のピットが南側に1箇所検出された。貯蔵穴であろう。壁下溝が全周し、拡張が確認された。遺物は須恵器環などが出土している。第153図1～7は須恵器環である。1、3、4は南比企窯跡群産、5は東金子窯跡群産、2、6は産地不明であるが、東金子窯跡群産の可能性を持つ。7は環類で唯一器形の判明する資料で、逆台形のプローションを持つ。底部はやや厚めで、口縁部は肥厚し内湾気味におさめている。体部下端は幅広の手持ちヘラケズリ調整、底部はヘラ切り後一方向の手持ちヘラケズリが施されている。素地土は緻密で、白色粒子が多く含まれている。焼成は堅緻である。常陸産、おそらく堀ノ内窯跡群産と思われる。8、9は南比企産の須恵器甕で、9は平底甕であろう。10は須恵器蓋を転用した紡錘車である。つまみを外した位置に直径0.9cmの軸受けの孔を穿ち、側縁は磨って円形に仕上げている。直径10.8cm。天井部外面は回転糸

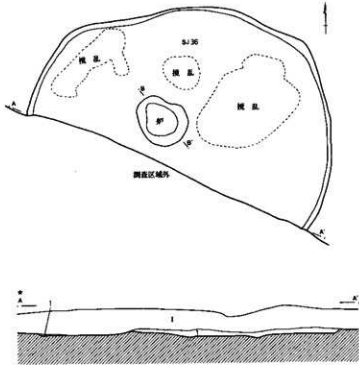
第147図 第11号石器集中



第148図 第35号住居跡



第149図 第36号住居跡



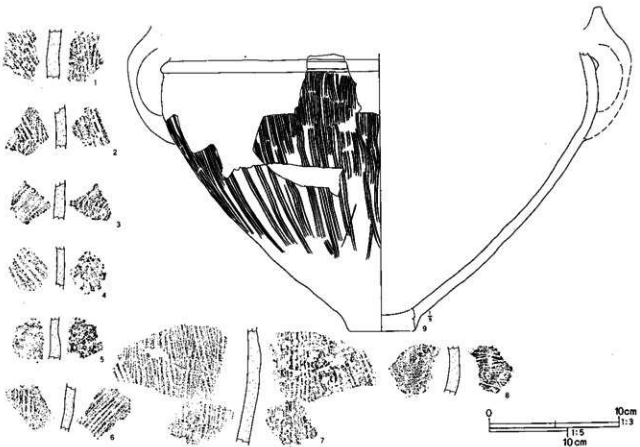
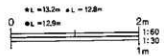
1 製作土

1 褐色土 しまりあり、ローン粒子(3mm)を少量含む。

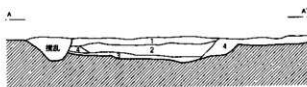
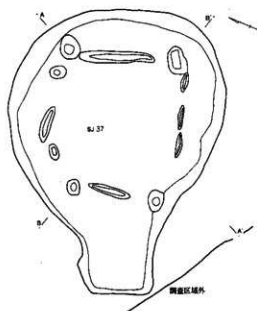
炉跡

1 暗褐色土 しまり中程度、焼土を少量含む。

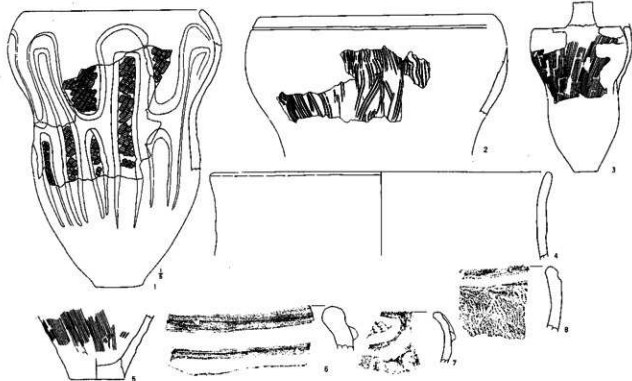
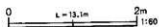
2 濃い黄褐色土 しまりあり、焼土を少量含む。



第150図 第37号住居跡 (1)



- 1 濃い黄褐色土 しまりあり。ローム粒子 (3mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子 (5mm)・炭化物を少量含む。
- 3 褐色土 しまりあり。ローム粒子 (3mm) を多量・炭化物を少量含む。
- 4 褐色土 しまりあり。ローム粒子 (5mm) を大量多く含む。



切り後、回転ヘラケズリ調整が施されている。また、薄い墨書痕があり、「酒」と読める。東金子窯跡群産である。11は須恵器壺類を転用した甗である。胴部下端を打ち欠き調整し、見込み部は中心部付近が良く使用され摩滅している。また、墨痕と思われる黒色有機物が斑点状に残る。底部外面は回転ヘラケズリ調整されている。南比企窯跡群産。12は須恵器水瓶と思われる。底部外面に「X」に似たヘラ記号が刻まれている。南比企窯跡群産。13、14は土師器武蔵型甗である。

第39号住居跡 (第152図、第153図)

AK47グリッドから検出された。長軸3.39m、短軸2.79m、深さ0.36mから0.43mの長方形をしていた。主軸の傾きは、N-55°Wであった。部分的に壁溝がめぐる。東側コーナー付近で方形のピットが検出された。貯蔵穴であろう。カマドは検出されなかった。遺物は小破片が出土しただけで、実測可能なものはなかった。

第40号住居跡 (第154図)

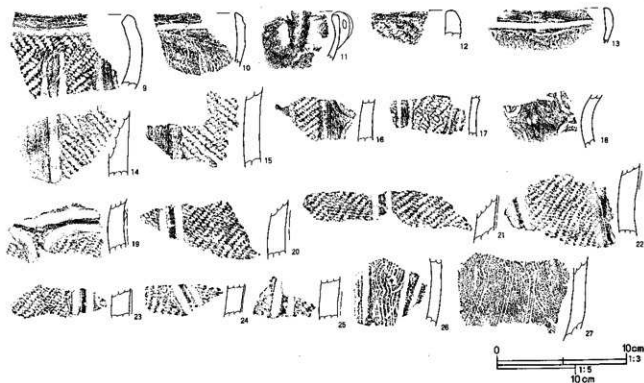
AJ48、AJ49グリッドからAK48グリッドで検出された。長軸4.49m、短軸4.04m、深さ0.15mの不整長方形をしていた。主軸の傾きは、N-34°Wであった。柱穴が2箇所検出された。4本柱穴の一对であろう。炉跡は検出できなかった。

遺物は繊維土器が検出された。1、2は口縁部破片で1には口唇部にキザミがある。3-17は胴部で条痕を持つ。縄文時代早期末の条痕文とはかなり異なった印象になっている。18は丸底であることから縄文時代前期初頃に下る可能性がある。

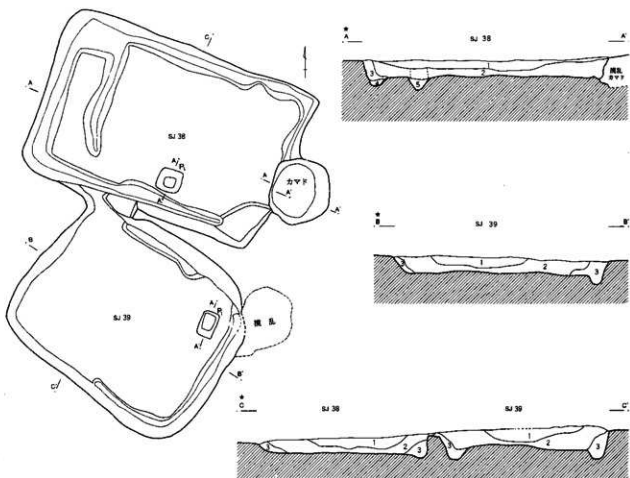
第41号住居跡 (第155図)

AE8グリッドからAI39グリッドで検出された。長軸3.57m、短軸(3.02)m、深さ0.19mの長方形をしていた。主軸の傾きは、N-37°Wであった。第108号溝が切っていた。主柱穴と思われる4本のピットが検出された。中央部から北によって炉跡が検出されている。覆土か

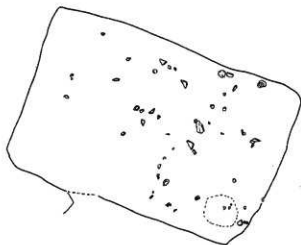
第151図 第37号住居跡 (2)



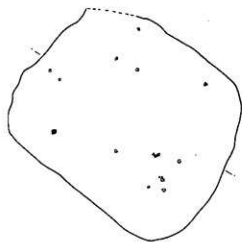
第152図 第38・39号住居跡 (1)



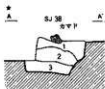
第38号住居跡遺物出土状況



第39号住居跡遺物出土状況



第153図 第38・39号住居跡 (2)



SJ 38

- 1 築地土 しまり強い、ローム層が若干。焼土・炭化物粒子を多数含む。
- 2 築地土 しまり強い、ローム層の量が1層より多量。焼土・炭化物粒子を多数含む。
- 3 築地土 しまり強い、ローム層が少く(10cm以下)を多数含む。
- 4 築地土 しまり強い、ローム層がほとんどなく。
- 5 築地土 しまり弱く、ローム層が若干。焼土も少量含む。

中層部がやや硬質で、しまり強い。焼土をまじりたくさば、炭化物粒子を若干含む。

- 1 築地土 しまりあり。焼土粒子を多数含む。ローム層が若干あり、炭化物粒子を若干含む。
- 2 築地土 しまり弱く、炭化物粒子を少量含む。ローム層が若干あり、炭化物粒子を若干含む。
- 3 2層より若干強い。築地土 しまり弱く、焼土をまじり、炭化物粒子を若干含む。

Q: ①-③とも木の根によって腐乱を来している。

P1

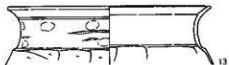
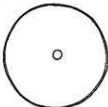
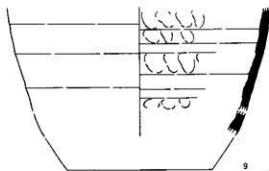
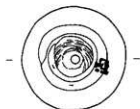
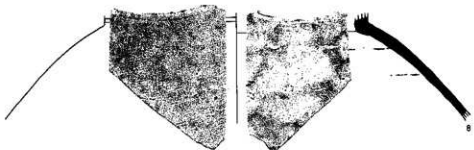
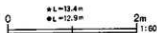
- 1 築地土 しまりあり。炭化物粒子を多数含む。ローム層が(10cm以下)を少量含む。
- 2 硬い層状の土 しまりあり。炭化物粒子・ローム層を多数含む。
- 3 築地土 しまり強い、ローム層を多数含む。

SJ 39

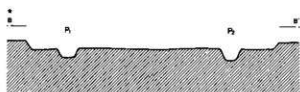
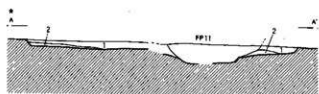
- 1 築地土 しまり強い、ローム層が(10cm)弱く、炭化物粒子を多数含む。
- 2 築地土 しまり強い、ローム層が(30cm以下)を多数含む。
- 3 2層より硬い。築地土 ローム層が(10cm以下)を若干含む。

P1

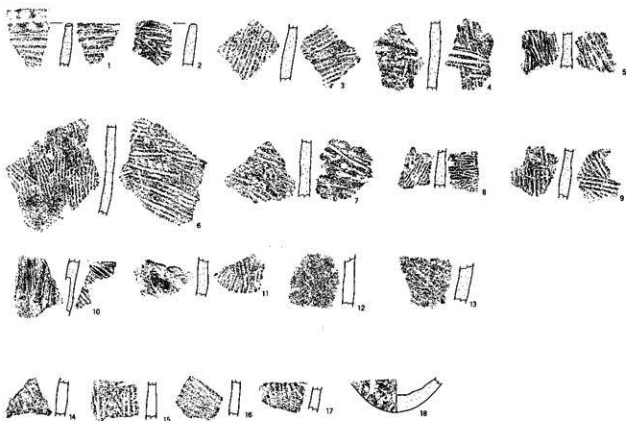
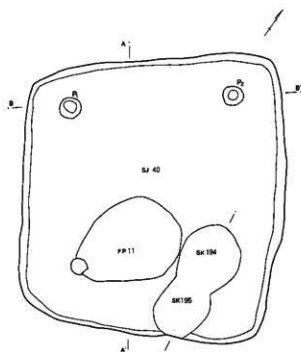
- 1 築地土 しまりあり。炭化物粒子を多数含む。ローム層が(10cm以下)を少量含む。
- 2 硬い層状の土 しまりあり。炭化物粒子・ローム層を多数含む。
- 3 築地土 しまり強い、ローム層を多数含む。



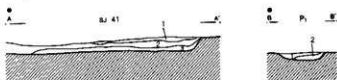
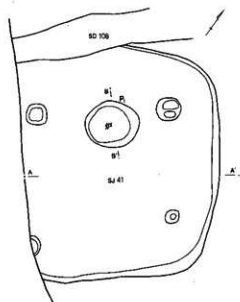
第154図 第40号住居跡



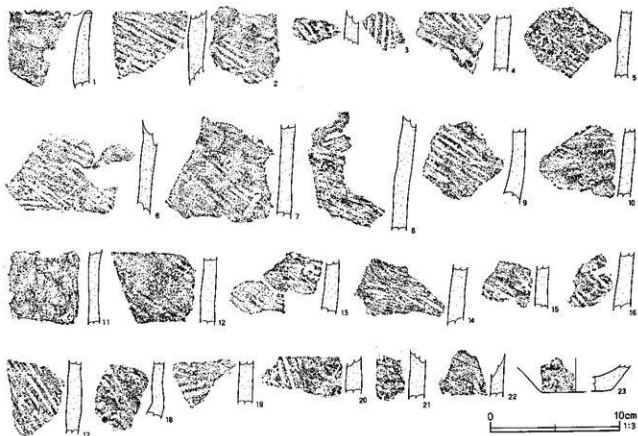
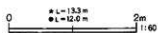
- 1 におい黄褐色土 しまりあり、ローム粒子(5mm)を少量含む。
 2 褐色土 しまりあり、ロームブロック(10mm)を多量含む。



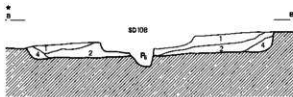
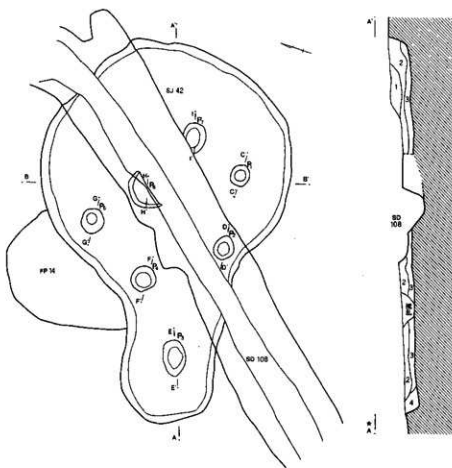
第155図 第41号住居跡



- 1 褐色土 しまり厚く、粘性あり。ロームブロックを多量、白色粘土を少量含む。
 - 2 におい黄褐色土 しまり厚く、粘性あり。カーボン粒子・ローム粒子・ロームブロックを少量含む。
 - 3 褐色土 しまり厚く、粘性あり。カーボン粒子・ロームブロックを少量含む。
- 剖面状況
- 1 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。
 - 2 褐色土 ロームブロック中量・焼土粒子を少量含む。

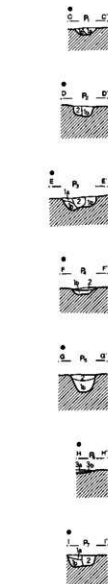


第156図 第42号住居跡



- 1 暗褐色土 しまり、粘性あり。ローム粘土を中量・カーボン粘土・ロームブロックを少量含む。
- 2 褐色土 粘性、しまりあり。ロームブロック・ローム粘土を中量含む。
- 3 褐色土 比較的しまりない。ロームブロック中量・カーボン粘土を少量含む。
- 4 におい黄褐色土 ロームブロックを少量含む。(壁のぼりか土)

- P 1
 1a 黄褐色土 褐色ブロックを少量含む。
 1b 黄褐色土 褐色ブロックを含まない。
 P 2・P 4・P 5
 1a 黄褐色土 褐色ブロックを含まない。
 2 褐色土 暗褐色ブロックを少量含む。
 P 3・P 7
 1a 黄褐色土 褐色ブロックを少量含む。
 1b 黄褐色土 褐色ブロックを含まない。
 2 褐色土 暗褐色ブロックを少量含む。
 P 8
 2a 褐色土 暗褐色ブロック・カーボン粘土を少量含む。
 3b 褐色土 褐色ブロック・砂粒ブロックを少量含む。



0 1:11.5m 2m 1:60



0 10cm 1:3

ら繊維を含む条痕文系の土器が出土している。

概して器壁が厚く、ざらついた感じがする。表面に薄い感じの条痕が施され、裏面はさらに薄い。1は口縁部で口唇部にキザミがある。23は底部で平底である。縄文時代前期に下る可能性がある。

第42号住居跡 (第156図)

AH39グリッドから検出された。長軸5.93m、短軸3.87m、深さ0.31mから0.32mの柄鏡形をしていた。主軸の傾きは、N-69°Eであった。第108号溝が切っていた。ピットが7箇所検出されたが不規則であった。灰跡は検出できなかったが、中央に炉跡状のピットがあった。遺物は加曾利EⅣ段階の土器が出土した。1は口縁部に無文部を持ち微隆起線で区画される。

第10表 遺物観察表(6)

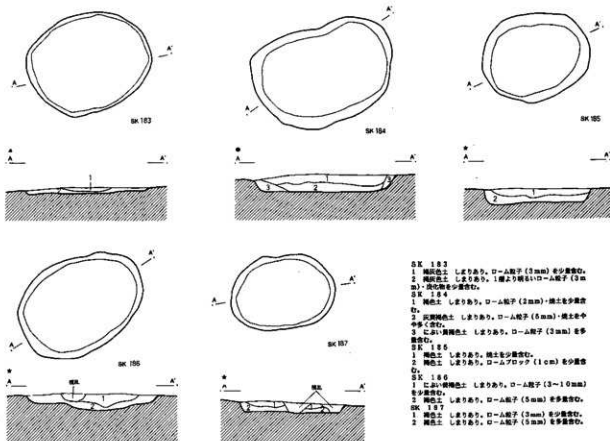
第5号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存率	備考
2	土師器環	(11.0)	(3.0)		C	C	赤褐色	30%	No.65・66. 指頭痕
3	土師環	(10.6)			B	B	暗赤褐色	20%	一括
4	須恵環	(12.2)	(3.6)		A B	A	灰白色	20%	No.45・52.
5	土師器環	(10.5)	(2.6)		B C	B	赤褐色	20%	No.64.指頭痕
6	須恵環	11.0	3.3	6.3	B C 針	A	灰白色	80%	No.18. 南北企産。回転糸切。
7	須恵環	12.2	3.6	6.5	B C 針	A	灰白色	75%	No.85・56. 南北企産。回転糸切周辺ケズリ
8	土師器環	(11.4)	3.1	(6.8)	A B C	B	暗赤褐色	50%	No.60・61. 指頭痕。やや厚い
9	土師器環	(12.6)	3.1	(8.4)	A C	C	赤褐色	50%	No.40・62. 指頭痕
10	土師器環	(12.4)	3.0	(4.8)	C	B	赤褐色	50%	No.2・3. 指頭痕。底部手持ちケズリ
11	土師環			3.8	B	B	暗褐色	30%	一括。No.90・94・97.

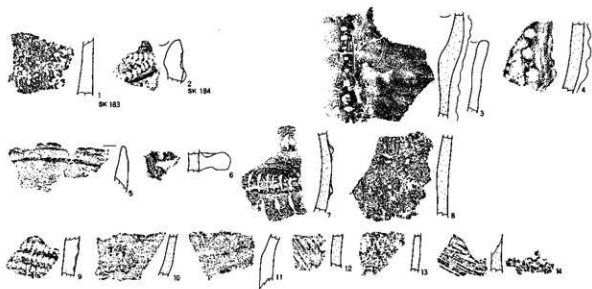
第38号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎上	焼成	色調	残存率	備考
1	須恵環	(12.9)	3.0		B 針	A	暗青灰色	30%	No.49-37. 南北企産。器面薄く均質
2	須恵環	(12.0)	2.1		B	A	紫灰色	10%	一括。東金子産。紫地上附 焼成堅緻
3	須恵環	(12.0)	2.7		B H 針	D	黄褐色	10%	No.30. 南北企産。酸化焙焼成 軟質
4	須恵環	(12.6)	3.1		針	A	青灰色	12%	No.29. 南北企産。
5	須恵環	(12.0)	2.1		B	A	青灰色	15%	No.18. 東金子産。口縁部肥厚
6	須恵環	(12.0)	3.9		B 針	A	淡青灰色	15%	No.13-48. 南北企産
7	須恵環	12.6	4.8	6.5	B	A	灰色	75%	No.40. 堀ノ内産。体部下端手持ちハツクリ
8	須恵大甕				B 針	A	淡青灰色	20%	No.31-34-35. 南北企産。外面自然釉 丸底甕と思われる
9	須恵甕		13.2		B C 針	B	青灰色	35%	No.3-4他. 南北企産。平底甕
10	紡錘車				B H	A	明灰色		No.24. 東金子産。天井部外面雲雲。紡錘車としては完形
11	転用甕		2.2	8.7	B 針チャート	B	暗灰色	60%	No.20. 南北企産。内面中央部を中心に磨滅
12	須恵水瓶		2.3	6.2	針	A	淡青灰色	80%	No.9. 南北企産。底部外面ハツクリあり 回転糸切り
13	土師甕	(20.6)	6.1		A B D	B	淡茶褐色	20%	No.25
14	土師甕		2.7	(4.9)	A B	A	茶褐色	25%	No.23

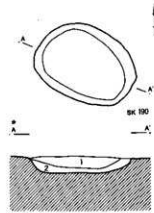
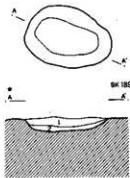
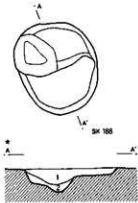
第157図 土壌 (第183~187号)



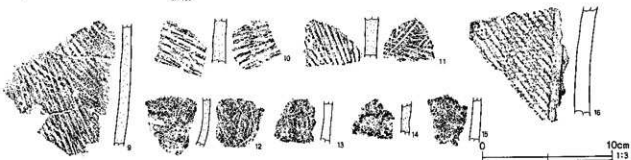
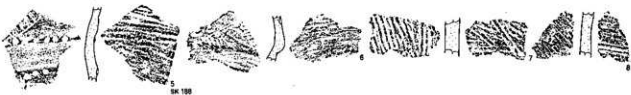
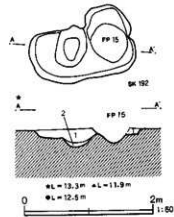
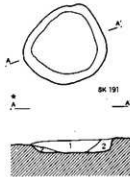
- SK 183
 1 褐色土 しまりあり、ロ-ム粒子 (2mm) を少量含む。
 2 褐色土 しまりあり、1層より細かいロ-ム粒子 (3mm以下) を少量含む。
- SK 184
 1 褐色土 しまりあり、ロ-ム粒子 (2mm) を少量含む。
 2 灰褐色土 しまりあり、ロ-ム粒子 (5mm) を少量含む。
 3 灰色土 しまりあり、ロ-ム粒子 (2mm) を少量含む。
- SK 185
 1 褐色土 しまりあり、粘土を少量含む。
 2 褐色土 しまりあり、ロ-ムドロップ (1cm) を少量含む。
- SK 186
 1 灰色土 しまりあり、ロ-ム粒子 (3-10mm) を少量含む。
 2 褐色土 しまりあり、ロ-ム粒子 (5mm) を少量含む。
- SK 187
 1 褐色土 しまりあり、ロ-ム粒子 (2mm) を少量含む。
 2 褐色土 しまりあり、ロ-ム粒子 (5mm) を少量含む。



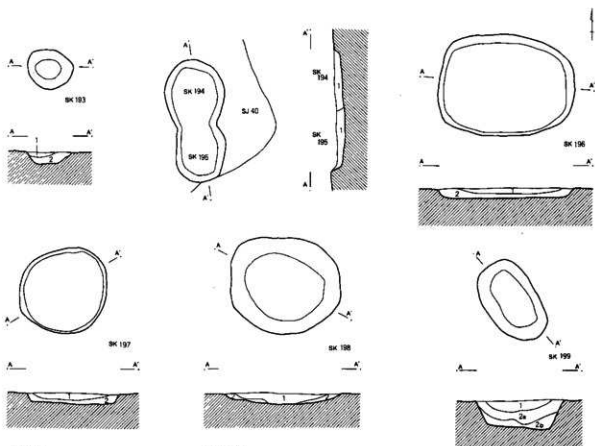
第158図 土坑 (第188~192号)



- SK 188
 1 褐色土 しよりあり、ロ-ム粒子 (3mm)・炭化物を少量含む。
 2 暗褐色土 しよりあり、ロ-ム粒子 (5~10mm) を少量含む。
 SK 189
 1 褐色土 しよりあり、ロ-ム粒子 (2mm)・炭化物を少量含む。
 2 暗褐色土 しよりあり、ロ-ム粒子 (5mm) を少量含む。
 SK 190
 1 紅土・暗褐色土 しよりあり、ロ-ム粒子 (5~10mm) を少量含む。
 2 褐色土 しよりあり、ロ-ム粒子 (5mm) を少量含む。
 SK 191
 1 褐色土 しよりあり、ロ-ム粒子 (5mm)・炭化物を少量含む。
 2 褐色土 しよりあり、ロ-ム粒子 (3mm) を少量含む。
 SK 192
 1 褐色土 しよりあり、ロ-ム粒子 (3mm) を多量含む。
 2 褐色土 しよりあり、1層より多いロ-ム粒子 (3mm) を少量含む。



第159図 土壌 (第193~199号)



SK 193

1 褐色土 しまりあり、ローム粒子 (3mm) を少量含む。
2 褐色土 しまりあり、ローム粒子 (3mm) を少量含む。

SK 194

1 におい黄褐色土 しまりあり、ローム粒子 (3mm) を少量含む。

SK 195

1 褐色土 しまりあり、ローム粒子 (5mm) を少量含む。

SK 196

1 におい黄褐色土 しまりあり、ローム粒子 (3mm)・炭化物を少量含む。
2 褐色土 しまりあり、ローム粒子 (5mm) を少量含む。

SK 197

1 灰黄褐色土 しまりあり、腐土・炭化物を少量含む。
2 におい黄褐色土 しまりあり、ローム粒子 (3mm) を少量含む。

SK 198

1 褐色土 比較的サラサラなローム小ブロックを少量含む。
2 褐色土 比較的サラサラなロームブロックを少量含む。

SK 199

1 褐色土 しまっていて強い、ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。
2a 褐色土 しまっていて強い、ローム小ブロック・ローム粒子を少量含む。
2b 褐色土 しまっていて強い、ローム小ブロックを少量含む。



(3) 土壌

第183号土壌 (第157図)

AH38、AH39グリッドからAE38、AE39グリッドで検出された。長径1.88m、短径1.52m、深さ0.08mの楕円形をしていた。時期不明。

第184号土壌 (第157図)

AJ40グリッドで検出された。長径2.17m、短径1.57m、深さ0.24mの楕円形をしていた。縄文時代前期及び中期の土器が出土している。3、4は波状口縁頂部から刺突の入った隆起線が垂下する。胎土に纖維を含む。縄文時代前期。

第185号土壌 (第157図)

AK43グリッドで検出された。長径1.64m、短径1.37m、深さ0.26mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第186号土壌 (第157図)

AJ48グリッドで検出された。長径2.07m、短径1.45m、深さ0.23mの楕円形をしていた。縄文土器破片が数回出土したが時期的に混じっていた。時期不明。

第187号土壌 (第157図)

AJ48グリッドで検出された。長径1.63m、短径1.15m、深さ0.18mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第188号土壌 (第158図)

AJ48グリッドで検出された。長径1.45m、短径1.22m、深さ0.36mの楕円形をしていた。縄文時代早期条痕文系土器が出土した。5、6は胴部中央で屈曲する器形を持つ。屈曲部にキザミが入る。三角形の沈線区画内に凹線が充填される。縄文時代早期条痕文系の時期であろう。

第189号土壌 (第158図)

AJ46グリッドで検出された。長径1.33m、短径0.92m、深さ0.21mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第190号土壌 (第158図、第173図)

AK48グリッドで検出された。長径1.54m、短径1.14m、深さ0.25mの楕円形をしていた。占銭が出土し

た。熙寧元宝。時期不明。

第191号土壌 (第158図)

AI46グリッドで検出された。長径1.22m、短径1.14m、深さ0.21mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第192号土壌 (第158図)

AI46グリッドで検出された。長径1.62m、短径1.08m、深さ0.27mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第193号土壌 (第159図)

AK48グリッドで検出された。長径0.69m、短径0.61m、深さ0.19mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第194号土壌 (第159図)

AJ48グリッドで検出された。長径(1.03)m、短径0.93m、深さ0.14mの楕円形をしていた。第195号七塚と切りあっている。遺物は出土しなかった。時期不明。

第195号土壌 (第159図)

AJ48、AK48グリッドで検出された。長径(0.86)m、短径0.77m、深さ0.21mの楕円形をしていた。第194号土壌と切りあっている。遺物は出土しなかった。時期不明。

第196号土壌 (第159図)

AJ49グリッドで検出された。長径2.01m、短径1.57m、深さ0.15mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

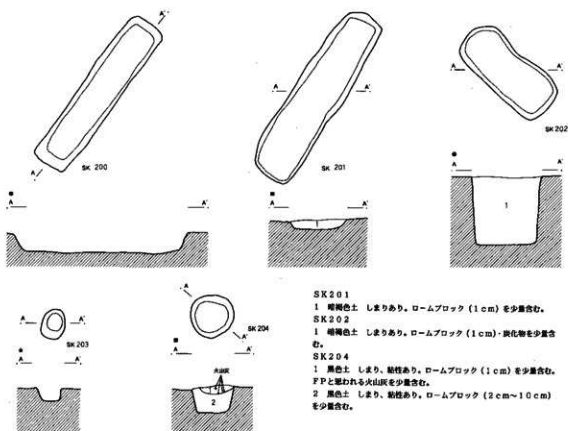
第197号土壌 (第159図)

AK49グリッドで検出された。長径1.46m、短径1.32m、深さ0.17mの円形をしていた。縄文時代早期条痕文系の上器が出土した。1、2は口縁部で外反する。内削ぎ状の口唇部を示す。

第198号土壌 (第158図)

AI44、AI45グリッドで検出された。長径1.78m、短径1.56m、深さ0.18mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期は不明。

第160図 土壌 (第200~204号)



第199号土壌 (第159図)

AI46グリッドで検出された。長径1.33m、短径0.80m、深さ0.46mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第200号土壌 (第160図)

AK40グリッドで検出された。長径2.70m、短径0.62m、深さ0.33mの長方形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第201号土壌 (第160図)

AI39グリッドで検出された。長径2.95m、短径0.68m、深さ0.15mの長方形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第202号土壌 (第160図)

AH40グリッドで検出された。長径1.68m、短径0.67m、深さ1.04mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第203号土壌 (第160図)

AG40、AH40グリッドで検出された。長径0.47m、短径0.36m、深さ0.21mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第204号土壌 (第160図)

AI38グリッドで検出された。長径0.68m、短径0.67m、深さ0.38mの円形をしていた。埋土上層から火山灰が出土した。古墳時代前期と思われる。

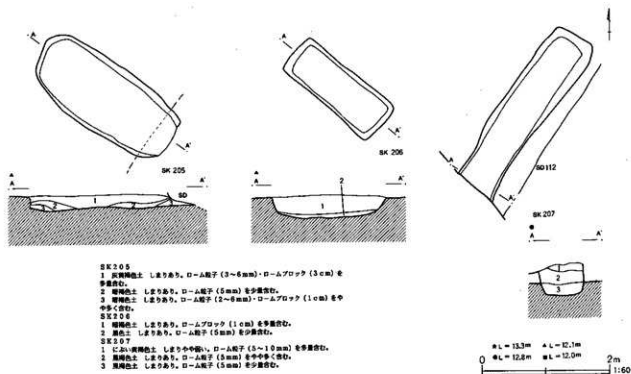
第205号土壌 (第161図)

AI39、AI40グリッドで検出された。長径2.43m、短径1.09m、深さ0.24mの長方形をしていた。第111号溝と切りあっている。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第206号土壌 (第161図)

AI40グリッドで検出された。長径1.76m、短径0.66m、深さ0.33mの長方形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第161図 土壌 (第205～207号)



第207号土壌 (第161図)

AJ39グリッドで検出された。長径(2.82)m、短径0.63m、深さ0.21mの長方形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第208号土壌 (第162図)

AI42グリッドで検出された。長径(1.79)m、短径1.41m、深さ0.47mの楕円形をしていた。第210号土壌と切りあっている。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第209号土壌 (第162図)

AI42グリッドで検出された。長径(0.83)m、短径0.64m、深さ0.19mの方形をしていた。第210号土壌の中に存在する。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第210号土壌 (第162図)

AI42グリッドで検出された。長径(1.71)m、短径1.36m、深さ0.46mの楕円形をしていた。第208号土壌

と切りあっていて、第115号溝を切っている。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第211号土壌 (第162図)

AH41グリッドで検出された。長径1.30m、短径0.67m、深さ0.34mの楕円形をしていた。第115号溝を切っている。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

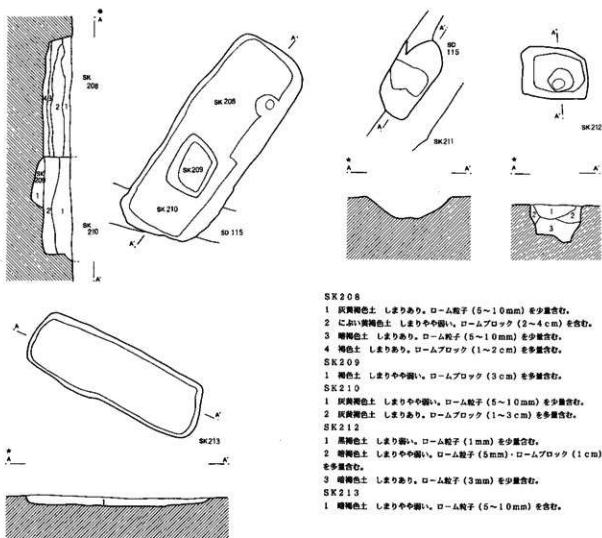
第212号土壌 (第162図)

AL49グリッドで検出された。長径1.02m、短径0.78m、深さ0.58mの方形をしていた。第35号住居跡の中に存在する。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第213号土壌 (第162図)

AL46、AL47グリッドで検出された。長径2.89m、短径1.02m、深さ0.14mの長方形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第162図 土壌 (第208~213号)



SK208

- 1 灰黄褐色土 しまりあり、ローム粒子 (5~10mm) を少量含む。
- 2 におい黄褐色土 しまりやや弱い、ロームブロック (2~4cm) を含む。
- 3 暗褐色土 しまりあり、ローム粒子 (5~10mm) を少量含む。
- 4 褐色土 しまりあり、ロームブロック (1~2cm) を少量含む。

SK209

- 1 褐色土 しまりやや弱い、ロームブロック (3cm) を少量含む。

SK210

- 1 灰黄褐色土 しまりやや弱い、ローム粒子 (5~10mm) を少量含む。

- 2 灰黄褐色土 しまりあり、ロームブロック (1~3cm) を少量含む。

SK212

- 1 黒褐色土 しまり弱い、ローム粒子 (1mm) を少量含む。

- 2 暗褐色土 しまりやや弱い、ローム粒子 (5mm)・ロームブロック (1cm) を少量含む。

- 3 暗褐色土 しまりあり、ローム粒子 (3mm) を少量含む。

SK213

- 1 暗褐色土 しまりやや弱い、ローム粒子 (5~10mm) を含む。

第214号土壌 (第163図)

AJ47、AK47グリッドで検出された。長径1.07m、短径0.83m、深さ0.26mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第215号土壌 (第163図)

AJ47グリッドで検出された。長径(0.80)m、短径0.78m、深さ0.24mの楕円形をしていた。第216号土壌と切りあっている。遺物は出土しなかった。時期不明。

第216号土壌 (第163図)

AJ47グリッドで検出された。長径(0.95)m、短径0.76m、深さ0.23mの楕円形をしていた。第215号土壌

と切りあっている。遺物は出土しなかった。時期不明。

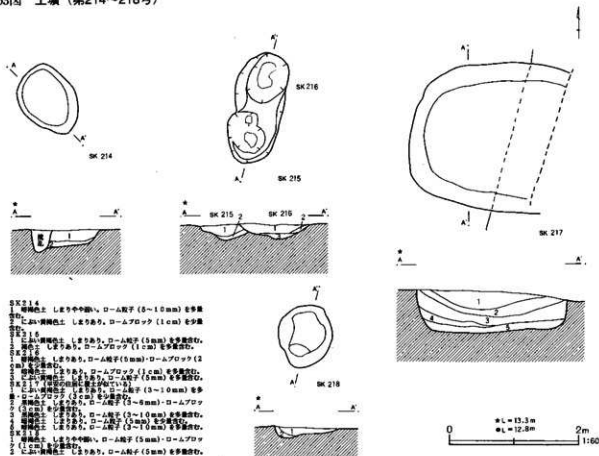
第217号土壌 (第163図)

AK49グリッドで検出された。長径2.32m、短径(2.12)m、深さ0.62mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第218号土壌 (第163図)

AI48グリッドで検出された。長径0.91m、短径0.83m、深さ0.17mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第163図 土壌 (第214~218号)



第219号土壌 (第164図)

A148グリッドで検出された。長径0.97m、短径0.86m、深さ0.26mの円形をしていた。口縁部が軽く折り返される無文深鉢形土器の破片が出土した。縄文時代中期加曾利E I段階であろうか。

第220号土壌 (第164図)

AK48、AL48グリッドで検出された。長径1.27m、短径1.12m、深さ0.43mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期不明。

第221号土壌 (第164図)

A148、AJ48グリッドで検出された。長径1.83m、短径1.26m、深さ0.18mの楕円形をしていた。縄文時代早期条痕文系土器の上器が少量出土した。

第222号土壌 (第164図)

AJ45グリッドで検出された。長径1.57m、短径1.56m、深さ0.51mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。

時期不明。

第223号土壌 (第165図)

AJ49グリッドで検出された。長径2.07m、短径1.62m、深さ0.99mの楕円形をしていた。覆土から縄文時代早期条痕文系土器が出土した。鴉ヶ島台式土器と呼ばれている土器と思われる。3~9は微隆起線の区画内に横線文を充填している。3は口唇部にキザミがある。

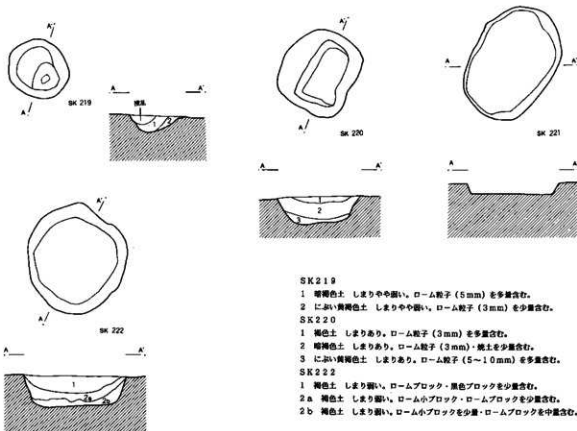
第224号土壌 (第165図)

AJ43、AJ44グリッドで検出された。長径2.91m、短径1.09m、深さ0.32mの長方形をしていた。遺物は出土しなかった。中・近世期の土壌と思われる。

第225号土壌 (第165図)

AK45グリッドで検出された。長径0.94m、短径0.67m、深さ0.21mの方形をしていた。第226号土壌と切りあっている。遺物は出土しなかった。時期不明。

第164図 土坑 (第219~222号)



SK 219

- 1 暗褐色土 しまりやや強い、ローム粒子 (5mm) を多量含む。
- 2 におい黄褐色土 しまりやや強い、ローム粒子 (3mm) を少量含む。

SK 220

- 1 褐色土 しまりあり、ローム粒子 (3mm) を多量含む。
- 2 暗褐色土 しまりあり、ローム粒子 (3mm)・焼土を少量含む。
- 3 におい黄褐色土 しまりあり、ローム粒子 (5~10mm) を多量含む。

SK 222

- 1 褐色土 しまり弱い、ロームブロック・黒色ブロックを少量含む。
- 2a 褐色土 しまり弱い、ローム小ブロック・ロームブロックを少量含む。
- 2b 褐色土 しまり弱い、ローム小ブロックを少量・ロームブロックを中量含む。

第228号土坑 (第165図)

AK45グリッドで検出された。長径1.16m、短径(0.79)m、深さ0.36mの楕円形をしていた。第225号土坑と切りあっている。遺物は出土しなかった。時期不明。

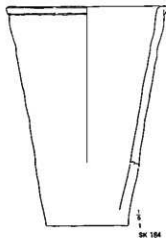
(4) 炉穴

第7号炉穴 (第166図)

AL46、AL47グリッドで検出された。長径0.97m、短径0.83m、深さ0.13mの円形をしていた。縄文時代早期条痕文系の土器が出土した。1、2共に胴部破片で表面の条痕は疎らである。

第8号炉穴 (第166図)

AL46グリッドで検出された。長径(1.07)m、短径0.79m、深さ0.13mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。



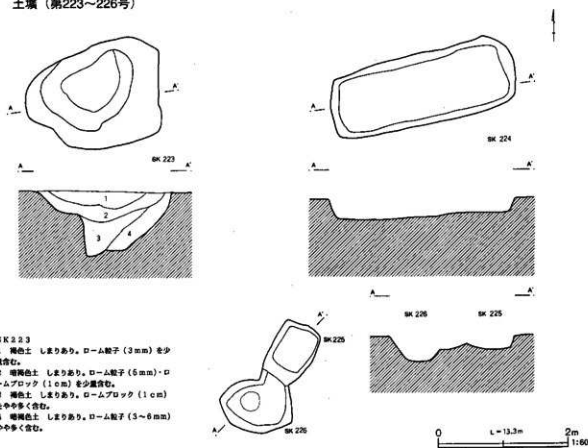
第9号炉穴 (第166図)

AL46グリッドで検出された。長径0.79m、短径(0.69)m、深さ0.11mの円形をしていた。遺物は出土しなかった。

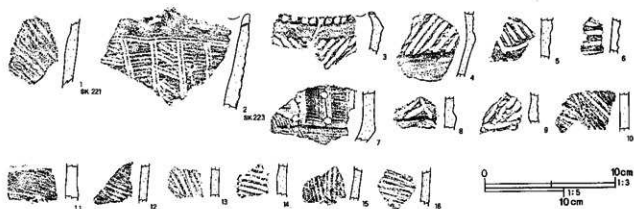
第10号炉穴 (第166図)

AL49、AL50グリッドで検出された。長径1.43m、短

第165図 土坑 (第223~226号)



- SK 223
- 1 褐色土 しまりあり。ローム粒子 (3mm) を少
量含む。
- 2 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子 (6mm)・ロ
ームブロック (1cm) を少量含む。
- 3 褐色土 しまりあり。ロームブロック (1cm)
をやや多く含む。
- 4 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子 (3~6mm)
をやや多く含む。



径1.19m、深さ0.23mの楕円形をしていた。中央部に
焼土があった。条痕文系土器が出土した。3は胴部破
片で表面にのみ条痕がある。

第11号炉穴 (第166図)

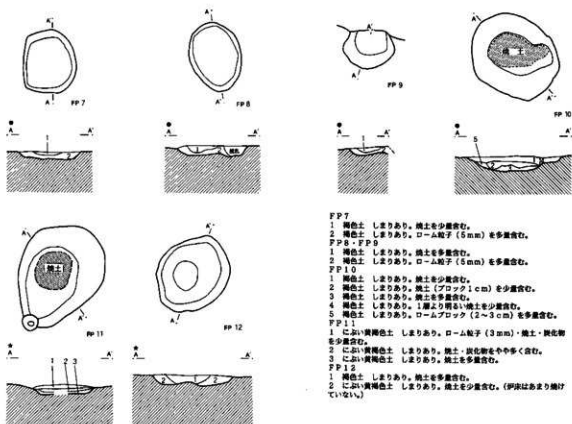
AJ48、AK48グリッドで検出された。長径1.80m、短
径1.29m、深さ0.15mの楕円形をしていた。中央部に
焼土が堆積していた。条痕文系土器が比較的多く出土

した。4~6は口縁部破片。口唇部にキザミが入る。
6は微隆線が伺える。8、9は沈線区画内に凹線が充
填される。他は胴部破片で条痕文が施文される。

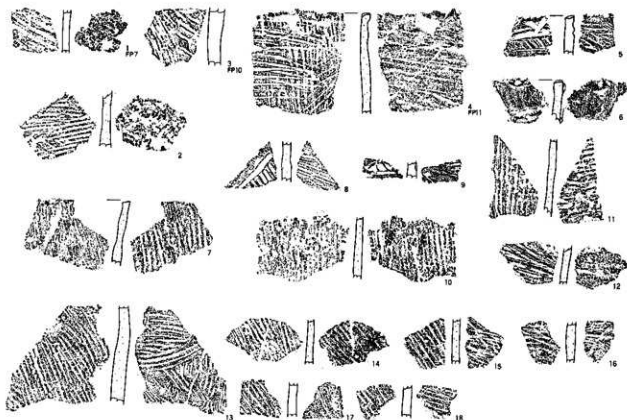
第12号炉穴 (第166図)

AM6グリッドで検出された。長径1.27m、短径1.07m、
深さ0.16mの楕円形をしていた。中央部に焼土が認め
られた。遺物は出土しなかった。

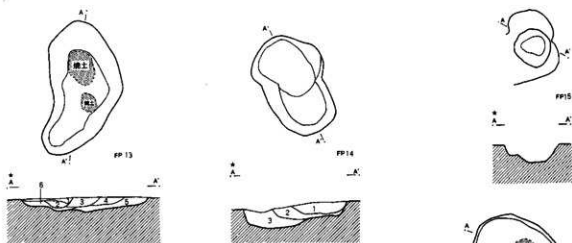
第166図 炉穴 (第7~12号)



- FP 7
 1 褐色土 しまりあり。焼土を少量含む。
 2 褐色土 しまりあり。ローム瓦子 (5mm) を多量含む。
 FP 8・FP 9
 1 褐色土 しまりあり。焼土を多量含む。
 2 褐色土 しまりあり。ローム瓦子 (5mm) を多量含む。
 FP 10
 1 褐色土 しまりあり。焼土を少量含む。
 2 褐色土 しまりあり。焼土 (フリップ1cm) を少量含む。
 3 褐色土 しまりあり。焼土を多量含む。
 4 褐色土 しまりあり。1層より明るい焼土を少量含む。
 5 褐色土 しまりあり。ロームブロック (2~3cm) を多量含む。
 FP 11
 1 におい黄褐色土 しまりあり。ローム瓦子 (3mm)・焼土・炭化物を少量含む。
 2 におい黄褐色土 しまりあり。焼土・炭化物をやや多く含む。
 3 におい黄褐色土 しまりあり。焼土を多量含む。
 FP 12
 1 褐色土 しまりあり。焼土を多量含む。
 2 におい黄褐色土 しまりあり。焼土を少量含む。(伊波はあまり残っていない。)

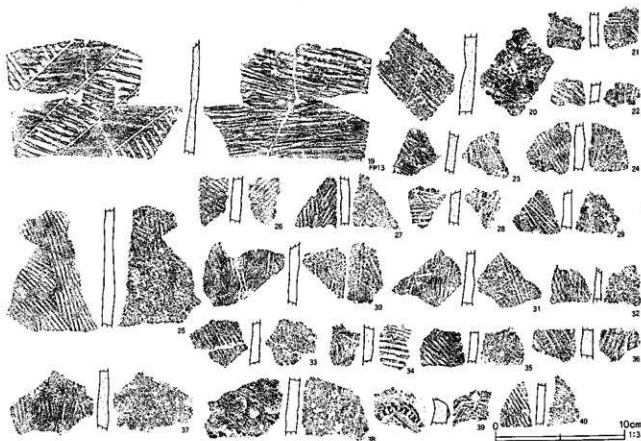


第167図 炉穴 (第13~16号)



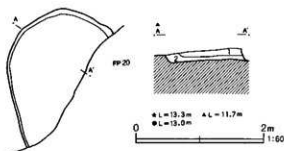
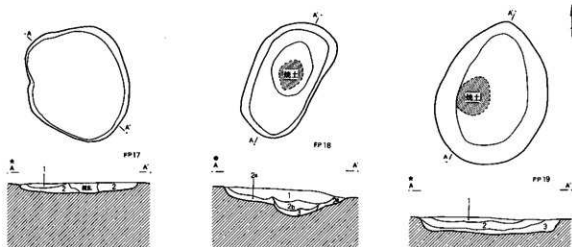
- FP 13
 1 障層色土 しまりあり。焼土を少量含む。
 2 障色土 しまりあり。焼土をやや多く含む。
 3 障色土 しまりあり。2層より焼土が少ない。
 4 障色土 しまりあり。焼土を少量含む。
 5 障層色土 しまりあり。焼土を少量含む。
 6 障色土 しまりあり。焼土を少量含む。
- FP 14
 1 障色土 しまりあり。焼土を少量含む。
 2 障色土 しまりあり。焼土を少量含む。
 3 に近い障層色土 しまりあり。焼土をやや多く含む。
 (水の滲れに依っている砂層はあまり検出ていない)
- FP 15
 1 に近い障層色土 しまりあり。焼土・ロームブロック (1cm)・炭化物を少量含む。
 2 に近い障層色土 しまりあり。ローム粒子を少量含む。
 (砂層は比較的よく検出ています)

● L=13.3m
 ● L=13.0m
 0 2m
 1:60



0 10cm
 1:3

第168図 炉穴 (第17~20号)



FF17

1 焼土 しまりあり、焼土を多数含む。

2 土がけ層焼土 しまりあり、ロームアブソック (1cm) を多数含む。

FF18

1 焼土 しまりあり、ロームアブソック・ローム電子・ローボン電子・焼土アブソックを多数含む。

2a 焼土 しまりあり、ロームアブソック・ローボン電子を少量含む。

2b 焼土 しまりあり、ロームアブソック・ローボン電子・焼土アブソックを少量含む。

2 c 土がけ層焼土 しまりあり、土層の中から土アブソックを多数含む。

FF19

1 焼土 しまりあり、ロームアブソック・ローム電子・ローボン電子・焼土アブソックを多数含む。

2 焼土 しまりあり、ロームアブソック・ローボン電子・焼土アブソックを少量含む。

3 c 土がけ層焼土 しまりあり、土層の中から土アブソックを多数含む。

FF20

1 c 土がけ層焼土 しまりあり、焼土を多数含む。

2 c 土がけ層焼土 しまりあり、炭化物を少量含む。



第13号炉穴 (第167図)

AI48、AJ48グリッドで検出された。長径2.10m、短径1.17m、深さ0.22mの楕円形をしていた。焼上の堆積が認められた。条痕文系の土器が比較的多く出土している。19は細い沈線間に凹線を充填している。帯状に斜行する。20~40は胴部破片で表裏に条痕がある。繊維の混入は少ない。

第14号炉穴 (第167図、第168図)

AK48グリッドで検出された。長径1.59m、短径1.05m、深さ0.33mの楕円形をしていた。中段を有する。遺物が出土した。条痕文系の土器が少量出土した。1

は沈線又凹内に凹線が密に充填されている。2~4は胴部破片で条痕の施文は少ない。

第15号炉穴 (第167図)

AI46グリッドで検出された。長径0.55m、短径0.54m、深さ0.27mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。

第16号炉穴 (第167図)

AI44グリッドで検出された。長径1.36m、短径1.08m、深さ0.13mの楕円形をしていた。中央部に焼土の堆積が認められた。遺物は出土しなかった。

第17号炉穴 (第168図)

AJ46、AJ47グリッドで検出された。長径1.86m、短径1.66m、深さ0.16mの楕円形をしていた。遺物は出土しなかった。

第18号炉穴 (第168図)

AH44グリッドで検出された。長径1.89m、短径1.07m、深さ0.36mの楕円形をしていた。中央部に遺物の堆積が認められた。遺物は出土しなかった。

(5) 溝

第107号溝 (第169図、第170図)

AG39グリッドからAI38グリッドにかけて位置していた。長さ約24.0m、幅約0.60m、深さ約0.15mであった。ほぼN-38°Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第108号溝 (第169図、第170図)

AF40グリッドからAI38グリッドにかけて位置していた。長さ約36.40m、幅約0.40m、深さ約0.53mであった。ほぼN-38°Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第109号溝 (第169図、第170図、第173図)

AF41グリッドからAG41グリッドにかけて位置していた。長さ約3.80m、幅約0.60m、深さ約0.24mであった。ほぼN-56°Wに伸びていた。古銭が出土した。「皇宋通宝」。形状より中・近世期の溝であろう。

第110号溝 (第169図、第170図)

AG41グリッドからAH40グリッドにかけて位置していた。長さ約17.60m、幅約0.60m、深さ約0.22mであった。ほぼN-34°Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第111号溝 (第169図、第170図)

AG41グリッドからAJ39グリッドにかけて位置していた。長さ約32.90m、幅約1.20m、深さ約0.32mであった。ほぼN-37°Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第112号溝 (第169図、第170図)

第19号炉穴 (第168図)

AH44グリッドで検出された。長径2.24m、短径1.71m、深さ0.26mの楕円形をしていた。東側に焼土の堆積があった。遺物は出土しなかった。

第20号炉穴 (第168図)

AH39グリッドで検出された。長径(1.29)m、短径(1.15)m、深さ0.16mの楕円形をしていた。第42号住居跡に切られている。遺物は出土しなかった。

AG41グリッドからAJ39グリッドにかけて位置していた。長さ約17.00m、幅約0.80m、深さ約0.34mであった。ほぼN-30°Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第113号溝 (第169図、第170図)

AI40グリッドからAJ39グリッドにかけて位置していた。長さ約16.20m、幅約0.60m、深さ約0.08mであった。ほぼN-38°Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第114号溝 (第169図、第170図)

AG41グリッドからAI40グリッドにかけて位置していた。長さ約16.20m、幅約0.40m、深さ約0.50mであった。ほぼN-41°Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第115号溝 (第169図、第170図)

AI41グリッドからAJ42グリッドにかけて位置していた。長さ約38.40m、幅約0.60m、深さ約0.53mであった。ほぼN-66°Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

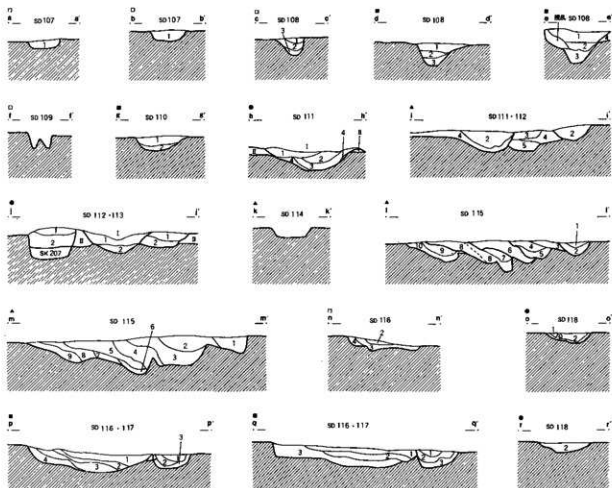
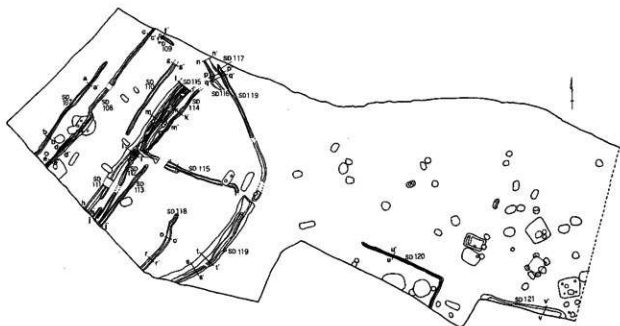
第116号溝 (第169図、第170図)

AG41グリッドからAG42グリッドにかけて位置していた。長さ約7.40m、幅約0.16m、深さ約0.36mであった。ほぼN-35°Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

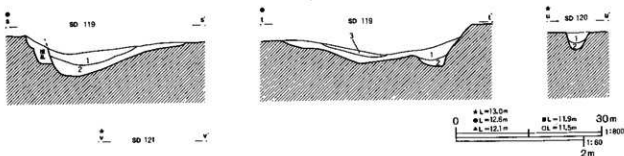
第117号溝 (第169図、第170図)

AG42グリッドからAI43グリッドにかけて位置して

第169图 溝 (第107~121号) (1)



第170号溝 (第107~121号) (2)



SD107

1 黒色土 しまりあり。におい黄褐色粘土(2~3cm)を少量含む。

SD108

1 灰黄褐色土 しまり。粘性あり。ローム粒子・黒色土粒子(5mm)を多量含む。

2 黒褐色土 しまり。粘性あり。ローム粒子(3mm)を少量含む。

3 におい黄褐色土 しまり。粘性あり。ロームブロック(1cm)・黒色土ブロック(1~2cm)を中々多く含む。

4 におい黄褐色土 しまり。粘性あり。ローム粒子(5mm)を多量含む。

SD110

1 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(3mm)を少量含む。

2 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(2mm)を少量含む。

SD111

1 黒褐色土 しまり中強い。ローム粒子(5mm)を少量含む。

2 暗褐色土 しまり中強い。ローム粒子(3mm)・ロームブロック(3cm)を少量含む。

3 暗褐色土 しまり中強い。ローム粒子(3mm)を中々多く含む。

4 灰黄褐色土 しまり中強い。ローム粒子(5mm)を多量含む。

SD112

1 暗褐色土 しまり中強い。ロームブロック(1cm)を少量含む。

2 暗褐色土 しまりあり。ロームブロック(1~3cm)を多量含む。

3 暗褐色土 しまりあり。ロームブロック(2~5cm)を多量含む。

4 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(3mm)を多量含む。

SD113

1 暗褐色土 しまり中強い。ロームブロック(1~2cm)を中々多く含む。

2 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(3mm)・ロームブロック(1cm)を少量含む。

地上層

1 灰白色の硬土層

2 黒褐色土 しまり。粘性あり。ローム粒子(5mm)を少量含む。

SD115

1 暗褐色土 しまり弱い。暗褐色土主体。

2 暗褐色土 しまり中強い。黒色土(1cm以下)を中々含む。

3 暗褐色土 しまりあり。暗褐色土主体。ローム粒子(1cm以下)・黒色土(1cm以下)を中々含む。

4 暗褐色土 しまり中強い。暗褐色土主体。黒色土ブロック(2cm以下)を比較的多く含む。

5 暗褐色土 しまり中強い。暗褐色土主体。7層目に暗褐色のロームブロック土層存在。(土層に黒腐層あり)

6 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(1~3mm)を少量含む。

7 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(2~3mm)を中々多く含む。ロームブロック(約1~3cm)を少量含む。

SD116

1 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(2~5mm)を多量含む。

2 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(1~3mm)を少量含む。

3 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(2~3mm)を中々多く含む。ロームブロック(約1~3cm)を少量含む。

4 におい黄褐色土 しまりあり。ローム粒子(2~5mm)・ロームブロック(約3cm)を少量含む。

SD117

1 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(2~3mm)を少量含む。

2 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(2~5mm)を中々多く含む。ロームブロック(1~1.5cm)を少量含む。

3 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子(2~5mm)を多量含む。

SD118

1 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子(5mm)・ロームブロック(1cm)を少量含む。

2 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(3mm)を少量含む。

3 暗褐色土 しまり弱い。ローム粒子(3mm)を少量含む。

SD119

1 暗褐色土 しまり中強い。ローム粒子(3mm)を少量含む。

2 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(3mm)を少量含む。

3 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(3mm)を少量含む。

4 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(5mm)を多量含む。

SD121

1 暗褐色土 しまり中強い。ローム粒子(3mm)を少量含む。

2 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(3mm)を少量含む。

3 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(5mm)を多量含む。

4 暗褐色土 しまりあり。ローム粒子(3mm)を少量含む。

いた。長さ約(L60)m、幅約0.40m、深さ約0.27mであった。ほぼN-28'-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第118号溝 (第169図、第170図)

AJ41グリッドからAK40グリッドにかけて位置していた。長さ約(13.80)m、幅約0.80m、深さ約0.17mであった。ほぼN-32'-Eに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第119号溝 (第169図、第170図、第173図)

AG42グリッドからAK41グリッドにかけて位置していた。長さ約(52.80)m、幅約0.60m、深さ約0.62mであった。ほぼN-10'-Eに伸びていた。古銭が出土した。「寛永通宝」形状より中・近世期の溝であろう。

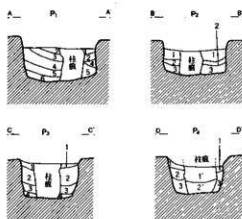
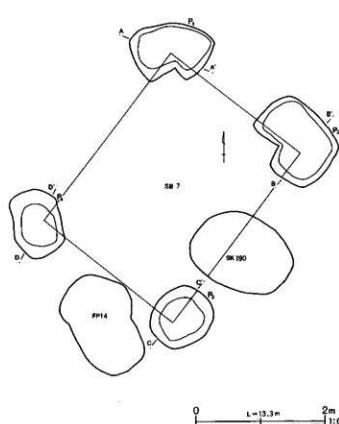
第120号溝 (第169図、第170図)

AK45グリッドからAL46グリッドにかけて位置していた。長さ約(24.40)m、幅約0.24m、深さ約0.26mであった。ほぼN-46'-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第121号溝 (第169図、第170図)

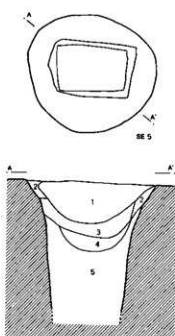
AL47グリッドからAL49グリッドにかけて位置していた。長さ約18.00m、幅約(0.84)m、深さ約0.54mであった。ほぼN-75'-Wに伸びていた。遺物は出土していないが、形状より中・近世期の溝であろう。

第171図 第7号掘立柱建物跡



- P1
 1 腐褐色土 しまりあり、ローム灰砂(1cm)を多量含む。
 2 灰土(腐褐色土) しまり大気層、ローム灰砂(5~10mm)を多量含む。
 3 灰土(腐褐色土) しまり大気層、腐褐色土を中々含む。
 4 灰土(腐褐色土) しまり大気層、ローム灰砂(5~10mm)を大量含む。
 5 灰土(腐褐色土) しまり大気層、ローム灰砂(5~10mm)を中々含む。
 6 腐褐色土 しまり大気層、ローム灰砂(5mm)を中々含む。
 P2
 1 灰土(腐褐色土) しまり大気層、ローム灰砂(5mm)を中々含む。
 2 腐褐色土 しまり大気層、ローム灰砂(5mm)を中々含む。
 3 灰土(腐褐色土) しまり大気層、ローム灰砂(5~10mm)を多量含む。
 P3
 1 腐褐色土 しまり大気層、ローム灰砂(5mm)を中々含む。
 2 灰土(腐褐色土) しまり大気層、ローム灰砂(5mm)を中々含む。
 3 腐褐色土 しまり大気層、ローム灰砂(5mm)を大量含む。
 4 腐褐色土 しまり大気層、ローム灰砂(5mm)を多量含む。
 P4
 1 腐褐色土 しまり大気層、ローム灰砂(5~10mm)を多量含む。
 2 腐褐色土 しまり大気層、ローム灰砂(5~10mm)を中々含む。
 3 腐褐色土 しまり大気層、ローム灰砂(5mm)を中々含む。
 4 腐褐色土 しまり大気層、ローム灰砂(5mm)を中々含む。
 5 灰土(腐褐色土) しまり大気層、ローム灰砂(1cm)を中々含む。

第172図 第5号井戸



- SE 5
 1 腐褐色土 しまりあり、ローム灰砂(2mm)を多量含む。
 2 灰土(腐褐色土) しまりあり、ローム灰砂(3mm)を多量含む。
 3 腐褐色土 しまりあり、ローム灰砂(3mm)を大量含む。
 4 腐褐色土 しまりあり、ローム灰砂(5~10mm)を多量含む。
 5 腐褐色土 しまりあり、ローム灰砂(5mm)を多量含む。
 6 腐褐色土 しまりあり、ローム灰砂(2cm)を多量含む。

(6) 掘立柱建物跡

第7号掘立柱建物跡(第171図)

AJ48グリッドで検出された。1間×1間で主軸の傾きは、N-38°Eであった。掘方断面には柱痕とつき固めた土層が確認できた。遺物は出土しなかった。第38号住居跡に伴う掘立柱建物跡か。

(7) 溝

第5号井戸(第172図)

AJ48グリッドで検出された。長径2.0m、短径1.8mの楕円形をしており、中段で長方形に掘り込まれる。出水のため底部にまで調査は達しなかった。遺物は出土しなかった。時期は、第38号住居跡に伴う時期と推定される。

(8) グリッド出土遺物

第1群土器 (第174図1~34、第175図35~53)

縄文時代早期~前期初頭にかけての条痕文系土器を一括する。1~6は口縁部破片で条痕文が表裏両面に施文される。3は口唇部に貝殻文が明瞭される。7~13は文様がある。微隆起線・沈線で三角形に区画された中に、微隆起線・凹線を充填している。14以下は胴部破片で条痕文が施文されている。

44付近から条痕文の感じが違ってくる。50~53には、0段多条の縄文や側面体片痕文が見られるようになる。縄文時代前期初頭である。

第2群土器 (第175図54~57)

縄文時代中期阿玉台式土器とそれに続く加曾利E I式土器を一括する。54、55は加曾利E I段階に入るだろう。

第3群土器 (第175図58~65)

縄文時代中期終末から後期初頭にかけての土器を一括する。大方は加曾利E IV段階であろう。

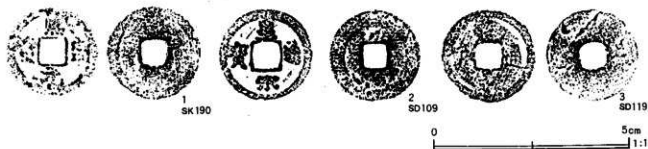
第4群土器 (第175図66~68)

堀ノ内2式~加曾利B式を一括する。68は多分加曾利B 2式。

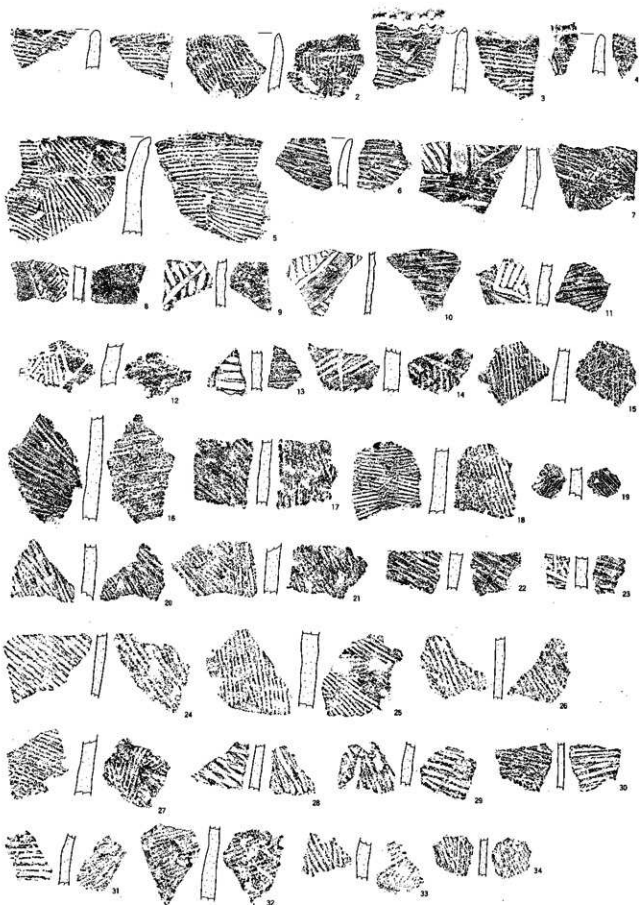
石器 (第172図69~71)

69、70は縄文時代の石器でスクレイパーである。71は中・近世期の砥石である。

第173図 古銭



第174図 グリッド出土遺物 (1)



第175図 グリッド出土遺物 (2)



8. 第8次調査

調査の概要

発掘調査は平成10年6月19日から平成10年7月31日まで実施された。調査面積は1020㎡であった。今回の調査地点は南北に長い道路建設予定地で、台地の肩部から谷に落ちる斜面部について調査を行った。検出された遺構は、古墳時代前期、中・近世に属するものであった。

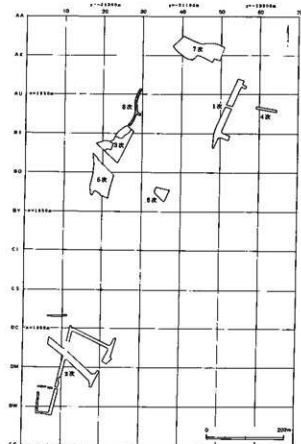
古墳時代前期

井戸が1基検出された。楕円形をしていて深さ約1mであった。井戸枠がわずかに残っていたが依存状態は悪かった。底面近くから十師器がわずかに出土した。

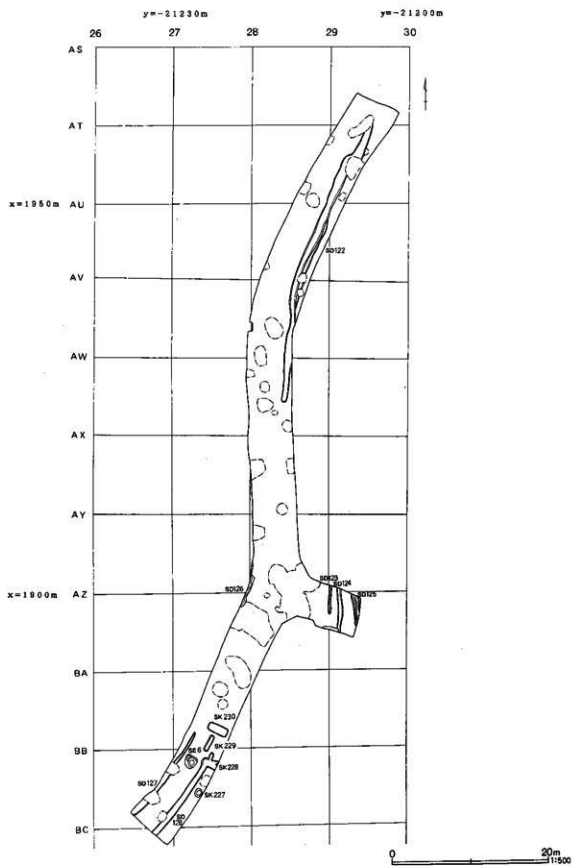
中・近世

ピット、溝6条、土壇4基が検出された。遺物は少なかった。

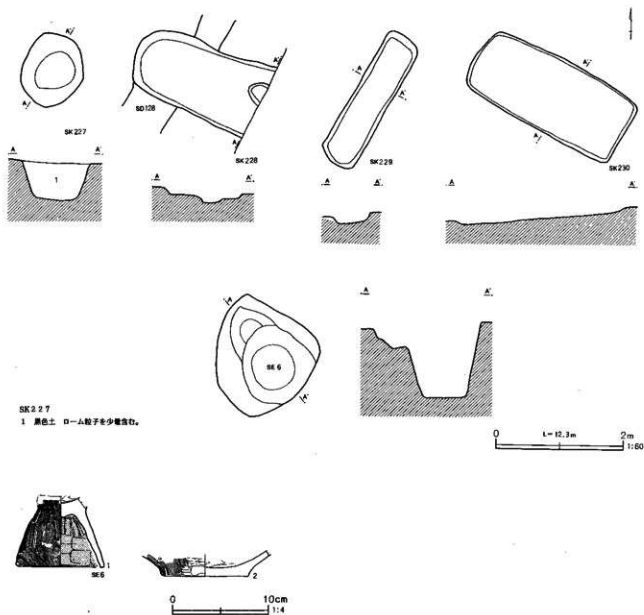
第176図 向原遺跡グリッド配置図(8次)



第177図 第8次調査区全体図



第178図 土壇 (第227~230号)・第6号井戸



SK 227
1 黒色土 ローム粒子を少量含む。

(1) 土壇

第227号土壇 (第178図)

BB27グリッドで検出された。規模は、1.13m×0.93m×0.57mでかなりしっかりした円形をしていた。遺物は出土しなかった。時期は不明である。

第228号土壇 (第178図)

BB27グリッドで検出された。長方形をしていたと思われる。規模は、(2.21)m×1.13m×0.06mでかなり浅かった。遺物は出土していない。形状から近世以降の

所産と思われる。

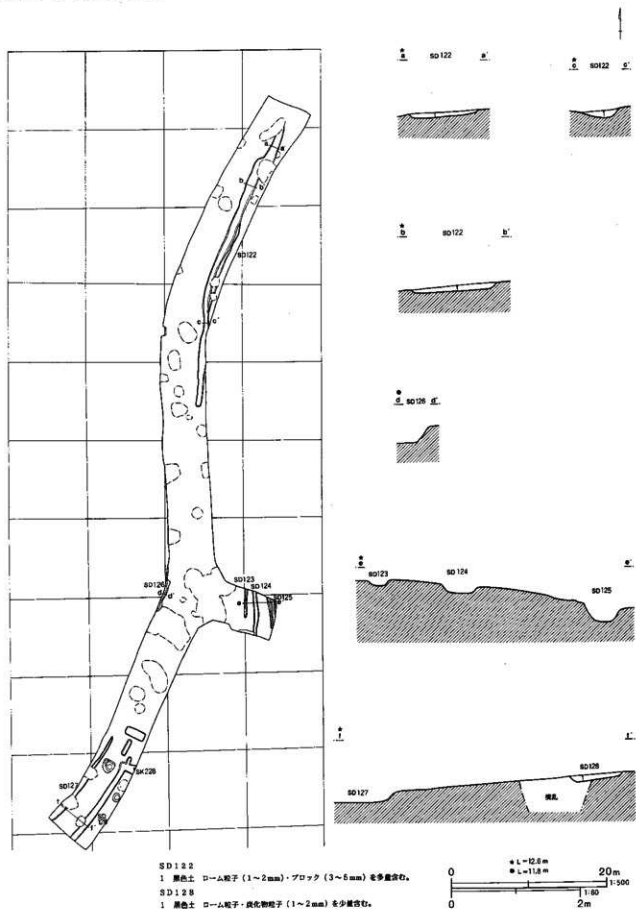
第229号土壇 (第178図)

BA27、BB27グリッドで検出された。長方形をしていた。規模は、2.25m×0.57m×0.13mであった。遺物は出土しなかった。形状から近世以降の所産と思われる。

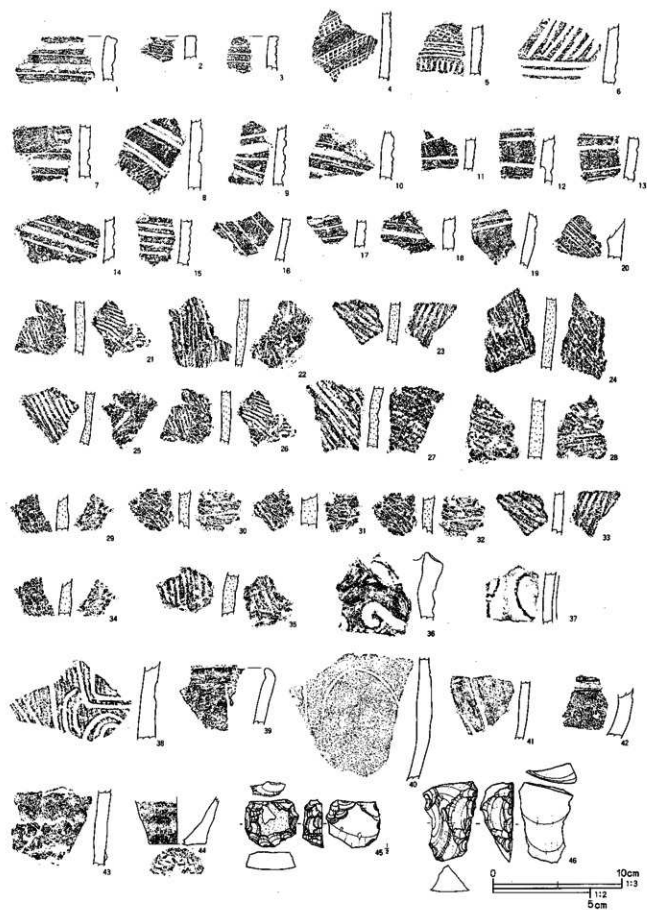
第230号土壇 (第178図)

BA27グリッドで検出された。長方形をしていた。規模は、1.64m×1.62m×1.18mであった。遺物は出土しなかった。形状から近世以降の所産と思われる。

第179図 溝 (第122~128号)



第180図 グリッド出土遺物 (1)



(2) 井戸

第1号井戸 (第178図)

BB27グリッドで検出された。不正円形をしていて、階段状のくぼみがついていた。井戸本体部分は直径1.10m前後の円形をしていた。外周の規模は1.64m×1.62m×1.18mであった。井戸枠がわずかに残っていたが依存状態は悪かった。底面近くから土師器がわずかに

に出土した。古墳時代前期の底部破片であった。

1は台付甕の台部である。端部は平坦で直線的に開く。表面は小口ナデAが行われる。内面端部付近は横方向の小口ナデB。接合部には縦方向に押さえが行われる。2は壺底部外面に小口ナデAが残る。

(3) 溝

第122号溝

AS29~AW28にかけて検出された。北東方向に向いている。規模は38.0m×1.0m×0.2mであった。部分的に段を持っている。遺物は出土していない。形状から中・近世以降の所産と思われる。

第123号溝 (第179図)

AZ29グリッドで検出された。南北方向に向いているが、一部調査区外であった。規模は(4.0)m×0.3m×0.28mであった。遺物は出土しなかった。形状から中・近世以降のものと思われる。

第124号溝 (第179図)

AZ29グリッドで検出された。南北方向に向いていたが、両端は調査区外であった。規模は(6.0)m×0.5m×0.10mであった。遺物は出土しなかった。形状から中・近世以降のものと思われる。

第125号溝 (第179図)

AY29~AZ28にかけて検出された。北側が調査区外であった。規模は(3.8)m×0.30m×0.10mであった。遺

物は出土していない。形状から中・近世のものと思われる。

第126号溝 (第179図)

AX28~AZ27グリッドにかけて検出された。南西側に曲がっている。ほとんどが調査区外であった。長さ(18)m×深さ0.25mで幅は確認できなかった。遺物は出土していない。形状から中・近世のものと思われる。

第127号溝 (第179図)

BA27~BC26グリッドで検出された。北東方向に伸びている。南西側は調査区外であった。規模は(12.30)m×0.40m×0.14mであった。遺物は出土していない。形状から中・近世のものと思われる。

第128号溝 (第179図)

BB27~BC26グリッドにかけて検出された。北東方向を向く。南西側は調査区外であった。規模は(12.0)m×0.80m×0.10mであった。遺物は検出していない。形状から中・近世のものと思われる。

第181図 グリッド出土遺物 (2)



(4) グリッド出土遺物

第1群土器 (第180図1~20)

縄文時代早期沈線文系土器群を本類とする。胎土に繊維を含まず堅い焼きである。凹線や沈線が施文される。4、5は貝殻埋線文が充填される。田戸下層式。

第2群土器 (第180図21~35)

縄文時代早期末条痕文系の土器群を本類とする。胎土に繊維を含み表裏に条痕が施文される。28~32などは擦痕である。主要な文様のある土器破片は見当たらなかった。

第3群土器 (第180図36~44)

縄文時代中期~後期の土器を一括する。36は加曾利EⅢ段階か。38は堀ノ内1式土器。39~42は堀ノ内2

式土器である。

石器 (第180図45、46)

両者ともにスクレイパーである。

第4群土器 (第181図1~3)

1は台付甕の胴部である。拵れ部付近で刻みが入る。表面は、小口ナデA上にミガキが入る。2は壺の折返口縁部である。口縁部端部が面取りされる。全体にミガキが行われるが、表面にはナデ痕が残存する。赤彩されている。3は壺底部。縦方向に小口ナデBが行われる。

第11表

第11号石器集

No.	グリッド	北-南	東-西	幅高(m)	器種	石質	縦×横×厚さ	重量	接合	石器集中	備考
1	AI-43	7.22	0.29	12.71	剥片	チャート	2.72×1.39×0.45	1.44		11	
2	AI-43	7.27	0.36	12.61	剥片	チャート	0.94×1.30×0.82	0.84		11	
4	AI-43	8.27	1.14	12.7	剥片	チャート	2.66×4.66×2.05	22.38		11	
5	AI-43	8.73	1.32	12.78	剥片	チャート	3.10×4.24×2.25	33.2		11	
6	AI-43	8.86	1.36	12.83	剥片	珪質頁岩	1.55×1.81×0.46	1.75		11	
7	AI-43	9.28	0.57	12.83	剥片	赤色チャート	2.06×2.50×0.54	3.02		11	
10	AI-44	6.5	4.2	12.75	石核	黒色ガラス質安山岩	3.10×7.67×3.82	3.71		11	第147図1
11	AI-44	6.73	3.7	12.65	剥片	チャート	1.94×0.68×0.33	0.23		11	
12	AI-44	6.78	3.22	12.89	剥片	安山岩	2.64×2.67×0.72	5.01		11	
13	AI-44	6.78	2.94	12.76	剥片	安山岩	1.14×1.25×0.33	0.42		11	
14	AI-44	6.47	2.17	12.77	剥片	チャート	3.21×2.12×0.95	6.88		11	
15	AI-44	6.97	4.74	12.59	剥片	チャート	1.82×1.38×0.55	1.28		11	
18	AI-44	7.36	4.51	12.59	剥片	黒色ガラス質安山岩	4.03×2.96×1.50	18.65		11	第147図3
19	AI-44	7.51	4.56	12.58	剥片	チャート	2.13×0.85×0.90	2.03		11	
20	AI-44	7.73	4.55	12.76	剥片	チャート	1.48×4.45×2.59	15.45		11	第147図6
21	AI-44	7.75	4.47	12.59	剥片	チャート	1.40×1.64×0.39	0.98		11	
22	AI-44	7.7	4.23	12.79	剥片	チャート	2.11×1.82×0.86	2.88		11	
23	AI-44	7.66	4.04	12.57	剥片	チャート	1.20×2.13×0.57	1.33		11	
24	AI-44	7.85	4	12.77	剥片	チャート	3.2×4.26×1.32	18.12		11	第147図5
27	AI-44	8.1	3.53	12.87	剥片	黒色ガラス質安山岩	4.24×2.74×1.24	12.5		11	第147図2
31	AI-44	8.36	2.96	12.9	剥片	チャート	1.55×1.58×0.48	0.92		11	
32	AI-44	8.97	1.96	12.85	剥片	砂岩	2.08×2.15×0.29	1.28		11	
38	AI-44	6.27	2.78	12.77	剥片	黒色ガラス質安山岩	1.05×1.41×1.0	1.07		11	
40	AI-44	7.7	3.25	12.63	剥片	チャート	1.05×0.83×5.02	0.61		11	
45	AI-43	7.43	0.1	12.63	剥片	チャート	1.25×0.91×0.17	0.18		11	
46	AI-43	7.93	0.17	12.8	剥片	チャート	1.55×1.81×0.76	1.55		11	
48	AI-43	9.43	0.18	12.78	剥片	珪質頁岩	5.80×1.7×0.7	4.67		11	第147図4
49	AI-43	9.53	0.14	12.67	剥片	チャート	1.64×3.55×2.65	10.29		11	
50	AI-44	9.7	4.9	12.72	剥片	黒色ガラス質安山岩	2.68×2.71×0.62	5.31		11	
51	AI-44	6.5	4.2	12.75	剥片	粘板岩	1.97×2.33×0.82	3.71		11	

第12表 縄文時代以降石器観察表(3)

石器一覧表(7次)

図版番号	出土位置	器種	縦×横×厚さ(cm)	重量(g)	石質
175図-69	グリッド	スクレイパー	2.8×2.5×0.9	6.5	チャート
175図-70	SE5	スクレイパー	4.4×4.2×1.7	6.9	頁岩
175図-71	SD120	砥石	7.0×3.1×3.6	85.9	砂岩

石器一覧表(8次)

図版番号	出土位置	器種	縦×横×厚さ(cm)	重量(g)	石質
180図-45	G1	スクレイパー	2.4×2.8×1.0	1.3	黒曜石
180図-46	G1	スクレイパー	(4.1)×2.8×1.8	2.6	砂岩

第13表 新旧対照表(1)

溝一覧表(SD)

番号	旧番号	番号	旧番号
1	1次1	46	2次65
2	1次2	47	2次44
3	1次3	48	2次47
4	1次4	49	2次45
5	1次5	50	2次46
6	1次6	51	2次48
7	1次7	52	2次49
8	1次8	53	2次50
9	2次23	54	2次51
10	2次12	55	2次53
11	2次11	56	2次54
12	2次10	57	2次55
13	2次9	58	2次56
14	2次8	59	2次52
15	2次7	60	2次82
16	2次6	61	2次83
17	2次5	62	2次71
18	2次4	63	2次74
19	2次3	64	2次73
20	2次2	65	2次72
21	2次1	66	2次70
22	2次16	67	2次69
23	2次15	68	2次68
24	2次14	69	2次67
25	2次13	70	2次61
26	2次17	71	2次60
27	2次19	72	2次62
28	2次18	73	2次64
29	2次24	74	2次75
30	2次21	75	2次76
31	2次28	76	2次78
32	2次29	77	2次77
33	2次30	78	2次79
34	2次31	79	2次80
35	2次32	80	2次81
36	2次39	81	2次58
37	2次35	82	2次63
38	2次34	83	2次59
39	2次37	84	3次1
40	2次38	85	3次2
41	2次40	86	3次5
42	2次43	87	3次3
43	2次41	88	3次4
44	2次42	89	5次1
45	2次66	90	5次2

住居跡一覧表(SJ)

番号	旧番号
1	1次1
2	1次3
3	1次4
4	1次5
5	3次1
6	3次2
7	3次3
8	3次4
9	3次5
10	3次6
11	3次7
12	3次8
13	3次9
14	3次10
15	5次1
16	5次2
17	5次3
18	5次4
19	5次5
20	5次6
21	5次7
22	5次8
23	5次9
24	5次10
25	5次11
26	5次12
27	5次13
28	5次14
29	5次15
30	5次16
31	5次17
32	5次18
33	6次1
34	6次2
35	7次1
36	7次2
37	7次3
38	7次4
39	7次5
40	7次6
41	7次7
42	7次8

炉穴一覧表(FP)

番号	旧番号
1	1次1
2	3次1
3	3次2
4	3次3
5	3次4
6	5次1
7	7次1
8	7次2
9	7次3
10	7次4
11	7次5
12	7次7
13	7次6
14	7次8
15	7次9
16	7次10
17	7次11
18	7次12
19	7次13
20	7次14

竪立柱建物跡一覧(SB)

番号	旧番号
1	2次1
2	2次2
3	2次4
4	2次5
5	2次6
6	7次1

井戸一覧表(SE)

番号	旧番号
1	2次1
2	2次2
3	4次1
4	5次1
5	7次1
6	8次1

炭焼窯(SF)

番号	旧番号
1	5次1

方形周溝墓(SR)

番号	旧番号
1	3次1

方形周溝墓(SR)

番号	旧番号
1	2次1
2	5次1

小堅穴

番号	旧番号
1	1次SJ2

埋壺

番号	旧番号
1	1次1

石器集中

番号	旧番号
1	3次1
2	3次2
3	3次3
4	3次4
5	3次5
6	3次6
7	3次7
8	3次8
9	3次9
10	3次10
11	7次1

第14表 新旧对照表(2)
土壤一览表(新番号优先)

番号	旧番号	番号	旧番号	番号	旧番号	番号	旧番号	番号	旧番号
1	1次1	47	2次42	93	2次93	139	5次8	185	7次3
2	1次2	48	2次62	94	2次92	140	5次9	186	7次4
3	1次3	49	2次46	95	2次98	141	5次10	187	7次5
4	1次4	50	2次44	96	2次101	142	5次11	188	7次6
5	2次1	51	2次45	97	2次100	143	5次12	189	7次7
6	2次2	52	2次47	98	2次94	144	5次13	190	7次8
7	2次3	53	2次61	99	2次95	145	5次14	191	7次9
8	2次4	54	2次66	100	2次96	146	5次15	192	7次10
9	2次5	55	2次64	101	2次97	147	5次16	193	7次11
10	2次7	56	2次63	102	2次102	148	5次18	194	7次13
11	2次6	57	2次49	103	2次103	149	5次17	195	7次14
12	2次8	58	2次48	104	2次112	150	5次19	196	7次12
13	2次9	59	2次54	105	2次111	151	5次20	197	7次15
14	2次10	60	2次53	106	2次110	152	5次21	198	7次16
15	2次11	61	2次50	107	2次108	153	5次22	199	7次17
16	2次17	62	2次60	108	2次107	154	5次23	200	7次1
17	2次12	63	2次59	109	2次106	155	5次24	201	7次4
18	2次14	64	2次55	110	2次109	156	5次25	202	7次5
19	2次13	65	2次67	111	2次113	157	5次26	203	7次2
20	2次15	66	2次56	112	2次104	158	5次27	204	7次3
21	2次16	67	2次57	113	2次105	159	5次28	205	7次6
22	2次18	68	2次58	114	2次114	160	5次30	206	7次7
23	2次19	69	2次68	115	2次115	161	5次29	207	7次8
24	2次22	70	2次70	116	3次1	162	5次31	208	7次9
25	2次21	71	2次73	117	3次2	163	5次32	209	7次11
26	2次23	72	2次72	118	3次3	164	5次33	210	7次10
27	2次24	73	2次69	119	3次4	165	5次34	211	7次12
28	2次20	74	2次71	120	3次5	166	5次38	212	7次13
29	2次25	75	2次75	121	3次6	167	5次36	213	7次14
30	2次26	76	2次74	122	3次7	168	5次37	214	7次15
31	2次27	77	2次76	123	3次8	169	5次35	215	7次16
32	2次28	78	2次79	124	3次9	170	5次39	216	7次17
33	2次34	79	2次78	125	3次10	171	5次40	217	7次18
34	2次33	80	2次77	126	3次11	172	5次41	218	7次19
35	2次32	81	2次80	127	3次12	173	5次42	219	7次20
36	2次31	82	2次81	128	3次13	174	5次43	220	7次21
37	2次29	83	2次82	129	3次14	175	5次44	221	7次22
38	2次30	84	2次85	130	4次1	176	5次45	222	7次24
39	2次39	85	2次83	131	4次2	177	6次1	223	7次25
40	2次65	86	2次86	132	4次3	178	6次2	224	7次26
41	2次38	87	2次84	133	4次4	179	6次3	225	7次27
42	2次35	88	2次87	134	5次1	180	6次4	226	7次28
43	2次36	89	2次88	135	5次2	181	6次5	227	8次1
44	2次37	90	2次89	136	5次4	182	6次6	228	8次2
45	2次40	91	2次90	137	5次7	183	7次1(SKJ)	229	8次3
46	2次41	92	2次91	138	5次6	184	7次2	230	8次4

IV 相野谷遺跡

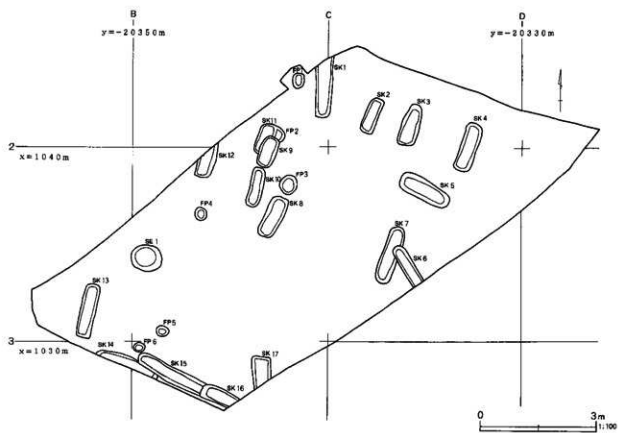
1. 第1次調査

調査の概要

平成6年11月1日～平成6年11月22日まで実施した。調査面積は500㎡であった。確認された遺構は、縄文時代のファイヤーピット・6基、中・近世の井戸・1基、

中・近世の土塚・16基であった。遺物の出土は少なかった。

第182図 相野谷遺跡調査区全体図



(1) 土壌

第1号土壌 (第183図)

B1、C1グリッドで検出された。規模は $2.84\text{m} \times 0.83\text{m} \times 0.18\text{m}$ であった。一部調査区外であった。近世以降の所産と思われる。

第2号土壌 (第183図)

C1グリッドで検出された。規模は $1.78\text{m} \times 0.86\text{m} \times 0.08\text{m}$ であった。かなり薄く底面だけの検出であった。近世以降の所産と思われる。

第3号土壌 (第183図)

C1、C2グリッドで検出された。規模は $2.00\text{m} \times 0.93\text{m} \times 0.17\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

第4号土壌 (第183図)

C1、C2グリッドで検出された。規模は $2.53\text{m} \times 0.94\text{m} \times 0.10\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

第5号土壌 (第183図)

C2グリッドで検出された。規模は $2.34\text{m} \times 0.80\text{m} \times 0.10\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

第6号土壌 (第183図)

C2グリッドで検出された。第7号土壌を切っていた。規模は $(2.20)\text{m} \times 0.79\text{m} \times 0.14\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

第7号土壌 (第183図)

C2グリッドで検出された。第6号土壌に切られていた。規模は $2.80\text{m} \times 0.80\text{m} \times 0.10\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

第8号土壌 (第183図)

B2グリッドで検出された。規模は $2.20\text{m} \times 0.88\text{m} \times 0.18\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

第9号土壌 (第183図)

B1、B2グリッドで検出された。第11号土壌、第2号炉穴を切っている。規模は $1.43\text{m} \times 0.94\text{m} \times 0.30\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

第10号土壌 (第183図)

B2グリッドで検出された。規模は $2.10\text{m} \times 1.13\text{m} \times 0.08\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

第11号土壌 (第183図)

B1、B2グリッドで検出された。第2号炉穴を切り、第9号土壌に切られる。近世以降の所産と思われる。

第12号土壌 (第183図)

B2、B3グリッドで検出された。規模は $(1.33)\text{m} \times 0.82\text{m} \times 0.10\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

第13号土壌 (第184図)

A2グリッドで検出された。規模は $2.78\text{m} \times 0.77\text{m} \times 0.17\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

第14号土壌 (第184図)

A3、B3グリッドで検出された。土壌が3基連続していた。規模は $(3.39)\text{m} \times (0.47)\text{m} \times 0.27\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

第15号土壌 (第184図)

B3グリッドで検出された。土壌が3基連続する中央にあった。規模は $(3.64)\text{m} \times (0.78)\text{m} \times 0.37\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

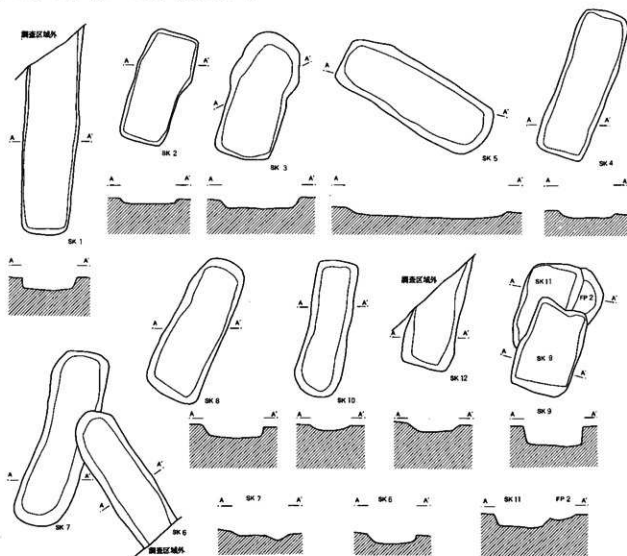
第16号土壌 (第184図)

B3グリッドで検出された。土壌が3基連続する東側にあった。規模は $(1.89)\text{m} \times 0.64\text{m} \times 0.27\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

第17号土壌 (第184図)

B3グリッドで検出された。規模は $(1.75)\text{m} \times 0.85\text{m} \times 0.28\text{m}$ であった。近世以降の所産と思われる。

第183図 土壌 (第1~12号)・炉穴 (第2号)



(2) 炉穴

第1号炉穴 (第184図)

B 2 グリッドで検出された。規模は $0.96\text{m} \times 0.74\text{m} \times 0.25\text{m}$ であった。覆土に焼土を多く含む。時期は明確でないが、縄文時代早期のものと思われる。

第2号炉穴 (第184図)

B 2 グリッドで検出された。規模は $(0.67)\text{m} \times (0.39)\text{m} \times 0.08\text{m}$ であった。近世の土壌に切られていた。覆土には焼土がわずかに混入していた。時期は明瞭ではないが、縄文時代早期のものと思われる。

第3号炉穴 (第184図)

B 2 グリッドで検出された。規模は $1.03\text{m} \times 0.76\text{m} \times$

0.20m であった。覆土には焼土ブロックが多く含まれていた。時期は明瞭ではないが、縄文時代早期と思われる。

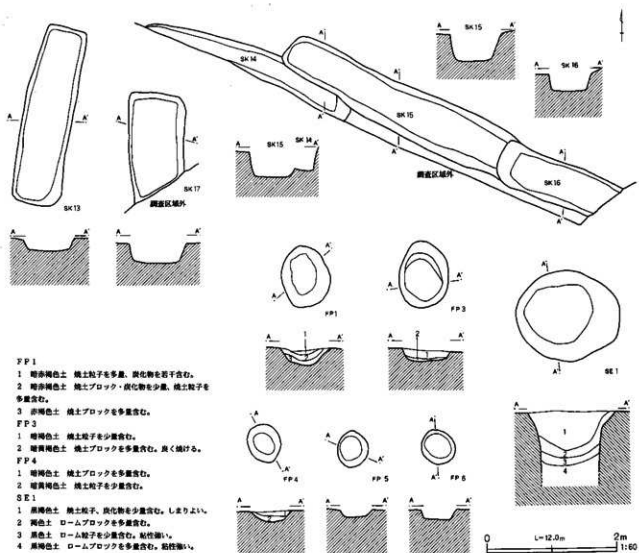
第4号炉穴 (第184図)

B 2 グリッドで検出された。規模は $0.60\text{m} \times 0.50\text{m} \times 0.18\text{m}$ であった。覆土に焼土ブロックを多く含んでいた。時期は明瞭ではないが、縄文時代早期と思われる。

第5号炉穴 (第184図)

B 2 グリッドで検出された。規模は $0.59\text{m} \times 0.47\text{m} \times 0.12\text{m}$ であった。覆土に焼土をわずかに含んでいた。時期は明瞭ではないが、縄文時代早期と思われる。

第184図 土壌 (第13~16号)・炉穴 (第1・3~6号)・第1号井戸・グリッド出土土器



FP 1

1 暗赤褐色土 焼土粒子を多量、炭化物を若干含む。

2 暗赤褐色土 焼土ブロック・炭化物を少量、焼土粒子を多量含む。

3 赤褐色土 焼土ブロックを多量含む。

FP 3

1 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。

2 暗褐色土 焼土ブロックを少量含む。良く攪げる。

FP 4

1 暗褐色土 焼土ブロックを多量含む。

2 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。

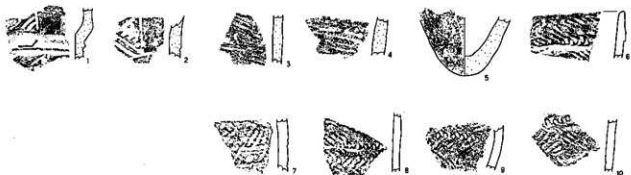
SE 1

1 黒褐色土 焼土粒子、炭化物を少量含む。しまりよい。

2 褐色土 ロームブロックを多量含む。

3 褐色土 ローム粒子を少量含む。粘性強い。

4 黒褐色土 ロームブロックを多量含む。粘性強い。



0 10cm 1:3

第6号炉穴（第184図）

B3グリッドで検出された。規模は、直径0.55m前後の円形をしていた。深さは、0.15mと浅かった。覆

土に焼土ブロックを少量含んでいた。時期は明瞭ではないが、縄文時代早期と思われる。

(3) 井戸

第1号井戸（第184図）

B2グリッドで検出された。規模は1.60m×1.41m×

(1.28)mであった。4層付近で出水のため中断した。覆土は自然堆積であった。時期は明瞭ではない。

(4) グリッド・確認調査時出土遺物

第1群土器（第184図1～5）

縄文時代早期条痕文系の上器である。いずれの土器も胎土に繊維を含んでいる。ここの土器は裏面の条痕がないか、少ない。図に裏面は入れていない。1、2は口縁部に段を持つ。斜行する沈線を区画として、沈線文が充填される。地文となる条痕文が目立たない。3、4は条痕文だけの破片である。5は、尖底部分で

先端部がいくぶん丸みを帯びている。

第2群土器（第184図6～10）

縄文時代前期末に属すると思われる土器である。概して薄く、繊維の混入はない。6は折返口縁を持つ。先端部は内側に削られる。横回転RLの縄文を持つ。7は横回転の縄文を地文として竹管文が施文される。8から10は、結節羽状縄文を持つ。

V 結語

1. 旧石器時代について

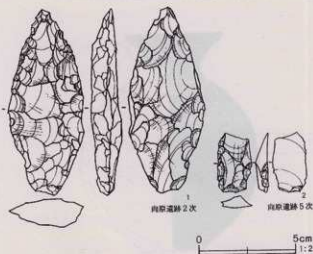
向原遺跡では、11ヶ所の石器集中が見つかった。いずれも西向き斜面部で、その検出頻度はかなり高い。現在も調査は続いているので今後増加することが期待される。

今回の石器集中は、製品が極端に少なく、いずれも剥片、礫が大部分を占めるものであった。頁岩、安山岩などを主体とする下層の石器集中。チャートがほとんどの石器集中、チャートを主体として黒曜石を客体とする石器集中、粗雑なメノウを主体とする石器集中で構成される上層の石器集中であった。石材一覧のグラフがものがついている。剥片の大小の別もあるようである。

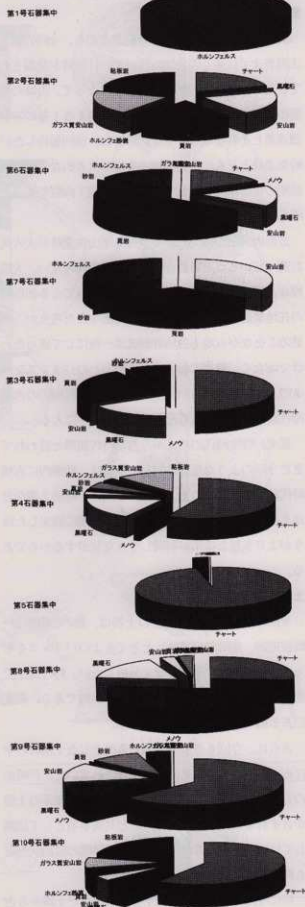
また、いずれの集中にも少量ではあるが黒色ガラス質安山岩が入っている点も注目される。

最後に、石器集中以外で出土した尖頭器とナイフ形石器を載せた。尖頭器は頁岩製人型品であった。

第185図 向原遺跡グリッド出土石器



第186図 旧石器石材一覧



2. 古墳時代前期について

集落について

向原遺跡は新幹線に伴う発掘調査から、今回の第8次調査までに多くの古墳時代前期の住居跡が発掘されてきた。今回の方形周溝墓の発見によって、当時の集落の様子が判明しつつある。10mを超える1基の方形周溝墓とそれを取り巻く住居跡群は、前回報告した戸崎前遺跡とともに大宮台地中央部の代表的な古墳時代前期の集落構造を示している。戸崎前・向原型集落と呼んでも過言ではないと思う。

方形周溝墓が検出されなかった尾山台遺跡が大火災に遭っている点と考え合わせると大変興味深い。大規模な古墳が構築されて、国家が形成されてくる前段階の在り地集落の状況はどんなものであったのだろうか。当然のことながら埼玉古墳群形成は一夜にして成ったわけではなく、前夜における在地勢力とのバランスシートの上に出る。位置的に近い伊奈町福屋の古墳時代前期集落ももちろんこのカテゴリーに入る。

従来、弥生時代の終末から古墳時代前期と言われてきた今回のような集落に対して筆者は、積極的に古墳時代前期と呼んでいる。尾山台1期、戸崎前2期などはその繋がりから分析の視点をこの時期に固定したほうがより多様な様相が判明しそうな気がするからである。

土器について

今回報告の向原遺跡出土の土器は、他の2遺跡（戸崎前遺跡、葉師堂根遺跡）とともによいバランスをもっている。今後、関連させて分析したい。特に薄手で面取りとミガキに特徴的な甕は、特徴的である。縄文のある飾り壺などと対照的である。

さらに、今回も方形周溝墓から出土した土器群の中に吉ヶ谷式・北関東系の土器が含まれていた。戸崎前の方形周溝墓にも同じように1個体の北関東系の土器が含まれていたことから考えると共通事項として認識していいと思う。これは、前記の遺跡間の政治状況とも関係することである。

特に今回は、火山灰を埋土上層に含んだ土壌から古

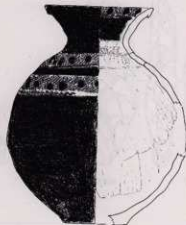
墳時代前期の土器が多く出土した。土層の堆積状況などはまったく同じで同時代性を保証するものである。火山灰の自然科学的分析は付編を参照していただきたい。今後、より具体的に分析が進み年代の掘り所のひとつになれば大変ありがたい。

第188図に纏めてみたが、縄文のついた飾り壺と向原遺跡の他土器群との関係が大変よくわかる。同時代性が断定できる貴重な事例である。これで、戸崎前遺跡第396号土壌ともつながった。

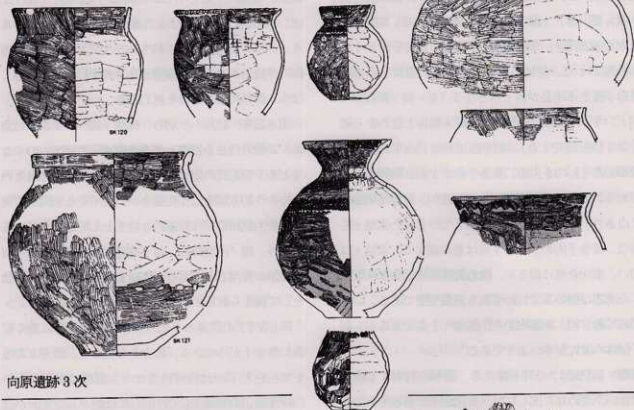
前回の戸崎前遺跡につづき今回も詳細な分析ができなかった。今後の課題として取り組みたい。

今後、土器の編年的な研究、集落論などとともに在地の政治状況や集落間のネットワークが寝ミガキ壺や尾山台型（折り返し口縁に指痕がある）甕、飾り壺、北関東系土器によって語られ、進展してゆくことが考えられる。長い間五領式土器と総称された土器群のいろいろな個性、伝統、革新性、政治性などの側面が見え出してくる状況なのかもしれない。（20002 橋本）

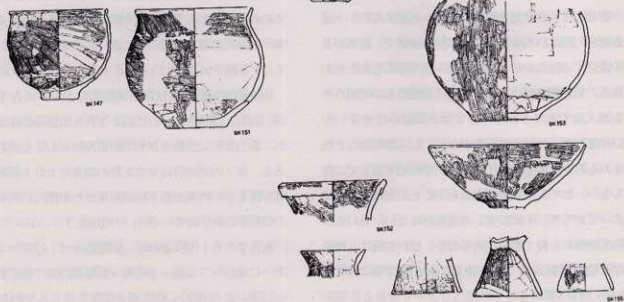
第187図 第121号土壌出土赤彩土器模式図



第188図 火山灰を含む土壌出土土器



向原遺跡 3次



向原遺跡 7次



戸崎前遺跡 8次

3. 向原遺跡38号住居跡出土土器をめぐって

器種組成 38号住居跡からは須恵器環、蓋、壺、鉢、水瓶、甕、鉢、土師器甕が検出されている。須恵器環は9点検出され、南比企産が6点、東金子産が1点、常陸産が1点、産地不明が1点ある。蓋は2点あり、東金子産と不明品が各1点となる。壺・甕・鉢類は4点、いずれも南比企産である(同一個体と思われる破片は1点と認定した)。須恵器は合計15点中、南比企産が10点と2/3を占め、東金子産が2点、常陸産が1点あり、末野窯跡群産は認められない。産地不明品は2点あり、うち1点は硬質の焼きでつまった素地土を持つ。東金子的か。もう1点は蓋の細片で、素地土は粗い。南比企産に似るが、白色針状物質は含まれない。

土師器は甕のみで、いずれも武蔵型甕である。口縁部破片数3点、胴部片30点、底部片1点であるが、同一個体の破片が多いようである。

時期 第153図7の環を除くと、器形の判明する資料はない。この環に関しては、非在産地であるため後述するとして、在産地土器群の検討から始めたい。土師器甕13・14はいわゆる「コ」の字状口縁甕で、頸部が長く直立する特徴から9世紀中葉～後半頃のものと思われる。須恵器環では1は8世紀中葉頃のもので明らかな混入品であろう。2～6については小片が多いが、口縁部が強く外反するものがなく、しっかりとした焼きのものが主体をなすことから、9世紀末葉までは降らない。おそらく9世紀中葉を中心とした時期とみてよいであろう。土師器甕との違和感はない。11の壺は底部調整から見てやや古いものか。12の水瓶は、嵐山町芳沼入遺跡から9世紀中葉の検出例があり(川口1992)、伴う資料として問題はなさそうである。須恵器甕類は息の長い製品であり、時期決定しがたいが、当該期にも生産されている。4号住居跡の遺物総体としては9世紀中葉前後という年代観が浮かび上がってくる。次に、常陸産須恵器について若干検討を加えたい。

常陸産須恵器について 第153図7の環は器形・調整

技法が在地の土器と明らかに異なっている。口径12.6cm、器高4.8cm、底径6.5cm、逆台形で深身の形態である。体部下端は幅広の手持ちヘラケズリ、底部は一方方向の手持ちヘラケズリ調整が施されている。切り離しはヘラ切りによるものと思われる。

須恵器環の底部ヘラ切り、体部下端ヘラケズリ技法は、糸切り技法を特徴とする西関東、武蔵圏内の少なくとも9世紀代の須恵器環にはほとんど採用されない。一方ヘラ切り須恵器文化圏をかたちづくる東関東諸窯、特に新治窯跡群では普遍的な技法として定着している。その外、堀ノ内窯跡群、益子窯跡群等でも一定程度同一技法が採用されており、東関東的な須恵器環の特徴として捉えられる。

第153図7の底部ヘラ切り須恵器環は非常に良く堅緻に焼き上がりしている。胎上から見ると、緻密な素地土で白色粒子が比較的確立つが、雲母は含まれない。口縁部周辺の摩滅部位(使用痕)には艶々した光沢が認められる。これら製作技法や胎土・焼成を総合すると、堀ノ内窯跡群産須恵器に最も近い特徴を具備しているものと判断される(註1)。

堀ノ内窯跡群は茨城県西茨城郡岩瀬町に所在する。「新大領」、「新厨」などと寛描きされた須恵器が採集され、新治郡産に供給された須恵器窯跡としても著名である。堀ノ内窯跡群花見堂支群の調査により8世紀中葉を降らない時期から9世紀前葉から中葉にいたる迄の資料が公表されている(五十川1988)。

報告者の五十川によれば、須恵器環は1号窯→4号窯→C地点→3号窯→2号窯→D地点の順に変化するという。このうち、坯体部下端の手持ちヘラ削りと、底部手持ちヘラケズリを伴うのはC地点段階以降である。したがって、向原遺跡出土例との対比はC地点段階以降D地点段階までとなる。但し、花見堂支群においては、本例と同じく底部一方方向のヘラケズリを施す例は1例のみで、何方向かに分けて削るものが大半を占めるという。環はC地点～D地点段階にいたるまで、平均器高は4.5cmとあまり変化なく、口径と底径が漸

減する傾向を示す(第189図)。換言すれば相対的に浅身から深身の形態に変化するといえ、C地点及び3号窯には浅身風のものが含まれるが、2号窯・D地点ではほぼ深身のもので占められる。

さて、向原遺跡38号住居跡の坏とこれらと比較すると、口径13~14cm、底径7~8cm代に分布するC地点出土土器群よりも一回り小型であり、より新しい段階といえよう。問題は3号窯~D地点との関係である。平均的な法量を比較すると、3・2号窯及びD地点の平均法量は向原遺跡38号住居跡出土例よりもやや大きく、小型化が進むという点では本例の方がより新しい傾向にあるといえる。

少し細かく見ると、3号窯では口径13~14cmを主体としながらも12cm代~15cmまで分布する。底径は7~8cmを中心としつつ6cm代~9cmまで存在する。2号窯では口径13~13.5cmを主体に、12cm代と14cmのものを若干含む。底径は7cmを主体に8cmまでのものがある。D地点の口径分布は2号窯とほぼ同様、底径は7cmを主体とする点は同様であるが、6cm代~8cmまでのものがある。2号窯のみ底径6cm代が欠落するが、前後の様相から存在するとみた方がよいであろう。

したがって、向原遺跡38号住居跡例の法量は3・2・D地点出土坏類の最も小さい一群に含まれることとなり、法量のみで単独資料の時期決定することはやや難しいといわざるをえない。

向原38号住居出土例の口縁部形態は、外面を肥厚させ、内湾気味におさめており、堀ノ内窯跡群産須恵器としてはポピュラーな形態という(註2)。しかし、花見堂支群の中には類似形態は明瞭には抽出できない。2号窯の大平と、3号窯でも相対的に小型の一群は底部から体部下半にかけて器壁が厚く、口縁部にかけて一気に先細りするタイプである。一方、D地点の坏は器壁の薄いものが主体を占めるようである。向原38号住居跡例は底部はやや厚く、体部から口縁部、特に体部下半の器壁は比較的薄い。この様相はD地点の形態により近いとみることができようが、口縁部形態に差違がみられるなどやはり単純な比較は難しい。

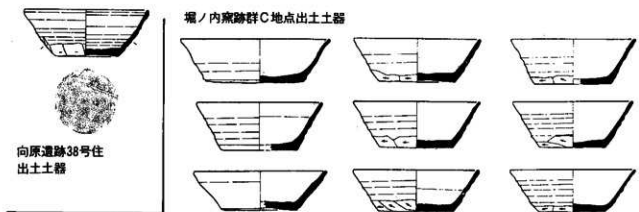
検討結果からは、明確な位置づけは困難であり、やや年代幅を広く見て3号窯~D地点を中心とした段階と捉えておくのが良いようである。五十川によれば、3・2号窯は9世紀前葉、D地点出土遺物は9世紀前葉から中葉に比定されている。赤井博之氏による最近の編年観によれば3号窯が9世紀第2四半期、2号窯・D地点が9世紀第3四半期に位置付けられている(赤井1997a)。両者の年代観に若干の相違はあるが、9世紀中葉前後という年代幅で捉えれば、向原遺跡38号住居跡出土の在産土器の年代観とも大きな開きは無いとみてよからう。

埼玉県内出土の常陸産土器

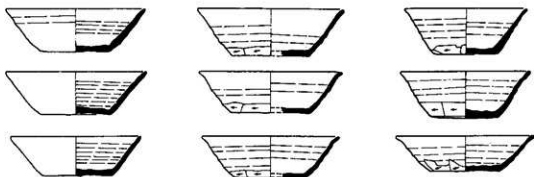
ここでは、県内出土の常陸産土器の概要についてまとめ、須恵器からみた古代の流通論に対する備えとしておきたい。常陸国の主要窯跡には、北から木葉下窯跡群、堀ノ内窯跡群、新治窯跡群などがある。木葉下窯跡群産須恵器は常陸国の北半に、新治窯跡群は常陸国の南部に分布し、大きく常陸国を二分する流通圏を形成するという。後者は下野、下総にも定量で供給される東関東屈指の中核窯である。一方、堀ノ内窯跡群産須恵器は、常陸・下総・下野の国境付近にかなり限定された分布範囲を示す(赤井1997b)とされているが、その流通実態はまだ十分に解明されたとはいえないようである。向原遺跡例が堀ノ内窯跡群とするならば、堀ノ内窯跡群産須恵器の主要分布域から大きく外れた一例といえる。埼玉県内においても確実な出土例は寡聞にして聞かず、本例が初見ではないかと思われる。

新治窯跡群産須恵器は前述のように、常陸国南部から下野、下総を中心に、その分布は武蔵、相模、遠くは駿河にまで及ぶことが指摘されている(赤井1998)。埼玉県内では蓮田市荒川附遺跡・椿山遺跡(田中1999)、春日市市浜川戸遺跡(加藤1999)、小淵山北遺跡(加藤1999)、加須市水深遺跡、行田市築道下遺跡(吉田1997)、栗岡・大屋1998)、飯能市堂ノ根遺跡(高元1993)、張摩久保遺跡(高元1997)、狭山市宮地遺跡(狭山市1986)、朝霞市諏訪原・中道遺跡(照林1996)等で出土が確認され

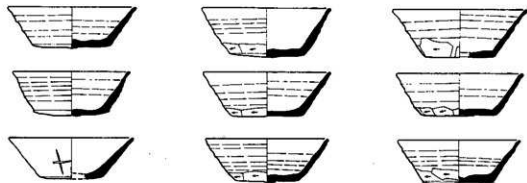
第189图 堀ノ内窯跡群花見堂支群出土土器



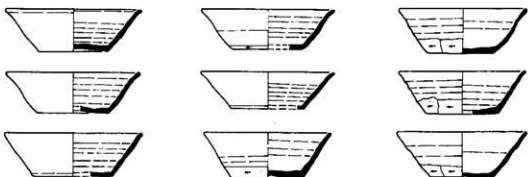
3号窯



2号窯



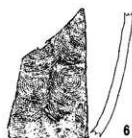
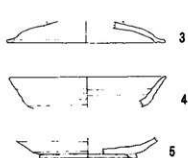
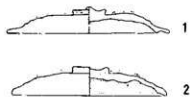
D地点



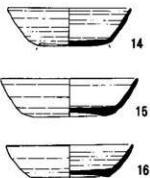
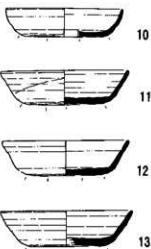
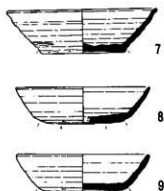
縮尺 1/4

第190図 埼玉県出土の常陸産土器

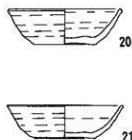
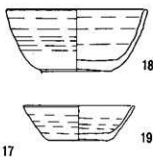
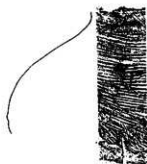
堂ノ根遺跡 1次 1住



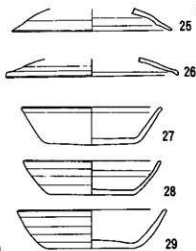
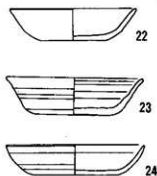
宮地遺跡 16住



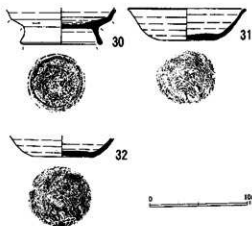
譚訪原・中道遺跡 1住



荒川附遺跡
第7地点 20住



築道下遺跡 373号土墳



ている。

堂ノ根遺跡1次1号住とその周辺からは、新治産の大型かえり蓋と坏B(第190図1～5)が計6点、外面に同心円叩きを持つ甕破片が1点(同図6)、常総型七師器甕が1点検出されている(高元1993)。

また、堂ノ根遺跡に隣接する張學久保遺跡21次8号住居跡からも外面同心円叩きを施す須恵器甕の破片が検出されている。胎土に雲母を含むことから新治産と考えられる(高元1997)。8号住は8世紀4/4期とされるが、新治産須恵器は流れ込みの遺物であり、堂ノ根遺跡同様8世紀前期段階まで遡る可能性がある。

堂ノ根遺跡、張學久保遺跡は共に、古代においては武蔵国高麗郡に属していたと考えられている。続日本紀によれば霊龜二年(716)、駿河、甲斐、相模、上総、下総、常陸、下野の7国に住む高麗人1799人を移して高麗郡を建郡したと記されている。堂ノ根遺跡の新治産須恵器は建郡段階の土器であり、文献に記載されるように、常陸国からの移住一世が故地から持ち運んだ遺物である可能性が高く、極めて注目される遺跡である。

宮地遺跡は狹山市の人間川左岸にあり、上述した堂ノ根遺跡から直線距離にして約1.5kmと近接している。16号住居跡から胎土に雲母を含む新治産須恵器坏が1点検出されている(第190図7)。推定口径15.1cm、器高4.5cm、底径8.3cm、平底で逆台形の器形である。底部はヘラ切り後、不定方向の手持ちヘラケズリ調整、体部下端には輻状の手持ちヘラケズリ調整が施されている(註3)。新治産須恵器の編年研究を精力的に進めている赤井博之氏の編年観に照らせば、東城寺段階に相当するものと考えている。年代的には8世紀3/4期頃と推定されている。

伴出する須恵器(8～16)は東金子窯跡群産で、口径12.5～13.9cm、底部回転ヘラケズリ(8・9)、手持ちヘラケズリ(10～14)、回転糸切り無調整(15・16)の3タイプが併存している。胎土は前内出窯跡に似たきめ細かいものと、細かい砂粒を多く含むややざらざらしたものがある。時期的には8世紀中葉後半頃と思われる、

新治産須恵器との年代的な離隔はあまりみられないであろう。

鶴ヶ島市・天狗遺跡O地点3号住居跡から常陸産の甕が1点出土しているという(今井他1987)。

宮地遺跡・天狗遺跡ともに古代において高麗郡域に入るか、人間郡に属するか微妙な位置にある。常陸産土器も単に製品の流通で捉えられるのか、堂ノ根遺跡同様移住に絡むの検討を要する問題であろう。

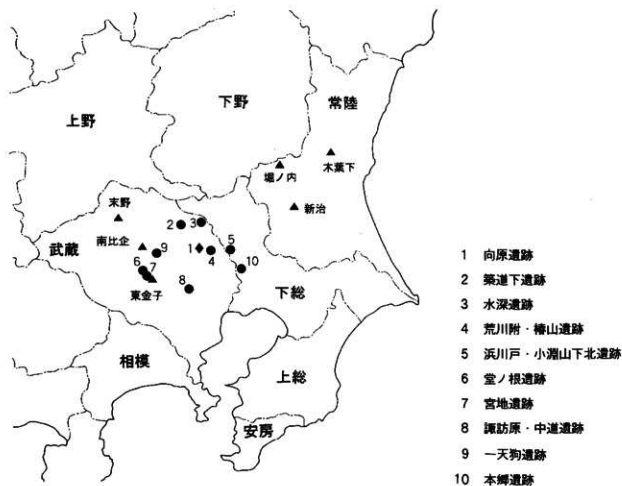
諏訪原・中道遺跡は朝霞市に所在し、3軒の住居が検出されている。1号住居跡から新治産の甕が検出されている(第190図17)。頸部から胴部の破片で、胴部外面に平行叩きを施す。赤井氏の検討により、新治産須恵器甕は8世紀中葉頃に比定されている(赤井1998)が、伴出の土器群(18～21)は9世紀中頃のものである(黒林1996)。

荒川附遺跡・椋山遺跡は蓮田市の元荒川水系に位置する遺跡で、古代においては埼玉郡に属したと考えられている。ここでは7世紀末～8世紀前半頃から新治産須恵器が検出されるようになり、10世紀にいたるまで或る程度継続的に搬入されたようである。但し、量的には少なく、各時期1～2%程度、多くても10%を超えないという(田中1999)。新治産須恵器流通圏の外縁部に位置していたと考えて良いであろう。

第190図22～29は荒川附遺跡第7地点20号住居跡出土資料を掲載した(寺内1989)。22・23が新治産である。扁平な器形で、体部下端に丸みを持つ。底部は全面手持ちヘラケズリ調整が施されている。この資料は赤井氏によって採り上げられ、赤井編年の一丁田後続段階(X2)～東城寺寄居前段階に比定されている(赤井1998)。伴出する須恵器は南比企産(24・26～29)が主体で、渡辺編年の鳩山Ⅱ期に位置付けられよう。また、1点のみではあるが、木野産のかえり蓋が出土している(25)。8世紀1/4～2/4期と考えられる。

築道下遺跡は行田市に位置する遺跡で、荒川附遺跡同様、古代埼玉郡に属する。新治産須恵器は3点確認されている。37号土壌から新治産の高台坏が1点(第190図30)、南比企産の坏が2点(31・32)出土している

第191図 埼玉県出土の常陸産土器分布図



- 1 向原遺跡
- 2 築道下遺跡
- 3 水深遺跡
- 4 荒川附・樟山遺跡
- 5 浜川戸・小淵山下北遺跡
- 6 堂ノ根遺跡
- 7 宮地遺跡
- 8 諏訪原・中道遺跡
- 9 一天狗遺跡
- 10 本舞遺跡

(栗岡1998)。高台坏は高台が高く外方に伸びるが、やや弱々しく端部が丸みを帯びる。また、腰部は強く張り、腰部以下は回転ヘラケズリされる。体部の開きはあまり強くないように思われ、赤井編年の小野1号窯段階までは降らない。東城寺寄居前B段階相当とすると9世紀前半中心になる。伴出の須恵器は9世紀中頃～後半頃と思われる。

AIK32号溝跡からは外面同心円文印きを施す変破片が1点検出されている(吉田1997)。また、同遺跡F区148・149号住居跡から新治産無台坏が1点出土している。体部下端と底部を手持ちヘラケズリするタイプで東城寺桑木段階に比定できよう(註4)。

水深遺跡は加須市に所在し、古代埼玉郡に属すると考えられる。7世紀末～8世紀初頭段階から9世紀初頭頃までの住居跡群とともに上野窯が検出されたこと

で著名な遺跡である。南比企産須恵器が主体となるが、末野産、上野、下野、湖西産須恵器とともに新治産須恵器が輸出されている(註5)。埼玉県立歴史資料館の調査によっても、7世紀末葉～8世紀初頭段階からすでに常陸産が搬入され、8世紀後半～9世紀初頭頃まで定量で確認されている。特に21号住居跡では29%を占めていた(今井他1987)。

小淵山下北・浜川戸遺跡は、春日部市にあるが、律令期においては下総国葛飾郡に属していたと考えられている遺跡である。浜川戸遺跡2次では8世紀前葉～中葉を主体とする住居跡7軒の総体で、南比企産と新治産須恵器がそれぞれ1/3を占めていた(加藤1999)。小淵山下北遺跡においても8世紀代では、南比企産、新治産が主体的に搬入され、9世紀代に至ると、新治産の技術の流れを汲む三和窯跡群産須恵器が主体となり、

新治産は比率的には低下するが定量で存在するという(加藤1999)。

松伏町本郷遺跡も下総国に属した遺跡である。9世紀代の須恵器131点中、17%が常陸産であった(今井他1987)。埼玉県内にあつては新治産須恵器を多量に出土する特異な地域といえるが、下総国に属した点からみて元来、新治産須恵器の主要流通圏内にあつたと判断して良い。

今後の調査によって常陸産須恵器の出土遺跡はまだ増加するであろうが、現状の分布状態を概観すると、①古代下総国葛飾郡に含まれる浜川戸、小湊山下北遺跡、本郷遺跡②古代武蔵国埼玉郡城の荒川附・椿山遺跡、築道下遺跡、水深遺跡、③同国足立郡域に属する向原遺跡、④同国高麗郡と周辺地域の堂ノ根遺跡、張摩久保遺跡、宮地遺跡、一天狗遺跡、旧新羅郡域に属する諏訪原・中道遺跡の大きく4地域に区分することができる。①は常陸産、特に新治産須恵器の流通圏に含まれる地域である。②は武蔵国東縁部に位置し、量的にもある程度定量で出土することからみても、常陸(新治)産須恵器の流通圏外縁部と考えても良いものと思われる。③、即ち向原遺跡になるが、現状では堀ノ内産須恵器の流通圏外である。別の要因を考える必要があろうが、結論を出すことは難しい。堀ノ内産須

恵器の分布に関する実態が明らかになるのを待ちたい。

④は常陸(新治)産須恵器流通圏からは大きく外れる地域である。既に指摘されているように、堂ノ根、張摩久保遺跡については郡新設に伴う渡来人の移住と考えるのが自然である。一天狗遺跡、宮地遺跡に関しても高麗郡との関わりの中で理解することもできる。

諏訪原・中道遺跡は新羅郡に属する。新羅郡は天平宝字二(758)年帰化した新羅僧32人、尼2人、男19人、女21人、計74人を武蔵国に移し、建郡された。諏訪原・中道遺跡の新治産土器は、まさに建郡段階のもので、文献に記載されない移住があつたとしても不思議ではない(注6)。いずれにせよ、高麗、新羅郡という渡来人を集住させた地域に常陸産土器が目立つ現象は注意されて良いであろう。今後、当該地域における非在地産土器の様相には更に注意を払う必要があろう。

大半が武蔵国に含まれる埼玉県内において、常陸産土器の分布はかなりの偏在性がある事が分かった。県東部を除くと特に、旧高麗・新羅郡域碓氷郡に集中する点は見逃せない事実である。将来、常陸産土器を含めて、非在地産土器の出土例が増加すれば、堂ノ根遺跡同様建郡に伴う移住や、渡来人の動向とからめて議論できる余地があろう。(2002 富田)

注1 産地同定に際しては赤井博之氏、内山敏行氏のご教示を得た。

注2 赤井氏のご教示による。

注3 宮地遺跡16号住資料に関しては、狭山市教育委員会石塚和明氏のご厚意により一部を実見の上、図化の許可を得た。お礼申し上げます。また、年代観に関しては赤井博之氏のご教示を得た。

注4 古代生産史研究会埼玉分会で確認した。本年度報告予定。また、赤井氏により年代観に関してご教示を得た。胎土から東城寺桑木窯の製品に酷似するという。

注5 古代生産史研究会で遺物を観察した際確認した。

注6 諏訪原・中道遺跡の常陸産土器に関して、赤井博之氏は建郡に伴って常陸国から移住した可能性を想定している(赤井1998)。

引用・参考文献

- 赤井博之 1997 a 「茨城県の須恵器編年」『東国の須恵器—関東地方における歴史時代須恵器の系譜—』古代生産史研究会
- 赤井博之 1997 b 「律令制変遷期の須恵器の系譜—茨城県—」『東国の須恵器—関東地方における歴史時代須恵器の系譜—』古代生産史研究会
- 赤井博之 1998 「古代常陸国新治窯跡群の基礎的研究(1)」『婆良岐考古第20号』
- 五十川伸也他 1988 「常陸国新治郡上代遺跡の研究」Ⅱ 甲陽史学会
- 今井 宏他 1987 「集落出土の須恵器と供給窯跡群」『埼玉の古代窯業調査報告書』埼玉県立歴史資料館
- 加藤 晃 1999 「浜川戸遺跡21次」春日部市遺跡調査会報告書第7集
- 加藤 晃 1999 「小洲山下北遺跡 八木崎遺跡2次 花積内谷耕地遺跡5次」春日部市埋蔵文化財調査報告書第8集
- 川口 潤 1992 「蟹沢・芳沼入・芳沼入下・新田坊・尺尻・尺尻北・人野田」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第119集
- 小林重義 1972 「水深」東北縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 埼玉県遺跡調査会
- 狭山市 1986 「狭山市史」原始古代資料編
- 田中広明他 1999 「蓮田市史」考古資料編Ⅱ 蓮田市
- 寺内正明 1989 「荒川附遺跡—第7地点—、第8地点 宿下遺跡—第6地点—」蓮田市文化財調査報告書第14集
- 照林敏郎 1996 「諏訪原・中道遺跡第1地点発掘調査報告書」朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告書第8集
- 富元久美子 1993 「堂ノ根遺跡第1次調査」飯能市遺跡調査会
- 富元久美子 1997 「張摩久保遺跡第21次調査」『飯能の遺跡(22)』飯能市教育委員会
- 西川 制・斉藤 稔 1984 「鶴ヶ島北部遺跡群 一天狗遺跡O・P・Q地点」
- 山口耕一 1994 「北関東地域における茨城産須恵器について(上)—外面同心円印き目を有する須恵器を中心に—」『研究紀要第2号』栃木県文化振興事業団
- 古田 稔 1997 「築道下遺跡Ⅰ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第188集
- 渡辺 一 1990 「鳩山窯跡群」Ⅱ 鳩山窯跡群遺跡調査会

付編 埼玉県、向原遺跡の自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 向原遺跡第3次調査の火山灰分析

1. はじめに

向原遺跡第3次の発掘調査では、多くの層準から遺物が検出された。そこで地質調査を行い土層の記載を行うとともに、火山ガラス比分析、テフラ検出分析、さらに屈折率測定を合わせて行って、すでに噴出年代が明らかにされている示標テフラの層位を求め、遺物包含層の堆積年代に関する資料を得ることになった。調査分析の対象となった地点は、B8グリッド、C6グリッド、D3グリッドの3地点である。

2. 土層層序

(1) B-8グリッド

台地部の基本的な土層が認められたこの地点では、下位より褐色土（層厚5cm以上、Ⅷ層）、暗褐色土（層厚24cm）、赤褐色スコリア混じり暗褐色土（層厚8cm）、暗褐色土（層厚9cm、以上Ⅵ層）、白色粗粒火山灰混じり暗褐色土（層厚17cm、Ⅴ層）、暗褐色土のブロック混じり褐色土（層厚11cm、Ⅳ層）、黄褐色土（層厚16cm、Ⅲ層）、褐色土（層厚16cm、Ⅱ層）の連続が認められる（図1）。これらの土層のうち、Ⅵ層からは石器、Ⅳ層基部からは、またⅡ層から縄文時代早期の土器が各々検出されている。

(2) C-6グリッド

斜面部に位置するこの地点では、下位より灰色土（層厚7cm）、黄色土（層厚32cm）、黄色粗粒火山灰混じり黄褐色土（層厚5cm）、黄褐色土（層厚11cm）の連続が認められる（図2）。これらの土層のうち、黄色土からは石器（剥片）が検出されている。

(3) D-3グリッド

斜面部に位置し黒土の良好な断面が認められた本地点では、下位より暗褐色土（層厚19cm）、黒灰色土（層厚5cm）、黄色土のブロック混じり黄灰色土（層厚

3cm）、黒灰色土（層厚1cm）、暗褐色粗粒火山灰層（層厚0.4cm）、黒色土（層厚3cm）、黄白色細粒火山灰層（層厚1.5cm）、黒灰色土（層厚1cm）、暗褐色粗粒火山灰層（層厚0.3cm）、黒色土（層厚3cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚1.3cm）、黒灰色土（層厚5cm）、黒褐色土（層厚7cm）、灰色がかった暗褐色土（層厚11cm）、暗褐色土（層厚19cm）、褐色土（層厚47cm）の連続が認められた。

これらの土層のうち、発掘調査では下位より3層目の黄色土のブロック混じり黄灰色土から、古墳時代4世紀代の五領式土器が検出されている。

3. 火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

石器が検出されたB8グリッドおよびC6グリッドの2地点において、基本的に5cmごとに採取された試料のうち、5cmおきの試料17点について火山ガラスの形態別の組成を求めた。分析の手順は、次の通りである。

- 1) 試料15gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 分析篩により1/41/8mmの粒子を篩別。
- 5) 250粒子について偏光顕微鏡下で検鏡し、火山ガラスの形態別組成を求める。

(2) 分析結果

B8グリッドの火山ガラス比ダイヤグラムを図3に、その内訳を表1に示す。ここでは、Ⅵ層上部の試料番号13に透明で平板状のいわゆるバブル型ガラスの出現ピーク（全粒子の12.4%）が認められた。この火山ガラスは、その特徴から約2,225万年前に南九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰（AT、町田・新井、1976、1992）に由来するものと考えられる。産出

状況から本遺跡においては、Ⅵ層上部付近にATの降灰層準のあるものと考えられる。

白色粗粒火山灰が認められたⅤ層(試料番号11および9)には、スポンジ状に発泡した軽石型ガラスや分厚い中間型ガラスが含まれている。またⅢ層から上位(試料番号5から上位)では、中間型ガラスやスポンジ状または繊維束状に発泡した軽石型ガラスが多く含まれている。産出状況からⅢ層付近に、これらの形態の火山ガラスで特徴づけられるテフラの降灰層準があると考えられる。

C6グリッドの火山ガラス比ダイヤグラムを図4に、その内訳を表2に示す。ここでは、試料番号3付近に中間型ガラスの出現ピーク(4.8%)が認められる。ここでは、ほかにスポンジ状または繊維束状に発泡した軽石型ガラス(1.6%)も認められる。この火山ガラスで特徴づけられるテフラは、B-8グリッド基本土層断面の試料番号5付近に降灰層位のあるテフラと同じものと考えられる。なお土層の観察から、試料番号10の土層より下にⅤ層のあることが明らかになっている。したがってATの降灰層準は、試料番号10の土層よりさらに下位にあると考えられる。火山ガラス比分析の結果明らかになったバブル型ガラスの検出状況は、このことを示唆している。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

B-8グリッドにおいて白色粗粒火山灰が認められたⅤ層の試料番号11およびとくに中間型ガラスで特徴づけられるテフラの降灰層準と考えられるⅢ層(試料番号5)の2試料について、屈折率測定を行い示標テフラとの同定精度を向上させることにした。屈折率の測定は、位相差法(新井, 1972)による。

(2) 測定結果

測定結果を表3に示す。試料番号11には、斜方輝石のほか単斜輝石や磁鉄鉱が認められる。斜方輝石の屈折率(γ)は、1.700-1.710 (mode: 1.701-1.705)である。このテフラは、層位や火山ガラスの特徴さらに斜方輝石の屈折率などから、約182.1万年前に浅間火山から

噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 早田, 1994)に由来するものと考えられる。したがってⅤ層中にAs-BP Groupの降灰層準があると考えられる。

試料番号5にも、斜方輝石のほか単斜輝石や磁鉄鉱が認められる。またごく少量カンラン石も含まれている。斜方輝石の屈折率(γ)は、1.706-1.711である。このテフラは、層位や火山ガラスの形態さらに斜方輝石の屈折率などから、約13-14万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)に由来する可能性が大きいと考えられる。なお南関東一帯でいわゆるローム層の最上部付近から検出されている立川ローム最上部ガラス質火山灰(UG, 山崎, 1978)は、このAs-YPに由来すると考えられている(町田ほか, 1984)。

5. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

低地部に位置するD3グリッドの土層観察により確認されたテフラ層と示標テフラとの同定、また肉眼で検出されないテフラの検出同定を目的としてテフラ試料および土壌試料合計10点の試料を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料15gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴などを観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表4に示す。試料番号6の暗褐色粗粒火山灰層には、スコリアが多く含まれている。スコリアは光沢のある暗褐色、黒灰色で、少量の赤色岩片が認められた。スコリアは細粒で、その最大径は0.9mmである。このスコリア質粗粒火山灰層については、本遺跡においてその下位から4世紀代の五領式土師器が検出されている。ここでは仮に「伊奈スコリア(InS)」と呼ぶことにする。

InSの上位にある試料番号5の黄白色細粒火山灰層には、スポンジ状によく発泡した白色の軽石(最大径

状況から本遺跡においては、Ⅴ層上部付近にATの降灰層準のあるものと考えられる。

白色粗粒火山灰が認められたⅤ層（試料番号11および9）には、スポンジ状に発泡した軽石型ガラスや分厚い中間型ガラスが含まれている。またⅢ層から上位（試料番号5から上位）では、中間型ガラスやスポンジ状または繊維束状に発泡した軽石型ガラスが多く含まれている。産出状況からⅢ層付近に、これらの形態の火山ガラスで特徴づけられるテフラの降灰層準があると考えられる。

C6グリッドの火山ガラス比ダイヤグラムを図4に、その内訳を表2に示す。ここでは、試料番号3付近に中間型ガラスの出現ピーク（4.8%）が認められる。ここでは、ほかにスポンジ状または繊維束状に発泡した軽石型ガラス（1.6%）も認められる。この火山ガラスで特徴づけられるテフラは、B8グリッド基本土層断面の試料番号5付近に降灰層位のあるテフラと同じものと考えられる。なお土層の観察から、試料番号10の土層よりさらに下位にⅤ層のあることが明らかにされている。したがってATの降灰層準は、試料番号10の土層よりさらに下位にあると考えられる。火山ガラス比分析の結果明らかになったバブル型ガラスの検出状況は、このことを示唆している。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

B8グリッドにおいて白色粗粒火山灰が認められたⅤ層の試料番号11およびとくに中間型ガラスで特徴づけられるテフラの降灰層準と考えられるⅢ層（試料番号5）の2試料について、屈折率測定を行い目標テフラとの同定精度を向上させることにした。屈折率の測定は、位相差法（新井，1972）による。

(2) 測定結果

測定結果を表3に示す。試料番号11には、斜方輝石のほか単斜輝石や磁鉄鉱が認められる。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.700-1.710（mode：1.701-1.705）である。このテフラは、層位や火山ガラスの特徴さらに斜方輝石の屈折率などから、約1.821万年前に浅間火山から

噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group，新井，1962，早田，1994）に由来するものと考えられる。したがってⅤ層中にAs-BP Groupの降灰層準があると考えられる。

試料番号5にも、斜方輝石のほか単斜輝石や磁鉄鉱が認められる。またごく少量カンラン石も含まれている。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.706-1.711である。このテフラは、層位や火山ガラスの形態さらに斜方輝石の屈折率などから、約1.3-1.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP，新井，1962，町田・新井，1992）に由来する可能性が大きいと考えられる。なお南関東一帯でいわゆるローム層の最上部付近から検出されている立川ローム最上部ガラス質火山灰（UG，山崎，1978）は、このAs-YPに由来すると考えられている（町田ほか，1984）。

5. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

低地部に位置するD3グリッドの土層観察により確認されたテフラ層と目標テフラとの同定、また肉眼で検出されないテフラの検出同定を目的としてテフラ試料および土壌試料合計10点の試料を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料15gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴などを観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表4に示す。試料番号6の暗褐色粗粒火山灰層には、スコリアが多く含まれている。スコリアは光沢のある暗褐色、黒灰色で、少量の赤色岩片が認められた。スコリアは細粒で、その最大径は0.9mmである。このスコリア質粗粒火山灰層については、本遺跡においてその下位から4世紀代の五領式土師器が検出されている。ここでは仮に「伊奈スコリア（InS）」と呼ぶことにする。

InSの上位にある試料番号5の黄白色細粒火山灰層には、スポンジ状によく発泡した白色の軽石（最大径

0.6mm) が少量含まれている。またこの火山灰層には角閃石も認められる。このテフラ層は、その特徴から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳沢川テフラ層 (Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992) に同定される。このことからInAの堆積年代は4世紀~6世紀初頭と推定される。スコリアの給源火山としては富士火山の可能性が大きいことから、今後さらに東京都下および神奈川県域でのスコリアの検出例を調べる必要がある。

試料番号4の暗褐色粗粒火山灰層には、スコリアが多く含まれている。スコリアは量の多い順に、光沢のある暗褐色、黒灰色で、ほかに赤色岩片もごくわずかに含まれている。スコリアの最大径は、1.2mmである。このスコリア質火山灰層については、その特徴から東京都高島平北遺跡で検出された高島平第3テフラ (Tk-3, 早田ほか, 1990) の可能性が大きいと思われる。このスコリアの年代については9世紀初頭ころの可能性が考えられている。試料番号3の黄色粗粒火山灰層には、淡褐色の軽石が多く含まれている。このテフラは、その特徴から1108 (天仁元) 年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ (As-B, 新井, 1979) に同定される。

6. 考察—石器の層位について

前述のように向原第3次遺跡B8グリッド付近の発掘調査では、Ⅴ層から石器がまたⅣ層基底から礫群が検出された。一方、テフラ分析の結果、Ⅴ層上部に

AT、Ⅴ層にAs-BP Group、さらにⅢ層にAs-YPの降灰層準が各々あると考えられた。したがって、石器の検出層準はATの下位からATの降灰層準付近に層位があると考えられる。また礫群はAs-BP Groupの上位でAs-YPの下位、なかでもAs-BP Groupの層準に近いと考えられる。またC-6グリッドにおいて検出された石器 (剥片) も、Ⅴ層の上位にあることからAs-BP Groupの上位で、As-YPの下位にあるものと考えられる。

7. まとめ

向原遺跡第3次調査において地質調査、火山ガラス比分析、テフラ検出分析、屈折率測定を合わせて行った結果、下位より始良Tn火山灰 (AT, 約2225万年前)、浅間板鼻褐色軽石群 (As-BP Group, 約1.82.1万年前)、浅間板鼻黄色軽石 (As-YP, 約1.31.4万年前)、伊奈スコリア (InS, 初出, 4世紀~6世紀初頭)、榛名二ツ岳沢川テフラ (Hr-FA, 6世紀初頭)、高島平第3テフラ (Tk-3, 9世紀初頭) ?、浅間Bテフラ (As-B, 1108年) など多くの示標テフラが検出された。埼玉県中部地域には、このように南関東地方と北関東地方の両地域に示標テフラが重なりあって堆積しており、ここでのテフラに関する研究は関東地方全体での編年研究を進める上で非常に重要となっている。起源および噴出年代がまだ明らかにされていないテフラに関して、さらに調査分析を行っていく必要がある。

参考文献

- 新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984) テフラと日本考古学—考古学に関するテフラのカタログ。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
- 坂口 一 (1986) 榛名二ツ岳から噴出したFA・FP層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 勉 (1994) 群馬の示標テフラと自然環境。笠原野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会編「群馬の岩宿時代の編年」, p.20-24.
- 早田 勉・矢作健二・小田静夫 (1990) 古墳時代以降に江戸に降灰した火山灰—高島平北遺跡のテフラ層序。日本第四紀学会講演要旨集, no.20, p.162-163.
- 山崎晴雄 (1978) 立川断層とその第四紀後期の運動。第四紀研究, 16, p.231-246.

表1 B-8グリッド基本土層断面の火山ガラス比分析結果

試料	bw	md	pm	その他	合計
1	4	20	8	218	250
3	4	15	4	227	250
5	1	15	2	232	250
7	10	1	5	234	250
9	10	2	3	235	250
11	13	1	5	231	250
13	31	1	1	217	250
15	8	0	1	241	250
17	3	1	3	243	250
19	1	2	1	246	250
21	0	0	1	249	250

数字は粒子数。bw：バブル型、md：中間型、pm：軽石型。

表2 C-6グリッドの火山ガラス比分析結果

試料	bw	md	pm	その他	合計
1	13	9	10	218	250
3	13	12	4	221	250
5	12	4	6	228	250
7	16	0	4	230	250
9	11	2	2	235	250
10	4	2	1	243	250

数字は粒子数。bw：バブル型、md：中間型、pm：軽石型。

表3 B-8グリッド基本土層における屈折率測定結果

試料	重鉱物	斜方輝石 (γ)
5	opx-cpx,mt (ol)	1.706-1.711
11	opx-cpx,mt	1.700-1.710 (1.701-1.705)

屈折率の測定は、位相差法(新井, 1972)による。

ol:カンラン石、opx:斜方輝石、cpx:単斜輝石、mt:磁鉄鉱、
屈折率の()はmodeを示す。

表4 D-3グリッドのテフラ検出分析結果

試料	軽石			スコリア		
	量	色調	最大径	量	色調	最大径
1	++	淡褐	1.6	-	-	-
2	++	淡褐	1.3	-	-	-
3	+++	淡褐	1.6	-	-	-
4	-	-	-	+++	暗褐>黒灰>赤	1.2
5	+	白	0.6	-	-	-
6	-	-	-	+++	暗褐、黒灰>赤	0.9
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-
11	-	-	-	-	-	-

++++:とくに多い, +++:多い, ++:中程度, +:少ない, -:認められない。最大径の単位は、mm。

図1 向原第3次遺跡B-8グリッドの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

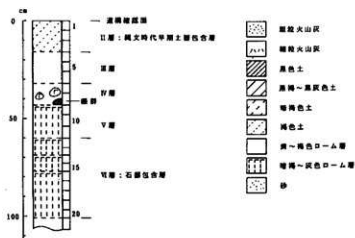


図3 向原第3次遺跡D-3グリッドの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

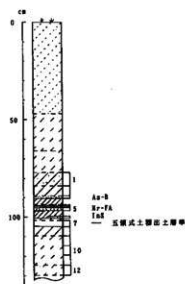


図2 向原第3次遺跡C-6グリッドの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

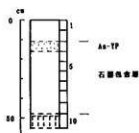


図4 向原第3次遺跡B-8グリッド基本土層断面の
火山ガラス比ダイヤグラム

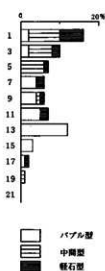


図5 向原第3次遺跡C-6グリッドの
火山ガラス比ダイヤグラム

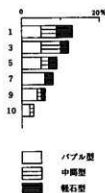


図1 向原第3次遺跡B-8グリッドの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

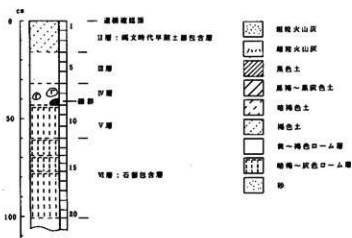


図3 向原第3次遺跡D-3グリッドの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

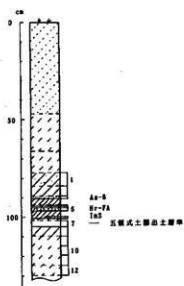


図2 向原第3次遺跡C-6グリッドの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

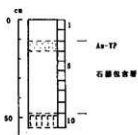


図4 向原第3次遺跡B-8グリッド基本土層断面の
火山ガラス比ダイアグラム

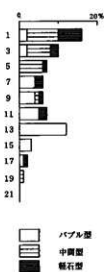
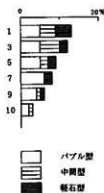


図5 向原第3次遺跡C-6グリッドの
火山ガラス比ダイアグラム



II. 向原遺跡第5次調査における火山灰分析

1. はじめに

埼玉県の火山灰土中には、富士火山や浅間火山など関東地方とその周辺の火山のほか、九州地方の始良火山や阿蘇火山など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることにより、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになってきている。

そこで年代の不明な旧石器が検出された向原遺跡第5次調査で採取された土壌試料について、火山ガラス比分析と屈折率測定を行い、示標テフラの検出同定を試みて、遺物包含層の堆積年代に関する資料を収集することになった。

2. テフラ組成分析

(1) 分析試料と分析方法

分析の対象となった試料は、発掘調査担当者により採取された9試料である（図1）。火山ガラス比分析の手順は、次の通りである。

- 1) 試料15gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 分析篩により、1/4/8mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの形態別組成を求める。

(2) 分析結果

テフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして図2に、その内訳を表1に示す。

分析を行った試料の中では、とくに試料番号4および3にもっとも多く火山ガラスが認められた。試料番号4には、平板状のバブル型ガラス（2.0%）のほか軽石型ガラス（1.2%）が含まれている。火山ガラスの色調は透明である。また試料番号3には、平板状のバブル型ガラス（0.8%）のほか、分厚い中間型ガラス（1.2%）や軽石型ガラス（1.2%）が含まれている。火山ガラスの色調は透明である。

3. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

透明なバブル型ガラスがもっとも多く認められた試料番号4について、位相差法（新井、1972）による屈折率測定を行って、示標テフラとの同定を試みることにした。

(2) 測定結果

屈折率の測定結果を表2に示す。試料番号1に含まれる火山ガラスの屈折率（ n ）は1.499-1.501である。この火山ガラスは、形態や色調さらに屈折率などから、約24.25万年前に南九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰（AT、町田・新井、1976、1992、松本ほか、1987、池田ほか、1995）に由来すると考えられる。したがって旧石器集中1セクション付近では、試料番号4（IV層中部）付近に、ATの降灰層があると考えられる。またこの試料や、その上位の試料3（IV層上部）に含まれる軽石型ガラスや中間型ガラスについては、その層位などから約1.8~2.1万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group、新井、1962、早田、1994）に由来する可能性が考えられる。

旧石器集中1セクション付近では、III層から石器が検出されている。したがって、石器の出土層位についてはATの上位にあり、さらにAs-BP Group以上の層位にあると推定される。

4. 小結

向原遺跡第5次調査の際に採取された9土壌試料について、火山ガラス比分析と屈折率測定を合わせて行った。その結果、試料番号4付近に始良Tn火山灰（AT、約24~25万年前）の、試料番号4から3にかけて浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group、約1.8~2.1万年前）の降灰層のある可能性が考えられた。本調査で検出された石器についてはATの上位で、しかもAs-BP Group以上の層位にあると思われる。

文献

- 新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究, 第四紀研究, 11, p.254-269.
 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・小林哲夫 (1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大規模降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器14C年代. 第四紀研究, 34, p.377-379.
 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—. 科学, 46, p.339-347.
 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗 (1987) 始良Tn火山灰(AT)の14C年代. 第四紀研究, 26, p.79-83.
 早田 勉 (1994) 群馬の示標テフラと自然環境. 笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会編「群馬の岩宿時代の変遷と特色」, p.20-24.

表1 火山ガラス比分析結果

試料	bw	md	pm	その他	合計
1	0	1	1	248	250
2	0	1	1	248	250
3	2	3	3	242	250
4	5	0	3	242	250
5	1	0	1	248	250
6	0	0	0	250	250
7	0	0	0	250	250
8	0	0	2	248	250
9	0	1	1	248	250

数字は粒子数. bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型.

表2 屈折率測定結果

試料	火山ガラス			
	量	形態	色調	屈折率(n)
1	+	bw,pm	透明	1.499-1.501

+++++:とくに多い, ++++:多い, ++:中程度, +:少ない, -:認められない. bw:バブル型, pm:軽石型. 屈折率の測定は, 位相差法(新井, 1972)による.

図1 分析試料の層位

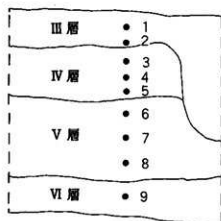
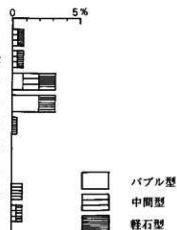


図2 旧石器集中1セクションの火山ガラス比ダイアグラム



Ⅲ. 向原遺跡第5次調査における寄生虫卵分析

1. 試料について

試料は、第4号井戸の上層の覆土No.8、9の2試料である。これらの試料はいずれも有機質に富む。

2. 方法

微化石分析法を基本に以下に行った。

- 1) サンプルを採量する。
- 2) 脱イオン水を加え攪拌する。
- 3) 篩別により大きな砂粒や木片等を除去し、沈澱法を施す。
- 4) 2%フッ化水素酸を加え30分静置。(2・3度混和)
- 5) 水洗後サンプルを2分する。
- 6) 片方にアセトリス処理を施す。
- 7) 両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作製する。
- 8) 検鏡・計数を行う。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるといった操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。なお、寄生虫卵の保存性と比較するために花粉の有無も鏡検し、計数を行った。花粉の同定は、鳥倉(1973)および中村(1980)をアトラスとし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。

3. 結果

(1) 寄生虫卵

No.8、9とも寄生虫卵は検出されず、明らかな消化残渣も検出されなかった。

(2) 花粉群集の構成と特徴

分析の結果、樹木花粉8、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉10、シダ植物胞子2形態の計21分類の花粉が同定された。以下に同定された分類群を記す。

樹木花粉：ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、ハンノキ属、クリ-シイ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属ケヤキ、ブドウ属

樹木花粉と草本花粉を含むもの：クワ科イラクサ科

草本花粉：オモダカ属、イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科ヒユ科、カラマツソウ属、アブラナ科、セリ科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属
シダ植物胞子、単条溝胞子、三条溝胞子

No.8、9は同じ花粉構成ないし組成を示し、樹木花粉の割合が低く極めて草本花粉の占める割合が高い。ヨモギ属が多く、イネ科、カヤツリグサ科、タンポポ亜科、アカザ科-ヒユ科、キク亜科、アブラナ科と続く。他にシダ植物単条溝胞子も多い。

4. 考察

第4号井戸の上層のNo.8、9の分析の結果、寄生虫卵と明らかな消化残渣は検出されなかった。花粉の残存から、寄生虫卵は分解されたとはみなされない。花粉では、食物となる植物の花粉では構成されず、日当たりのよいやや乾燥したところを好むヨモギ属を主にイネ科、カヤツリグサ科、タンポポ亜科、アカザ科-ヒユ科、キク亜科、アブラナ科の草本が多い。いずれの草本も人為環境を好む人里植物であり、堆積地および周囲はこれらの草本が繁茂し、集落域のような人為改変地で、日当たりのよいやや乾燥した環境が多く分布していたことが示唆される。

以上から、第4号井戸の上層のNo.8、9の堆積物は、糞便の累積した堆積物ではなく、当時の表土の累積した埋没土壌とみなされる。

参考文献

- Peter J. Warnock and Karl J. Reinhard (1992) Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils, Journal of Archaeological Science, 19, p.231-245.
 金原正明・金原正子 (1992) 花粉分析および寄生虫. 藤原京跡の便所遺構—藤原京7条1坊一, 奈良国立文化財研究所, p.14-15.
 金子清俊・谷口博一 (1987) 線形動物・扁形動物. 区動物学, 新版臨床検査講座, 8, 医歯薬出版, p.9-55.
 中村純 (1973) 花粉分析. 古今書院, p.82-110.
 金原正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.
 島倉巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.
 中村純 (1980) 日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.

表1 向原遺跡第5次調査における寄生虫卵分析結果 (花粉分析を含む)

学名	分類群	第4号井戸	
		No.8	No.9
Helminth eggs	寄生虫卵 (1cc中に算定)	(-)	(-)
	明らかな消化残渣	(-)	(-)
Arboreal Pollen	樹木花粉		
Tsuga	ツガ属	1	
Pinus subgen Diploxylon	マツ属複維管束亜属	1	
Cryptomeria japonica	スギ		3
Alnus	ハンノキ属	1	2
Castanea crenata-Castanopsis	クリーシイ属	3	
Quercus subgen.Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	2	1
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属—ケヤキ	1	
Vitis	ブドウ属		1
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉		
Moraceae-Urticaceae	クワ科—イラクサ科	2	
Nonarboreal Pollen	草本花粉		
Sagittaria	オモダカ属		1
Gramineae	イネ科	14	25
Cyperaceae	カヤツリグサ科	7	17
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科—ヒユ科	4	8
Thalictrum	カラマツソウ属	2	5
Cruciferae	アブラナ科	4	2
Umbelliferae	セリ科		1
Lactuoidae	タンポポ科	9	8
Asteroidae	キク亜科	4	5
Artemisia	ヨモギ属	50	104
Fern spore	シダ植物胞子		
Monolate type spore	単条溝胞子	25	53
Trilate type spore	三条溝胞子	5	11
Arboreal pollen	樹木花粉	9	7
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	0
Nonarboreal Pollen	草本花粉	94	176
Total pollen	花粉総数	105	183
	〃 (1cc中に算定)	525	915
Unknown pollen	未同定花粉	0	5
Fern spore	シダ植物胞子	30	64